

大阪医科薬科大学看護学部・大阪医科薬科大学大学院看護学研究科　年報2024年度

Osaka Medical and Pharmaceutical University Faculty of Nursing

大阪医科薬科大学看護学部

Osaka Medical and Pharmaceutical University Graduate School of Nursing

大阪医科薬科大学大学院看護学研究科

年報 2024年度

Annual Report 2024

大阪医科薬科大学看護学部・大阪医科薬科大学大学院看護学研究科　2024 年度年報　目次

はじめに

Ⅰ．沿革 ……2

Ⅱ．看護学部
１．教員組織
1）教員構成および教員数 ……4
2）教員の補充について ……4
２．年間事業
1）活動内容……5
2）2024 年度看護学部予算執行額……7
3）学生在籍数 ……7
4）学事一覧……8
３．運営と教育活動
1）運営組織…… 10
2）センター
（１）看護学実践研究センター…… 11
（２）看護学教育センター…… 15
（３）看護学学生生活支援センター…… 24
3）委員会
（１）カリキュラム委員会…… 31
（２）カリキュラム評価委員会…… 36
（３）実習委員会…… 37
（４）ウェブサイト委員会…… 41
（５）看護研究雑誌編集委員会…… 43
（６）予算委員会…… 44
（７）物品管理委員会…… 45
（８）就職支援委員会…… 47
（９）国家試験対策委員会…… 49
（10）看護学部年報編集委員会…… 54
（11）国際交流委員会…… 55
（12）障がい学生支援委員会…… 59
（13）本学部看護学生を対象とする研究審査会…… 60
（14）将来構想ワーキンググループ…… 61
（15）カリキュラムワーキンググループ…… 64
4）教育活動
（１）授業科目一覧…… 66
（２）各分野の教育活動…… 72

Ⅲ．看護学研究科
１．教員組織
1）教員構成および教員数 …… 88
２．年間事業
1）活動内容…… 88
2）2024 年度看護学研究科予算執行額…… 89
3）学生在籍数 …… 90
4）学事一覧…… 91
３．運営と教育活動
1）運営組織…… 93
2）委員会
看護学研究科大学院委員会…… 94
3）教育活動
（１）博士前期課程
①授業科目一覧……101
②修了者学位論文タイトル一覧……104
（２）博士後期課程
①授業科目一覧……105
②修了者学位論文タイトル一覧……106
Ⅳ．研究活動
１．研究実績
1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 …… 108
2）各自の業績（外部資金獲得除く） ……112
Ⅴ．社会活動 ……120

はじめに

看護学部および看護学研究科では，建学の精神「至誠仁術」を体現する医療人の育成を使命とし，豊かな人間性と優れた看護実践力を兼ね備え，地域社会や国際社会に貢献できる創造的な看護職者や高度実践者，教育研究者の育成に取り組んでいます．コロナ収束後，多くの変化が生じる中で，北キャンパスでは学生たちの活気と笑顔が戻り，かつての賑わいが復活しました．一方，病院での看護学実習は感染対策を徹底しながら継続的に実施されています．また，コロナ禍を契機としたデジタル技術の進展や社会全体の IT 化の波を受け，看護学部や看護学研究科ではデジタル技術を活用した教育活動を推進し，学習効果の向上と教育の質の改善に努めています．

今年度，看護学部では，アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れをめざし，入試制度改革の検討を進めるとともに，2026 年度に導入予定の「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」への対応に向けたカリキュラムワーキンググループを設置しました．また，安全で安心な学生生活を支えるための対策にも重点を置いて活動してまいりました．さらに，国際交流も本格的に再開され，6 月末には米国ミネソタ州立大学マンケート校から学生 4 名と教員 1 名を初めて受け入れました．ミネソタ州立大学および台北医学大学の学生の滞在中には，「International Day」を開催し，多様な背景を持つ人々との交流を深めました．また，ベルギーのトマス・モア応用科学大学との協定締結も実現し，今後さらに活発な国際交流が期待されています．

看護学部は 2025 年に設立 15 周年を迎えますが，2024 年度は 89 名の学生が卒業し，これまでに 1,029 名の卒業生を輩出しました．一方，大学院看護学研究科は設立 10 周年を迎え，この 10 年間に博士前期課程から 69 名，博士後期課程から 44 名の修了生を輩出し，多くの優秀な高度実践者や教育研究者を育成してまいりました．卒業生や修了生は臨床現場や教育現場で活躍し，看護実践や看護教育の質向上に大きく貢献しています．

今後も未来社会「Society 5.0」で活躍する看護実践者および教育研究者の育成に力を入れるとともに，将来を見据えた学部および大学院教育の充実に努めてまいります．

看護学部長
看護学研究科長
鈴木　久美

Ⅰ．沿　革

沿　革

1927	（昭和　2）	年　2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927	（昭和　2）	年　4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929	（昭和 40）	年　3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946	（昭和 21）	年　3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946	（昭和 21）	年　4 月	大阪医科大学予科設置
1948	（昭和 23）	年　2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951	（昭和 26）	年　3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952	（昭和 27）	年　2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952	（昭和 27）	年　3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959	（昭和 34）	年　3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965	（昭和 40）	年　1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978	（昭和 53）	年　4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982	（昭和 57）	年　12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009	（平成 21）	年　10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010	（平成 22）	年　4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012	（平成 24）	年　3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013	（平成 25）	年　10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014	（平成 26）	年　4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設
2016	（平成 28）	年　4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の法人合併，新法人「学校法人大阪医科薬科大学」設立
2021	（令和　3）	年　4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の統合により大阪医科薬科大学に名称変更

Ⅱ．看護学部

１．教員組織

1) 教員構成および教員数

教員定員は 46 名である.

令和 7 年 3 月 31 日現在

領域	分野	教員構成（カッコ内は定員数）					
		教授	准教授	講師	助教	助手※	合計
実践支援看護学	基礎看護学	1（1）	2（2）	0（0）	2（2）	1	6
	看護教育学	1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0	1
	人文社会学	1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0	1
療養生活支援看護学	急性期成人看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	慢性期成人看護学	1（1）	0（1）	1（0）	1（1）	0	3
	精神看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	老年看護学	1（1）	0（1）	1（0）	0（1）	0	2
	がん看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	臨床医学	2（2）	0（0）	0（0）	0（0）	0	2
地域家族支援看護学	小児看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	母性看護学・助産学	0（1）	1（3）	2（0）	1（1）	1	5
	在宅看護学	1（1）	1（1）	1（0）	0（1）	1	4
	公衆衛生看護学	1（1）	0（3）	2（0）	1（1）	1	5
	社会医学	1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0	1
計		14（15）	8（15）	7（0）	9（11）	4（5）	42（46）

※助手の定員は看護学部全体として 5 名

2) 教員の補充について

【採用】

令和 6 年 4 月 1 日付で， 講師 1 名（母性看護学・助産学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（基礎看護学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（母性看護学・助産学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（在宅看護学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（慢性期成人看護学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（公衆衛生看護学）を採用した.

【退職】

令和 6 年 3 月 31 日付で， 教授 1 名（母性看護学・助産学）が退職した.

令和 6 年 3 月 31 日付で， 助教 1 名（慢性期成人看護学）が退職した.

令和 6 年 6 月 30 日付で， 教授 1 名（老年看護学）が退職した.

【実習補助員の採用】

母性看護学・助産学（2 名）,老年看護学（3 名）,慢性期成人看護学（1 名）を各実習期間内で不定期雇用した.

２．年間事業

1）活動内容

看護学部では各センターや各委員会，看護学研究科では大学院委員会が中心となり年間の事業計画を立案し，教育および研究の質向上をめざし，教育活動や研究活動に取り組んだ．2024 年度に実施した主な事業を報告する．

（1）教育活動について

①学部教育の充実と教育環境の整備

令和 6 年（2024 年）度は，対面授業に一部オンデマンド型授業を取り入れて教育活動を展開した．また，学生の健康状態を確認しつつ，適宜，感染予防対策の強化を図るとともに，安全に講義・演習，実習ができるように学生および教員は気をつけた．

本学で力を入れている多職種連携教育は，教育センターが中心となり医学部と薬学部と連携して，多職種連携論「医療人マインド」（1 年），「医療と専門職」（2 年），「医療倫理」（3 年），「医療安全」（4 年）を全学年で実施し，講義や 3 学部間のグループワーク（GW）を通して，学生から肯定的意見が得られた．コロナ禍ではオンラインの GW であったが，今年度はすべて対面での GW が実施できたことから高評価が得られたと考える．「多職種連携 - 臨床カンファレンス」は，例年と同じように母性・精神・急性・慢性の 4 分野で実施された．

文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂への対応として，カリキュラム委員会を中心にカリキュラムワーキンググループを立ち上げ，現行カリキュラムの比較を行い，教育内容の過不足を確認し，課題を整理した．

教育環境整備として，学生から要望のあった出席端末を増設し，後期から各教室の 2 か所で出席登録が行えるように整備した．また，多くの方々からご支援をいただいている「看護学部教育環境整備のための募金」を有効活用して，演習室のミーティングボードを壁掛け型モニターに交換し，演習室の利便性を図った．さらに，UNIPA RX に更改し，学生の学習環境を整えた．

②安心で安全な学生生活の支援

学生が安心で安全な学生生活を送れるように，学生生活支援センターを中心に，災害対策マニュアルと学生の自殺防止対策のフローチャートの作成に取り組んだ．2018年に作成された看護学部の災害時（地震）対応簡易マニュアルや大学病院のマニュアルを組み入れて，看護学部災害対策マニュアル暫定版を作成し，学科会議で教員に周知を図った．

希死念慮を抱く学生への自殺防止対策として，日本学生相談学会のガイドラインを参考に，希死念慮を抱く学生への対応に関するフローチャートを作成した．また，学生の自死防止対策をテーマとしたFD講演会を開催した．

③入試制度の改革

令和 6 年（2024 年）度から指定校推薦と専願制推薦を導入し，志願者数は至誠仁術入試 14 名，指定校推薦入試 8 名，公募専願制推薦入試 52 名，公募併願制推薦入試 72 名，一般選抜 497 名，共通テスト利用選抜 127 名の総計 770 名で昨年度より若干増加した．また，アドミッションポリシーに合致した学生を選抜するために，看護学部入試委員会で現行の入試制度を検討し，2026 年度一般選抜試験においても面接を導入することを決定した．入試制度改革を行った後も点検・評価を行い，よりよい学生選抜ができるように取り組んでいきたいと考える．

④看護職国家試験対策および試験状況

2024年度は89名の学生全員が国家試験を受験し,第114回看護師国家試験の合格率は98.9%,111 回保健師国家試験および 108 回助産師国家試験の合格率は 100%であった．例年と同様に対策講座や模擬試験などをスケジュール化し，学生が継続して学習できるように支援した．特に国家試験前のモチベーションを上げるために，国家試験対策委員会およびチューター教員とで連携をはかり，学生にきめ細やかな指導を行った．

⑤国際交流の推進

海外研修生として，令和 6（2024）年 6 月に台北医学大学から 3 名，ミネソタ州立大学マンケート校から 4 名と教員 1 名の計 8 名を受け入れ，サマープログラムを実施した．研修生の滞在中に国際交流委員会が第 1 回 International Day を企画し，アメリカ・台湾・タイの海外研修生・本学学生・教職員・地域住民のなど約 50 名が参加され，活発な交流が図られた．また，海外派遣として，令和 7（2025）年 3 月に学部生 1 名がミネソタ州立大学マンケート校で約 1 か月の研修を行った．

さらに，令和 6（2024）年 9 月にベルギーのトマス・モア応用科学大学との大学間国際協定が締結され，令和 7（2025）年 3 月に教員 2 名が訪問し，交流を深めた．

⑥大学院教育の充実

大学院教育においては大学院委員会が中心となり，前年度の授業評価やカリキュラム評価などの結果を基に年間計画を立案し，院生の学びや研究活動がより充実したものとなるように教育活動や研究指導に取り組んだ．そして，高度実践コースの学生を対象にした実習報告会，博士前期課程および後期課程の学生を対象にした研究計画発表会や中間発表会，論文発表会などを開催した．さらに，令和 6（2024）年 3 月の高度実践コース修了生 3 名（がん看護 1 名，老年看護 2 名）が専門看護師の認定試験に合格し，高度実践看護師（CNS，JANPU-NP）合格者は 19 名となった．

⑦教育の質の向上への取り組み

看護学部および看護学研究科の教育活動および研究活動について，外部委員を含めた教育研究内部質保証会議分科会で継続的な評価を実施し，教育の質の担保に努めている．

また，教員各自で教育および研究，社会貢献活動について自己点検を実施し，年報による業績報告により自己評価に取り組んでいる．

(2) 研究活動について

①競争的資金の獲得

令和 6（2024 年）度の科学研究費補助金採択件数は，新規 5 件と採択率が 33.3%であり，前年の 27.3%を上回った．また，他大学の教員との共同研究も多数されており，研究分担者の数も多い．その他に，AMED や民間企業の助成金の獲得もされている．

②研究支援

看護学部および看護学研究科では，看護学実践研究センターが中心となり，教員および大学院生の研究支援として看護研究継続セミナーや看護研究会を開催している．令和 6（2024 年）度の看護研究継続セミナーでは「効率的で楽しい文献収集と文献の読み方・まとめ方 : 様々な文献レビューの種類を知ろう」というテーマで継続セミナーを開催し，58 名の参加者が集まった．

看護研究会は，研究成果や研究活動を共有し看護職の研究能力向上を図ること，看護実践等の課題に関する研究の推進と研究成果を発信すること，実践や教育，研究について意見交換や交流ができる場とすることを目的とし，本学教員や大学院生，学部生，近隣の看護職員を対象に毎年開催されている．今年度は，2025 年 3 月 1 日に第 8 回大阪医科薬科大学看護研究会が開催され 58 名の参加者を得た．

(3) 社会貢献について

看護学部では，看護学実践研究センターが中心となり，看護職対象の人材育成教育セミナーの開催や，地域住民を対象とした健康づくりに関する事業を実施している．令和 6（2024）年度は，人材育成教育セミナーとして「看護職が知っておきたい医療経済学」をテーマに 11 月に開催され，学内外から 40 名の参加者が得られた．また，看護キャリアサポートセンターで行っている OMPU リカンレント教育事業への参画も行った．

地域住民を対象に，昨年に引き続き 2 カ月に 1 回のカムカムサロンを開催した．今年度のテーマは「防災に備えた体力作り」として 6 分野の教員が健康講和などを実施し，40 名の参加者を得た．2025 年度からは高槻市との共同開催により毎月開催する予定となっている．さらに，たかつき NPO 協働フェスタへのブース出展（9 月）を行い，28 名がブースに訪れた．さらに 12 月に「ロコモ・フレイルを予防しよう」というテーマで市民看護講座を開催し，80 人の参加者を得た．

2) 2024 年度看護学部予算執行額

予算執行額　　52,189,160 円

【内訳】看護学部教育経費　　38,989,160 円

看護学部奨学金経費　　13,200,000 円

看護学部研究活動経費　　0 円

3) 学生在籍数

2024 年 5 月 1 日現在

学年 （入学定員）	1 年 （85）	2 年 （85）	3 年 （85）	4 年 （85）	合計 （340）
男	3	7	0	1	11
女	82	81	90	90	343
計	85	88	90	91	354

2024 年 5 月以降退学者 2 名あり

2025 年 3 月現在　1 年生：女：80 名

2024（令和6）年度 学事予定表 教職員用

2024年 4月			5月		6月			7月			8月		9月		
日	曜	内容	曜	内容	曜	内容		日	曜	内容	曜	内容	曜	内容	
1	月	臨時 学部・研究科教授会 14～	水	水④	土	創立記念日 炎祭り		1	月	月⑪ 多職種連携論4－医療安全 メモ：授業評価	木	1.2.4年 採点締切 15:00 1.2.4年 追再試日程調査	日		
2	火	新入生オリエンテーション	木	木⑤	日			2	火	火⑬	金	1.2.4年 追再試対象者発表& 手続き 14:00	月		
3	水	新入生オリエンテーション	金	憲法記念日	月	月⑦		3	水	水⑬	土		火		
4	木	木① 前期授業開始 入学式	土	みどりの日	火	火⑨		4	木	木⑭	日	（オープンキャンパス）	水		
5	金	金①	日	こどもの日	水	水⑨ 実習連絡協議会		5	金	金⑬	月	1.2.4年 追再試手続き〆切 8:30	木		
6	土	健康診断：4年 13:00～	月	振替休日	木	木⑩		6	土		火	1.2.4年 追再試 採点登録開始 8:30	金		
7	日		火	火⑤	金	金⑨		7	日		水		土		
8	月	月①	水	水⑤ 学部・研究科教授会 15～	土	炎祭り（予備日）		8	月	月⑫	木		日		
9	火	火①	木	木⑥	日			9	火	火⑭	金	節電による閉室（予定）	月		
10	水	水① 学部・研究科教授会 15～	金	金⑤	月	月⑧		10	水	水⑭ 学部・研究科教授会 15～ 1.2.4年 採点登録開始 8:30	土		火		
11	木	木②	土		火	火⑩		11	木	木⑮	日	山の日	水	学部・研究科教授会 15～ 1.2.4年 単位認定、 実習科目の履修要件判定	
12	金	金②	日		水	水⑩ 学部・研究科教授会 15～ 3年 採点登録開始 8:30		12	金	金⑭ 3年分野別実習事前オリエンテーション① 2限 3年学校実習特別講義（高槻 中学校）日程調整	月	振替休日	木		
13	土		月	月④	木	木⑪		13	土		火		金		
14	日		火	火⑥	金	金⑩		14	日		水		土		
15	月	月②	水	水⑥ 学科会議 15～	土	PA会総会 健康診断：2年 13:00～		15	月	海の日	木	1.2.4年 追試再試採点締切 15:00	日		
16	火	火②	木	木⑦ 健康診断：3年 13:00～	日			16	火	火⑮ 3年 採点締切 15:00 3年 追再試日程調査	金	1.2.4年 追試再試合格発表 14:00	月	敬老の日	
17	水	水② 学科会議 15～	金	金⑥	月	月⑨		17	水	水⑮ 学科会議 15～	土		火		
18	木	木③	土	健康診断：1年 13:00～	火	火⑪		18	木	月⑬ 3年 追再試対象者発表& 手続き 14:00	日		水	臨時 学部・研究科教授会 15～ 学科会議 16:30～	
19	金	金③	日		水	水⑪ 学科会議 15～		19	金	金⑮ 3年 追再試手続き〆切 16:30	月	1.3年 後期授業開始 3年分野別実習オリエンテーション② 1.2限	木	成績開示	
20	土		月	月⑤	木	木⑫		20	土		火		金		
21	日		火	火⑦ メモ：授業評価	金	金⑪		21	日		水		土		
22	月	月③	水	水⑦ 臨時 研究科教授会 15～	土			22	月	3年 追再試採点登録開始 8:30 月⑭	木		日	秋分の日	
23	火	火③	木	木⑧	日			23	火		金		月	振替休日	
24	水	水③ 臨時 研究科教授会 15～	金	金⑦	月	月⑩		24	水	月⑮ 臨時 研究科教授会 15～	土		火	火① 2.4年 後期授業開始	
25	木	木④	土		火	火⑫		25	木		日	（オープンキャンパス）	水	水①	
26	金	金④ 新入生合同研修	日		水	水⑫ 臨時 研究科教授会 15～		26	金	3年 追再試採点締切 15:00	月		木	木①	
27	土		月	月⑥	木	木⑬		27	土		火		金	金①	
28	日		火	火⑧ 多職種連携論3－医療倫理	金	金⑫		28	日		水	臨時 研究科教授会 15～	土		
29	月	昭和の日	水	水⑧ 看護実践発展実習オリエンテーション AM	土			29	月	3年 追再試合格者発表 8:30	木		日		
30	火	火④	木	木⑨	日			30	火	3年 単位認定、分野別実習履	金		月	月①	
31			金	金⑧				31	水	臨時 学部教授会 15～ 1年実習オリエンテーション	土				

備考：統合看護学実習は各分野で6月～11月までに実施予定
備考：基礎看護学実習Ⅰについては9月26日～12月5日の期間、毎週木曜日に行う

2024（令和6）年度 学事予定表 教職員用

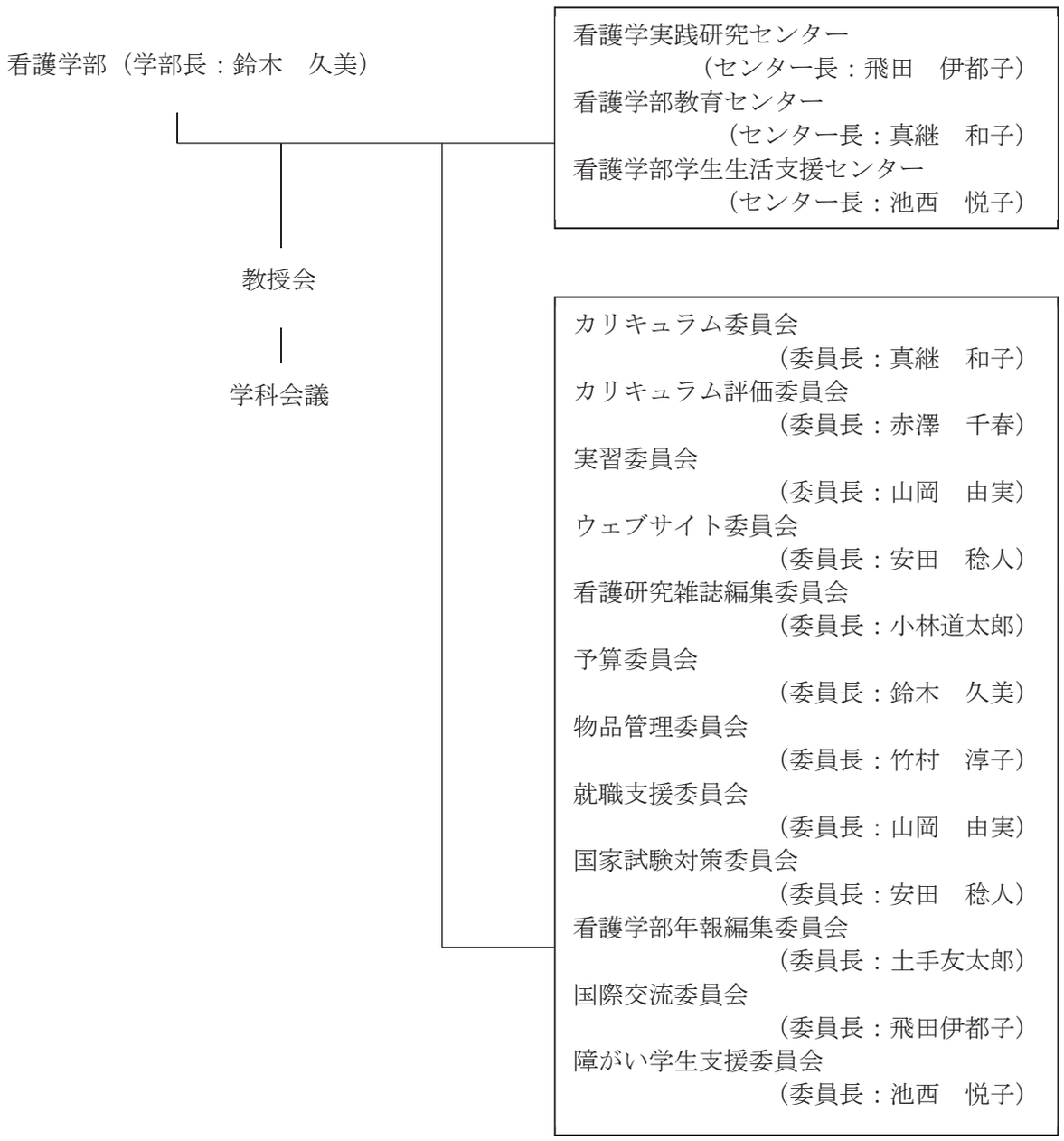
10 月			11 月			12 月			2025年 1 月			2 月			3 月		
日	曜	内 容	曜	内 容		日	曜	内 容		日	曜	内 容		曜	内 容		曜	内 容
1	火	火②	履修登録変更期間（後期）	金	金⑥	分野別実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	日			1	水	元日		土			土	
2	水	水②		土			月	月⑧ 臨時 学部教授会 15～	分野別実習	2	木			日			日	
3	木	木②	実践と理論の統合 助産学実習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	日	文化の日		火	火⑪		3	金			月	1.2年 採点締切 15:00 1.2年 追再試日程調査	基礎看護学実習Ⅱ 分野別実習	月	次年度履修ガイダンス（新4年）10:40～ 仮 看護研
4	金	金②		月	振替休日		水	水⑪		4	土			火	1.2年 追再試対象者発表＆手続 14:00		火	追試再試採点締切 15:00
5	土			火	火⑦	分野別実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑪		5	日			水	1.2年 追試再試受験手続〆切 16:50		水	1.2.3年 追試再試合格者発表 14:00
6	日			水	水⑦		金	金⑪		6	月	月⑬ メモ:シラバス入力開始	分野別実習	木			木	卒業式（予定）
7	月	月②	分野別実習 助産学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑦ 4年 卒業演習採点依頼		土			7	火	火⑭		金			金	
8	火	火③		金	金⑦		日			8	水	水⑭ 学部・研究科教授会 15～ 4年 単位認定、卒業判定		土			土	
9	水	水③ 学部・研究科教授会 15～		土			月	月⑨		9	木	木⑭ 卒業発表 14:00～ 4年成績開示		日			日	
10	木	木③		日			火	火⑫	分野別実習	10	金	金⑭		月	追試再試採点登録開始 8:30	追再試期間 1年 基礎看護学実習Ⅱ 実践と理論の統合	月	
11	金	金③		月	月⑤		水	水⑫ 学部・研究科教授会 15～		11	土			火	建国記念の日		火	
12	土			火	火⑧ メモ:授業評価	公衆衛生看護学実習Ⅱ 実践と理論の統合	木	木⑫		12	日			水	学部・研究科教授会 15～		水	学部・研究科教授会 15～ 1～3年 単位認定、進級判定
13	日			水	水⑧ 学部・研究科教授会 15～		金	金⑫		13	月	成人の日		木	助産師国家試験（予定）		木	進級発表
14	月	スポーツの日		木	木⑧		土			14	火	火⑮ メモ:授業評価 1.2年 採点登録開始 8:30	分野別実習	金	保健師国家試験（予定）		金	
15	火	火④	分野別実習 助産学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	金	金⑧		日			15	水	水⑮ 学科会議 16:30～		土			土	
16	水	水④ 学科会議 16:30～		土			月	月⑩		16	木	木⑮		日	看護師国家試験（予定）		日	
17	木	木④		日			火	火⑬	分野別実習	17	金	金⑮		月			月	
18	金	金④		月	月⑥	公衆衛生看護学実習Ⅱ	水	水⑬ 学科会議 16:30～		18	土			火	卒業演習説明（新4年） 13:00～ 仮	基礎看護学実習Ⅱ 看護研究法 講義	火	
19	土	解剖慰霊祭		火	火⑨	分野別実習	木	木⑬		19	日			水	学科会議 16:30～		水	学科会議 15～
20	日			水	水⑨ 学科会議 16:30～		金	金⑬		20	月	月⑭⑮（仮）		木			木	春分の日
21	月	月③	分野別実習 助産学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑨		土			21	火	補講及び試験期間（1・2年）	分野別実習	金			金	成績開示
22	火	火⑤		金	金⑨		日			22	水	臨時 学部・研究科教授会 15～		土			土	
23	水	水⑤ 臨時 研究科教授会 15～		土	勤労感謝の日		月	月⑪ 2年基礎Ⅱオリエンテーション 1.2限		23	木			日	天皇誕生日		日	
24	木	木⑤		日		実践と理論の統合	火	月⑫		24	金	次年度履修ガイダンス（新2年）14:40～仮		月	振替休日		月	
25	金	金⑤		月	月⑦	公衆衛生看護学実習Ⅱ	水	臨時 研究科教授会 15～		25	土			火		追再試期間 2年 看護研究法 講義	火	
26	土	大学祭		火	火⑩		木	4年 採点締切 15:00		26	日			水	臨時 研究科教授会 15～		水	臨時 研究科教授会 15～
27	日			水	水⑩ 臨時研究科教授会 15～	分野別実習	金			27	月		基礎看護学実習Ⅱ 分野別実習	木	次年度履修ガイダンス（新3年）13:00～ 仮		木	
28	月	月④	公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑩		土			28	火			金			金	
29	火	火⑥	分野別実習	金	金⑩		日			29	水						土	
30	水	水⑥		土			月			30	木						日	
31	木	木⑥					火			31	金	メモ:シラバス入力締切					月	

備考：統合看護学実習は各分野で6月～11月までに実施予定
備考：基礎看護学実習Ⅰについては9月26日～12月5日の期間、毎週木曜日に行う

３．運営と教育活動

1）運営組織

（1）運営組織（センターおよび委員会組織図）



その他，審査会・ワーキンググループ等あり

2) センター

センター名	（1）看護学実践研究センター	SDGs との関連	
目　的	看護学実践研究センターは，本学部内，大学内をはじめ，外部機関および地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに，その成果を発信することを使命とする．		
構成員	飛田伊都子（センター長）　安田稔人（副センター長）　土手友太郎　二宮早苗 南口陽子　中原洋子　松枝加奈子　倉橋理香　土井智生　藤井智子（事務）		
活動計画	**1．学部間連携共同研究の強化・推進** **2．研究支援** 1）看護研究セミナー 2）米国の大学の教員による教育講演 3）研究成果の発信・共有 4）研究体制の整備 5）研究助成に関する情報発信 **3．生涯学習支援** 1）人材育成教育セミナー 2）看護キャリアサポートセンター事業に対する教育支援 **4．地域貢献** 1）高槻フェスタへの出展協力 2）市民看護講座 3）カムカムサロン 4）地域活動への参加 **5．ホームページの充実**		
活動概要	看護学実践研究センター会議は全 12 回，開催した． **1．学部間連携共同研究の強化・推進** 2024 年度医学部・看護学部学術研究推進プロジェクト助成金や医薬看融合研究プロジェクト助成金の募集や研究カフェ開催に関して教員への周知を図った．看護学部教員が参画する研究が応募され，一部が採択された．研究カフェへの参加は少数名あった． **2．研究支援** 1）看護研究セミナー（継続セミナー） 2024 年 8 月 2 日，看護学部の教員ならびに看護学研究科の学生，臨床で勤務する看護師の研究能力向上の機会として文献レビューに関するセミナーを開催した．テーマは「効率的で楽しい文献収集と文献の読み方・まとめ方：様々な文献レビューの種類を知ろう」とし，兵庫県立大学 生涯広域健康看護講座 小児看護学 丸光惠教授に，研究のプロセスにおいて不可欠な文献レビューについて，具体例や参考になる Web サイトを示しながらご講演いただいた．参加者は教員		

や大学院生，大学病院看護師など計 58 名で，今後の研究活動に役立つ内容であったなどの感想が多くあり，満足度が高いセミナーであった.

2）米国の大学の教員による教育講演

2024 年 6 月 28 日国際交流委員会との共催でミネソタ州立大学マンケート校の Stacey Van Gelderen 先生によるシミュレーション教育に関する特別教育講演を対面で開催した.

3）研究成果の発信・共有

（1）看護研究会の開催

2025 年 3 月 1 日（土），様々な研究成果や研究活動を共有し看護職の研究能力向上を図ること，看護実践等の課題に関する研究の推進と研究成果を発信すること，実践や教育，研究について意見交換や交流ができる場とすることを目的として第 8 回大阪医科薬科大学看護研究会を開催した．本学部教員，大学院生，学部生，近隣の看護職員や大学院入学希望者など計 58 名が参加した．基調講演では，本学医学研究支援センター医療統計室の伊藤ゆり先生に「看護実践研究のために必要な医療統計の基礎知識」をテーマにご講演いただき，参加者からはとてもわかりやすくこれからの研究に活用したい，といった評価が得られた．また，研究交流会では地域の医療施設から 2 演題，学内から 12 演題（学部生 1，大学院生 4，教員 7），合計 14 演題のポスター発表があり，研究活動や看護実践について活発な意見交換の場となった．看護研究会に対する満足度について，アンケート回答者の全員から「非常に満足した」「満足した」との回答が得られた.

（2）研究ポスターの掲示

看護学部教員や大学院生が学会発表したポスターを看護学部棟 1 階の大学院生室近くの廊下に掲示した. 年に数回にわたり提供依頼のメールを教員宛に送信し，複数の教員からの提供があり，それらを 3～4 カ月毎に張り替えした.

また, 学部学生が卒業演習の分野を決める際の参考に役立てられるようにすることを狙いとして, 看護学教育センターとの合同ワーキングを立ち上げ, 2025 年 2 月 18 日～3 月 3 日の期間に 4 年生の卒業演習の成果物 21 名分を展示した. 閲覧実績としては，1 年生 0 名，2 年生のべ 12 名，3 年生のべ 26 名であったが，学生が閲覧している姿は多く見受けられたため, 実数としてはこれより多いものと思われる.

4）研究体制の整備

2024 年度公的研究費間接経費から本センター備品としてノートパソコン 2 台と SPSS を新たに購入し，教員および大学院生が利用できる.

5）研究助成に関する情報発信

各種企業・団体等の研究助成に関する情報について，適宜メール発信した.

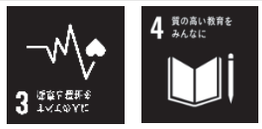
3. 生涯学習支援

1）人材育成教育セミナー

地域の看護職者や大学院生を対象に, 看護実践や看護研究の価値を診療報酬や医療経済学の観点から考える機会とすることを目的として, 大阪大学大学院の濱

	田吉之輔先生を講師にお招きし，「看護職が知っておきたい医療経済学」と題したセミナーを 2024 年 11 月 20 日（火）17:30～19:00 に開催した．参加者は学内外で計 40 名（対面 17 名，オンライン 23 名）であった．講演に対する満足度は非常に高かった． 2）看護キャリアサポートセンター事業に対する教育支援 看護キャリアサポートセンターの企画・運営に，本センターから 2 名の教員（二宮・土井），1 名の事務職員（藤井）をセンター員として協力派遣した． **4. 地域貢献** 1）高槻フェスタへの出展協力 2024 年 9 月 15 日，高槻市生涯学習支援センターで開催された「第 20 回たかつき NPO 協働フェスタ」に参加した．テーマは「運動機能は大丈夫？ロコモ度を知ろう！」とした．ロコモ（ロコモティブシンドロームの略）は，背骨や関節障害のために立つ，歩くなどの移動機能の低下をきたした状態のことで，ロコモ度とは移動機能の低下の程度を示す．その判定のため，今回は立ち上がりテストを実施した．整形外科医の安田稔人教授にも当日参加いただき，他 3 名の医師・看護師でロコモ度テストと説明を実施した．ブースには 28 名の方が参加された．今年度は多数の方に参加していただき，市民の健康への関心を高める機会となった． 2）市民看護講座 2024 年 12 月 14 日に看護学実践研究センターと大学病院看護部が共催，高槻市の後援を得て開催した．対面・オンラインあわせて 80 名の参加であった．「ロコモ・フレイルを予防しよう！～日常生活の活動維持・向上にむけて～」をテーマに整形外科専門医 看護学部 教授の安田稔人先生と，大学病院 看護部の老人看護専門看護師 看護副師長の上野山恵子先生を講師にご講演いただいた．タイトルは，安田先生は「ロコモを知り，健康寿命を伸ばそう！」，上野山先生は，「フレイルの予防にむけ，日々の生活について一緒に考えよう」であった．講演の後は，Q&A コーナーを設け，市民の皆様からの質問に対して講師の先生方から回答された．参加者からは「今日から取り組んでロコモ予防に励みたい」といったご意見や「オーラルフレイルの重要性がわかった」と好評であった． 3）カムカムサロン 看護学部で順次担当し，内容は任意とした．場所は看護学部棟 2 階講義室 2，時期は隔月で奇数月に 1 回（11:00 より 1 時間）で計 6 回であった．内容は，ミニ講話，健康チェック・健康相談等であった．対象者は原則，本学 Web サイト上のカムカムサロンのタブからオンラインで参加を募った．今年度のテーマは「防災」で，以下開催日・内容・担当分野（参加者数）を示す．2024 年 5 月 8 日（水）・被災後の生活と体力作り・老年看護学分野（6），7 月 11 日（木）・いざという時のための頭と下半身のストレッチ・社会医学分野（7），9 月 6 日（金）・2 つの震災を振り返って・人文社会学分野（7），11 月 6 日（水）防災に備えたこころの健康づくり・精神看護学分野（9），1 月 9 日（木）・災害に備える“地域の体力”づくり～・公衆衛生看護学分野（4），2025 年 3 月 7 日（金）・身体の中

	から備えよう！ 体力維持に必要な栄養と水分・小児看護学分野（7）であった．毎回クリッカーと自由記載にて講演に関するアンケートを行い，内容の充実に活用した．また次年度からは高槻市長寿介護課とのコラボによる“もてきん体操”やサロンを含む新企画を予定している． 4）地域活動への参加 学生主体の地域社会貢献活動として，本センター・公衆衛生看護学分野の教員のサポートのもと高槻市との協働（コラボ）活動「もてきん体操動画作成」を企画した．2024 年 10 月より高槻市（高槻市長寿介護課 三浦茜氏）とも協議を重ね，学生 17 名が参加，学生が主体となり考案した企画をもとに 2025 年 3 月動画撮影を行った．完成した動画は，今後高槻市 HP，本学 HP にて公開予定となっている． **5．ホームページの充実** 本センターの活動を学内外へ発信すべく，年間を通してタイムリーな更新を行った．
評　価	**1．効果が上がっている事項** 1）各種講演会やセミナーなどハイブリッド形式とすることで，教職員等は参加しやすい状況となっている． 2）国際交流委員会との共催で米国の研究者により講演を開催し国際的な研究活性化につながっている． 3）看護研究会は全面対面開催としたことにより，学部外からの演題発表や参加が増えている．今年度より学部生が卒業研究を発表する機会を設けたことより，今後参加学生が増えることが期待される． 4）高槻フェスタで市民看護講座の広報活動ができたことにより参加者増加につながった．今後のカムカムサロンの運営を高槻市と連携協働する体制が整備されたため次年度から実施できる見通しがたった． 5）ホームページが整理され，学部画面からの閲覧がしやすくなった． **2．改善すべき事項** 1）研究会やセミナーへの卒業生や修了生の参加が少ない．本研究会の周知を図るとともに参加意義を明確にし，多数の人が興味関心をもち参加できる工夫が必要である．また，学部教員による研究について演題登録率を高めていく． 2）社会貢献活動について，地域の他機関と連携協働を図り，住民のニーズを把握しながら進めていく必要がある． 3）他学部との学術共同研究が増えつつあるが，看護学部から発信する応募はほとんどない．看護学部からも応募しやすい研究助成の枠を検討していくなど，研究機構および他学部との調整を図る必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1．学部間連携共同研究のさらなる強化・推進に取り組む． 2．研究活動を活性化していくために，研究者が抱える課題やニーズを把握し，研究環境整備とともに，長中期的視点にたった研究支援策の検討を進める． 3．高槻市との連携により社会貢献活動（カムカムサロン）を強化推進する．さらに，地域住民のニーズを把握する調査等の企画を検討する．

センター名	（2）看護学教育センター	SDGs との関連	
目　的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画，教育環境整備，多職種連携教育，授業評価，FD（Faculty Development）等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする.		
構成員	真継和子（センター長）　小林道太郎（副センター長）　山岡由実 樋上容子　鈴木美佐　寺口佐與子　近澤　幸　山埜ふみ惠　北川祐美 川端由夏（4～2 月）　田中佑美（4～9 月まで）　増田尚紀（7 月まで） 堀江雅彦（9 月～1 月まで）　村上佐智子（11 月～）　上久保純（2 月～） 倉田啓輔（3 月～）（看護学事務課）		
活動計画	1. 教育課程全般の運営 2. 教育センター担当科目の運営 3. FD 企画と実施 4. 多職種連携教育の調整と実施 5. 授業評価と改善 6. 実習ポートフォリオの実施 7. ティーチング・ポートフォリオの実施 8. 看護技術到達度の確認 9. 実習に関する事項 10. 教育環境整備の充実 11. 感染症に関する対応 12. その他		
活動概要	教育センター会議は全 14 回開催した. **1. 教育課程全般の運営** 1) 学事日程および時間割の調整 学事予定，時間割の調整，作成をした. 2) ベストティーチャー賞の選出及び選考基準の見直し ベストティーチャーの規定に沿い，各学年 1 名の計 4 名の教員選抜を行った. 現在，授業評価アンケートをもとに選考しているが，ベストティーチャーの要件といえる項目内容の選定を行うとともに新たな項目を追加し，2025 年度から運用できるよう整備した. 3) 定期試験および不正行為への対応 電子機器類を使用した不正行為を防止するため，試験監督時の留意事項（説明文書）について修正を行うとともに，定期試験においては試験前に学生に不正行為に関する注意喚起を行った. 試験時は各教室最低 2 名の試験監督を配置した. また，各学年の履修ガイダンスの時に懲戒規定および不正行為に対する事項を周知した. 4) GPA の分析と平準化 2024 年度成績について科目の成績の平準化をめざし，カリキュラム委員会およ		

活動概要	びIR室と連携をして各学年のGPAや各科目の箱ひげ図を作成し，教授会で共有し，授業改善につなげた. 5) 成績，進級，卒業判定と成績不良者への学生指導 学生の成績，進級，卒業判定は各要件に基づき教授会で審議し適正に行った．また，GPAが2.00（望ましい水準）未満の学生に対し，チューター教員等による学修指導を依頼・実施し，取り組みによって学生の改善がみられたか評価した. 6) 履修の手引きの見直しと作成 全体的に次年度カリキュラム等に対応する内容に対応させた．授業の出席について，授業開始時刻10分までは遅刻としないというこれまでの扱いを廃止し，授業開始後に来た場合は遅刻とすることを記載した．累積GPA 1.00未満が続く場合は退学勧告する場合があることを記載した. 7) シラバス作成要項に基づくシラバス点検の実施 シラバス作成要領に基づいて次年度のシラバス作成を教員に依頼し，作成されたシラバスについて，記載内容が適正という観点からセンター教員によるシラバス点検を実施した. 8) 各学年のオリエンテーション・履修ガイダンスの実施 各学年で次年度履修ガイダンスを企画し，教育目標や3ポリシー，学事日程，各学年の履修科目や単位取得に関すること，学年別目標，変更点などを説明した．また，成績の異議申立てや懲戒規程について周知した．カリキュラム委員会で作成した学生向けeポートフォリオ説明書およびアセスメントマップも説明した. 9) TOEIC受験 1年生は4月3日にTOEIC L&Rオンライン受験を行い，その結果に従って英語I・IIのクラス分けを行った．次年度英語III・IVのクラス分けは英語I・IIの成績により行う．新3年生は今年度からTOEICは任意受験とし，2月から3月に自宅受験で実施した. 10) 規程類の見直しと作成 出席の取り扱いについて，学生証を忘れた場合の対処として担当教員に「学生証忘れ申請書（兼授業出席届）」（看護学事務課での検印要）を提出することを義務付けることとした（2024年10月1日より運用）．また，遅刻および早退，欠席の取り扱いについて見直しを行った（2025年4月1日より運用）. また，GPAの学修指導への活用について，「累積GPA1.00未満が一定期間続いた場合には，学則第29条第2項により退学を勧告することがある」との文言を追加した（2025年4月1日より運用）. 11) 教育年報の作成 2023 年度の成績の解析結果と学勢調査の結果等を基にアセスメントポリシーに沿って3ポリシーの検証を行い，教育年報としてまとめた．解析結果は教育センターと共有し，科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた．また，教育年報は教育機構会議や学部間協議会に起案して協議をしたのち，教授会や学科会議で教員に周知・共有し，PDCAにつなげた.

活動概要	**2. 教育センター担当科目の運営と実施** 1) 卒業演習に関すること (1)卒業演習の発表会の運営・実施 2024 年度は 1～3 分野で報告会を運営し，他分野の研究に触れる機会にもなった．学内の発表者および聴講者は対面，学外聴講者は対面とオンラインでの開催とした．学生全員の研究発表が滞りなく実施できた． (2)卒業演習要項の作成と分野決定 2025 年度卒業演習要項を 2024 年度の課題をもとに修正を行った．主な修正箇所は，詳細な提出方法の追記，「卒業論文提出前チェックリスト」の追加とした．分野配置人数は例年通りの算出を行い教授会で調整後決定した．respon と抽選を用いて滞りなく分野決定を行うことができた．学生の希望する研究内容等の集約を UNIPA 入力で行い教員へ配信した． (3)卒業演習成果物の公表 看護学実践研究センターと共同で，1～3 年生への卒業演習成果物の公表を行った．卒業演習発表会で発表されたものの中から 1 分野につき 1～3 名の成果物を公表した．公表期間は 2025 年 2 月 18 日～3 月 3 日とした．公表された成果物を見た学生数は 1 年生 0 名，2 年生のべ 12 名，3 年生のべ 26 名であった．次年度は，成果物の公表が参考になったかどうかの評価が課題である． 2) 兼担教員科目の見学実習への対応 解剖実習見学について，体調不良者に対応できるように教員を配置し予定通り実施できた．カリキュラム改正により，実施時期が前期から後期に変更する予定である． 3) 保健師科目・助産師科目への対応 保健師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては，学事予定表を踏まえたスケジュールを立て，スケジュールに沿って実施し，29 名を選抜した．また，助産師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては，学事予定表を踏まえたスケジュールを立て実施し，6 名を選抜した． **3. FD 企画と実施** 1) 大阪医科薬科大学教員，大学院生を対象とした FD 企画と実施 2024 年度は，昨年度の FD にて議論された実践能力・生涯学習能力向上のため DX について，より具体的な方法について示唆を得るため，「学習成果とその可視化」をテーマとした FD を企画した．2024 年 12 月 16 日（月）に大阪医科薬科大学教員，大学院生を対象に開催した．参加者は看護学部 32 名，医学部 14 名，薬学部 6 名，大学院生 4 名，医学事務課 IR 1 名の計 57 名であった．実施後のアンケートでは，全員が「今後の教育に役立つ機会となった」と回答し，学習成果の可視化の考え方の理論および具体的な取り組みについて知見を得ることができた等の肯定的な意見が挙げられた． 2)新任教員対象の FD 企画と実施 2019 年度より開始した新任教員 FD は，今年度より助手も対象とし，実施要領

活動概要	にそって開催した．入職 1 年目の 5 名には 6 月 21 日と 3 月 13 日の計 2 回行い，入職 2 年目の助教 1 名に対しては，8 月 29 日に最終 FD を行った． 1 年目は，非常勤教員から常勤助手となった教員が多く，昨年度の非常勤教員としての経験をふまえた学生像の捉え方の変化を共有した．また，科目担当に加えてチューター役割を担うことで大学教員の意識化ができていた．年度末 FD は，ティーチング・ポートフォリオや「臨地実習における学習支援力」チェックリストにそって各自の振り返り，課題とその対処についてはタイムマネジメントなどを提案した．また，FD や学内の授業見学等で他の学年や科目に視野を拡げ，教育方法のアップデートなど自己研鑽の行動がとれていた．2 年目では，複数の実習科目の経験を中心に振り返りを共有し，FD 全体を通して出来ていることや課題の確認を通して，新たな視点をふまえた学生指導への気づきを認識し成長できていることが評価できた． **4. 多職種連携教育の運営と充実** 1）多職種連携教育科目への対応 医学部・薬学部の担当教員，看護学部事務担当者と綿密に情報を共有しながら，「医療人マインド」「医療倫理」「医療安全」のグループワーク（GW）のファシリテーター・レポート評価，「医療と専門職」の運営企画・コーディネート・全面対面 GW のファシリテーター・レポート評価を担当した．「医療と専門職」と「医療安全」では，事例改訂が行われ GW は全対面へと変更があった．また，「医療人マインド」と「医療と専門職」では，レポートの評価基準であるルーブリックの改訂がなされた．学生アンケート調査により，講義や 3 学部間の GW を通し，多職種連携の重要性やその中での看護師の役割を理解した学生がほとんどであった．また，対面の GW はディスカッションしやすいという理由から好評であった．各科目において，事例の難易度や時間配分については次年度の更なる検討が必要である． 「多職種連携 -臨床カンファレンス」は，例年通り，母性・精神・急性・慢性の 4 分野での実施となった．3 月にまとめと評価を行い，学生によるアンケート評価では，「専門的知識の違いが分かった」「視点の違いに気付いた」等の質問項目 6 項目全てにおいて，「そう思う」「とてもそう思う」が 8 割以上を占めていた．一方，方法や時間配分など運営に関する学生からの意見があり，今後の課題である． 「地域医療実習」は看護学部，医学部及び薬学部の学生各 3 名の計 9 名が高知県嶺北地域の病院や診療所，薬局，地域包括支援センターなどの場で，学生同士やスタッフとのディスカッションを重ね，へき地の医療・介護・福祉の実状や人々の暮らしについて学んだ．学生からは，地域医療における多職種連携の意義とそのなかでの看護職の役割について考える有意義な実習になったとの声があった． 2）多職種連携カリキュラム委員会への参加 2 回開催された委員会に参加した．学生らの授業参加状況やアンケートを踏まえ，委員会では授業形式，評価方法，GW 方法などについて検討した．次年度に向けて，「医療人マインド」の講師の変更，「医療倫理」の SA（学生アシスタント）の本格的な参画が決定され，「医療と専門職」と「医療安全」においては次年度引

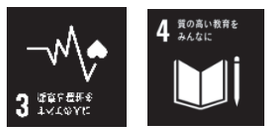
活動概要	き続き事例の難易度や時間配分等の運営方法について検討されることとなった. **5. 授業評価・改善** 1) 学生の授業評価 各科目の終了時に，学生にユニパを用いた授業評価の実施を依頼した．事前に定めた各科目の評価時期に合わせて，看護学事務課から全教員に授業評価依頼のメール配信を行った．評価時期は年度開始時に確認し，各科目の開講期間や試験実施期間に合わせて広く設けた．学生の平均回答率は，前期 / 後期の授業評価が66.4%/56.0～72.5%（昨年 66.6%/64.0%），実習評価は 48.2～87.1%（昨年 21.5～87.6%）であった. 2) 教員の授業改善 年度開始時に，学生の授業評価時期に合わせて授業（実習）改善報告書の記入・公開時期を確認し，「2024 年度（授業（実習）改善報告書」実施要領を作成した．実施評価の公開期間に合わせて全教員に授業（実習）改善報告書の作成依頼を行い，その後学生に公開した．今年度は授業・実習評価を長期間確認できるよう，前期授業科目については回答期間終了後 1 カ月，後期授業科目および実習科目については 3 月末までとした．すべての科目について，学生の授業評価内容をふまえた授業改善報告書の提出がなされ，学生に公開した. 3) 授業見学の推進 今年度の授業見学として計 12 件の報告が上がった．報告者は准教授，講師，助教であった．授業を見学し，「自身の担当科目に参考になった「カリキュラムにおける科目間の関連性がわかった」等の報告がなされた. **6. 実習ポートフォリオの実施** 学科会議にて実習担当教員の協力を仰ぎ，教育センターからのリマインドに加えて，実習教員からも実習前後に入力を促すよう依頼した．学生と教員を対象に全ての実習終了後にアンケートを行った結果，概ね肯定的な評価であったが，入力率が経年的に低下しており，単なる入力作業にとどまらず，実習の学びを深めるためのツールとして実質的に活用できる仕組みを引き続き検討していく．また看護基本技術経験チェックリストについて項目ごとの集計し評価した．その結果，学年が上がるにつれて「ひとりで実施」できる技術が増加していた．基礎的な技術は全学年で経験率が高く，実習場面に応じた技術の明確化やセルフトレーニングの充実が求められる. **7. ティーチング・ポートフォリオの実施** 「教育の責任」「教育の理念」「教育の方法」「教育の成果」「自己省察・今後の目標」の 5 項目とし，「教育の責任」「教育の理念」は 8 月末までに UNIPA 上で入力し，その他 3 項目は 2 月末の入力とした．ティーチング・ポートフォリオの導入 3 年目となる本年度における，一部のみの入力率は 97.5%，「自己省察・今後の目標」といった振り返りまでの項目全体の入力率は 92.3%であった．今後の教育活動へ活かすために，各教員が入力した「教育の方法」を匿名化したうえで，とりまとめを行った.

活動概要	**8. 実習に関する事項** 実習委員会と連携し，①「看護実践の理論と統合」の評価および出席管理を確認し，申し合わせ事項を作成した．また，②看護学部の臨床教授等の実習に関する役割を検討し「大阪医科薬科大学 看護学部・看護学研究科 臨地教育教員の役割」としてまとめた．その他各学生の実習状況，履修状況など実習委員会と情報の共有や連携を図った． **9. 教育環境整備の充実** 1）教育環境（講義室・実習室等）の充実・整備 学生から要望があった出席端末の増設が前期末に行われ，後期から 2 か所で出席登録が行えるようになった．また，演習室のミーティングボードを壁掛け型に交換した． 2）UNIPA RX 更改について 2025 年 1 月の UNIPA RX 更改に際し，操作に関する簡易マニュアルの作成と説明，テスト環境での動作確認の依頼，URL 等おもな変更点について学生および教員に周知した． 3）ICT 教育の整備（Web 会議システムや遠隔授業システムの検討） 大学全体において ICT の充実と活用の促進を図る等教育研究活動の方針が示され，総合情報システム課では，データサーバー等の学習支援システムの検討がされており，看護学部においてもより一層の充実を図るため，看護学部教員に対し，学習・業務支援システムの活用状況や今後の利活用の検討のため，アンケート調査を実施した．その結果，看護学部教員は，学部生・大学院生の講義や課題の提示や提出，指導，また学内外のオンライン会議等業務に，zoom や UNIPA，Moodle，Teams 等既存のシステムを利用しており，約半数の教員が学内で学生が活用可能なデータストレージサービスの利用希望があった．データストレージサービス利用開始にあたっては，学生への利用に関する教育の必要性について意見があった．これら結果は，総合情報システム課に提出し検討材料とされた． 4）セルフトレーニングの企画・実施 学生の看護技術の向上を目的として，統合実習前の 6 月，領域別実習前の 8 月，基礎実習前の 1 月の計 3 回，セルフトレーニング企画を開催した．6 月には 4 年生 9 名が参加し，吸引や輸液管理，フィジカルアセスメントなどのトレーニングを行った．8 月には 3 年生 73 名が参加し，日常生活援助技術やフィジカルアセスメントの復習を行った．1 月には 2 年生 81 名が参加し，模擬患者として協力いただいた NPO 法人ナルク高槻の高齢者 9 名に対し，バイタルサイン測定や問診などのトレーニングを行った．参加した学生へのアンケート結果では，全学年の全員が「実習に役立つ機会となった」と回答し，定期的な開催を望む声が多かった．今年度より全分野の教員がセルトレ企画に参画し，また大学院生にも協力を求めたことで，より充実した技術指導ができた．一方で，学生からより高度な技術練習を望む自由意見もありバリエーションを再検討する必要がある．セルフトレーニング企画の様子は企画・広報課にて写真撮影および看護学部教育センター

活動概要	HP（https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/center/education_center/of2vmg000000d53w.html）に掲載，随時更新した． 5）シミュレーション教育の促進 今年度は，全学年のセルフトレーニング企画においてシミュレーターが活用され，多くの学生や全分野の教員が触れる機会となった．更なる利活用を促進するため活用方法の周知を進めていく． 6）実習記録のクラウド化の検討 実習記録のクラウド化に向けて学生を対象にアンケート調査を実施した．学生354名中95名より回答があり（回収率26.8%），電子化を「希望する」が82名（86.3%）であった．その理由としては，「記録の効率化」「記録時間の時短による睡眠時間の確保」「時間確保により必要な学習ができる」等であった．10月9日，16日には，2業者によるデモ説明会を開催した．導入に向け，患者の個人情報を扱うことから情報管理とセキュリティ，各実習施設との合意形成などの課題対応を含め検討を開始した． **10．感染症（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ）に対する授業対応** 学生や実習病院等における新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況を確認しながら，適宜，感染予防対策の強化を図るとともに，学生と教員に周知した． **11．その他** 1）私立大学等改革総合支援事業への対応（タイプ1） タイプ1の獲得をめざし，看護学部で必要な要件が整っているか確認し，対応した．「進級及び卒業判定におけるGPA活用」への指摘もあり，タイプ1獲得には至らなかった． 2）大阪医科薬科大学転学部規程（案）の検討 学則第3条に則り学内における転学部制度の導入にあたり，転学部の時期や受入人数，試験方法等の検討を行った．2026年度より薬学部から医学部への転学部に限って実施することとなった． 3）公共交通機関の遅延による授業の遅刻・欠席について 公共交通機関の大幅な遅延が発生したことを受け，学生の出席状況（授業開始時の学生数が約2分の1に満たない場合を目安）を確認し，状況に応じて授業のzoom録画を行い，オンデマンドでの授業対応を行った（2024年6月12日・19日）． 4）合理的配慮を必要とする学生への対応 科目責任者にオンライン授業の可否の確認，オンライン授業設定，別室受験及び試験監督など合理的配慮を要する学生への対応を行った．また，2025年度受講に向けてオンライン授業の可否確認，時間割調整を行った． 5）看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応 カリキュラム委員会，カリキュラムワーキンググループとの調整を図り，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応に向けた進捗状況の確認を行うとともに，看護技術経験チェックリストにもとづき学生の自己評価が徹底できる

活動概要	よう周知し，その結果をとりまとめた. 6) シラバス作成要領の見直し シラバス作成要領の見直し，作成依頼および要領に沿ってシラバス点検を行い，シラバス作成上の課題を整理した.
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1) 教育課程全般に関すること GPA2.00（望ましい水準）未満の学生に対し，チューター教員による学修指導の取り組みを評価した結果，高学年になるほど GPA2.00 未満の学生数は減少傾向にあり，チューター教員による学修指導は一定の成果があることが示された. 2) 授業評価と実習ポートフォリオに関すること 授業改善報告書については全科目で提出がなされ，学生により得た評価やコメントに基づいて改善報告が行われていた. 実習ポートフォリオの実施については，実習の学びが積み重ねることにつながっており，学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を概ね達成できている，と評価している. 看護基本技術経験チェックリストの評価について学生への周知を図ったことで入力率が向上した．その結果，学年ごとの課題を可視化することができた. 3) FD について ティーチング・ポートフォリオの入力率は 92.3%と高い．各教員からは多様な優れた具体的な教育方法が提示され，新年度明けに新任教員を含めた全教員で共有することとした．今年度の新任対象 FD は，助手と昨年度入職した助教を対象に実施し，概ね適切であることを確認した. 4) 多職種連携教育の運営と充実について 3 学部教員と事務担当者との綿密な情報共有がなされ，連携体制の整備が図られていることを確認した. 5) 教育環境整備の充実 年 3 回のセルフトレーニング企画について，実習直前に実施したこと，教育センター委員だけでなく全分野の教員の参加や大学院生の協力があったこと，模擬患者として地域の方のご協力を得たこと等により，多くの学生が参加し，高い満足度につなげることができている. 演習室のミーティングボードを壁掛けにしたことで，部屋面積も確保され活用の幅が広がった. **2. 改善すべき事項** 1) 授業評価に関すること 授業評価の入力率が課題であり，特に 2，3 年生の実習評価の入力率が低い．授業評価の意義や効果についてのアナウンスや入力依頼を更に強化する必要がある. 2) 実習ポートフォリオに関すること 入力率の低迷が続いており，単なる入力作業にとどまらず，実習の学びを深めるためのツールとして実質的に活用できる仕組みを引き続き検討していく必要がある.

評　価	3) セルフトレーニングの企画について 　看護基本技術経験チェックリストの項目ごとに評価した結果，実習場面に応じた技術の明確化やセルフトレーニングの充実が必要である．さらに，学生からも高度な技術演習を望む意見もありバリエーションの再検討およびシミュレーターの更なる活用に向けての周知を図ることが必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1. 3 つのポリシーに基づくアセスメントの概要，各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿った各委員会と連携 2. GPA2.00 未満の学生への学修指導の強化および GPA の分析と活用促進 3. 多職種連携教育の推進と他学部との連携強化 4. 教育環境整備の促進と充実 5. セルフトレーニングの企画・運営の充実 6. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応と新カリキュラムの評価

センター名	（3）看護学学生生活支援センター	SDGs との関連	
目的	本センターは，看護学部における円滑な学生生活の提供を目指し，学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学，大学生活への悩み，経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し，学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う．		
構成員	池西悦子（センター長）　津田泰宏　川北敬美　新田和子　間中麻衣子 杣木佐知子　堀池　諒　日髙朋美		
活動計画	2024 年度の年間計画 1.　総代・副総代との連絡会 2.　チューター制度：チューター活動がしやすく，学生が相談しやすい環境作り 3.　学生調査：医学部・看護学部合同の調査内容の見直し，実施 4.　奨学金：各種奨学金支援 5.　学生からの要望に対する対応：意見箱の運用，懇談会の実施 6.　学生自治：学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決する支援，学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援 7.　ホームページの内容の充実 8.　学習環境の整備 9.　正課外活動ポートフォリオの作成 10. 学生生活支援機構（医・薬学部との連絡会議） 11. 健康管理：感染予防対策，保健管理室との連携 12. 障がい学生関連 13. 懲戒規程関連 14. 大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価 15. 災害対策 16. 自殺防止対策 17. FD講演会 18. 新入生合同研修の取り組み 19. その他（学外研修会，学籍異動，学生生活の手引き修正）		
活動概要	**1. 総代・副総代との連絡会** 各学年総代・副総代の決定支援および総代連絡会を実施した．学生からの要望により開催されることとなった学生交流会に向けて，企画支援を行った． **2. チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り** 1) 2023 年度のグループ編成を基盤にチューターループの編成を行った．グループ数を減らし，教員 3～4 名が 1～3 学年の学生 22～23 名を担当した．4 年生は，卒業演習の分野教員が担当し，学生生活支援センターがフォルダを管理した． 2) 1～3 年生のチューター教員の組み合わせは下記の通りとした．		

活動概要

表 1．2024 年度チューターグループ（1～3 年生担当）

No	担当教員	No	担当教員
1	久保田，近澤，日高，濱浦	7	小林，中原，赤崎
2	飛田，大橋，倉橋	8	草野，鈴木（美），山内，有吉
3	津田，樋上，松枝，野口	9	赤澤，間中，内田
4	土手，二宮，南口	10	真継，有田，土井
5	安田，川北，杣木	11	池西，山埜，勝山，酒向
6	竹村，新田，堀池	12	山岡，寺口，野瀬

3) チューター面談シート

4 月に教員に対して，チューター制度に関する指針を周知し，チューター面談シートの活用を呼びかけた．

4) チューター活動の評価

今年度から教員に加え，学生を対象とした調査を実施した．調査結果において，グループ編成は，学生・教員ともに現状のままが良いとする意見が 8 割を超えた．学生の面談内容への満足度は 84%であった．

3. 学生調査：医学部と看護学部合同の調査内容の見直し，実施

12月から1月にかけて，対面で実施した．今年度は2・4年生に対して，文部科学省から依頼があった全国学生調査も併行して実施した．調査の説明を行う際，全数調査であることを伝え，その場でWeb入力する時間を設定し実施した．学生調査の1-4年生の回答率は85-96%（平均93%）であった．昨年度と比較すると9.6%上昇した．学生調査の結果は，各学年の新学年ガイダンスで，課題と対策を説明した．

4. 奨学金:募集説明会，選考，手続きを行った．内容は以下の通りであった．

1) 2024年度各種奨学金

2) 日本学生支援機構　学生等緊急給付金

3) 文部科学省　学びの継続のための緊急給付金

4) 看護学部給付奨学金について経済的事由を第一とする選考方法に変更し,家計急変奨学金の選考基準を改訂し，給付を開始した．

5. 学生からの要望に対する対応：意見箱の運用，懇談会の実施

1) 意見箱：月 1 回の開箱とした．今年度の投書は 0 件であった．

2) 学生懇談会：対面での懇談会を実施，各学年の総代・副総代を通じて意見を集約した．

6. 学生自治：学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決する支援

学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援を実施した．学友会役員は各学年の立候補者から選抜した．謝恩会を開催し，寄贈品の贈呈を実施した．次年度開催に向け，学生間で引継を実施した．

活動概要	**7. ホームページの内容の充実** 学生生活の看護学学生生活支援センターのホームページにおいて，学友会行事等の開催について，随時写真や記事を更新した． **8. 学習環境の整備** 演習室 7～9 を自習室としてユニパで予約し自由に使用できる体制に戻した．また，講義等で使用していない場合は講義室も自習室として使えるようにした． **9. 正課外活動ポートフォリオの作成** 正課外活動の充実のために学生から要望のあったボランティア活動の情報収集ができるように掲示板を作成した．半年後に活用度についてアンケートを行ったところ，34.2%の学生が「掲示板を見たことがある」と答え,うち 12 名（3.9%）が情報をもとに「活動に参加した」．正課外ポートフォリオの記載は 7 月にユニパでの連絡と 12～1 月に対面で説明・入力の時間を設けた結果，各学年の回収率は 54.5～93.4%（平均 79.0%）で 2 年生が最も低かった． **10. 学生生活支援機構（医・薬学部との連絡会議）** 学生生活支援機構会議に毎月センター長が参加し，3 学部での情報共有と連携を行った． **11. 健康管理：感染予防対策，保健管理室との連携** 1）保健管理室，実習委員会と連携して 4 種感染症，B 型肝炎ウィルス，インフルエンザワクチンの期限内接種を促した． 2）学内の環境整備:アクリルパーテンションを撤去し,学内環境の整備を行った． 3）感染対策の方針を毎月ユニパから配信・周知した． 4）実習期間は，健康観察票を記録し，マスク装着を必須とした． **12. 障がい学生関連** センター長が障がい学生支援委員長を担い，支援計画の検討に参加した． **13. 懲戒規定関連** 各学年ガイダンスにて注意喚起を行った．今年度は議論の対象となる懲戒事例はなかった． **14. 大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価** 学生生活支援センター各種行事等のPDCAシートを作成し，点検評価を行った． **15. 災害対策** 看護学部における発災時のマニュアルを作成するため,JANPUの防災マニュアル指針2022を基盤に，2018年に作成された看護学部の災害時（地震）対応簡易マニュアルや大学病院のマニュアルを組み入れながら，看護学部災害対策マニュアル暫定版を作成した．講義室や実習室の「地震時における教員避難手引き」を刷新した．学科会議で災害対策マニュアル暫定版について説明し，発災時の対応や安否報告の方法について，周知を図った．災害対策の整備の一環として懐中電灯を購入・設置した． **16. 自殺防止対策** 希死念慮を抱く学生への対策として，日本学生相談学会から出されているガイ

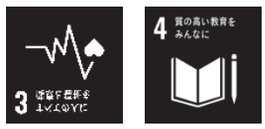
活動概要	ドラインを参考に，学生の希死念慮が見られた場合のチャートと事後対応のチャートを作成した．また，学生の自死防止対策についてFD講演会を開催した． **17. FD 企画と実施** 「希死念慮を抱く学生の支援において教職員がすべきこと，注意するべきこと」をテーマとして，早稲田大学，保健管理センター教授の石井映美先生を講師として招聘した．2025年3月3日，対面とzoomのハイブリッドにて3学部の教職員を対象に開催し，参加者は56名であった．実施後のアンケートは回収率53.6%で，全員が「今後の教育や学生生活支援に役立つ機会になった」と回答した． **18. 新入生合同研修** 対面で 3 学部新入生合同研修を実施し評価した．次年度も対面実施を決定し，会場や内容，チューターについて検討を行った． **19. その他** 1）学外研修会：今年度，セミナーへの参加者はいなかった． 2）学籍移動について：学籍移動への対応を行った． 3）学生生活の手引きを修正した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1）総代・副総代との連絡会 総代連絡会開催が，学生からの意見集約につながった．1～3 年生の総代・副総代との会議で意見交換ができ，学生交流会の企画が PA 会の支援で実現した． 2.）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り チューター活動に関する調査結果から，教員はいずれの学年とも 1 年間を通じて関わりを持っていた．学年が上がるにつれ面談回数が増え，就職・進路や国家試験対策などの指導が実施されていた．チューター制度により，細やかな支援活動が行われていた． 3）学生調査 昨年度よりも回答率は上昇し，新学年オリエンテーションでは，調査結果を踏まえたアドバイス等を学生に提示できた． 4）奨学金 希望学生はほぼ全員受給できた．対象学生の面談を行い全員適格であった． 経済情勢から，経済的事由を第一とする奨学金の設定や給付奨学金の規程変更の検討等，柔軟に対応できた．更に利用可能な奨学金について情報を収集し，適宜学生に案内を行う． 5）学生からの要望に対する対応 懇談会にむけて 30 件の要望が提出された．内 15 件は授業実施方法や評価・課題等に関する内容であり，教育センターからの回答も集約して，7 月に懇談会を対面で開催した．学生の意見の中から，冷水器の修理や学年ごとの交流会の開催および講義室の机配置の変更希望について学生の希望通りに改善した． 6）学生自治 学友会役員は各学年の立候補者から選抜することで各種行事への主体的な参加

評　価	につながった．寄贈品の贈呈と謝恩会開催に向け，スケジュールと各役割を記載した資料を作成し伝達ができた． 7）ホームページの内容の充実 学生委員会が企画を報告するページを作成し，4 月：新入生合同研修，6 月下旬：看護学部七夕祭り，7 月：学生と教員の懇談会・懇親会，11 月：学園祭，3 月：卒業生の記念贈呈品を掲載することができた． 8）学習環境の整備 感染症が収束し，学生が自由に使用できる場の拡大を行った． 9）正課外活動ポートフォリオの作成 ボランティア活動の情報を提供する掲示板を作成し,『大学に寄せられるボランティア情報』『本学学生のボランティア活動やその情報取得方法』を掲示することで，学生の積極的な活動につながった． 10）学生生活支援機構会議 定例会議によって，3 学部の学生生活支援に関する情報共有と検討を行い，連携することが出来た． 11）健康管理（感染予防対策，保健管理室との連携） 保健管理室と連携をとり学生の健康管理が行えた．インフルエンザ，COVID-19 等の学内における感染拡大もみられなかった．現在の方法で健康管理を継続する． 12）障がい学生関連 法律に基づいた支援が行えている．合理的配慮の方針に基づいて学生支援を実施できた．過重負担にならない支援の実施が課題である． 13）懲戒関連 懲戒事例がなかったことから，引き続き注意喚起を実施する． 14）大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価 今年度は自殺防止対策，災害対策など，基盤となる体制整備を追加して実施評価を行った．今後も必要な課題を追加し，実施・評価を継続する． 15）災害対策 発災時の組織体制や対応について明示でき，学生および教職員の安否報告・確認について，一元化できた．刷新した「地震時における教員避難手引き」により各場所からの避難経路や消火器等の位置がわかりやすくなった．災害対策備品は年度ごとの災害対策予算の範囲で順次整備していく． 16）自殺防止対策 希死念慮を抱く学生に対するチャートや事後対応のチャートを作成し，そのような場合の教員の負担軽減と対応の方法がわかるようにした． 17）FD 研修会 昨年度から学生生活支援センター主催の FD を開催し，2 回目の開催となった．FD 後のアンケート結果により，受講者は精神保健の観点から，希死念慮を抱く学生への理解や対応の留意点，保護者や関係機関との連携など，支援の具体的方法を理解することができていた．今回のテーマや内容は参加者のニーズに沿ったも

評　価	のであったと評価できた. 18）新入生合同研修 対面にて開催し，学生の 98%が対面開催でよかったとし，教職員全員が，各プログラムは学生にとり有意義であったと回答しており，目的が達成できていた. **2. 改善すべき事項** 1）総代・副総代との連絡会 1 年生は 4 月早々に総代・副総代決定にむけて上級生から説明を行い，昼休憩に立候補等で決定する．次年度も早期に総代副総代会を開催し，学生の意見集約，卒業関連役割分担・引継状況の確認を行う. 2）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り 今年度の編成を，87.5%が肯定的に評価し，「役職のバランスをとる」「学生の負担度が偏らない」という要望が挙げられた．次年度も今年度と同様の方針のもと，教員の異動に伴う変更を加え負担が偏らないよう編成する. 3）学生調査 学年により回答率の差を認めたため，学生の疲労や集中力を考慮し調査日の設定を行う. 4）奨学金 募集周知と希望学生が受給できるよう，募集説明会，選考，手続きを行う．経済情勢を見て，適宜奨学金の紹介などを実施する. 5）健康管理 実習前に必要な予防接種施行の確認と，各種予防接種の期限内の接種を促す．精神健康度の低い学生が増加している．専門の職員配置等を考慮し，引き続き注視していく. 6）学生からの要望に対する対応 懇談会の開催方法，これまでの改善結果などを伝えて，より意見を出してもらえる工夫を行う. 7）学生自治 学生の希望に沿って学友会役員は各学年の立候補者から選抜し，謝恩会の開催・準備について支援を行う．今年度は学生主体で進めることが難しい状況にあったことから，総代・副総代自身が謝恩会の目的や開催まで計画，委員への依頼内容などの詳細が把握できていることを確認する．また適宜，計画通りに実施できているか確認を行う．4 年生から 3 年生への確実な引継ぎと下級生の謝恩会への参加について継続して実施する. 8）ホームページの内容の充実 学友会の行事についての情報も共有し，学生生活について適宜 HP に随時掲載する. 9）学習環境の整備 演習室 7～9 を自習室とするが，使用方法に問題がある場合には指導を行う.

評　価	10）正課外活動ポートフォリオの作成 　ポートフォリオの記載率が前年度より 10%程度低下したため，学生の疲労度を鑑みた調査日時の設定をする．現在の記載様式が目的と合致しているか，学生自身が活用可能であるかについて検討を行う．ボランティア活動の掲示板活用は，教職員・学生に掲示板の周知を図り，情報は本掲示板に集約する．また，学生にはユニパによるアナウンスなども検討する． 11）健康管理：学生の報告が回復後になることがあるため，引き続きガイダンスで周知する． 12）災害対策 　災害対策マニュアルは暫定版であり，地震による災害対策を中心に作成した．次年度は，発災時対応の詳細内容，発災への備えについても検討が必要である．災害対策備品は年度ごとの災害対策予算の範囲で順次整備していく． 13）その他 　学外研修会は，積極的に参加できるよう情報提供を行う．学籍移動については，チューターと連携をはかり，規程に沿って速やかに対応する．学生生活の手引き修正は，学部間の統一をはかり，洗練する．
将来に向けた発展方策・課題	1. チューターが安心して活動できるような環境，学生が相談しやすいような環境を整備する． 2. 外部各種団体の奨学金情報をタイムリーに学生に周知し，推薦者の選考に関して，獲得を目指して吟味する．また，経済情勢を見極めて，選考方法の変更など柔軟に対応する． 3. 保健管理室と情報共有を図り，学生の健康管理（特に精神的な健康）を強化する． 4. 障がいのある学生の支援システムの充実とマンパワーの整備が課題である．引き続き保健管理室，病院との連携をはかりながら対応を行う． 5. 学生の自治活動推進のため，学友会活動への参加，新入生合同研修の充実，学年縦割りの交流の機会を設けるなどの運営ができるように支援する． 6. 学生が主体的に学習し，安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う． 7. 学生支援の方針に基づく点検評価による内部質保証を継続する． 8. 災害時の迅速かつ的確対応のために，災害対策マニュアルや防災資機材の整備，訓練と教育など，防災計画の充実を行う． 9. 次年度も FD の企画と開催を年に 1 回行う．学生への組織的な支援の構築につながるような内容を検討する． 10. 学外研修会への参加を促し，学生生活支援に活かす．

3) 委員会

委員会名	（1）カリキュラム委員会	SDGs との関連	
目　的	本学部の教育目標の下，カリキュラムの改善のために科目の設定や統合，教育内容，教育評価などの事項について PDCA を実施する．		
構成員	真継和子（委員長）　草野恵美子　寺口佐與子　二宮早苗　有田弥棋子 間中麻衣子　北川祐美（看護学事務課）		
活動計画	**1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握** 1) ジェネリックスキルテストの実施 2) ディプロマポリシー基づく看護実践能力到達度調査の実施 3) ディプロマサプリメントの運用と学生への説明 4) アセスメントポリシーに基づいた分析 **2. 現行カリキュラムの運営評価の実施** 1) 常勤教員を対象とした調査 2) 学生を対象とした調査 3) 卒業生を対象とした調査 4) e ポートフォリオの導入の検討 5) 学生用アセスメントマップの周知 **3. 非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施** **4. 数理・データサイエンス・AI プログラム委員会との連携** **5. IR 室との連携と成績分析** 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応		
活動概要	会議は合計 13 回開催した． **1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握** 1）ジェネリックスキルテスト（GPS-A）の実施 2024 年度入学生（1 年生 84 名）は 4～5 月に全員が受検し（受検率 100%），個人結果レポートはチューター面談に活用できるように，チューター教員に配布した．学生には個人結果レポートの活用方法についてベネッセ担当者より説明する機会を設定し，教員には入学生の特性や在学生との比較結果などについて資料をもとに 7 月の学科会議にて委員から説明した． 2022 年度入学生（3 年生 90 名）は 12～1 月に全員が受検した（受検率 100%）．受検者には，入学時からの成長などの自己分析や，就職活動における自分の強みやアピールポイントの言語化などに個人結果レポートを役立てるように，2025 年 2 月に活用方法をベネッセ担当者から説明する機会を設けた．教員には就職支援で活用していただけるように次年度 4 月に活用方法に関する資料提示を行う予定である． 6 月に GPS-Academic 活用研究会（業者主催）の開催アナウンスを行った．各大学では学生の GPS-A への認識の低さから回答率が低いことが挙げられてい		

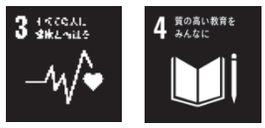
活動概要	た．GPS-A の結果から学生の強み等をポートフォリオ上で自己分析させる等の工夫がされ，就職活動に活かしている現状があり，他学の状況から本学での活動もそれに準じて実施していることが評価できる． 2）DP に基づいた看護実践能力到達度調査の実施 回答者数（回収率）は，1 年生 82 名（99%），2 年生 86 名（98%），3 年生 89 名（99%），4 年生 85 名（93%）であった．昨年までと同様に， DP2 課題探求力の達成度が低く，特に 2 年生の達成率が 70%未満と低下した．次いで DP3 専門職としての実践力が低い傾向にあった．一方，4 年生は全項目が 80%以上の達成率を維持し，一昨年までの課題となっていた「グローバリゼーション・国際化の動向における看護のあり方について説明できる」の達成度が今年度さらに改善し，89.4%に達した． 新カリキュラム初年度の学生は，2022 年度や 2023 年度の 3 年生に比べて，全体に達成率が高い傾向にあり，特に DP4 と DP5 の項目については 12 項目中 10 項目において高かった．また，1 年生と 2 年生からの推移では，2 年生で一部達成度が低下した項目もあったが，3 年生では 44 項目のうち 42 項目が 2 年生よりも上昇していた．2 年生よりも達成度が低かった項目は，「50．看取りをする家族の援助について説明できる」「57．自主グループの育成，地域組織活動の促進について説明できる」の 2 項目であった．今後も継続して新カリキュラムによる影響を確認するとともに，各学年の特徴を踏まえた対策が必要である． 3）ディプロマサプリメントの運用 例年に引き続きディプロマサプリメントをマイステップに添付して，学生が自身で自分の DP 達成度と課題を確認できるようにし，教員にも活用方法の周知を図った．就職活動やチューター面談などに活用されており，今後さらに，学修指導への活用を定着させていくとともに，その評価をしていく． 4）アセスメントポリシーに基づいた分析 2023 年度の成績について IR 室に分析を依頼し，解析結果をアセスメントポリシーに沿って 3 ポリシーの検証を行い，教育年報としてまとめた．解析結果は教育センターと共有し，科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた．また，教育年報は教育機構会議や学部間協議会に起案して協議をしたのち，教授会や学科会議で教員に周知・共有し，PDCA につなげた． **2．現行カリキュラムの運営評価の実施** 1）常勤教員を対象とした調査 常勤教員に，新カリキュラムに関して良かった点や改善を要する点についての意見を求めた（2025 年 2 月）．新カリキュラムの科目担当教員に対する調査では，「看護研究法の開講時期が早まり，卒論ゼミを早期から開始できる上でよかった」「3 年の老年看護学実習は目標の到達度は変わらず来ている」「以前よりも退院後の生活についての視野を持った学生が増えたように思うので，地域・在宅ケア実習：基礎実習の初年次からの導入は良かった」等，カリキュラム改正の効果に関する意見が出された．

活動概要	また，全教員に対する新カリキュラム全般への意見収集では，看護研究法，多職種連携論等の学修が後に活かされると思われるという意見が出されていた．低学年から研究的な視点を持てる科目があるとよいとの意見もあった． 新任教員に対する意見収集では，「学生が幅広い学びができるように組まれたカリキュラムだと思う」「学生は真面目に受けられていた」など肯定的な評価がされていた． 2）学生を対象とした調査 新カリキュラム 3 年目となり，カリキュラム改正評価に活用するために 1・2・3 年生全員を対象にアンケート調査を実施した．回収数および回答率は以下の通りであった． 1 年生･･･回収数 : 79，回答率 95.2%　2 年生･･･回収数 : 88，回答率 88.6%　3 年生･･･回収数 : 90，回答率 96.% 1 年生への調査では，新設・内容変更された科目について 1 年生科目として設定されていることについて，概ね半数以上が適切と回答していた．　1 年生全体科目数（授業時間数）については，前期は 53.2%が「適当」，次いで 26.6%が「どちらかという多い」と回答していた．後期は 53.2%が「適当」と答えていた．オンデマンド授業については 63.3%が「もっと多い方がよい」，36.7%が「ちょうどよい」と回答していた． 2 年生への調査では，開講時期等が変更となった科目について「フィジカルアセスメント」は 84.6%，「基礎看護学実習Ⅱ」は 94.9%が，開講方法が適切である・どちらかというと適切であると回答していた．「基礎看護学実習Ⅱ」については，2 週間連続の実施は適切であったかという問いに対し，「そう思う」60.3%，「どちらかというとそう思う」35.9%となっていた．また「基礎看護学実習Ⅱ」を履修しての感想がたくさん寄せられ，記録などが大変だったが 2 週間連続だったので集中して取り組めた，患者理解につながった，3 年生の実習のイメージにつながったといった意見が出されていた．2 年生全体の科目数（授業時間数）については，前期は「どちらかというと多い」42.3%，「適当」35.9%，「多い」21.8%，後期については，「適当」48.7%，「どちらかというと多い」30.8%，「多い」20.5%との回答していた．オンデマンド授業については 59.0%が「もっと多い方がよい」，39.7%が「ちょうどよい」と回答していた． 3 年生への調査では，新設・内容変更された科目について 3 年生科目として設定されていることについて，6 割以上が適切と回答していた．「老年看護学実習」が内容変更されたが適切であったかという問いについては，「そう思う」51.7%，「どちらかというとそう思う」39.1%となっていた．3 年生全体科目数（授業時間数）については，前期は 35.6%が「適当」，次いで 32.2%が「どちらかという多い」「多い」と回答していた．後期は 57.5%が「適当」と答えていた．オンデマンド授業については 63.2%が「もっと多い方がよい」，35.6%が「ちょうどよい」と回答していた． 3）e ポートフォリオの導入の検討

活動概要	Universal Passport のシステムが更新され，2025 年 1 月より「ユニパ RX」の運用が開始となった．e ポートフォリオについては，新しいシステム上での看護学部における e ポートフォリオ運用案について検討した． 4）卒業生を対象とした調査 就職支援委員会と共同し，2021～2023 年度卒業生および 2017～2023 年度卒業生の就職先に対して，卒業生には在学中の教育内容やキャリアサポートへの満足度，就職先には重要とする看護実践能力や卒業生が入職時に修得できていた能力，本学の教育内容に関する意見等についてのアンケート調査を行った．2023 年度卒業生 27 名（40.3%），2022 年度卒業生 17 名（25.4%），2021 年度卒業生 4 名（6%），その他 23 名（28.3%）から回答が得られた．自己評価が高かった項目は「看護実践や自己の成長のために，他者の支援を求めること」「チームの一員としての自分の役割を認識した行動をとること」などであった．また，自己評価が低かった項目は「後輩や学生の指導をすること」「緊急時の対応をすること」であった．ほぼ，前年度と同様の結果であった．本学の看護学部教育への期待としては，「臨床・臨地との協力」「図書館の充実」「研究機関としての発展」「教育カリキュラムの充実」「地域貢献」を期待する意見が多かった． 卒業生の就職先では，13 施設（回答率 25.0%）から回答が得られ，本学の学位授与方針に関する 16 項目のうち，ディプロマポリシー等の重要度が高かった項目は，「生命の尊厳及び人権の尊重」「ストレス対処能力」などであり，入職時に習得度が高い項目と捉えていた．一方で，「国際的な視点」「看護に関する課題の探求」については，入職時に習熟度が低いと捉えていたことが示された． 5）学生用アセスメントマップの運用 2022 年度に学生用アセスメントマップが作成され，2023 年度から「学生向け e ポートフォリオ説明書」に組み入れられた．教育センターと連携をとりながら履修ガイダンス等での周知を図り，学生に活用を促した． **3．非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施** 非常勤，兼担教員を対象に「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度，日頃の学習行動」に関する意見調査を行った（2025 年 2 月）．19 名中 12 名（63.1%）から回答が得られた．学生の受講態度は概ね良好で，真面目に講義に集中しているという評価が多かったが，私語が過ぎる，積極性・自主性に欠けるといった指摘もあった．工夫として，毎回の講義の最後に確認問題を実施し提出させる，双方向のやり取りを意識した授業等を展開していることがうかがえた． **4．数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会との連携** 看護学部の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員と連携をとり，委員会で検討している事項について情報共有を行った． **5．IR 室との連携による成績分析** 成績の分析について IR 室に相談するとともに，分析依頼を行った．ジェネリックテストや成績との関連について分析を依頼し，講義の成績や実習成績，学生生活状況との関連を検討する予定である．さらに，2022 年度新カリキュラム改

活動概要	正が学生の DP 到達度にどう影響している分析する予定である．また，GPA の活用促進（進級および卒業判定）に向けて GPA と DP 到達度の関連をみていく． **6. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応** カリキュラムワーキンググループと連携し，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂への対応について検討した. 現行カリキュラムと比較しながら教育内容の過不足を確認し，課題を整理した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** GPS-A 活用の周知を図ったことにより，学生，教員とも就職活動等に活用されてきたことは評価できる．また，アセスメントポリシーに基づき学修成果を可視化することにより，学生の DP 到達度と課題が明確となっている．今後，課題に対する具体的方策を立案し学修成果をあげていく． 2022 年度からの新カリキュラム下において新科目の設置や科目の配当年次を変更したが，いずれも学修成果につながっている． **2. 改善すべき事項** ディプロマサプリメントの活用の充実とその評価が課題である．
将来に向けた発展方策・課題	1. アセスメントポリシーに基づいた 3 ポリシーの検証と教育改善への活用 2. ディプロマサプリメント活用の充実と評価 3. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和 6 年度改訂版への対応

センター名	（2）カリキュラム評価委員会	SDGs との関連	
目　的	本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり，委員に複数の学生を含め多角的に評価を行うことで，自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準のさらなる向上を目指す.		
構成員	赤澤千春（委員長）　草野恵美子　久保田正和（6 月 30 日まで）　南口陽子 川北敬美　堀江雅彦　長田紗季（看護学事務課） 学生委員：坪井茉莉　岩浪　睦　西野菜々美　須山智司		
活動計画	1. 学部，研究科における昨年度カリキュラム評価の振り返り 2. カリキュラムの評価方法，評価リストの検討と決定 3. 2023 年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換 4. 報告書の作成と公開		
活動概要	1. 委員会は計 5 回開催した．昨年度報告書は HP で公開した. 2. 2024 年度は，学部，および研究科のカリキュラムを評価対象とし，学生委員は学部 2，4 回生と大学院生とした.「看護学部アセスメントプラン，看護学研究科アセスメントポリシー」に基づき作成された本学独自の評価リストを用いた．評価リストは，学部，研究科（修士・博士課程）毎に，課程レベル，科目レベルに分け，AP，CP，DP の評価項目について PDCA が行われているかを 3 段階で評価する構成とし，カリキュラムが機能しているかを検証した. 3. 2024 年 9 月～11 月の間で，委員が評価項目に基づき評価を行い，11 月開催の第 4 回委員会において，学生委員を含めた結果共有と意見交換を行った．学生委員は，評価は行わず，委員の評価結果を共有し，意見交換を実施した. 4. 今年度実施したカリキュラム評価リスト作成と評価結果，総括および今後の課題を報告書にまとめた．報告書の内容は，学部長に報告後，看護学部および研究科教授会において報告を行い，本学部教職員と評価結果の共有を行った.		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1）評価リスト作成を用いて評価したことで客観的に行うことができた. 2）評価結果：概ね PDCA がなされているという評価であった. **2. 改善すべき事項** 1）学部：入学時調査を継続実施し AP に適った学生獲得に努めること，正課外活動ポートフォリオ・ティーチングポートフォリオの活用と評価，学部生より多職種連携講義の拡充 2）研究科：大学院生に向けて研究助成金の獲得にむけた情報提供や指導の充実		
将来に向けた発展方策・課題	1. 学部・研究科共に，退学者を出さない入試・学修支援にむけて，評価，改善を継続する. 2. 学部のアセスメントプラン，研究科のアセスメントポリシーの点検・評価と，それに伴う評価シートの点検・評価を恒常的に実施する. 3. 3 学部合同開催の教育研究内部質保証評価会の評価視点と今年度作成したカリキュラム評価リストの整合性について検討を行う.		

委員会名	（3）実習委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案，実習要綱の作成，実習連絡協議会の企画・運営，予算案作成，インシデント等に関する検討など）の調整をする．		
構成員	山岡由実（委員長）　竹村淳子　大橋尚弘　近澤　幸　南口陽子　山埜ふみ恵 赤崎芙美　山内彩香　勝山あづさ　杣木佐知子　有田弥棋子（4～5 月） 野瀬珠美（10～3 月）　北川祐美（看護学事務課）		
活動計画	1. 実習連絡協議会の企画，運営 2. 実習オリエンテーションの企画，運営 3. 看護学実習要綱（共通事項），各実習要項の修正と取りまとめ 4. 臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援 5. 領域別実習のグループ編成，看護学実習に関する調整，年間計画の立案 6. 実習状況に関する学生の情報共有 7. 委員会 FD の実施（委員会内，臨地実習指導者・教員対象） 8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討 9. 実習前の倫理学習に関する学生及び教員へのアンケート調査の実施，まとめ 10. 感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等，COVID-19）に関わる調整 11. 実習調整・対応 12. 臨床教授等役割検討 13. 看護実践の理論と統合の出席管理 14. その他		
活動概要	委員会の開催：12 回の委員会を開催した． **1. 実習連絡協議会の企画，運営**：今年度は，第 I 部の全体会議は対面開催とオンライン（zoom）で，第Ⅱ部の分科会は対面開催（急性，小児）・ハイブリッド開催（慢性，精神，在宅）で実施した．全体会議は実習指導者等 49 名と教員 36 名が参加した．全体会議では 2023 年度の看護学実習関連の報告と 2024 年度の看護学実習の概要を報告した． **2. 実習オリエンテーションの企画，運営**：1～3 年生の実習オリエンテーションを開催した．いずれの学年においても，実習における倫理，個人情報保護，健康管理・感染症対策，実習におけるハラスメントの相談窓口などについての内容とした．これまでの学生のヒヤリハットやインシデント報告を反映させた内容になるように調整した．また，学生が意欲的にオリエンテーションに参加できるように，教員からの説明だけでなく，学生が発言する機会を設けるなどの工夫を行った．学生が主体的にオリエンテーションに参加し，スムーズに実習を開始できるような取り組みについて継続して検討する． **3. 実習要綱等の作成**：各分野での要綱・要項配布・在庫状況を確認し，2025 年度看護学実習要綱（共通事項），各分野別実習要項，統合看護学実習要項を作成した．		

活動概要	**4. 臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援**：2024 年度申請のあった学生 3 名に対し，看護学部障がい学生支援委員会の基本方針に則り，各分野で具体的支援計画を作成し対応し，教育センター，教授会で検討・審議した．当該学生は問題なく実習を終了した． **5. 実習グループの編成等** 1) 分野別実習グループ編成：グループ作成手順に基づき，4 年生 1 名は国家試験対策に影響の少ない早期に実習ができるグループに配置し，助産科目選択の学生，3 年生科目における成績などを考慮して，実習グループを作成した． 2) 実習に伴う教室利用の計画・調整：実習期間中の学内日や「実践と理論の統合」に関わる教室使用，および実習期間中の昼食場所の調整を行った．4 年生の統合実習では，実習期間中の学内待機場所や休憩場所の調整を行った．3 年生の分野別実習では，期間中の休憩場所として，講義室を確保した．学内日と重複する日については，休憩場所の調整を行った．また「実践と理論の統合」で使用する教室についても，各分野と調整を行い確保した． 3) 2025 年度実習計画：2024 年度と同様に，8 グループ編成とし，分野別実習の実習計画案を作成した．2025 年の大学病院の新病棟移転のため，各領域の実習病棟の確認を行い，大学病院実習計画表を作成した．また，2025 年度より実践発展実習が公衆衛生看護学実習および助産学実習選択者以外の必修科目となったことに伴い，4 年生の実習計画案を作成した．1～4 年生の実習計画案について大阪医科薬科大学病院および三島南病院看護部の了承を得た． **6. 実習状況に関する学生の情報共有**：実習における気になる学生の情報を共有し継続的な支援につなげることを狙いとして 2023 年度より導入した．全教員がファイルにアクセスし，必要時確認すると共に，口頭でも共有することで，指導方法や対応方法について教員間での引継ぎや連携，相談が柔軟にできるようになった． **7. 委員会 FD 実施**：今年度の FD は「コロナ禍を経験した医療系学生の傾向と支援のあり方　今どきの学生の特性，学生支援のあり方，コロナ禍が及ぼした影響」をテーマとし，6 月 5 日実習連絡協議会後に臨床指導者と看護学部教員を対象にハイブリット形式で開催した．参加者は 86 名だった．回収した事後アンケート 40 件（回収率 46.0%）の 95%が講演に満足したと答えていた．具体的な実習場面での支援についてより深めて知りたいとの要望もあった．その他，今後希望する FD 講演会テーマとして，Z 世代への実習指導，ハラスメント対策などの希望がみられた． **8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策** 実習終了後の 3 月に分析し，共有した．学生のインシデントは計 9 件（昨年度 13 件），アクシデントが 1 件であった．内容別には，記録物の不適切な管理は 6 件が最多であった．低学年のインシデントは 3 件で昨年度と横ばいであったが，高学年のインシデントは昨年度の 10 件から 7 件に減少した．実

活動概要	際に発生したインシデントをオリエンテーションや倫理 GW の中で説明し，学生がどのように行動したら良いのかイメージできるようにしていく必要がある．記録物の不適切な管理に関しては，低学年では倫理 GW の事例を継続し，高学年はオリエンテーションで記録物管理の説明を強化する必要がある．電子カルテの興味本位での閲覧のアクシデントが発生しており，個人情報保護については，患者に実害が及ばないように，宣誓書内に記載されている個人情報保護に関する内容について学生への周知方法や理解度の確認方法を次年度のオリエンテーションに向けて委員会で検討していく． **9. 倫理グループワークアンケート調査** 1) 学生対象調査（3 年生）：倫理グループワーク実施直後の調査結果では全員が「参考になった」と回答し，実際に起こりうる状況を事前に知ることができ，様々な意見を聞けた点が良かったとの意見があった．分野別実習後に実施した調査の結果では， 92.3%の学生が実習で役立ったと回答し，倫理的視点の向上や実習への姿勢の向上につながった． 2) 教員対象調査は，分野実習終了後の 2 月に実施した．倫理的な課題があると感じた場面として，言葉遣い，患者への配慮不足といった実習態度に関する課題や，医療者の発言・対応，指導方法に関する課題が挙げられた．今後のグループワークでは，電子データや個人情報の取り扱い，自己省察を促す事例を取り上げることが求められていた．また，具体的な事例を提示することで理解が深まり，危機意識や予防策を考えるきっかけになるとの意見があったことから，引き続きグループワーク形式で学生が倫理的観点に基づいた看護を実践できるように支援していく． **10. 感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等，COVID-19）に関わる調整** 「大学病院における学生実習について」を周知した．実習期間中は各クールの実習前検査の実施．学生の体調に関する校医・保健管理室への相談，感染症による実習受入れ中止時の施設・病棟変更等の調整，追実習を行った． **11. 実習依頼・調整**：2025 年度実習計画策定・実習依頼を行った.2025 年より実践発展実習が必須となること，7 月に B 棟への移転などにより，統合実習の分野間及び看護部との調整を 8 月に開始し，11 月の教授会で報告した． **12. 臨床教授等役割検討**：看護学部の臨地実習指導においては，これまで実習指導者に関する役割の申し合わせがあった．今年度，これとは別の称号として設けられている臨床教授等について，実習に関する役割を検討することとなった．検討は，文部科学省から平成 9 年に出された医学部教育の臨床教育の充実を図るための通知文「「臨床教授（臨床助教授・講師を含む)」（仮称）の称号の付与について（通知)」と，臨床教授等の役割に関する他大学のホームページの記事，本学部教員への調査結果を根拠資料として行った． 教授会での審議を経て，最終的には臨床教授等の称号名を外し，「大阪医科薬科大学看護学部・看護学研究科 臨地教育教員の役割」として承認された．検討当初は学部教育における実習を想定していたが，学部教育のみならず大学院にお

活動概要	ける高度実践コースの実習も包含した考え方となった．また，実習施設は異なる組織形態や規模等の事情があり，役割と称号名が必ずしも一致しないことがあるため，役割のみを残す形となった．令和 6 年度から適用となる． **13. 看護実践の理論と統合の出席管理**：看護実践の理論と統合の出席管理および評価について申し合わせ事項を作成した．出席管理について学生の自覚を促す目的で，出席カードを作成した． **14. その他**：ワクチン接種状況の把握と必要な学生への促しについてフローシートを作成し，学生生活支援センターと共有して，役割を明確化した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1） 実習連絡協議会の配布資料について，これまでは必要部数を確認して準備していたところ残部が多く出ていた．そこで，今年度より配布病棟の一覧表を作成し看護部に必要部数の入力を依頼したうえで，該当部署に必要部数を配布し，欠席した部署の資料を看護部に持ち帰りいただくようにした．それにより，残部が生じず印刷費用の削減につながった． 2） 大学病院看護部と随時連携をとり，カリキュラム変更及び感染症等の実習に関連する事項，配慮が必要な学生の実習支援について必要時相談し対応できた.それにより学生への不利益が生じることなく臨地実習を実施できた． 3） 臨床教授等役割検討については，改めて検討し，看護部と共有することで，実習や演習等への参画について役割機能を共有できた.また実習要項に追加したことで，継続して共有，検討できる体制をとれた． 4） 各分野の実習と関連している科目「看護実践の理論と統合」の出席管理カードを作成することで，他分野にわたる出席状況が把握でき，学生の実習指導につなげることができた． **2. 改善すべき事項** 1） 電子カルテの閲覧，記録の取り扱いに関するインシデントが生じたため，引き続き学生の意識付けを強化すると共に，指導継続する． 2） COVID-19 に対する感染症法上の分類は 2023 年 5 月 8 日より 2 類から 5 類に変更となったが，2024 年度も実習中の感染者の増加が認められる時期があった.本学学生は医療従事者に準ずるため，感染症予防・り患時の対応の重大性についての指導を継続する．
将来に向けた発展方策・課題	1. 臨床教授等役割を検討し，看護部と共有できた．実習指導者はもちろんのこと，臨床教授等も含めて FD への参加を促し，実習指導，教育への能力向上と共に学部との協働体制の強化に努め，成果を評価する． 2. 2022 年度改正カリキュラムの成果の継続的評価を引き続き行い，看護学教育モデル・コア・カリキュラムの検討に活かす． 3. 実習記録のクラウド化を引き続き検討し，実習指導の充実への活用，課題について検討する．

委員会名	（4）ウェブサイト委員会	SDGs との関連	 
目　的	大阪医科薬科大学看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用する.		
構成員	安田稔人（委員長）　鈴木美佐　大橋尚弘　堀池　諒　日髙朋美　野口美穂 看護学事務課　堀江雅彦　村上佐智子 オブザーバー　企画・広報課　松田久美　田中庸介		
活動計画	1. 看護学部教員・各領域・分野に関する情報更新 2. 学部長あいさつ，トップページ写真等の更新 3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 4. 看護学部年報，看護研究雑誌の最新号掲載 5. その他必要な更新および情報公開（随時） 6. アドミッションセンター（AC）が企画，運営するオープンキャンパス（OC）への協力，OC の日時や企画内容の看護学部教員への周知 7. 看護学部案内の企画 8. Web サイトの評価		
活動概要	1. 委員会（9 回）の開催：すべて対面で委員会を 9 回開催した. 2. OC 業務の教員への協力依頼（模擬講義，個別相談など）を行った. 2 名の教員が模擬講義を担当，第 1 回，2 回とも 7 名の教員が個別相談を担当した. 3. OC 参加学生のアンケート結果を分析し，次年度への検討項目を抽出した. 4. 日本看護系大学協議会（JANPU）に登録して本学の OC の案内を HP に掲載した. 5. 本委員会の代表メールアドレスを作成した（website-n@ompu.ac.jp）. 6. JANPU の特別企画「専門看護師をめざす」を本学看護学部，看護学研究科の HP に掲載した. 7. 一般社団法人 日本私立看護系大学協会からの依頼によりベネッセの web ページに大学の魅力と教育の特色，ロゴマークを掲載した. 8. サイト更新 1) 教員一覧，教員情報，教員からのメッセージ，領域・分野ページ,実習の写真の更新 2) 学部長あいさつの更新 3) 3 センターのサイトの更新，国家試験情報，就職・進路状況の更新 4) 2023 年度看護学部年報，看護研究雑誌第 15 巻掲載 5) 各種告知事項，実施報告等の更新		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 対面式 OC については，午前，午後と入れ替え制で予約制としたが，予約者のほとんどが来校し（2 回の OC で 524 名が参加，昨年は 431 名参加），アンケート調査においても来校者の満足度は高かった．看護学部キャンパスだけでなく，		

評　価	本部キャンパスの解剖実習室や図書館の見学ツアーも高い評価を得られた．OC参加の理由は「大学病院があり，実習施設が充実している」,「通学可能な距離にある」,「保健師・助産師教育課程がある」という回答が多かった． 企画・広報課職員の参加により，看護学部教員と事務課との連携が強化され，企画・広報課の協力により教員の意見を HP に反映できた．実際の病棟実習風景の撮影と学生の感想と指導教員のコメントを取材し，質の高いコンテンツが作成できた．受験生向けの紹介動画を受験生サイトに掲載し，HP の掲載内容の改善に役立てた．OC や HP の充実が本年の看護学部の受験者の増加の一員となっていると思われる． **2. 改善すべき事項** 本委員会の役割は広報を含むため，AC とも密に連携をとり，受験生にとってより見やすい HP を目指す．
将来に向けた発展方策・課題	受験生が受験校を選択する際は大学の HP や OC を参考にする場合が多く，さらなる HP の充実に加えて，AC ともさらに連携し，OC の企画内容を充実させる．次年度の HP については学問分野の興味を引き出し学生募集につなげるため「夢ナビ企画」を検討していく．OC については実習室にモデル人形以外の目玉となる展示を企画する．また，受験生の進路指導をする教員に対しても本学 OC の参加を勧めていく．

委員会名	（5）看護研究雑誌編集委員会	SDGs との関連	 
目　的	大阪医科薬科大学看護学部における教員等の教育研究成果を広く看護界に発信し，看護学の向上と発展に寄与する		
構成員	小林道太郎（委員長）　大橋尚弘　寺口佐與子　有田弥棋子		
活動計画	1. 看護研究雑誌第 15 巻の編集・発行 2. 投稿・査読関連の手順および書式等の整理 3. 第 14 巻の看護学部サイト掲載		
活動概要	1. 委員会の開催 : 年間 6 回の会議を開催し，以下の事項の審議と確認を行った. 2. 看護研究雑誌第 14 巻の学部サイト掲載 : ウェブサイト委員会に依頼して看護研究雑誌第 14 巻を Web 公開した. 3. 看護研究雑誌第 15 巻の編集・発行 : 投稿規定に基づき，8 月末題目登録締切，10 月末原稿提出締切，3 月発行というスケジュールで，投稿の募集から査読，編集の諸業務を行った．結果，掲載論文は 15 篇となった. 4. 過去の掲載論文について，博士論文の一部として大阪医科薬科大学リポジトリで公開することの許可を求める連絡があったため対応した.		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 第 15 巻の査読・編集作業は予定通り進行し，前年度より多くの論文を掲載することができた. 前年度の反省を踏まえ，修正論文の修正箇所の明示と刊行日程を 3 月 20 日以前にすることについて確認を行った. **2. 改善すべき事項** 特になし.		
将来に向けた発展方策・課題	1. 投稿規定，執筆要領を必要に応じて見直す. 2. 査読の質の維持向上は雑誌としてつねに継続して取り組むべき課題であり，引き続き方策を検討していく.		

委員会名	（6）予算委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする.		
構成員	鈴木久美（委員長）　真継和子　山岡由実　竹村淳子　土手友太郎 増田尚紀　森川健太（看護学事務課）		
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された 2024 年度看護学部予算案の審議を行い，教授会で承認を得た. 1. 学生の教育，学生の実習に係る備品等 2. 各センターおよび各委員会に係る活費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他，学部長が必要と認めたもの		
活動概要	次年度予算案を作成するにあたり,看護学部に係る全体的な予算をできるだけ削減するように努め，看護学部として以下の新規購入を要望した. 1. 看護学部北キャンパス講義室 4，5 のスクリーンの買い替え（教育センター） 2. 看護学部棟事務室設置の印刷機（複合機）（看護学部）※経常新規 3. 実習記録のクラウド化（教育センター）※経常新規 4. シミュレーション DX 構築システム（教育センター）※経常新規 5. 看護学部 15 周年・看護学研究科 10 周年記念誌作成費用（看護学部）		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 近年の法人の財政状況を踏まえ,優先的に買い替えや設置が必要な機器等に絞り込んだうえで，充足を実施している. **2. 改善すべき事項** 経年による看護学部内での全体的な設備機器の状況を確認しながら,備品等を予算に合わせて合理的に更新できるよう，検討が必要である.		
将来に向けた発展方策・課題	看護学部全体の適正な設備修繕や機器備品等の更新について,優先順位を明確にしたうえで，予算要望を検討することが重要である.		

委員会名	（7）物品管理委員会	SDGs との関連	
目　的	講義・演習を円滑に進めるため，授業に関する物品の維持および管理，物品に関する情報収集と学部内教員への発信，その他物品管理に関する事項を行う.		
構成員	竹村淳子（委員長）　川北敬美　間中麻衣子　勝山あづさ　有吉真里菜 森川健太（看護学事務課）　増田尚紀（看護学事務課）		
活動計画	1.　委員会の開催 2.　教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検 3.　教務関係備品の貸し出し管理 4.　実習室，器材庫，シミュレーションルームの整備 5.　経年劣化による物品の確認および修理・購入の必要性を検討 6.　COVID-19 感染拡大時に備蓄した物品の消費状況の把握 7.　2025 年度教務関係物品購入予算案の作成		
活動概要	**1. 委員会開催** 2024 年 4 月～2025 年 3 月に計 6 回の委員会を開催した. **2. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検** 1）教務関係備品の管理 5 つの共通物品の定数の札が不足しており，事務課へ依頼し補充を行った. 車いす，ストレッチャー，ベッドは数年ごとに点検・修理・買い替えを行っているため，車体ごとの管理が行えるよう，Share 内の分娩台帳のファイルに管理シートを設けた. 2）定期点検 モデル・シミュレーター（京都科学，坂本モデル，高研）の点検について，各分野物品管理係に確認し実施した. 3）教務関係備品の点検・消耗品の在庫管理 各分野へ業者点検依頼の希望のある物品を募ったが，どの分野からも希望がなかった．備品・消耗品確認の流れに関する文書について委員会で検討し，今年度は改訂がないことを確認した. 共通物品の備品・消耗品の点検と整理を 2 月 14 日に実施した．年度末に，各分野の備品・消耗品点検について各分野の物品管理係に依頼した．今年度は，分野物品のカウントを行う各分野の物品管理係より，カウント方法やリストについての問い合わせが委員に入ることはなかった．消耗品の在庫数の減少は認めなかったが，共通物品に 2 つ不足している物品があり，教職員へ一斉メールで返却依頼した. **3. 教務関係備品の貸し出し管理** 2024 年度は，実習室物品の貸し出しとして，看護キャリアサポートセンターへ，計 5 回，物品管理委員会の管理下である実習室物品（ベッド，ベッドシーツ，各種モデル，枕等）の貸し出しを行った．管理に関しては，看護学事務課より，使用後に状況を確認のうえ，返却受取に係る情報を記入のうえ申請様式を整えている.		

活動概要	**4. 実習室，器材庫，シミュレーションルームの整備** 器材庫の整理と地震対策実施について，各分野が使用している棚の経年劣化した地震対策用ゴムの状況を確認するとともに，器材庫内に配置している物品の整理を行った．モデルの故障やベッドの破損などを確認した際には，貼り紙掲示やベッドの移動を行い，物品が安全に使用できる環境を整えた．また，定期的な清掃およびリネン類のクリーニングの実施を行った． **5. 経年劣化による物品の確認および修理・購入の必要性を検討** 演習で使用するリネン類（綿毛布，マットレスパッド）は，生地の擦り切れや10cm 以上の縮みが生じているため，買い替えの検討を行い，マットレスパッドを28 枚新規購入した．また，実習準備室の乾燥機 2 台，洗濯機 1 台が故障し，順次買い替えを行った． **6. COVID-19 感染拡大時に備蓄した物品の消費状況の把握** 備蓄分はエプロンのみ余っているため，次年度も順次使用していく． **7. 2025 年度教務関係物品購入予算** 今年度の教務関係物品購入はすべて予算内で執行した．また，今年度は点検の結果，車椅子を 1 台新規購入し買い替えた．2025 年度はストレッチャーの点検が予定されており，必要時，修理および買い替えを検討していく．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 教務関係の備品，機材の維持 備品，機材および消耗品の管理は，各分野の担当者を介して点検され，当委員会が統括することで円滑に管理できている． **2. 改善すべき事項** 1)　共通消耗品の購入ルールの徹底 共通で使用する消耗品の購入に関して，使用した分が適切に補充されるシステムが作られているが，定数の札が紛失するなどが散見される．演習時に必要な数が提供できるようルールの徹底を呼び掛ける必要がある． 2)　共通物品の定数カウントおよび管理について タオルやシーツ等のリネン類は，古くなったものは徐々に破棄しているが，今年度は定数の漸減は認めなかった．
将来に向けた発展方策・課題	**1. 経年劣化のベッド等，高額物品の買い替えに関する検討** 実習室 1 に設置されているベッドは，一部新規購入し，修理可能なものはそのまま使用している．ベッド支柱のロール部分が壊れているものもあるため，使用する学生の安全面を考え優先的に買い替えを計画する必要がある．故障に伴う高額物品の買い替えは，他学部の現有する備品の有効活用も検討し，教育の質も踏まえて検討していく． **2. 予算計画の検討** 高額物品の購入および修理について，使用頻度をふまえて数年単位の計画を立てる必要がある．併せて，経常的な予算の範囲における物品購入の他にも，適宜法人へ新規予算申請のうえ購入が必要な物品に関しては，実施する必要がある．

委員会名	（8）就職支援委員会	SDGs との関連	
目　的	大阪医科薬科大学看護学部の学生の就職・進路の支援		
構成員	山岡由実（委員長）　南口陽子　内田浩江　松枝加奈子　赤崎芙美　濱浦弘美　藤原敏洋		
活動計画	1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のサポート 4. 進学，就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け，情報提供の充実をはかる 6. 来校人事担当者との対応による情報収集 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8. HP の更新 9. その他		
活動概要	1. 学生に対する就職情報の提供として，就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報，パンフレット等をキャリアサポートルーム内外に設置した．また，タイムリーな就職活動ができるよう必要時ユニパで情報を発信した． 2. 就職活動力の強化支援として，就職ガイダンスを 3 回実施した．第 1 回目（入門編）は，2024 年 6 月 12 日（水）に大学病院担当者，就職支援業者による講演を対面開催した．3 年生 78 名が参加した．第 2 回目は（実践編），2025 年 1 月 25 日（土）に大学病院担当者，卒業生の看護師，保健師，助産師による講演，就職支援業者による履歴書・面接対策の講演を実施した．3 年生 81 名が参加した．履歴書添削セミナーは，2024 年 2 月 26 日・28 日に zoom による個別指導で開催した．参加者は 17 名であった．低学年ガイダンスは 2024 年 11 月 29 日（金）に就職支援業者による就職活動準備講座を開催した．2 年生 87 名が参加した． 3. 教員の就職活動支援力向上にむけて，第 2 回就職ガイダンスにおける履歴書・面接対策の講演内容を業者の了解を得て録画し，閲覧できるようにした． 4. 進学，就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い，2025 年 3 月に卒業年次生の進路確定状況を学部教授会で報告した． 5. 卒業生と在校生の交流は，第 2 回就職ガイダンスで各職種の卒業生と質疑応答の時間を設けた． 6. 来校人事担当者の対応は委員が行い，次年度採用試験の日程や人材育成の方針等の情報収集を行い，来校者応接録を作成した． 7. 卒業生・施設アンケートは，対象者を卒後 3 年目までに拡大し，回答方式をオンラインで実施した．卒業生の回収率は 26.9%，施設の回収率は，25.0%であった．回収率が減少していることから調査依頼方法の検討が必要．		

	8. HP には，就職ガイダンスの開催，今年度の就職先情報，卒業生・施設代表者調査の結果を更新した． 9. 大阪府看護協会ナースセンターの就職支援の活用について，次年度低学年ガイダンスへの参加を検討した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 就職ガイダンス，低学年のガイダンスの開催やタイムリーな就職情報を発信し，学生の意識向上を図った．情報収集元について掲示板，ユニパ，サポートルームの資料と回答した者が 40-50%と学生の半数が利用しているため必要性が高い． 就職ガイダンスは，今年度は対面開催とし，学生の参加率は 3 年生第 1 回，第 2 回とも 90%以上と昨年度より参加率が高く，低学年は 99%であった．満足度約 90%とすべて高く，学生のニーズに沿っていると考える．アンケート結果から，開催時期を早くして欲しいとの希望や近年の就職試験が 4～5 月と早くなっていることから，第 2 回の就職ガイダンスを 1 月から 12 月へ早めることとなった． 履歴書添削セミナーは，就職支援業者による zoom での個別指導形式で実施した．終了後のアンケートでは 100%の学生が「とても役立った」もしくは「役立った」と回答した．今後も継続の方向で検討したい． 就職活動および就業調査票は，全員の提出があった．就職活動調査票の結果が更新されたことを学生に対し例年よりも早くユニパにて周知し，早期の就職活動を促進した． 卒業生に関するアンケート調査は，昨年度より卒後 3 年目までを対象に調査を実施したが，回収率が 26%と悪く，中でも 2 年目は 2 割，3 年目 1 割未満であり，また 2，3 年目は重複して回答することになるため，次年度は卒度 1 年目のみに戻すこととなった．学生対象の結果では，「看護実践や自己の成長のために，他者の支援を求めること」「チームの一員としての自分の役割を認識した行動をとること」が高評価であった．今後のキャリアアップについて，最も多かった意見は認定看護師であり，看護管理者，教育・研究者と続いた．大学院博士前期課程進学を考えているものもおり，本学の卒業生のキャリアアップに生かすことができるよう，進学に関する情報提供を在学中から行っていく必要がある．施設側は，回収率が 25%であった．結果から，「生命の尊厳および人権の尊重」「組織で働くための規律」「ストレスコントロール力」が高評価であった．今後，期待することが多かった項目は「看護実践能力の向上」であった．
将来に向けた発展方策・課題	1. ガイダンスは，内容を精選し時間短縮を図ること，3 年生の第 2 回を早めることが課題である．卒業生からの講演や面接の模擬練習は継続していく． 2. 就職活動および就業調査票は，100%の回収率であった．今後もユニパでの提出を継続し，集計作業の簡便化，後輩への情報提供の迅速化をはかる． 3. 卒業生および就職先の施設に関するアンケート結果から，キャリアップについての情報提供を検討することが考えられる．また次年度は，卒後 1 年目に戻し回収率を上昇させる．2026 年度にはこれまでのアンケート調査内容を評価する．

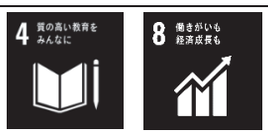
委員会名	（9）国家試験対策委員会	SDGs との関連	
目　的	大阪医科薬科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す.		
構成員	安田稔人（委員長）草野恵美子　近澤　幸　中原洋子　内田浩江　倉橋理香 赤崎芙美　野瀬珠美　森川健太		
活動計画	1.　全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2.　2024 年度国家試験対策の模試及び対策講座の実施 3.　2025 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成 4.　模試成績不良者の対策 : 講座への出席率を向上させる方策の検討，チューターとの情報共有及びさらなる協働方法の検討，集中勉強会，直前勉強会の開催 5.　国家試験対策（模試および対策講座）の評価		
活動概要	**1.　委員の役割と実施内容** 役割分担 委員の役割分担は以下の通りとし，実施方法の変更が生じた際などはその都度調整を行った. 1）議事次第作成・委員会進行・全体総括 2）議事録作成 3）東京アカデミー窓口 4）全学年へのオリエンテーションの実施 5）看護師国家試験対策 6）保健師国家試験対策 7）助産師国家試験対策 8）国試対策医学系講義・模試低正解率問題の再回答と解説 9）郵便物・広告物・掲示物・図書 10）模試・対策講座 11）勉強会担当 12）自己採点会担当 13）学生への国試対策に関するアンケート 14）来年度予算・必要物品購入 **2. 国試対策オリエンテーションの実施** 全学年に各 1 回，国試対策についてオリエンテーションを行った．オリエンテーションでは，4 年間の全体のロードマップを作成して各学年に応じた意識付けができるように説明した. また, 今年度のスケジュールや注意事項, 医学書院 Web 等の活用できるツール等について説明した. **3. 模試と対策講座** 4 年生では，例年同様に全国規模の模擬試験，対策講座を実施した．学生委員を中心に運営を行った．回数は，看護師国試対策講座 12 回（傾向分析会含む），看		

活動概要	護師国試模試 6 回，保健師国試対策講座 5 回（傾向分析会含む），保健師国試模試 3 回，助産師国試対策講座 2 回，助産師国試模試 4 回であった．東京アカデミーの全国公開模試（3 回分）は，解説動画を Moodle にアップし，復習できる機会を設けた．また，模試の結果が必修問題 80%未満もしくは，C，D 判定の成績低迷者には，解説動画の視聴を促すため，解説動画で解説された問題を Respon で回答することを課題とした． 3 年生については全国規模の模試 2 回，1，2 年生については全国規模の模試を 1 回ずつ実施した．尚，各対策講座の開講方法は，大学または東京アカデミー大阪校での対面開催，zoom によるオンライン開催とした． 模擬試験や対策講座への出席状況や模擬試験の成績を，適宜チューターや教員へのメール配信，学科会議での報告によって共有した． **4．情報提供と勉強会の運営** 1） 国試対策関連の情報提供 医学書院 Web 導入と教科書のデジタル化の方針を受け，新規図書の購入は行わなかった．業者からの過去問集など献本は昨年度と本年度の 2 年間分を委員会キャビネットに昨年同様保管することに決定した． 国家試験対策に関する情報については，学生が活用できそうな情報やチラシはキャリアサポートルームに掲示し,学生が情報収集できるようにした． 2） チューターとの情報共有 対策講座・模試の出欠状況や成績をチューターと共有するため，適宜学科会議で周知した．また，11~12 月，1 月の勉強会の対象学生の選定にあたり，選定基準のための資料を教授会および学科会議等にて教員に提示した．適宜チューターを通じて学習状況や健康面について情報を把握，またチューターに勉強会への出席状況をフィードバックするなどして協働的に対応した． **5．既卒生への対応** 今年度は該当者なしであった． **6．看護師国試対策勉強会** 看護師国試対策については，4 回生の模擬試験の結果の推移に基づいて 11～12 月および 1 月に勉強会を実施した． 1）集中勉強会（11～12 月） 5～9 月に実施した計 4 回の看護師国家試験模擬試験において，成績が伸び悩んでいる学生に対して学習習慣を強化し，必修問題および正答率の高い問題を確実に回答できるようにすることを目的に，計 5 日間「集中勉強会」として勉強会を設けた．また，最終日は東京アカデミー第 3 回全国公開模試を実施した．今年度も昨年同様に感染状況を考慮し，十分な感染対策を講じながら対面で実施することとした． 学生の選抜条件は，①直近の模擬試験(東京アカデミー第 2 回模試)において必修得点率が 70%以下もしくは 4 回の必修模試すべて 80%未満の学生とした．対象は 36 名であった．また，集中勉強会の目的が，成績低迷者に対する学習の強化

活動概要	であるため，選抜された学生以外からの参加は認めないこととした． 集中勉強会では，毎回，医学書院 Web 上で作成した小テストを当日担当教員が提示し，学生は回答後に各自で解説を確認した後，各自で自習を中心とした学習を行った．毎日委員 1 名が交代で担当し，学生からの質問があれば対応するようにした．さらに，当日の担当教員の可能な範囲で正答率の低い問題や解説のわかりにくい部分について解説を加えるようにした． 学生の出席率は平均 86%であり，36 名の学生は半数以上出席していた．欠席理由は，体調不良・自己都合等での欠席が多く，無断欠席や遅刻も散見された． 2）直前勉強会（1 月） 11～12 月に実施した 2 回の看護師国家試験模擬試験において，合格基準に達していない学生を中心に全受験者を対象に，計 6 日間「直前勉強会」として勉強会を設けた．本番を想定しながら勉強に取り組めるように，昨年度同様感染状況を考慮しながら，対面で実施することとした． 学生の選抜条件は，①最終の模擬試験（東京アカデミー第 3 回模試）において必修得点率が 80%未満，②一般＋状況設定問題得点率 62%未満の学生とし，12 月に実施した東京アカデミー模試の結果を参考とした．また，最終の模擬試験の未受検者も対象とし，選抜された対象は 27 名であった．大学で勉強したいという学生の希望も考慮し，今回は選抜者以外に，希望する学生の参加も認めることとした． 直前勉強会では，医学書院 Web 上で過去問題を中心に作成した公開テストを当日担当教員が提示し，学生は解答後,各自で解説を確認し,自習に取り組んだ．担当委員は勉強会の時間中，教室に常駐し，学生がいつでも教員に質問できるようにした．直前勉強会の中で解説講義として，医学系の模試低正解率問題を医学系教員が解説した． また，看護師国家試験に自信をもって臨むことができるよう，勉強会の最終日に追加模擬試験（なすもし）を実施した．参加対象者は原則，看護師・保健師国家試験対策直前勉強会選抜者と希望者とし，77 名が受験した． 選抜者 27 名の出席率は 87%であった．希望者も含め 6 日間で延べ 303 名が参加した． **7．保健師国試対策** 保健師の国試対策については対策講座をオンライン，模擬試験を対面で行った．保健師選択者対象の直前勉強会を 1 月の看護師国試対策勉強会と同時開催にて実施した．勉強会の必修対象は 12 月模擬試験結果 61%未満とし，勉強会参加者へは紙媒体で過去の保健師国家試験問題や予想問題の実施や質疑対応以外は自習を中心とした学習とした．その他公衆衛生看護学分野の協力を得て，個別に成績の伸びない学生に対する個別指導を行う等の対策を行った．3 年生の国試対策は，公衆衛生看護学分野にて 12 月模擬試験結果 60%未満をレポート課題として個別の学習指導を行った． **8．助産師国試対策** 模擬試験 4 回および対策セミナー2 回を行った．模擬試験は学内で対面実施し

活動概要	た．対策講座はオンラインと対面が 1 回ずつであった．適宜学習状況の面談を行い，成績が伸びない学生に対しては，個別指導を行った． **9. 自己採点について** 看護師の結果については，東京アカデミーの「第 114 回看護師国家試験 解答速報＆自己採点会」に参加し，これを用いて自己採点するよう周知した．保健師，助産師は解答例を示し，自己採点するよう周知した．保健師・助産師・看護師すべてについて 2/16～18 に各自が結果を委員会作成の Google Forms へ入力した．全員から自己採点結果の報告を受け，結果は，教授会，学科会議およびメールで教員に周知した． **10. 自己学習環境支援** 東京アカデミーをはじめ各社からの国試対策勉強会に関する情報を整理し，学生がいつでも閲覧できる部屋の環境を整えた．国試が近づくにつれ，閲覧している学生が多く見受けられた． また，模擬試験の結果から対象学生を選出し，直前勉強会の実施と勉強会終了後に学生が集中して自己学習できる環境を提供し支援に努めた． 2020 年度より「医学書院　看護師/保健師国家試験問題 Web サービス」を導入し，今年度も継続して利用し，学生が Web 上でも自己学習できる環境を整えた． **11. 学生へのアンケート** 4 回生を対象として国家試験終了後にアンケートを行った．回収率は 64%であった．対策講座については，「非常に役に立った」「まあまあ役に立った」との回答が 87.8%であった．1 回の時間について，61.4%が「ちょうどよい」と回答していた．模試については，ほぼ全員が大学での一括申し込みを希望しており，回数についても 80.7%が「ちょうどよい」と回答していた．直前勉強会については，開催期間が「ちょうどよかった」79.5%，1 回の時間が「ちょうどよかった」87.2%であり，ともに適切であったといえる．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1）看護師・保健師・助産師の各国家試験の合格率について，看護師 98.9%，保健師 100%，助産師 100%であった．具体的には，第 114 回看護師国家試験は受験生 88 名が合格，不合格者 1 名であった（全国平均：新卒 95.9%）．第 111 回保健師国家試験は受験生 34 名が全員合格した（全国平均：新卒 96.4%）．第 108 回助産師国家試験は受験生 6 名が全員合格した（全国平均：新卒 99.3%）．（今年度は既卒生の受験なし） 2）Web を活用した情報提供，学習支援は有効であった． 3）1 月の直前勉強会にて，今年度も昨年度の引き続き追加模試を実施し，学生からも好評であったとともに，直前の実力をアセスメントできる機会となった． 4）就職関連の予定について調整できるよう，看護教育調整会議にて大学病院・三島南病院看護部とスケジュールを共有した． **2. 改善すべき事項** 1）対策講座等への出席率が低下傾向であり，今後，学生の意見も聞きながら，開

	催方法などを再検討していく．国試委員以外の教員との出席率の共有も行う． 2）国家試験対策委員の負担が大きいため，対策が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1．成績の伸び悩む学生を対象にした勉強会については，全て対面とし，短期間に集中的に行った．本年度は例年より模試での必修得点率が低かったため，勉強会の日数を増やした．教員負担とのバランスをみつつ，より効果的な媒体を活用しながら今後も実施していく必要がある．ただし，集中・直前勉強会については．模試の結果だけでなく，模試の出席状況や普段の成績（GPA 等）も参考にし，選定方法や学習方法自体の支援について引き続き検討していく必要がある．また，国家試験本番に向けて学生のメンタル面にも注意しながら，チューターと情報を共有していく． 2．講座への出席率の低下が引き続きみられるため，学生のニーズを勘案しつつ，学部教員全体で出席を促すことや出席することによるメリットを増やす等の対策が必要である．また模試と対策講座については一定の業者を中心としたスケジュールを組んでいるが，学生にとって勉強しやすい方法や媒体を少しでも増やすことができるように，必要に応じてWeb 上でのオンライン講座等の利用なども検討していく．本年度は当日朝の開始直前に対策講座中止という事例が発生したため，次年度は急な中止の場合は模試に切り替えるなどの代替案を検討していく． 3．国家試験対策活動の保護者への周知 PA会からの支援（対策講座や国家試験参考書の配布など）による成果をフィードバックするとともに，講座出席率向上に向けての協力を仰ぐ必要性等について検討する．

委員会名	（10）看護学部年報編集委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する.		
構成員	土手友太郎（委員長）　新田和子　土井智生　日髙朋美		
活動計画	1. 2023 年度年報の取りまとめ・発行 2. 2023 年度年報の HP 上での公開 3. 2024 年度年報作成のための原稿依頼		
活動概要	1. 委員会の開催 2024 年度 は 7 回の委員会を開催した. 2. 2023 年度年報の発行 1）2023 年度の原稿の校正と編集 2）2024 年 7 月 31 日に 2023 年度の看護学部年報を発行した. 3）冊子 35 部を作成し関連部署に配布した. 4）看護学部教員へはホームページ上で PDF を公開した. 3. 2024 年度年報作成の手順を下記に変更し原稿を依頼した. 1）論文の種類や言語に関わらず各自が FORMS の URL リンクから入力する. 最新の大阪医科薬科大学看護研究雑誌掲載論文を除き，当該年度 3 月 31 日時点で in press の論文は入力しない. 2) 学会発表および外部資金・競争的研究資金等（研究協力課から入手）は提出しない. 3) 各センター・委員会・分野・看護学事務課の内容については，Share フォルダの Word ファイルに担当者が入力する. 4) 個人の研究活動のうち,「地域・社会貢献」「その他」と著書については「社会活動」のアルファベット順に作成された入力欄に順序は任意で記載する.		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 年報に学会発表などを記載することがなくなり，提出者の事務負担が軽減した．また FORMS および Share フォルダへの直接入力により編集作業が大幅に簡略化された. **2. 改善すべき事項** Share フォルダのファイルの削除や行方不明などの不具合が生じる可能性がある．締め切り期限まで適宜入力状況を管理する必要がある.		
将来に向けた発展方策・課題	1. 2024 年度年報内容が各種評価を受ける際の根拠資料として十分であるかを検討する. 2. 2024 年度年報の印刷部数および予算の見直し.		

委員会名	（11）国際交流委員会	SDGs との関連	 
目　的	看護学教育・研究に寄与する国際交流活動を推進することを使命とする.		
構成員	飛田伊都子（委員長）　樋上容子（副委員長）　内田浩江　山内彩香 堀池　諒　勝山あづさ　野瀬珠美　増田尚紀（事務）　藤原敏洋（事務）		
活動計画	1.　国際交流に関する基盤整備 2.　国際交流活動（International Day・Julia 先生来訪・欧州大学訪問） 3.　学生の国際交流活動（受け入れ） 4.　学生の国際交流活動（派遣） 5.　学生の国際交流活動（web international module; CRISIIS） 6.　学生の国際交流活動としての SDGs 活動（NEXUS） 7.　学生の国際交流活動支援（海外留学説明会・助成金） 8.　大学院生・教員の国際研究活動支援（International Writing Group） 9.　教員の国際研究活動支援（国際共同研究） 10.　国際交流活動の広報		
活動概要	**1. 国際交流に関する基盤整備** 1）国際交流協定締結・更新 2024 年 9 月 9 日ベルギーのトマス・モア応用科学大学との大学間国際交流協定を締結した．毎年最大 2 名の学生を本学のサマープログラムに受入れ，最大 2 名の学生を先方に派遣できる．さらに最大 2 名の教員が相手の大学で毎年講義を行うことができる．Erasmus+（エラスムスプラス）に採択され（Key Action 171; KA171），2024～2027 年 6 月の期間に 5370Euro（約 87～88 万円）を本学の学生 2 名が使用できる．2024 年 7 月 16 日には米国のミネソタ州立大学と，2025 年 1 月 15 日には台湾の台北医学大学との国際交流協定を更新した. 2）看護学部海外短期留学生奨学金給付に関する事項 経済的世界情勢を鑑みて大阪医科薬科大学看護学部海外短期留学奨学金の給付額をアジア地域の場合は 5 万円，欧米地域の場合は 10 万円に改正することが教授会の議を経て承認された. 3）2025 年度予算案の策定 他学部の国際交流委員会の事業計画を鑑みつつ，看護学部における研修生の受け入れによる国際交流，学部生の海外派遣及び学生の国際交流活動としての SDGs 活動の活性化を図るための予算案の作成を行った. **2. 国際交流活動** 第 1 回 International Day を企画し，6 月 30 日（日）に開催した．第 1 部はミネソタ州立大学看護学部の Stacey Van Gelderen 教授による「アメリカの医療～多様な家族への対応と支援～」の講演，第 2 部は NEXUS の学生が主体となり健康・医療・看護に関する発表・クイズ・体操を実施した．アメリカ・台湾・タイの海外研修生・本学学生・教職員・地域住民の方々など約 50 名が参加して		

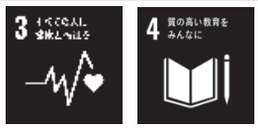
活動概要	国際交流を楽しんだ. 2024 年 7 月 23 日にオーストリアのザンクト・ペルテン応用科学大学看護学部の Julia Glösmann 教授が本学に来訪され，本学教員との昼食懇親会の後に看護学部学生によるキャンパスツアー，大学病院長・看護部長との交流・大学病院訪問を行った．オーストリアと日本での医療・看護体制や看護教育について活発な意見交換となった. 日本私立看護系大学協会の先駆的な国際交流活動を行っている大学の視察調査等の助成事業に採択され 100 万円の助成金を獲得したため，本委員会より教員 2 名が 2025 年 3 月 16～28 日に渡航した．ベルギーのトマス・モア応用科学大学の International Day に参加し，加えてオーストリアのザルツブルク応用科学大学とザンクト・ペルテン応用科学大学も訪問し教員達と交流した. **3．学生の国際交流活動（受け入れ）** 2024 年 6 月 24 日～7 月 5 日に，台北医学大学（TMU）の研修生 3 名（学部 2 名，大学院生 1 名）と，ミネソタ州立大学マンケート校（MSUM）の研修生（学部 2 名，大学院生 2 名）と教員 1 名に対し，受け入れ研修サマープログラムを開催した．ミネソタ州立大学マンケート校からは初めての学生派遣となった．2 週間を通し，看護学部 8 分野と 1 科目，大学病院看護部や高槻市，外部研修先の協力を得て受け入れ研修を開催した．研修生からは，日本の医療制度や日本人の生活, 看護実践について, 本学学生や受け入れ校の学生同士の相互交流の中で, よく理解できた等と高い評価を得た. 本学学生にとっても国際交流や発表の機会となった．海外からの研修生の服装やマナーについては，ガイダンス資料を先んじて送付しておくことで問題なかった. 時差の大きな国から派遣されてくる学生にとってはスケジュールがタイトであることや，免疫等の申請書類の送付・確認に時間を要すため，早期に申請を受け付けるといった課題がみられた. 2025 年度より新たにトマス・モア応用科学大学より 2 名以内の受け入れ予定である．事前の大学間の情報共有，申請などに時間を要すことを鑑み，今年度中に各方面の調整を終えプログラムを作成した. **4．学生の国際交流活動（派遣）** 学生の海外派遣再開に関する大学方針の決定に基づき，MSUM の担当者との話し合いを 9 月 10 日，10 月 8 日にオンラインで実施した．研修期間は 2025 年 2 月 18 日～3 月 30 日で合意し，研修プログラム内容の調整を行った．今年度は 1 名の学生の応募があり加えて，文部科学省のトビタテ！留学 JAPAN にも採択された派遣となった．また，安全に学生派遣できるように国際交流センター，MSUM 担当者との調整，情報共有を図った．バンクーバーサマープログラムの募集は 1 名の学生の応募があったものの最小催行人数に達しなかったため実現しなかった. **5．学生の国際交流活動（web international module ; CRISIIS）** MSUM が主幹で実施するオンライン国際交流学習プログラムに今年度は 2 年生 1 名の応募であった. 参加学生は MSUM の 2 名の学生と計 3 名で 1 つのグル

活動概要	ープとなり，9〜12 月までにオンラインで「家族など身近な人が亡くなった時にどのようにその悲しみを乗り越えるか」をテーマに設定して活動を行った．「日本と海外での考えや価値観の違いや共通点について知ることができた」「良い経験ができた」等の感想があった．また，プログラム開始前・修了後には，海外の全参加校の担当教員らと，オンライン会議にて情報共有と振り返りを行った． **6. 学生の国際交流活動としての SDGs 活動（NEXUS）** 参加学生は，今年度新たに 9 名の学生が加わり，1 年生 7 名，2 年生 2 名，3 年生 2 名，4 年生 5 名の合計 16 名となった．今年度は International Day の企画・運営と大学病院における外国人患者への支援体制と看護ケアに関するインタビュー調査を実施した．インタビュー調査のデータ収集・分析・執筆の過程は NEXUS の学生と NEXUS 担当委員が共同で実施した. 2025 年 3 月に本学の Bulletin OMPU に投稿を予定している． **7. 学生の国際交流活動支援（海外留学説明会・助成金）** 令和 6 年度官民協働海外留学支援制度〜トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラムに 1 名採択された. 本学派遣プログラムとトビタテ留学プログラムを組合せ，2 月中旬から 3 月末まで約 5 週間の留学が開始される．今後より多くの学生の海外留学支援のために，本学の奨学金制度以外に，国内外の政府，地方自治体，民間団体等で応募可能な制度の導入を検討していく． これら，さまざまな支援を準備したうえで，海外留学説明会を開催し，より多くの学生が海外留学を希望できるように準備を進めている． **8. 大学院生・教員の国際研究活動支援（International Writing Group）** MSUM が主催する Writing Group の情報発信と参加の支援を行った．2024 年度は 1 セメスター : 1 月 24 日〜4 月 24 日，2 セメスター : 9 月 4 日〜11 月 27 日の毎週水曜日（6 回）開催された．MSUM を中心に各国より毎回 5〜8 名が集まり交流した．本学からは大学院生を含む 4〜7 名が参加し，国際交流の貴重な時間となった．書籍「Writing your journal article in twelve weeks」の内容に沿って進行され，参加者は建設的な意見を述べ，好意的な関わりの中で進められた．また，参加状況により臨機応変にテーマを設定し，研究計画書の書き方から論文投稿までのプロセスについて議論がなされた．参加者からは，交流を通して参加者の方より助言を頂き，論文投稿発表につなげることができ，視野が広がる貴重な体験ができたと満足度の高い感想が得られた． **9. 教員の国際研究活動支援（国際共同研究）** サマープログラム中に来日した MSUM の教員と本学教員の研究交流の場を設けた．現在，看護学生の共感力の育成に関する MSUM との国際共同研究が遂行中である．International Writing Group の活動意義を Review としてまとめた論文が Creative Nursing に掲載され，バーチャルイベントが 2024 年 12 月に開催された. COVID-19 パンデミック下に施設入所する高齢者の家族介護者の経験に関する国際共同研究の論文が Journal of Advanced Nursing に採択された．2025 年 2 月の Creative Nursing でケーススタディが特集され，委員長がゲスト

活動概要	共同編集者に就任し，ケーススタディの価値に関する論文も掲載された．本件に関するバーチャルイベントが 2025 年 3 月に行われた．前述の International Writing Group にて，国際学会発表・国際雑誌論文投稿支援の機会の提供し，本学教員・大学院生の国際研究活動の推進に向けた方策を検討した． **10. 国際交流活動の広報** 活動の実際が本学の学生のみならず入学を検討する高校生らにも活動の様子をわかり易く伝えることができるように，これまでの活動の写真や学生の学びや声といった情報を掲載した．最新の情報が公開されるよう，写真の変更などを行うとともに海外派遣や SDGs 活動（NEXUS），Writing Group，教員研究活動のページを更新した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1) 本学初である EU 圏の大学との国際交流協定締結により国際交流先が米国・台湾だけでなく欧州に拡大してきている．さらに現地視察のための助成金が獲得できたことにより直接交流できる機会が得られた． 2) 本学部主催の International Day により近隣周辺の国際交流活動が活発化している． 3) 今年の受け入れプログラムに初めて米国ミネソタからの学生が参加したことにより，英語による交流の機会が増えた． 4) 学生の国際交流を支援するトビタテに採択されたことにより，海外留学のための経済支援の選択肢が増加した．さらに，国際経済情勢を鑑みて本学の助成金支給額も増額したため，今後海外留学を支援できると期待される． 5) 学生および教員の国際関連の論文執筆活動や共同研究が活発化している． 6) MSUM 研修プログラムは充実しており，参加学生の満足度が非常に高い． 7) オンライン会議で頻繁な情報共有やディスカッションが可能となっている． 8) 海外派遣における危機管理について，国際交流センター主導のもと安心サポートデスクの活用ができるなど体制整備がなされた． **2. 改善すべき事項** 1) 海外留学を希望する学生数が全般的に少なく，特に台湾への派遣プログラムに応募する学生が少ないため対策を検討する必要がある． 2) 国際交流委員会の活動を学部内で共有しつつ，今後は大学院委員会との連携しながら大学院生の活動支援を強化する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	EU 研の大学との国際協定締結を記念しての特別講演会の開催を検討する．また，本学部主催の International Day を学事予定に入れ，全教職員・学生に周知させたうえで実施する．学部生の海外留学支援を強化するための保護者も含めた説明会を開催する．さらに派遣対象を大学院生に拡大することを検討する．将来的には世界展開力強化事業に応募できるような体制整備を目指す．

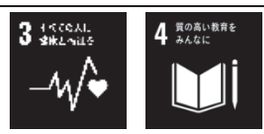
委員会名	（12）障がい学生支援委員会	SDGs との関連	
目　的	障がいのある学生が，講義・演習・実習において他の学生と等しく教育や受験の機会が得られるよう適切な支援（合理的配慮）を提供することを目的とする．		
構成員	池西悦子（委員長）　鈴木久美（学部長）　山岡由実（実習委員長） 津田泰宏（校医）　鈴木美佐（教育センター委員）　澤村律子（保健管理室） 増田尚紀（看護学事務課）		
活動計画	次の各号に揚げる事項について審議し，その実施にあたる． 1）講義・演習・実習の課題に関すること 2）支援体制に関すること 3）施設・設備の整備に関すること 4）その他，障がいのある学生への支援に関して必要なこと		
活動概要	障がい学生支援委員会の開催 第 1 回（2024 年 5 月 20 日）: 申請のあった 1 年生 1 名の支援計画について審議し，履修可能科目のオンライン受講について承認した． 第 2 回（2024 年 7 月 16 日）: 申請のあった 3 年生 1 名の支援計画について審議し，承認した．支援に関する申し合わせ事項の一部修正について審議，承認した． 第 3 回（2024 年 7 月 19～20 日）: 申請のあった 1 年生 1 名の支援計画について審議し，条件付き別室受験の合理的配慮を承認した．また，3 年生 1 名の支援計画について審議，承認した． 第 4 回（2024 年 9 月 30 日）: 申請があった 1 年生 1 名の支援計画について審議し，入院中のオンライン受講について承認した． 第 5 回（2025 年 3 月 19 日）: 年報案，次年度の申請があった新 2 年生 1 名，新 4 年生 2 名の支援計画について審議し，承認した．支援後，学生との面談を通して 2024 年度の支援の評価を行った．		
評　価	**1．効果が上がっている事項** 1）　「障がいのある学生への支援に関する申し合わせ事項」の支援の流れを実態に合わせ修正したことで，障がい学生支援委員会の役割がより明確となった． 2）　合理的配慮は，支援計画に基づき保健管理室・大学病院と連携して実施され，学生の支援に関する満足度は高かった． **2．改善すべき事項**：支援内容が合理的配慮の範囲を超える場合は，配慮内容の見直しを検討する．そのことを事前に学生と保護者にも説明しておく．		
将来に向けた発展方策・課題	1．障がい者差別解消法と日本学生支援機構，障害学生支援の拠点校等の情報に基づき合理的配慮の内容の検討と提供を継続する． 2．柔軟な解決策の検討と支援の実施にむけて，学生・保護者との建設的対話を継続する．		

委員会名	（13）本学部看護学生を対象とする研究審査会	SDGs との関連	
目　的	看護学部生に対し学部内および学部外から研究協力の依頼があった場合に，基本的な事項，内容および日程等から研究協力の受諾の可否を検討する．		
構成員	津田泰宏（委員長）　樋上容子　中原洋子		
活動計画	1．研究協力依頼方法のホームページでの公開 2．研究審査書類の不足・不備の確認，研究協力依頼申請者への再提出の依頼 3．研究協力受諾の可否の審議 4．研究協力依頼申請者への審議結果の通知 5．学外からの承認された研究に関係する資料の学生への配布		
活動概要	**1．研究審査会の開催** 研究協力依頼申請は 6 件あった．その都度，研究審査会議を開催した． **2．研究協力受諾に関する審議** 「看護学部学生への研究協力の依頼に対する対応」（2019 年 5 月改訂版）に則り，研究協力の時期や分量などが学生にとって無理がないか，研究への協力が学生に還元されるものであるかの観点で審議した．研究協力は，原則として研究協力に同意した学生が個別に回答することとしていることから，学生に強制したり，単位認定に影響がでないか，また，学生が研究活動に対する理解を深められるよう配慮がなされているかの視点でも検討した． 研究協力受諾可は 4 件，学生への負担が過剰になる等で 2 件は不可とした． **3．研究協力依頼方法および審議結果についての問い合わせ** 学部内および学部外から研究協力依頼申請に関して不明な点や，申請者から審議結果に対する問い合わせはなかった．		
評　価	**1．効果が上がっている事項** 研究協力依頼申請があった際に，速やかに研究審査会議を開催し，審議した．研究者にとっては，研究協力が得られるかどうかは研究遂行において重要であり，審議結果を速やかに通知することができた． **2．改善すべき事項** 様式 1 の添付がなく，再提出となる研究が多かった．		
将来に向けた発展方策・課題	1．研究協力依頼申請があった場合の迅速な審議の実施 2．1 の審議結果の通知実施 3．様式 1 の添付がないために再提出となるケースを減らすために周知方法を検討する．		

委員会名	（14）将来構想ワーキンググループ	SDGs との関連	
目　的	看護学部および看護学研究科の長期的な展望を議論し，将来の方向性について議論する．		
構成員	草野恵美子（WG 委員長・大学院委員長）　鈴木久美（看護学部長） 池西悦子（学生生活支援センター長）　真継和子（教育センター長） 飛田伊都子（看護学実践研究センター長） 川端由夏　上久保純　堀江雅彦　増田尚紀（看護学事務課）		
活動計画	**1．看護学部・看護学研究科の課題の抽出** **2．今年度の重点課題についての検討** 1）入試制度の改革と学生数確保と維持 2）学部・研究科の特色あるカリキュラムについて（モデル・コア・カリキュラム対応，保健師・助産師教育含む） 3）学部経営について		
活動概要	会議は合計 10 回開催した． **1．看護学部・看護学研究科の課題の抽出** 第 1 回会議にて，今年度の重点課題について以下の通り抽出した． 1）入試制度の改革と学生数確保と維持 ・入試制度の改革（受験生の減少傾向，ミスマッチの学生を減らすための方策） ・入学後の学生数の維持（退学者，留年者を減らすための方策） 2）学部・研究科の特色あるカリキュラムについて ・モデル・コア・カリキュラム改訂版への対応 ・保健師・助産師の将来構想 ・大学院教育の将来構想 3）学部経営について ・収支の黒字化 **2．今年度の重点課題についての検討** 1）入試制度の改革と学生数確保と維持 (1)　ミスマッチを減らすための面接方法の検討 入学制度改革において，面接方法の工夫について検討し，入試委員会に提案した． (2)　FD の実施 求める人材像の学部全体での再確認とそれに向けた学部教育のあり方の検討するために，FD を実施した． テーマ：「2040 年を見据えた魅力的かつ独創的な OMPU 看護学教育」 日　時：2024 年 7 月 31 日（水）16:00～17:15 検討内容：①2040 年問題を見据え，本学（学部･大学院）が育成したい人材像 ②そのための教育の方向性 方　法：各自意見を持ってきてもらい，グループディスカッションを通して共		

活動概要	有，検討した． (3)　新規キャッチフレーズの検討 看護学部の特徴や魅力を再発見し，目指す方向を共有するために，新たなキャッチフレーズを募集し，選定した．前回は教員のみ対象としていたが，今回は学部学生全員も対象とした．その結果，4 つのキャッチフレーズの応募があり，投票の結果，上位 2 つを選定し，表彰した． 2）学部・研究科の特色あるカリキュラムについて（モデル・コア・カリキュラム対応，保健師・助産師教育含む） (1) 特色あるカリキュラムの検討体制の整備 カリキュラム委員会を事務局とするカリキュラム WG の立ち上げ，スケジュール等について検討した． ・対応方針 モデル・コア・カリキュラム改訂版（当面は案をもとに）に照らし，FD で検討する将来社会を見据えた目指す育成人材像を確認しながら，現行カリキュラムの過不足を検討 上記のうち，モデル・コア・カリキュラム改訂版適用の令和 8（2026）年度に間に合う範囲のカリキュラム変更の検討 各分野の教員で構成した WG を立ち上げ，本学が目指す教育を明確にし，過不足を検討 実習について 2022 年度に改正されたカリキュラムの評価を行い，検討 (2) 保健師・助産師教育の将来構想 ・保健師大学院化について 昨今の学生募集状況の厳しさも鑑みつつも，これまで同様の教育では他大学との差別化が難しい点もあり，これまで検討してきた学部・大学院一貫プログラム構想を基にした別パターンのプログラムも合わせて検討していく方針となった．また，これは学部教育・大学院教育の大きなカリキュラム変更にも関係するため，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版への対応などとも合わせて今後，検討していくこととなった． (3) 助産師教育の将来構想 担当分野教員の意見を聴取した． ・大学院化については現時点での明確な方針は未定 ・医療機関ではアドバンス助産師（日本助産評価機能で認証）が求められる傾向があるなどのニーズへの対応も必要 ・学部で助産師が取得できることは私立大学として受験生にとっては魅力の 1 つとなっている現状もある． (4)　大学院の将来構想に関する検討事項の確認 大学院の将来構想に向けて，以下の通り検討事項が整理された． ①現状の本学大学院の課題の整理 ②「認定看護管理者」の養成（日本看護協会による認証）

活動概要	③博士後期課程 DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの検討 ④学部・大学院一貫教育の検討（5 年または 6 年一貫の検討，学部学生募集との関連を含む）⑤保健師・助産師教育の検討 (5) 博士後期課程 DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの検討 大学院の将来構想に関する検討事項のうち，DNP コースについての検討が行われた．DNP の実際や課題を教員全体で共有するために，先発校から情報を得るための FD を開催した（大学院委員会主催にて 3/12 に実施）． 3） 学部経営について (1) 収支の黒字化に向けた検討 看護学部・看護学研究科の収支を確認するとともに，黒字化に向けた方策について財務部を交えて意見交換をし，将来の方向性について検討した．1 学年の学生数の維持，少額でも経費削減につなげる努力，AMED，受託研究等の推進による「経常費等補助金（私学助成時補助金）」の獲得等の方策案が出された．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 看護学部・看護学研究科の長期的な展望をみすえた会議体として，将来構想とそれに向かうための課題の整理と重点課題に焦点化した取り組みを進めることにより，中長期的な方針のもとによる検討を行うことができた．さらに関係会議体との連携により，看護学教育モデル・コア・カリキュラム等の喫緊の課題について検討を進めることができた． FD の開催等により看護学部・看護学研究科に関わる教員全体での将来構想の検討の機会を設けたことは，共通理解のもと，将来に向かう 1 つの機会となったと考えられる． 教授会を含めた常設会議体等では検討機会が少ない学部経営についても，財務部を交えながら検討することができ，黒字化に向けた具体策の検討をすることができた． **2. 改善すべき事項** 今年度重点課題となった，入学生確保や大学院を含む魅力あるカリキュラムの検討，学部経営については引き続き課題が残る．次年度も重点課題を明確化して検討を進める必要がある．また，今回は FD により，教員全体で将来構想を考える機会を設けたが，引き続き関係委員会等と連携しながら，教員全体で将来構想に向けた具体的な方策について検討し，共通理解のもと推進していく必要があると考えられる．
将来に向けた発展方策・課題	1. 重点課題の整理と看護学部全体での共有推進 2. 入学生確保の方策の検討 3. 魅力あるカリキュラム構築のための将来構想（学部のカリキュラム改正，研究科における DNP コースの検討・保健師教育の検討・学部と大学院の連続性に関する検討等）

委員会名	（15）カリキュラムワーキンググループ	SDGs との関連	
目　的	看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定に向けての対応を検討し，本学部の特色のあるカリキュラムについて議論する．		
構成員	真継和子（WG 委員長）　草野恵美子　鈴木美佐　寺口佐與子　二宮早苗 樋上容子　新田和子　間中麻衣子　杣木佐知子（9～12 月） 川端由夏（8～2 月）　上久保純（2 月～）　堀江雅彦（9～1 月）（看護学事務課）		
活動計画	**1. モデル・コア・カリキュラム改定趣旨の理解** **2. モデル・コア・カリキュラム改定への対応に向けた検討課題の抽出** **3. 課題についての検討** 1）本学部が目指す教育と特色の明確化 2）モデル・コア・カリキュラム提示内容と現行カリキュラムとの比較検討 3）2019 年度・2022 年度カリキュラム改正に伴う実習評価 4）新たな科目配置等について 5）模擬患者育成について		
活動概要	会議は合計 7 回開催した． **1. モデル・コア・カリキュラム改定趣旨の理解** 第 1 回会議において，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定連絡統制委員会配布資料を確認し，対応に向けた意見交換を行った． **2. モデル・コア・カリキュラム改定への対応に向けた検討課題の抽出** 検討方針として，現行カリキュラムを照らし合わせ，不足内容を充填することとした．また，①必ず満たさなければならない要件がある，②現行カリキュラムでの課題が明白であり緊急対応が必要である，のいずれかに該当する場合は，カリキュラム変更を検討することとした． 検討課題として，①本学部が目指す教育および特色の明確化，②モデル・コア・カリキュラムの提示内容と現行カリキュラムの比較検討，③2019・2022 年度カリキュラム改正に伴う評価が課題として確認された． **3. 課題についての検討** 1）本学がめざす教育と特色の明確化 7 月に実施された将来構想ワーキンググループの FD「2040 年を見据えた魅力的かつ独創的な OMPU 看護学教育」におけるグループディスカッションでの意見，カリキュラムに関する各種調査結果（新カリキュラムに対する学生および教員のアンケート，旧カリキュラムに対する卒業生アンケート，就職先を対象とした卒業生に対するアンケート，DP に基づく看護実践能力到達度調査）をもとに，本学部の強みと課題について検討した． 強化すべき必要な能力として，国際的視点，病態理解による臨床判断力，探求力・課題解決力，基本的な技術力等があがった．さらに，こうした能力を強化するために模擬患者育成に関する課題が確認された． 2）モデル・コア・カリキュラム提示内容と現行カリキュラムとの比較検討 モデル・コア・カリキュラム改訂版で提示された資質・能力について，現行カ		

活動概要	リキュラムでの実施，到達状況を確認した．当初，AI を活用した分析を試みたが，現行シラバスの内容では十分な分析がなされないことが判明し，一覧表を作成し本学部カリキュラム内容との整合性を可視化した． 必修科目における提示された資質・能力の項目の過不足を確認したところ，58 項目が網羅されていないことが確認された．これら 58 項目について各科目内容に盛り込めるか確認した結果，「災害看護」や「情報」の項目が網羅できていないことが確認された．「災害看護」が現在，選択科目であることから，今後，必修科目とする必要性について検討することとした．「情報」に関しては，モデル・コア・カリキュラムが求めるレベルの適切性を検討することとした．検討課題はあるものの，緊急性を要する対応は必要ないことが確認された． 3）2019 年度・2022 年度カリキュラム改正に伴う評価 2019 年度に 2 単位から 3 単位に変更となった慢性期成人看護学実習および急性期成人看護学実習に関する評価について確認した．実習期間内での多職種連携カンファレンスの実施や受持ち患者数が複数名となることから，一定の学修効果が得られているとの評価であった．また，配当年次および単位数が変更となった老年看護学実習については，2022 年度改正のカリキュラムを受講した学生の評価も含め継続的に評価していくことが確認された．さらに，2022 年度改正において新規に設置された科目や配当年次が変更となった科目等についても，今後，評価していくことが確認された． 4）新たな科目配置等について 2022 年の看護学分野別評価において「看護実践と理論の統合」に対する意見があったことを鑑み，この科目の必要性及び各実習科目のなかでの学修の可能性を検討した．また，探求心と課題解決能力を養うために早期ゼミの配置，客観的臨床能力試験（OSCE）の実施等の検討を進めることが確認された．国際的視点の強化については，国際交流委員会との連携を図りながらその対策を講じていくことが提案された． 5）模擬患者育成について 模擬患者育成の必要度，また，どのレベルの模擬患者を求めるかについて，他大学での模擬患者養成プログラムも参考にしながら意見交換を行った．
評　価	**1．効果が上がっている事項** 全分野での協議により他分野の教育内容について共通理解を深める場となり，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定版への対応について検討を迅速に進めることができた．また，本学部における課題抽出につながった． **2．改善すべき事項** 2029 年度には看護学分野別評価受審の予定である．課題解決に向けた新たな科目配置等について検討を進め，2027 年度 4 月入学生より運用開始できるよう，看護学教育センター，カリキュラム委員会をはじめ関連する委員会との連携をとりながら検討を進めていく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	1．2024 年度検討課題と進捗状況に関しての看護学部全体での共有推進 2．カリキュラム改正を見据えた新科目配置等の検討 3．客観的臨床能力試験（OSCE）の実施についての検討

4) 教育活動

(1) 授業科目一覧

2020～2021年度入学生（4学年次）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数	
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上	
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑	●必修科目13単位 ○選択科目7単位以上（人間理解または異文化理解から5単位以上、社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○									
		化学		講義	2	○								20単位以上	
		物理学		講義	1		○								
		くらしの中の倫理		講義	1		○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○								
		哲学		講義	1		○								
		くらしと文学		講義	2	○									
		教育学		講義	2	○									
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○									
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○								
		人間関係論		講義	1	●									
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●									
		健康科学概論		講義	1	●									
		情報リテラシー		演習	1	●									
		データ処理演習	＊	演習	1				○						
		統計学		講義	2		●								
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○									
		くらしと社会・環境		講義	2	○									
		くらしと経済		講義	2	○									
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○									
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●									
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●								
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●							
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●						
		医療英語		演習	1					●					
		国際言語文化		講義	2	○									
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇			
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇		
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	－	◇								↓	
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0	0		
専門基礎科目	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑	●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●								
		感染と免疫		講義	1	●								28単位以上	
		からだと栄養		講義	2		●								
		こころの仕組みと働き		講義	1		●								
		フィジカルイグザミネーション		演習	1			●							
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○							
	病気と治療	からだとくすりの働き		講義	2			●							
		病気の成り立ち		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●						
		食生活論		講義	1					○					

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	保健と医療	医学概論		講義	1		○							28単位以上 ●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上 ↓
		医療人マインド（2021年度～多職種連携論１－医療人マインド）		講義	1	●								
		専門職連携医療論（2021年度～多職種連携論２－医療と専門職）		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1				●					
		リスクマネージメント		講義	1					●				
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習Ⅰ		実習	1				●					
		老年看護学実習Ⅱ		実習	3						●			
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	看護実践発展科目	地域救命救急		講義	1					○				79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること） ↓
		看護と生体診断法		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8							◇		
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		チーム医療論		講義	1					●				
		災害看護論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		原著講読		演習	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					74	2	8	14	13	8	20	4	5	
必修単位数合計					112	13	18	24	18	10	20	4	5	
履修登録できる単位数の上限					164	48		47		39		30		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2022～2024年度入学生（1～3学年次）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数	
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上	
基礎科目	基盤科目	アカデミックスキル		講義	1	●								↑	
		情報リテラシー・データサイエンス		演習	1		●								
		キャリアマネジメント		講義	1	●								20単位以上	
		心理学		講義	1	●									
		人間関係論		講義	1	●									
		倫理学		講義	1	●									
		統計学		講義	2		●								●必修科目13単位
	人間と科学	生物学		講義	1	○									○選択科目7単位以上（人間と科学から2単位以上、人間と社会から5単位以上含まれていること）
		化学		講義	1	○									
		物理学		講義	1		○								
		データ処理演習	＊	演習	1				○						
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○									
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○								
		医工薬連環科学遠隔講座		講義	2	○		○		○		○			
	人間と社会	大阪を学ぶ		講義	1		○								
		くらしと文学		講義	2	○									
		くらしと社会		講義	2	○									
		くらしと経済		講義	2	○									
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○									
		教育学		講義	2	○									
		哲学		講義	1		○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○									
		異文化論		講義	1		○								
	人間と言語	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●									
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●								
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●							
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●						
		医療英語		演習	1					●					
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇			
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇	↓	
基礎科目必修単位数					13	6	4	1	1	1	0	0	0		
専門基礎科目	人間と健康	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑	
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●								
		感染と免疫		講義	1	●								26単位以上	
		からだと栄養		講義	2		●								
		こころの仕組みと働き		講義	1		●								●必修科目23単位
		健康科学論		講義	1	○									○選択科目3単位以上
		病気の成り立ち		講義	2		●								
		からだとくすりの働き		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●						
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○							
		リハビリテーション医学		講義	1					○					

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	健康と環境	医学概論		講義	1		○							26単位以上 ●必修科目23単位 ○選択科目3単位以上 ↓
		多職種連携論１－医療人マインド		講義	1	●								
		多職種連携論２－医療と専門職		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学		講義	2	●								
		疫学	◎	講義	1				○					
		ヘルスプロモーション論	◎	講義	1					○				
		リスクマネジメント		講義	1					●				
専門基礎科目必修単位数					23	6	9	4	3	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 81単位以上 ●必修科目75単位 ○選択科目6単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から看護実践発展実習を含む3単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		フィジカルアセスメント		演習	1			●						
		看護展開論		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援看護	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習		実習	3						●			
	地域家族支援看護	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		地域・在宅看護論		講義	1	●								
		地域・在宅ケア実習		実習	1		●							
		在宅看護学概論		講義	2			●						

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域家族支援看護	在宅看護学援助論		演習	1				●					81単位以上
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ		講義	1				●					
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1								○	
		医療カウンセリング		演習	1								○	
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	◎,☆	講義	1				○					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	2							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8							◇		
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		災害看護論	◎,☆	講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		多職種連携論３－医療倫理		講義	1					●				
		多職種連携論４－医療安全		講義	1							●		
		異文化看護入門		演習	1					○				
		国際交流演習		演習	2		○		○		○		○	
		原著講読		演習	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1						●			
		卒業演習		演習	3							●		
		統合看護学実習		実習	2							●		↓
専門科目必修単位数					75	3	9	14	12	8	21	3	5	
必修単位数合計					111	15	22	19	16	10	21	3	5	
履修登録できる単位数の上限					177	55		46		41		35		

●必修科目75単位
○選択科目６単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から看護実践発展実習を含む3単位以上含まれていること）

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

(2) 各分野の教育活動

分野名	基礎看護学
担当教員	川北敬美　二宮早苗　赤崎芙美　日髙朋美　野口美穂
担当科目	看護学概論，日常生活援助技術，治療過程に伴う援助技術，看護展開論，フィジカルアセスメント，看護管理，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，卒業演習，統合看護学実習
現状の説明	「看護学概論」では，看護の歴史，看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」を中心に，看護活動の場，看護倫理，看護教育等について教授した． 「日常生活援助技術」では，コロナ禍において対面実施できなかった『食事援助技術』の演習を再開した．「治療過程に伴う援助技術」については「看護展開論」の進行に合わせた演習項目になるように調整した． 「看護展開論」では，転倒による大腿頸部骨折の事例を用いて，“情報収集”から“看護の実施・評価”までを学習できるように授業を組み立てた． 「フィジカルアセスメント」では，臨床判断を含むシミュレーション演習の教材を新たに作成した．すべての学習項目を評価できる技術試験の構成に変更した． 「看護管理」では，各単元で演習やグループワークを含める構成に変更した． 「基礎看護学実習Ⅰ」では，外来の各診療科における学びを共有するために，臨地での振り返りに加え，学内でのカンファレンスを追加した． 「基礎看護学実習Ⅱ」では，昨年度より新カリキュラムとなり 1～2 月の 2 週間に実施した．88 名の学生が前半・後半に分かれて実習を行い，受持ち患者の看護展開を行う実習を行った． 「統合看護学実習」では，9 名の学生が第二東和会病院で退院支援を必要とする患者の看護展開を行う実習を行った．また，実習後に OSCE を実施した． 「卒業演習」では，各教員が 2～3 名の学生を担当し，文献検討や調査，実験等を通して深めた知見に関して卒業論文を作成し発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 「統合看護学実習」の OSCE を『状況に応じた臨床判断力』を評価する課題に変更したことで， 学生の到達状況を適切に評価できるようになった． 「基礎看護学実習Ⅰ」では，外来の各診療科での学びを共有することで，職種の違いや病院全体における診療科の役割について理解することができた． 「看護管理」で取り組んだ多重課題の優先順位の検討は，新人看護師の多くが直面する課題であり，学生たちに好評であった． **2．改善すべき事項** 今年度実施した「基礎看護学実習Ⅰ」での外来の各診療科での学びの共有は，実習時間を超過しているため，必要性および実施時間の検討が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	シミュレーター類の耐用年数が過ぎ一部使用が困難になっているため，学内で保有するものを有効利用できるような体制を整えていく必要がある． 「統合看護学実習」の OSCE について，実習における課題を見出し，最終の到達度を高めるために，実習後ではなく実習前に実施することを検討する．

分野名	看護教育学
担当教員	池西悦子
担当科目	キャリアマネジメント，リスクマネジメント，看護教育，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	「キャリアマネジメント」では，働くことの意味，キャリア理論，ダイバーシティとインクルージョン，看護職のキャリアマネジメントについて，講義，ワーク，看護職の講演・質疑応答を通して学び，自己のキャリアと学生生活を考える授業を展開した． 「リスクマネジメント」では，医療安全の考え方，医療現場における安全対策，臨地実習で起こりやすい医療事故とインシデント報告，KYT や個人特性の評価など，実習前に理解しておく内容とリスク感性向上を目指した授業を展開した． 「看護教育」では，看護学教育とは，学習理論，教育方法・評価について教授し，実習体験の省察から，自己の強みと課題の明確化と行動計画の立案を行った． 「統合看護学実習」は 5 名の学生を受け入れ，兵庫県立尼崎総合医療センターで，看護の専門性の理解を深める実習を 1 週間展開し，大阪医科薬科大学病院の病棟で，看護師個人・チーム・病棟のマネジメントを学ぶ実習を 1 週間展開した． 「卒業演習」では，2 名の学生を担当し，文献検討と学生を対象とした調査を実施し，深めた知見に関して卒業論文の作成と発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** すべての科目で実施したミニレポートのフィードバックは，多様な意見に触れ，視野の拡大につながったと評価された． 「キャリアマネジメント」において，企業のインクルージョンを調べ発表する授業展開を追加したことで，より現代社会の課題を意識した内容となった．看護職の講演は，キャリアを学ぶ意欲につながった． 「看護教育」では，これまで受けた教育と実習経験の省察が，学生の自己理解と課題の明確化につながった． 「統合看護学実習」にマネジメント実習を取り入れたことで，領域実習では学ぶ機会がなかった時間管理，報連相の重要性の理解と，チームの一員として行動する際の自己課題に気づきにつながった． 他分野の教員の協力を得て，複数体制で授業を展開したことで，グループワークにおける学生への関与が深まり，授業内容もより充実させることができた． **2．改善すべき事項** 引き続き新たな知見や社会の変化に応じて授業内容・方法を更新する．
将来に向けた発展方策・課題	実践看護師の授業への参画や臨床現場における医療安全の実際等，リアルな現状を教材とした授業が学習意欲につながっている． 看護教育においては，生涯学習力の基盤となる自己主導型学習に関する内容をさらに充実させる．

分野名	人文社会学
担当教員	小林道太郎
担当科目	アカデミックスキル，情報リテラシー・データサイエンス，倫理学，哲学，異文化論，多職種連携論 3 医療倫理，原著講読，卒業演習，インタラクティブ・イングリッシュⅠ・II
現状の説明	アカデミックスキルは今年度よりほぼ全分野からの協力を得て行うこととなった．引き続きレポートの書き方とグループワーク・発表を中心とした授業と課題のチェック・コメント等を行った．情報リテラシー・データサイエンスは，昨年度の結果を踏まえてグループワークと発表の時間等を調整した．異文化論は時間割変更もあって受講者が減ったが，前年度に続いて最終回に JICA 海外協力隊セミナーを依頼し実施することができた．倫理学，哲学，原著講読は概ね前年を引き継いだが，必要箇所について内容をアップデートした．新カリキュラム 3 年目のため今年度より多職種連携論 3 医療倫理が開講となった．前半 4 回は講義，後半 4 回分は阿武山キャンパスで 3 学部合同ディスカッションと発表を行った．卒業演習は 3 名の学生を担当し，発表会は実践支援看護学領域合同で行った．インタラクティブ・イングリッシュは他学部の担当教員および事務課と共同して授業準備・運営を行った．ネイティブ講師による授業を一部見学し，採点登録等を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** アカデミックスキルと情報リテラシー・データサイエンスでは，学生が自分たちで調べて発表することで多くのことを学んだと実感されている．多職種連携論 3 医療倫理は，これまで看護実践と理論の統合の一部としていた 3 学部合同ディスカッションを後半に組み込んだ科目であり，その部分の実施と採点についてはこれまで同様教育センターの協力を得て行った．当日，学生は全員出席であり，運営，採点とも特に問題なく実施することができた． **2．改善すべき事項** 次年度新入生は高校で情報科目を必修として受講していること，AI 等の技術や関連する社会状況は日々大きく変わっていること等を踏まえ，情報リテラシー・データサイエンスの内容はさらに修正していく必要がある．原著講読は次年度より選択科目となるため，受講者数に合わせて授業の進め方を工夫することが必要である．
将来に向けた発展方策・課題	学生が主体的に授業に参加し，自分で何かを考えたり発見したりする経験ができるよう，講義科目でも学生にワークや話し合いをしてもらう部分を増やしていきたい． 倫理学，異文化論，データサイエンス等は，特に社会の変化に対応して教える内容を毎年アップデートしていくことが必要である．

分野名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春　寺口佐與子　勝山あづさ
担当科目	成人看護学概論，急性期成人看護援助論，急性期成人看護学援助方法，急性期成人看護学実習，統合実習，卒業演習，災害看護論
現状の説明	一部授業をオンラインで実施した．1 年生の成人看護学概論で成人を対象とする一般的な概念や理論を教授した．2 年生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の概念と理論，身体心理社会的な看護問題と介入について教授した．3 年生前期の急性期成人看護学援助方法では，アクティブ・ラーニングを用いて，既習知識を活用し，周手術期患者の事例をもとにした看護計画の立案とロールプレイ演習を展開し，具体的な看護介入方法の探求と理解を目指した．後期の急性期看護学実習で周手術期患者の受け持ちを通し，生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案・実行・評価することで，急性期看護に必要な基礎的知識・技術・態度の習得につなげた．また，選択科目の災害看護論では災害時の応急処置や搬送等の実技指導を行った．4 年生の統合実習では 1〜3 年生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て，急性期看護についての学びを深めた．また，卒業演習として興味のあるテーマに関する文献検討に取り組み，論文作成と研究発表を実施した．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について，1 回生から 3 回生まで講義，演習，実習と「命を守る」ための一貫した内容を教授し続けることで，急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象，アセスメント，看護ケアを学ぶことができている．また，双方向ツール respon での小テストを取り入れることで学生の主体的な学習行動につながっている． **2．改善すべき事項** 1）「生命の危機的状況」にある対象のアセスメントが難しいため繰り返しの知識の定着を図ることと，3 回生では，その応用に適した事例を用いて理解させる必要がある．その準備が不十分だと，急性期領域実習の看護過程を展開することが困難となるため，根気よく指導する必要がある． 2）看護問題抽出を多角的にとらえることができるように，必要な基礎知識とその応用ができるように絶えず学生に問いかけ，指導していく必要がある． 3）実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や，患者入院期間の短縮に伴い，心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ，早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	急性期看護学の知識の定着のためには繰り返しの教授を行う必要がある．また，現象を学生の持っている知識に照らし合わせて「言語化」することができるように，演習・実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり，「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる．

分野名	慢性期成人看護学
担当教員	飛田伊都子　有田弥棋子　野瀬珠美
担当科目	成人看護学概論，慢性期成人看護学援助論，慢性期成人看護学援助方法， 慢性期成人看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	成人看護学概論では，成人期の対象のライフステージと健康レベルに応じた身体的・社会的・精神的特徴が理解できるように可能な限り事例を紹介しながら授業を行った．援助論では，前半に主要な慢性疾患とその看護について講義し，看護過程やアセスメントについては「看護展開論」の教員と連携しながら理解が進むように努めた．援助方法では，教員が作成した事例に基づき，講義と事例展開，技術演習を行った．学生の基本的理解を把握できるように事前課題を提示し，授業中には学生の創意工夫の視点や学生間の双方向の力を共有できるアクティブ・ラーニングを取り入れる授業にした．慢性期成人看護学実習は，今年度より大学病院の消化器の病棟から循環器の病棟に実習場所を変更し，4 つの病棟で実施した医師および慢性看護の CNS による臨床講義を取り入れ，医学部・薬学部との多職種連携カンファレンスを実施した．統合実習は学生が希望するテーマに応じて大阪医科薬科大学病院，大阪医科薬科大学三島南病院，沖永良部島徳洲会病院，高槻日赤病院の 4 か所で実施した．卒業演習は，教員が 6 名の学生を受け持ち，学生が選ぶテーマに応じて文献検討を行い，論文を作成し学内発表を行った．そのうちの 1 名は看護研究会で発表し，参加者からの質問に対応した．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 昨年度より「看護展開論」の授業と「慢性期成人看護学援助論」の授業を上手く連携できるように基礎看護学分野の教員と調整を図り，「看護展開論」で看護過程を教授したのちに慢性が事例の看護過程を演習するように取り組んでいる．援助方法では，全般的に能動的な授業参加ができており，アクティブ・ラーニング（グループワークや技術演習）を積極的に取り入れたことが影響したと考えられる．実習においては，実習先との綿密な連携により，目標達成を意識して健康管理を行い，実習に臨む学生が多くみられた． **2．改善すべき事項** 次年度は「病気の診断・治療」の講義と「慢性期成人看護学援助論」との連携を調整することにより，病態生理の理解を把握したうえで講義を進める．また実習では，学生の特性や到達度を考慮し，実習終了時には目標に到達できるように，実習先の指導者と教員の連携による指導体制を強化する．多職種連携や倫理的課題についても理解を深めるようにカンファアレンスを充実させていきたい．
将来に向けた発展方策・課題	概論・援助論・援助方法・実習と続く学習プロセスに沿った思考の整理について学生が意識できるような説明が必要である．知識と技術の統合を基盤とし，病いとともに生きる人とその家族に対する看護援助について系統的に思考を深め，学習課題を焦点化して授業を計画する．事例の倫理的課題や意思決定支援に関しても理解を深める授業内容を検討する．

分野名	精神看護学
担当教員	山岡由実　新田和子　山内彩香
担当科目	人間関係論，精神看護学概論，精神看護学援助論，精神看護学援助方法，精神看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	対象を理解することへの理解を進めるため，「人間関係論」では，コミュニケーションから視点を広げ対象理解を促す内容を織り込んだ．看護師と自分のコミュニケーションがどのように違うのか考え，ケアとしてのコミュニケーションについて理解を促し，「精神看護学援助論」では内的体験から対象を理解しアセスメントにつなげることについて強化した．また，「精神看護学援助方法」では 精神看護の実践者や当事者の話を聴く機会を設け，学生の精神看護やその対象に対するイメージの具体化を促した． 「精神看護学実習」は，関係性を構築し，対象理解を深め，学生自身が行っている行為が看護として意味づけられるよう指導した．多職種連携 - 臨床カンファレンスも 8 回，90 名の学生が参加した．グループワークでは教員も介入し，意見交換の促進を図った．「統合看護学実習」は，地域包括ケアシステムの視座を盛り込んだ実習展開とし，「卒業演習」では 8 名の学生が関心に沿って文献研究を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義演習科目では，授業評価において 8〜9 割程度の学生から「学習目標を達成できた」との回答が得られ，看護師が対象を理解することやコミュニケーションを行うことの重要性について意識づけできたと考える．実習では 9 割以上の学生が「実習は有意義であった」「看護（観）を深める機会になった」と評価し，職種連携 - 臨床カンファレンスでは，教員がグループに介入し，どのような視点で話を進めるとディスカッションできるのかモデルをみせることで，医師や薬剤師の実践活動を知り，連携・協働のあり方やその重要性を学び，他職種の視点からの情報を看護に活かすことについて考える機会となっていた．統合看護学実習では，地域包括ケアシステムに関わる施設で実習することで学びが深まっていることがうかがえた． **2．改善すべき事項** 近年，学生は精神疾患を患う人の苦悩を想像することや他者と対面で意見を交換することが難しくなっている．講義では，学生が精神看護学に対する興味・関心を高め，基本的な知識を習得できることに加え，学生同士で学びを深め，共有できるよう工夫する必要がある．また，実習では，患者学生が共有する時間を増やし，患者が抱えている苦悩を理解し，看護を展開する力を育んでいく必要がある．さらに，学生個々の学びを発展させるためのグループの重要性についても理解を促す必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	コミュニケ―ション様式や価値観が変化している学生に対し，対象の苦悩を想像する力や他者との対話を促進する力を，授業や実習を通じてどのように培っていくかを検討する必要がある．

分野名	老年看護学
担当教員	久保田正和（6 月末まで，以降非常勤講師）　樋上容子　杣木佐知子
担当科目	老年看護学概論，老年看護学実習Ⅰ，老年看護学援助論，老年看護学援助方法，老年看護学実習（Ⅱ），看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	「老年看護学実習（Ⅱ）」においては，COVID-19 やインフルエンザ等感染症の流行の影響を受け，学生の配置人数を調整しながらの実施となった．第 3 クールでは，学生側に COVID-19 感染や体調不良者が続出したため病院や学内での情報共有や検討を迅速に行い，感染症拡大を防ぐため 3 日ほどオンライン実習とした．第 4 クールは，1 つの老人保健施設の受け入れが不可となり大学病院 79 病棟にて実施となった．過去数年の感染症発生時の実習体制調整の経験から，実習配置等を調整し，実習受け入れ施設の多大なご理解やご協力を得て学生は 1 日でも多くの臨地実習の機会を得た．第 2 クールの実習においては，個人情報保護に関わる重大なインシデントが発生し，学生への個人情報保護に関わる教育の充実の課題が明らかとなった．「実習Ⅰ」では，旧カリキュラムの 1 名であったが，デイケアセンターにて主体的な学びがあり実習目標を達成するに至った．今年度で「実習Ⅰ」は終了となる．講義や演習では，特に演習では学内実習室での演習や教員による模擬患者の動画教材を活用し，紙面だけでは想定が難しいペーパーペイシェントについて，より現実味のある事例展開をイメージできるよう工夫した．「実践と理論の統合」では，事前に地域包括ケアシステムにおける実習先施設の役割や機能についてのグループディスカッションを新たに実施し，実習先のことをよく理解した上で実習に臨むことができた．また，事後では，個々の実習での実践の学びをグループワークで他の学生と共有し，理論を用いてまとめることで学びを深めることができた．「統合看護学実習」は，総まとめとして，学生が立案した実習計画のもと，三島南病院のご協力を得て患者選定していただき主体的に実習を進めることができた．「卒業演習」では，学生の関心のあるテーマに沿い計画的に進め事例研究や文献研究など卒業論文としてまとめ，学内発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義，演習では知識の定着を図るための小テストの実施，グループワークを多用し，学生が集中して主体的に授業に取組めるよう工夫できている．実習では迅速な実習施設との情報共有や検討，調整を行い，実習の質の担保に向けた方法が確立されてきている． **2．改善すべき事項** 学習の効果を高めるため授業形態を柔軟に考え，学生が主体的に授業に取り組めるよう工夫を継続していく．特に個人情報保護を含む高齢者を取り巻く倫理的課題については，学生が理解し実践の場面で起こりうるリスクと対処方法をイメージできるよう工夫する．
将来に向けた発展方策・課題	講義・演習・実習のそれぞれにおいて，学生同士がディスカッションし学びを共有する重要性を再認識できた．学びを定着させるためにも，ディスカッションの機会を多く取り入れる．また，段階的に授業を組み，講義・演習・実習との繋がりを意識できるような内容を取り入れた授業を低学年次から進める．

分野名	がん看護学
担当教員	鈴木久美　南口陽子　土井智生
担当科目	がん看護学総論，看護研究法，看護と生体診断法，看護実践発展総合演習，看護実践発展実習，統合看護学実習，卒業演習，アカデミックスキル，地域・在宅ケア実習
現状の説明	「がん看護学総論」では，知識の教授のみならず，治療期や終末期にあるがん患者の特徴，ACP などを具体的にイメージできるように視聴覚教材も効果的に取り入れながら授業を展開した．また，事前課題での学びを深められるように解説を取り入れ，知識の定着を図った．「看護研究法」では，研究の基本を学ぶだけでなく，学生各々が興味関心のあるテーマで卒業演習に取り組むことができるように授業を展開した．「看護と生体診断法」は，講義のみならず事例分析課題をグループで行うことで，基本的知識を活用した総合的なアセスメント能力の向上を目指した授業を展開した．「看護実践発展総合演習」では，卒業時到達目標の観点から学生が自己課題を考え，その課題を克服できるように繰り返し技術演習を行うことで技術力の向上を図った．「看護実践発展実習」では，実習指導者と密な連携を図ることで重症度やケア度の高い患者に対する実践力を強化する実習を行った．「統合看護学実習」では 8 名の学生を受け入れ，新たに治療期におけるがん看護を学ぶ施設をフィールドとして追加した．「卒業演習」では 6 名の学生を受け入れ，学生の関心に沿ってテーマを決めて取り組み，それぞれ成果の発表会を行った．なお，各授業の後には学生からの感想や質問を募り，フィードバックを行うことで疑問点を解消した． 「アカデミックスキル」では，他分野の教員と連携し，大学で学ぶための基礎的技法を教授した．「地域・在宅ケア実習」では，地域で暮らす対象者の多様性について学べるよう，各実習施設の実習指導者と密な連携を図りながら実習指導を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義科目と演習科目ではグループワークやシミュレーション機器を活用したアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ，細やかなフィードバックを行いながら授業を進めたことで，担当科目に対する学生からの授業評価では満足度が高かったという回答を得た．実習科目においても，学生が主体的に様々な看護技術を患者に対して安全に実践する機会を設けることができ，こちらも肯定的な回答を得ることができた． **2．改善すべき事項** 学習目標達成に向け，事前・事後課題を効果的に織り交ぜながら授業を展開していく．また，学習内容が多い科目であるが故に質問も多く，Moodle を活用してフィードバックの時間を調整し，疑問点を解決できるような授業にしていく．
将来に向けた発展方策・課題	講義科目や演習科目では，学生が基礎的な内容をもとに論理的思考ができるように思考力の強化を図りたい．実習科目では，アセスメントに基づいた看護ケアを安全安楽に実践できるよう，実習指導者や教員間の連携を強化していきたい．

分野名	臨床医学
担当教員	安田稔人　津田泰宏
担当科目	健康科学論，からだの仕組みと働きⅡ，フィジカルアセスメント，病気の成り立ち，病気の診断・治療Ⅰ・Ⅱ，急性期成人看護援助論，災害看護論，リハビリテーション医学
現状の説明	健康寿命の延伸のために，看護学においても運動器は重要な分野である．また，生活習慣病といわれる疾患の病態や背景を学生の間から学ぶことも大切である．臨床医学の授業は講義形式であるが，できるだけ双方向授業を心掛けている．また，画像（単純 X 線像や超音波画像，MRI など）や，動画（歩容の観察，内科的診察手技，外科手術など）を提示し，臨床現場をイメージできるように工夫している．さらに，授業中にワークシートでの解剖用語の穴埋めなど能動的な学習も行えるようにしている．運動器の講義では，機能解剖学の視点から，学生に考えさせながら教育し，3 年時のリハビリテーション医学の講義につなげている．チーム医療においては，看護職が多職種と連携して患者さんと関わっていく必要性を医師の立場から説明している．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 1 年生から解剖と病理を並行して学ぶことで，疾患の病態が治療を理解するためにいかに重要であるかを学生に教えている．また，国家試験対策として解剖生理，病気の講義中に，国試の過去問題を学生に提示（respon を使用）して，授業時間中に学生の理解度を確かめている．授業終了時には授業難易度に関するアンケート調査を行い，次回授業や次年度授業に役立てている．医学部の教員によるオムニバス形式が多い科目に関しては，まとめの授業などを行い知識の整理を促していく．また，健康寿命の延伸のためのトレーニングを実演しながら市民に教えるなど，社会貢献も行っている． **2．改善すべき事項** 解剖生理，病態については，将来，看護師として患者さんと関わり，フィジカルアセスメントや援助を行なっていく中でどう役立てるかが重要である．授業の中でこのことを丁寧に説明し，実際の臨床の場面を学生がイメージできるよう，学生にとってわかりやすい授業を行っていく．医学部の教員によるオムニバス形式が多い科目に関しては，さらに担当教員との連携を工夫する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	これからの医療においては，知識，技術などの個人の力はもちろん重要であるが，同時に医療チームとしての力を高めることも欠かせない．その中で日常診療における臨床医の視点を学生に伝えて，卒業後の多職種連携の手助けになるよう，授業や実習中に学生に教育していく．「患者さんのために」という想いは医師も看護師も同じであり，患者さんに対して温かい心を持ちながら，正しくアセスメントして，治療，援助を行うためにも患者さんを診る力を身につけてもらうことが大切である．解剖や病態生理の国家試験での得点率が低いため，1 年の講義をいかに演習や実習に繋げながら，卒業時に知識をつけていくかが今後の課題である．

分野名	小児看護学
担当教員	竹村淳子　鈴木美佐　倉橋理香
担当科目	小児看護学概論，小児看護学援助論，小児看護学援助方法，家族看護学，小児看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習（小児），卒業演習
現状の説明	「小児看護学概論」では，PBL によるグループワークおよびプレゼンテーションを引き続き実施した．「小児看護学援助論」では，小児看護がイメージしやすいよう視聴覚教材を積極的に用い講義を展開した．「小児看護学援助方法」では，小児特有の疾患事例を用い，年齢や病期に応じた看護過程の展開を行った．看護技術演習は，小児の特性をふまえた基本技術習得とともに，ディスカッションで体験に基づく学びを深めた．「家族看護学」では，家族を捉えるための基本的な理論および，家族支援専門看護師の実践活動に関する講義を行った後，事例展開を行った．「小児看護学実習」では，8 日間の病院（小児・NICU 病棟，外来）実習および 2 日間の保育室・小・中学校・特別支援学校実習を実施した．外来実習では，病棟と外来の看護の継続性を学ぶ視点から外来担当患児を設定し，診察の見学や問診を取り入れた．学生 2 名で一人の患児を受け持つ方式での実習にて，学生間の学びの共有や相補，発展など良い効果を得ることができた．「看護実践と理論の統合」の事前演習では，小児病棟・NICU 別に事例演習を実施し学生の準備性を整えた．「統合看護学実習」では学生 8 名が，病院（大学病院・外部病院）と病児対象のキャンプにて，看護マネジメントの視点と子どもと家族を取り巻く医療・福祉・教育との多職種連携について実習を展開した．今年度から，難病キャンプの他に 1 型糖尿病キャンプを追加し，8 名全員が医療・地域の連携を学び，看護の役割を考察する機会となった．実習後には実習指導者を招いて学びの発表会を実施した．「卒業演習」では，8 名の学生が，個々の関心からテーマを絞り文献研究を進めるプロセスを学び，学内卒業演習発表会で成果を共有できた．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義科目に PBL を積極的に取り入れ，学生の主体的参加が定着した．オンデマンド授業の活用・中間・期末テストの実施，試験後の解説などについて，学生の授業評価で肯定的な回答を得ることができ，知識の定着に一定の効果を感じることが出来た．小児看護学実習では，ペアで一人の患児を受けもつ方式を取り入れた実習展開方法について学生・教員・指導者間の共有ができた． **2．改善すべき事項** 実習病棟の入院患者数の減少等の影響により受け持ち児決定に 0.5～1 日程度要することや，入院期間の短期化により 2 事例以上を受け持つことが増加した．外来実習との調整やシャドーイング実習時の目標設定などの検討が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	小児看護学実習では病棟入院児の減少・入院期間が短期化の傾向は今後も同様であると思われる．小児看護学実習の目標を達成するための手段について，従来の看護展開以外の方法を開発する必要がある．4 年次，統合看護学実習において全員に病児を対象としたキャンプへの参加を実施した．この実習の組み立てが学生の視野の広がりに効果があると言えるのか，今後，検証の必要がある．

分野名	母性看護学・助産学
担当教員	近澤　幸　間中麻衣子　松枝加奈子　笹野奈菜　酒向なつみ
担当科目	セクシュアリティと看護，リプロダクションと看護，母性看護学概論，母性看護学援助論，母性看護学援助方法，母性看護学実習，助産学概論，助産診断・技術学 I，助産診断・技術学 II，助産管理，助産学実習，看護実践と理論の統合，卒業演習，統合看護学実習
現状の説明	講義科目では，最新の国家試験出題傾向を分析し，教育に活用した．また，期末試験だけでなく，小テスト，中間試験を行った． 演習科目では，実践的演習をめざし，オリジナルのアセスメントツール，実践的模擬事例，教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした．また，助産診断・技術学Ⅱでは，シミュレーション教育を行った．さらに，無痛分娩事例の増加に対応するため，医師による無痛分娩の講義を行った． 実習では，実習施設との連携，教育設備の充実，教材整備・教材開発，医学部・大学病院看護部との連携により，基本的な看護実践能力の育成を行った．また，多職連携-臨床カンファレンスでは，統合に伴い医学部・薬学部・看護学部での合同カンファレンスを行った．さらに周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み，施設と地域の切れ目ない支援の視点を持てるよう，病院実習以外に助産所や子育て総合支援センター，保健センターなどの実習を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 前年度の学生の授業評価をふまえ，講義・演習内容の改善を行うことができた．3 学部による多職種連携-臨床カンファレンスでは，お互いの実践活動を知り，連携・協働のあり方について深める機会となった．助産学実習では，9 月末までに 6 名全員が分娩介助実習を終了し，助産師国家試験合格率も 100%であった． **2．改善すべき事項** 次年度も，小テスト・中間テストや練習問題，予習課題，反転授業，復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する．2025 年度の助産師国家試験受験資格選抜は 6 名を選抜した．2025 年度はさらなる出産数の減少傾向が予想されている．10 例程度の分娩介助例数確保のため，事例展開などによる教育の質の担保を行っていく．さらに，周産期医療・地域母子保健関連の課題，2022 年度のカリキュラム改正をふまえ，ハイリスク妊産褥婦への支援や施設と地域の切れ目ない支援の視点の強化を次年度も継続していく．
将来に向けた発展方策・課題	視覚支援教材などの積極的活用，学生の習得状況を丁寧に確認し，看護実践力を育成する．各学生が，確実な知識・技術習得に加え，生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する．助産師基礎教育に関する国内外の状況をふまえ，大学教育における助産学教育のあり方について検討する．

分野名	在宅看護学
担当教員	真継和子　大橋尚弘　内田浩江　有吉真里菜
担当科目	地域・在宅看護論，地域・在宅ケア実習，在宅看護学概論，在宅看護学援助論，在宅看護学援助方法，在宅看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習（在宅)，卒業演習，家族看護学，医療カウンセリング
現状の説明	「地域・在宅看護論」ではグループワークや教員の看護経験をもとに，暮らしと健康・看護への関心を高めた．この授業での気づきや疑問から学生個々が「地域・在宅ケア実習」のテーマを考え，立案した計画をもとに実習に臨み，人々の生活や価値観の多様性，ケアへの理解を深めた．「在宅看護学概論」では概念や理論のほか，社会資源についてオンデマンド動画の配信等の反転授業を取り入れ，事例検討により知識の定着を図った．「在宅看護学援助論」では，CNS や JANPU-NP などに協力を得，訪問看護を行う際に必要なフィジカルアセスメントの知識や技術を強化した．視聴覚教材の活用のほか respon による双方向型授業の展開，中間試験の実施により知識の確認及び定着を図った．「在宅看護学援助方法」では，3 事例を用いてアセスメントの強化を図り，模擬訪問の実施やグループディスカッションにより，実習での活用が可能となるように工夫した．「在宅看護学実習」は，在宅療養者と家族の理解や社会資源の理解の向上を目指し，居宅訪問での学生の体験を言語化できる機会の確保や実習記録の整備を通して，学びにつなげる工夫をした．さらに，可能な限りケアを実施させ看護実践力に繋げられるよう実習指導者との調整を図った．「統合看護学実習（在宅)」は 9 名の学生が選択し，うち 3 名は医薬看合同の地域医療実習に参加した．チームの一員としての役割や多職種連携の実際が理解できるよう実習指導を行った．「卒業演習」は 8 名の学生が選択し，個々の関心からテーマを絞り込み，論文作成，学内発表までできた．「家族看護学」では事例分析により理論の理解を深めた．「医療カウンセリング」ではロールプレイニングとリフレクションにより，知識と技術の習得を図った．
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 新カリキュラム導入から 3 年が経過した．1 年次の地域・在宅ケア実習におけるコミュニケーションスキルの学びが 3 年次実習に繋がり，実習施設から評価を得ている．また，高度実践看護者を活用した演習により学習意欲が高まっていた．中間試験を取り入れたことは知識の定着に繋がっている．授業評価でも在宅看護への関心の高まり，理解の深まりにつながっていた． **2. 改善すべき事項** 授業評価では学習内容の多さ，難易度を指摘する声が多い．引き続き教授内容の精選と課題の提示について検討し，効果的に学習がすすめられるよう工夫していく必要がある．分野の特徴から実習時間の超過が課題である．
将来に向けた発展方策・課題	学習目標が達成できるよう，教授内容の精選や課題量などの検討を図り，知識の定着を目指すとともに，視聴覚教材やシミュレーション機器を活用した体験学習を強化し，在宅看護の理解につなげる．また，実習方法について検討する．

分野名	公衆衛生看護学
担当教員	草野恵美子　中原洋子　山埜ふみ恵　堀池　諒　濱浦弘美
担当科目	公衆衛生看護学概論，公衆衛生看護学活動論Ⅰ，統合看護学実習（公衆衛生看護学分野），卒業演習，公衆衛生看護学活動論Ⅱ，公衆衛生看護学活動方法，公衆衛生看護学管理論，ヘルスプロモーション論，公衆衛生看護学演習，公衆衛生看護学実習Ⅰ，公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	今年度は基本的に対面で講義・演習を進めることができた．公衆衛生看護活動方法や公衆衛生看護管理論では，グループワークや発表会を実施し学生の成果の可視化や学びの共有に努めた．また，地域診断では住民の方を特別講師としてお招きし，住民の生の声を直接聞いて反映させ，既存の量的データだけでなく，質的データによる地域診断の重要性を学ぶ機会を作ることができた．公衆衛生看護学実習Ⅰは学生 34 名が履修し，今年度はすべての実習施設において対面にて，例年通り 5 月に実施することができた．公衆衛生看護学実習Ⅱの履修者は 34 名であり，7 グループに分かれて実習を行った．実習地は，茨木保健所と摂津市，枚方市，大阪市淀川区，兵庫県宍粟市（一宮町，千種町），兵庫県赤穂市，兵庫県神崎郡神河町であった．家庭訪問・健康教育は全数実施できた．統合看護学実習は 13 名が履修し，学生は主体的に実習課題を設定して，社会福祉協議会と地域包括支援センターで実習し，最終日には発表会にて学びを共有した．卒業演習は 10 名の学生が研究テーマを設定し，論文作成と研究発表を行った．
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 1） COVID-19 の影響は残りつつも，今年度は，保健所はじめ，ほぼ感染拡大前の実習を実施でき，学生は現場で多くを吸収することができた． 2） 地域診断などに必要な情報は年々，ウェブサイト上からの収集が必要であることから，公的機関で Wi-Fi がない実習施設が多く，実習先でもインターネットを使えるように引き続き ICT の活用を行った．これを用いて，遠隔地と学内をカンファレンス時につなぐことも可能となった． 3） 保健所・市町村実習における実習目標に照らした学生の自己評価では，「公衆衛生看護管理」の項目において「できた・よくできた」と回答した学生の割合が最も低く，昨年度よりも低下していた． **2. 改善すべき事項** 自己評価において年々増加しているものの最も低かったのは「公衆衛生看護管理」についてであり，今後強化していく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	わかりにくい保健師活動のイメージを高めるために，実習に行く前の早い段階（2～3 年生）で，引き続き，実践現場の保健師活動に触れる機会を増やすとともに，住民等対象者の生の声を聴く演習を強化する． 実習において「公衆衛生看護管理」の理解を深める方策を検討する． 保健師教育の将来構想について，引き続き検討する．

分野名	社会医学
担当教員	土手友太郎
担当科目	公衆衛生学, 保健医療福祉概論, 統計学, 大阪を学ぶ, 情報リテラシー・データサイエンス（1 年次）, 疫学（2 年次）, 災害看護論（3 年次）, 卒業演習（4 年次）
現状の説明	公衆衛生学, 保健医療福祉概論, 統計学, 大阪を学ぶ, 疫学, 災害看護論について, 今年度もオンデマンド授業を数コマ導入した. 面接授業においては, 双方向授業アプリを用い, リモコン端末から, リアルタイムで, 設問やアンケートを回答させた. また面接授業とオンデマンド授業の両方において, respon で予習復習, 授業中および終了前に小テストを実施した. 採点結果は, 各テストの正解数のみを正解とともに公開した.
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 予習復習, 授業中および終了前に小テストを実施したことにより, 授業への準備状況が改善した. また授業中および終了前にも実施することで授業への集中力を維持しやすくなった. 授業後, 結果を速やかに公開することで, 学生の理解度を, 学生全員と教員で, 共有できたので, 次回以降の授業内容の補足や追加ができた. 毎回のテストの実施により, 授業期間における学生の形成評価ができ, 集計により総括評価ができた. 期間を通じで, 毎回形成評価を継続したことにより, 各科目の全般的な項目に対する総合的な理解度を把握できた. **2. 改善すべき事項** オンデマンド授業は, 自主的な学習習慣を促す効果が期待されるが, 学生により, 回答そのものをしてこない場合もあった. オンデマンド授業は, 対面授業のような定時来校する負担がないものの, 授業に対する積極性が学習効果を大きく左右すると思われた. 授業中のテストの成績, 出席および回答状況などから同習慣があまりないと考えられる学生には, 何らかの対策が必要である.
将来に向けた発展方策・課題	オンデマンド授業は, 自主的な学習を促すことができるため, 適切な回数や間隔を検討していく. 今後大いに採用すべき教育技法である. よって, 授業科目に応じた最適の回数や時期を検討していく.

Ⅲ．看護学研究科

１．教員組織

1）教員構成および教員数

【看護系教員】　　2025 年 3 月 31 日現在

領域	専門分野	教授	准教授	講師	助教
実践 支援看護学	看護教育学	1	1		
	看護技術開発看護学		1		
	人文社会学	1			
療養生活 支援看護学	移植・再生医療看護学	1	1		
	がん看護学	1	1		
	慢性看護学	1			
	精神看護学	1	1		1
	老年看護学	1			1
	臨床医学	2			
地域家族 支援看護学	母性看護学		1	2	
	小児看護学	1	1		1
	地域看護学	1		2	1
	在宅看護学	1	1	1	
	社会医学	1			
	プライマリケア看護学	2	2		1
計（実人数）		13	8	5	5

２．年間事業

1）活動内容

看護学研究科では，大学院委員会が中心となり年間の事業計画を立案し，教育および研究の質向上をめざし，教育活動や研究活動に取り組んだ．2024 年度に実施した主な事業を報告する．

(1) 教育活動

博士前期課程・後期課程の学生に対する教育が円滑に展開されるように計画実行している．（詳細は大学院委員会報告参照）

(2)　研究活動

博士前期課程・後期課程の学生が取り組む研究について，節目ごとにグループ指導や発表会を実施し，広く助言を得る学習機会を提供し，研究が進められるよう支援している．プレ FD として院生も FD の対象とし，研究活動等へ活かす機会を設定した．

(3)　教育環境整備

院生と教員の交流会を実施し，学年が違う院生同士の交流も行うことができた．また，学生の意見を調査等から把握し，今後の教育環境整備の検討を行った．

2) 2024 年度看護学研究科予算執行額

予算執行額　2,097,042 円（予算額　285 万円）

「内訳」

予算額　255 万円　執行額　1,975,855 円

（看護学研究科設置経費（入試，入試・教育要項作成，学生証，実習費，申請業務費用等）

予算額　10 万円　　執行額　　87,116 円（大学院特別講義）

予算額　10 万円　　執行額　　34,071 円（大学院学院看護学研究科 FD ワークショップ）

3) 学生在籍数

【博士前期課程】　2024 年 5 月 1 日現在

コース	専門分野	1 年	2 年	在学年限延長他	合計
教育研究	看護教育学	1	2		3
	看護技術開発看護学				
	人文社会	1			1
	移植・再生医療看護学				
	がん看護学	1			1
	慢性看護学				
	精神看護学				
	老年看護学				
	母性看護学	1			1
	小児看護学		3		3
	地域看護学	1			1
	在宅看護学	1			1
高度実践	がん看護学	2	1		3
	慢性看護学	1			1
	精神看護学	1			1
	老年看護学				
	母性看護学				
	小児看護学				
	プライマリケア看護学		2		2
合計		10	8		18

【博士後期課程】　2024 年 5 月 1 日現在

領域名	1 年	2 年	3 年	在学年限延長他	合計
実践支援看護学	2				2
療養生活支援看護学	2	3	5	1	11
地域家族看護学	2	2	1		5
合計	6	5	6	1	18

4月				5月				6月				7月				8月				9月			
日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容	
1	月	臨時看護学研究科教授会	履修登録期間	1	水	(院)水④		1	土	(院)土⑦創立記念日 入試説明会・個別相談会		1	月	(院)月⑪		1	木	【秋季】口頭試問【最終試験】	口頭試問期間	1	日		
2	火			2	木	(院)木④		2	日			2	火	(院)火⑬		2	金			2	月		
3	水	新入生オリエンテーション		3	金	憲法記念日		3	月	(院)月⑦		3	水	(院)水⑬		3	土			3	火		
4	木	入学宣誓式(学部・大学院)		4	土	みどりの日		4	火	(院)火⑨		4	木	(院)木⑬		4	日			4	水		
5	金			5	日	こどもの日		5	水	(院)水⑨		5	金	(院)金⑫		5	月			5	木		
6	土	(院)土①		6	月	振替休日		6	木	(院)木⑨		6	土	(院)土⑫		6	火			6	金		
7	日			7	火	(院)火⑤		7	金	(院)金⑧ 【秋季】論文タイトル締切		7	日			7	水			7	土		
8	月	(院)月①		8	水	(院)水⑤ 学部・研究科教授会15:00		8	土	(院)土⑧		8	月	(院)月⑫		8	木			8	日		
9	火	(院)火①		9	木	(院)木⑤		9	日			9	火	(院)火⑭		9	金	夏季閉鎖期間 （予定）		9	月		
10	水	(院)水① 学部・研究科教授会15:00		10	金	(院)金④		10	月	(院)月⑧		10	水	(院)水⑭ 学部・研究科教授会15:00		10	土			10	火		
11	木	(院)木①		11	土	(院)土④		11	火	(院)火⑩		11	木	(院)木⑭		11	日	山の日		11	水	学部・研究科教授会15:00	
12	金	(院)金①		12	日			12	水	(院)水⑩ 学部・研究科教授会15:00		12	金	(院)金⑬		12	月	振替休日		12	木		
13	土	研究計画、中間発表会 大学院生の交流会		13	月	(院)月④		13	木	(院)木⑩		13	土	(院)土⑬		13	火			13	金		
14	日			14	火	(院)火⑥		14	金	(院)金⑨		14	日			14	水			14	土	看護学研究科入学試験	
15	月	(院)月②		15	水	(院)水⑥		15	土	(院)土⑨		15	月	海の日		15	木			15	日		
16	火	(院)火②		16	木	(院)木⑥		16	日			16	火	(院)火⑮		16	金	【秋季】論文発表会		16	月	敬老の日	
17	水	(院)水②		17	金	(院)金⑤		17	月	(院)月⑨		17	水	(院)水⑮ 高度実践コース実習報告会		17	土			17	火		
18	木	(院)木②		18	土	(院)土⑤		18	火	(院)火⑪		18	木	(院)木⑮		18	日			18	水	臨時研究科教授会15:00 (【秋季】学位授与可否審議)	
19	金	(院)金②		19	日			19	水	(院)水⑪		19	金	(院)金⑭		19	月			19	木	成績開示	履修登録変更期間
20	土	(院)土②		20	月	(院)月⑤		20	木	(院)木⑪		20	土	(院)土⑭		20	火			20	金	入試合格者発表16:00	
21	日			21	火	(院)火⑦		21	金	(院)金⑩		21	日			21	水			21	土		
22	月	(院)月③		22	水	(院)水⑦ 臨時研究科教授会15:00		22	土	(院)土⑩		22	月	(院)月⑬		22	木			22	日	秋分の日	
23	火	(院)火③		23	木	(院)木⑦		23	日			23	火			23	金			23	月	振替休日	
24	水	(院)水③ 臨時研究科教授会15:00		24	金	(院)金⑥		24	月	(院)月⑩		24	水	(院)水⑮臨時 研究科教授会15:00 (【秋季】主査・副査の決定)		24	土			24	火		
25	木	(院)木③		25	土	(院)土⑥		25	火	(院)火⑫		25	木	(院)木⑮【秋季】修士・博士論文提出(正午迄)		25	日			25	水		
26	金	(院)金③		26	日			26	水	(院)水⑫ 臨時研究科教授会15:00		26	金	(院)金⑮		26	月	【秋季】(修正版) 論文提出締切 16:50迄		26	木		
27	土	(院)土③		27	月	(院)月⑥		27	木	(院)木⑫		27	土	(院)土⑮		27	火			27	金		
28	日			28	火	(院)火⑧		28	金	(院)金⑪		28	日			28	水	臨時研究科教授会 15:00		28	土	(院)土①	
29	月	昭和の日		29	水	(院)水⑧		29	土	(院)土⑪		29	月	(院)月⑭		29	木			29	日		
30	火	(院)火④		30	木	(院)木⑧		30	日			30	火	(院)月⑮		30	金			30	月		
				31	金	(院)金⑦						31	水	臨時学部教授会 15～		31	土						

授業日程表の見方

・○数字は、各曜日授業の回数を示します。

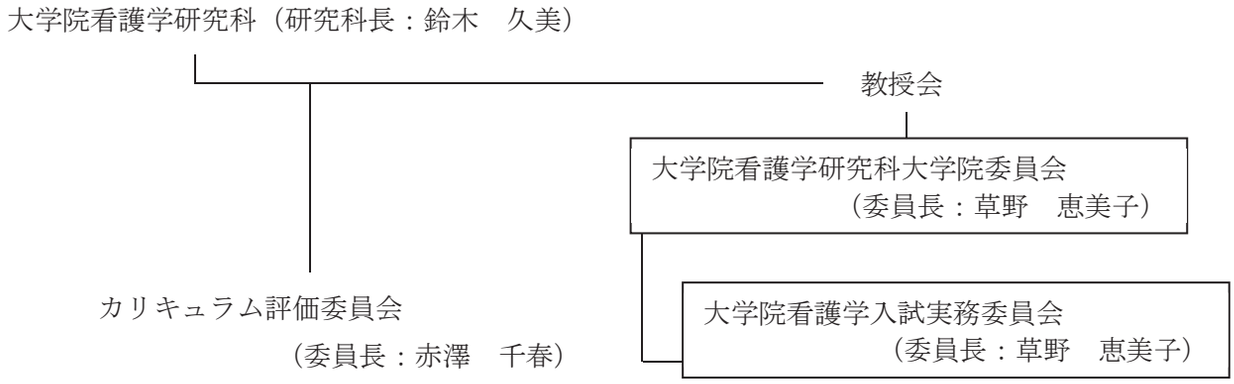
※各授業、特別研究・課題研究については、指導教員と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。

※授業科目については、時間割表を参照してください。

10　月				11　月				12　月				1　月				2　月				3　月			
日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容	
1	火	(院)火①		1	金	(院)金⑤		1	日			1	水	冬季閉鎖期間		1	土	口頭試問【最終試験】	口頭試問期間	1	土	入試説明会・個別相談会	
2	水	(院)水①		2	土	(院)土⑥		2	月	(院)月⑦ 臨時学部教授会15:00		2	木	冬季閉鎖期間		2	日			2	日		
3	木	(院)木①		3	日	文化の日		3	火	(院)火⑩		3	金	冬季閉鎖期間		3	月			3	月		
4	金	(院)金①		4	月	振替休日		4	水	(院)水⑩		4	土			4	火			4	火		
5	土	(院)土②		5	火	(院)火⑥		5	木	(院)木⑩		5	日			5	水			5	水		
6	日			6	水	(院)水⑥		6	金	(院)金⑩ 主査・副査推薦締切		6	月	(院)月⑪		6	木			6	木		
7	月	(院)月①		7	木	(院)木⑥		7	土	(院)土⑩		7	火	(院)火⑭		7	金	研究計画発表会		7	金		
8	火	(院)火②		8	金	(院)金⑥ 論文タイトル締切		8	日			8	水	(院)水⑭ 学部・研究科教授会15:00		8	土	研究計画発表会		8	土		
9	水	(院)水② 学部・研究科教授会　15		9	土	(院)土⑦		9	月	(院)月⑧		9	木	(院)木⑭		9	日			9	日		
10	木	(院)木②		10	日			10	火	(院)火⑪		10	金	(院)金⑭		10	月			10	月		
11	金	(院)金②		11	月	(院)月④		11	水	(院)水⑪ 学部・研究科教授会15:00		11	土	(院)土⑭		11	火	建国記念の日		11	火		
12	土	(院)土③		12	火	(院)火⑦		12	木	(院)木⑪		12	日			12	水	学部・研究科教授会15:00		12	水	学部・研究科教授会 (学位授与可否審議)	
13	日			13	水	(院)水⑦ 学部・研究科教授会15:00		13	金	(院)金⑪		13	月	成人の日		13	木	論文発表会		13	木		
14	月	スポーツの日		14	木	(院)木⑦		14	土	(院)土⑪		14	火	(院)火⑮		14	金	論文発表会		14	金		
15	火	(院)火③		15	金	(院)金⑦		15	日			15	水	(院)水⑮		15	土	論文発表会		15	土		
16	水	(院)水③ 研究計画発表会		16	土	(院)土⑧		16	月	(院)月⑨		16	木	(院)木⑮		16	日			16	日		
17	木	(院)木③		17	日			17	火	(院)火⑫		17	金	(院)金⑮		17	月			17	月		
18	金	(院)金③		18	月	(院)月⑤		18	水	(院)水⑫		18	土			18	火			18	火		
19	土	(院)土④ 解剖慰霊祭		19	火	(院)火⑧		19	木	(院)木⑫		19	日			19	水			19	水		
20	日			20	水	(院)水⑧		20	金	(院)金⑫		20	月	(院)月⑫		20	木			20	木	春分の日	
21	月	(院)月②		21	木	(院)木⑧		21	土	(院)土⑫		21	火	(院)月⑬		21	金			21	金	成績開示　学位記授与式	
22	火	(院)火④		22	金	(院)金⑧		22	日			22	水	臨時学部・研究科教授会 15:00		22	土			22	土		
23	水	(院)水④ 臨時研究科教授会15:00		23	土	勤労感謝の日		23	月	(院)月⑩		23	木			23	日	天皇誕生日		23	日		
24	木	(院)木④		24	日			24	火	(院)火⑬		24	金			24	月	振替休日		24	月		
25	金	(院)金④		25	月	(院)月⑥		25	水	(院)水⑬　臨時研究科教授会15:00 (主査・副査の決定)		25	土	(院)土⑮		25	火	(修正版)論文提出締切 16:50迄		25	火		
26	土	(院)土⑤		26	火	(院)火⑨		26	木	(院)木⑬		26	日			26	水	臨時研究科教授会15:00		26	水	臨時研究科教授会15:00	
27	日			27	水	(院)水⑨ 臨時研究科教授会15:00		27	金	(院)金⑬		27	月	(院)月⑭ 修士・博士論文提出(正午迄)		27	木			27	木		
28	月	(院)月③		28	木	(院)木⑨		28	土	(院)土⑬		28	火	(院)月⑮		28	金			28	金		
29	火	(院)火⑤		29	金	(院)金⑨		29	日	冬季閉鎖期間		29	水			29	土			29	土		
30	水	(院)水⑤		30	土	(院)土⑨		30	月	冬季閉鎖期間		30	木							30	日		
31	木	(院)木⑤						31	火			31	金							31	月		

３．運営と教育活動

1）運営組織



2) 委員会

委員会名	看護学研究科大学院委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ，大学院生の教育，研究，学位審査，学生生活に関する事柄．また，入学試験等に関する協議を行い，必要事項を審議事項, 報告事項として教授会に提議する．		
構成員	草野恵美子（委員長）　小林道太郎（副委員長）　赤澤千春　樋上容子　二宮早苗 川端由夏（看護学事務課）　堀江雅彦（看護学事務課）　長田紗季（看護学事務課）		
活動計画	1.　教育課程全般の運営 2.　教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し 3.　リポジトリの具体的運用方法の検討 4.　高度実践コースの課題研究に関する検討 5.　広報活動推進と受験者獲得の向けた対策 6.　入試運営，入学試験方式の違いによる入学後の学修成果の評価，AP の評価 7.　学習環境，学生サービスの充実 8.　FD の推進 9.　大学院運営力の強化 10. 大学院教育における国際性の涵養 11. 大学院設置基準改正に伴う TA 業務の検討 12. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立 13. 新型コロナ感染症への対応		
活動概要	**1. 教育課程全般の運営** 1）委員会の開催 14 回の委員会（定例 12 回，臨時 2 回）を開催した． 2）新入生オリエンテーション 4 月に新入生を対象に，教育課程と履修方法，学生生活に関すること，学位論文の指導体制と進め方，TA/RA について説明した．加えて，入学者全員に向けて，主体的な学習姿勢を求める説明を行った． 3）既修得単位認定に関する事項 新入生のうち 1 名の既修得単位認定にあたり該当科目の科目責任者との調整，認定の可否について検討した． 4）学位論文に関する事項 2023 年度修了生の学位論文要旨および審査結果の HP での公開を 5 月に行った．学位論文の公表について，2023 年度修了生 2 名について機関リポジトリを用いたインターネットによる学位論文の公表を進めており，投稿中の論文について採択を待って全文公表の予定としている． 学位論文申請から論文提出までのマニュアルを提示し，学位論文申請，論文審査，提出等が円滑に実施されるよう調整した．口頭試問の場の確保，論文発表会		

活動概要	の企画・運営を行った．学位論文発表会は 2 月 15 日に実施した．学位論文の最終評価のまとめと修了単位取得状況を確認し，教授会に諮った． 学位論文発表会の詳細は以下のとおりである． 2 月 15 日（土）博士前期課程 5 名，博士後期課程 6 名 5）特別研究・課題研究に関する事項 4 月に新入生の主指導・副指導教員の調整を行い，教授会に諮った．セメスター毎にグループ指導の実施状況について把握し，規定回数に満たない場合には指導教員に実施を促すこととした（今年度はなし）．4 月，10 月，2 月に博士後期課程の中間発表会，両課程の研究計画発表会を開催した．詳細は以下のとおりである．また，2024 年度より特別研究（博士後期課程）主指導」の担当基準について，大学院生の主指導経験がない場合は，「卓越した研究業績（公的競争的外部資金（科研費等）の採択が 2 件以上あること)」を追加した新基準で実施している． （1）中間発表会： 4 月 13 日（土）3 名 （2）研究計画発表会： 4 月 13 日（土）博士前期課程 1 名，博士後期課程 1 名 10 月 16 日（水）博士前期課程 2 名，博士後期課程 1 名 2 月 7 日（金） 博士前期課程 5 名 2 月 8 日（土） 博士前期課程 5 名，博士後期課程 4 名 6）高度実践コース実習に関する事項 高度実践コース実習報告会を 7 月 17 日に開催し，がん看護学 1 名，プライマリケア看護学 2 名の発表があった． 高度実践コースの実習費について，2025 年入学生より 15 万円に変更した． 7）TA オリエンテーションおよび研修の実施 TA8 名を対象に，TA の目的・役割・心得についてのオリエンテーションの受講および，TA 研修として「看護学教育における教授と学習」「成人学習理論」「看護教育における倫理」をオンライン動画で受講できるよう動画を作成し配信した． 8）入学前補習授業の実施 2025 年度入学予定者を対象に，2025 年 3 月 8 日，15 日の合計，4 時限で入学後の学びをスムーズに進めるため補習授業を実施し，入学予定者 5 名全員の参加があった．主として研究における文献検討の意義や論文の読み方，文献検索方法について講義し，指定した文献を全員で抄読およびクリティークした．事後アンケート結果から，参加者は意欲的に取り組み，全員から入学後の学習に役立つとの評価を得られた．一方で，入学予定者の中には既に科目履修にて看護学研究方法論などを受講している方もあるため，入学生の特徴に応じた工夫が必要である． 9）科目等履修生の募集 2024 年度後期，2025 年度前期の科目等履修生の募集，選考に際しての出願書類の確認を実施し，教授会に諮った． 10）科目担当教員についての事項 科目担当教員（常勤教員，兼担教員，非常勤教員）について，新たに科目を担当する教員についての業績書類の確認と審議，兼担および非常勤教員の継続に関し

活動概要	て審議し，教授会に諮った．また，科目責任者の要件および変更に関する手続きについて整理を行い，原則，本学の当該科目または他学にあたっては，同様の内容の科目担当実績があることを要件として申請することとし，大学院委員会で適格性の審議を行った後，研究科教授会の審議を経て認定することに決定した． 11）ベスト・ティーチャー賞の公示・投票 ベスト・ティーチャー候補者の選考に関する要領に沿って該当教員を選出し，ベスト・ティーチャー細則にもとづき博士前期課程及び博士後期課程の院生に2025年1月末に公示，2月に投票を実施した．その結果を教授会に諮った． 12）長期履修の申請について 4月（入学時）に1名，2月に2名からの申請があり，状況を確認し教授会に諮った．また，所属コースの変更については申し合わせ事項および変更届様式を作成し，必要に応じて使用できるよう整備を行った． 13）授業評価アンケートの実施 2 月に在学生を対象に授業評価アンケートを実施し取りまとめ，教授会で報告し共有した．回収率は博士前期課程 50%（昨年 33%），博士後期課程 50%（昨年 21%）であった． 14）研究業績調査の実施 3月に在学生，修了生に調査依頼をした． 15）教育要項の作成 指導体制について，主指導教員，副指導教員の他，論文指導補助教員についても大学院担当教員として必要となる指導補助を行うことを明記した． **2. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し** 1) 2023年度アセスメントポリシーPDCAシートの作成 2023年アセスメントポリシーに基づき点検・検証し，PDCAシートを作成し教授会に報告した． 2）カリキュラム評価,修了生アンケートの分析 2024年度のカリキュラム評価アンケートを2月に実施した．回収率は，博士前期課程（教育研究コース）45.4%，博士前期課程（高度実践コース）14.2%，博士後期課程50.0%，教員47.1%であった．2023年度修了生からは回答がなかった． 2024年度修了生アンケートについても同時期に実施した．回収率は，博士前期課程（教育研究コース）66.7%，博士前期課程（高度実践コース）50.0%，博士後期課程50.0%であった． **3. リポジトリの具体的運用方法の検討** 2023年度に博士後期課程を修了した学生の学位論文について，リポジトリ登録を行った．博士論文を全文公開できない場合は要約公開とした． **4. 高度実践コースの課題研究に関する検討** 高度実践コースの課題研究は教育研究コースの半分となる 4 単位であるが，実習との両立が学生の負担になっていないか今年度の修了者アンケート結果等から検討していく．

活動概要	**5. 広報活動推進と受験者獲得の向けた対策** 1）入学者用パンフレット・ポスターの見直し 今年度もパンフレットおよびポスターを作成し，内容の見直しを行った．また，News のコーナーに新たに 3 分野の CNS 更新報告を掲載することとした． 2）入学試験要項見直し 入学試験要項を見直し，受験者によりわかりやすい要項となるよう修正した． 3）「入試説明」「英語文献の読み方講座」HP 上での動画配信 2022 年度より好評であるオンデマンド形式による入試説明と分野紹介，修了生による大学院紹介を実施した． 4）入試説明会・個別相談会の実施 対面開催を中心とし Web 会議システム（zoom）によるオンライン（LIVE 形式）を併用したハイブリッド方式にて入試説明会・個別相談，在学生との懇談会を実施した．また，Web による個別相談は随時，受け付けた． （1）第 1 回個別相談：2024 年 6 月 1 日（土）13 名（別日相談含む） （2）第 2 回個別相談：2025 年 3 月 1 日（土）13 名（別日相談含む） 5）ホームページの更新 随時ホームページ更新を実施し，情報発信に努めた． 6）在学生への広報活動 3 年生を対象に，1 月 25 日（土）就職支援委員会主催のガイダンスの機会を活用して大学院についての紹介および在学中の大学院生による講演を行った．事後アンケートでは「参考になった」と回答したものが半数以上おり，自由記載からも，大学院進学という選択肢や大学院での学習内容を知る機会となっていた． 7）外部関連団体での広報活動 2024 年 12 月 7 日（土）開催の第 12 回 大阪府看護学会で出展し，参加者への個別相談活動や大学院のパンフレットを配布して広報活動を行った． 4 名（資料のみ配布者 30 名程度を除く）に，研究内容や入試およびコースや学費等の個別相談内容に対応した．今年度は参加校が 5 校あり，同時に複数の大学を比較する機会になっていると考えられた． **6. 入試運営，入学試験方式の違いによる入学後の学修成果の評価，AP の評価** 1）入学試験の準備，実施，感染対策 入学試験要項に関して，カリキュラムポリシーの修正，教員名の追加などを行なった．COVID-19 感染予防対策は前年度と同様とした．試験は 2024 年 9 月 16 日に実施した． 2）2024 年度大学院入試 出願資格審査の実施 出願資格審査基準に沿って，申請者 2 名の審査を実施した． 3）入試成績の分析 前期課程の出願数は 5 名で前年より 6 名減，選考の結果 5 名を合格とし，5 名が入学手続きを行った（定員数の 0.63 倍）．本学部卒業生の受験は 1 名であった．後期課程の出願者数は 7 名で前年より 1 名増，合格者は 6 名で全員が入学手続き

活動概要	を行った（定員数の 1.67 倍）．前期課程の今年の総得点の平均は昨年＋5 点だった．5 名全員が B 方式を選択した．後期課程は英語の平均点が前年度＋35 点と大きく上がった．博士前期課程で出願者が定員を下回ったのははじめてであり，継続的に定員を満たすことができるように対策を検討した．受験者数にある程度の見込みがつけられるようにするため，第 2 回入試説明会からは，教員が記入する「個別相談会 受付・相談票」に受験見込みの有無を記入する欄を設けた．後期課程の出願者数は安定しており，定員超の入学が続いている．在籍定員管理（2.0 倍未満とする）のため，在学生を毎年適切に修了させていくことが必要である． **7. 学習環境，学生サービスの充実** 1）大学院生の交流会 4 月 13 日（土）に大学院生の交流会を開催した．前年度好評だったため，同様に土曜の研究計画発表会・中間発表会後に 1 時間で実施した．院生 30 名，教員 19 名の参加があった．院生の参加者が前年度より増加した．6 グループに分かれて二つの講義室で意見交換や院生へのアドバイスを行った．参加者アンケートではほとんど肯定的な回答が得られたが，回答数が少なかったため案内をきちんと行う必要がある． 2）学生生活ガイドの作成 学生生活ガイドを更新し配布した． 3）学生調査の実施 2 月に学生調査を行い，回収率は前期課程 38.8%（昨年度 60 %）後期課程 72.2%（昨年度 50 %）の回答を得た．前期・後期課程ともに経済的不安がある学生が多い（75%）が，専門的・学問的知識や教養を身につけるために本学大学院に入学している学生が多く，登校日数も週に 2〜3 回以上の学生が半数以上を占めた． **8. FD の推進** 1）10 月 2 日（水），「Evidence Based Practice を推進するための研究者育成の質保証」をテーマに山川みやえ先生（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻　准教授）の講演を行った．対象は，教員と大学院生（プレ FD）で，教員 33 名，院生 7 名の参加であった．テーマ，内容等に関してアンケートでは高い評価が得られた． 2）3 月 12 日（水），「 DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの実際と今後の展望」をテーマに，林直子先生（聖路加国際大学　教授）の講演を行った．対象は，教員と大学院生（プレ FD）で，教員 27 名，院生 7 名の参加であった．アンケートでは，内容について満足したが最も多く，DNP コースのイメージがついてよくわかった，重要性は非常によく理解できたといった意見が得られた． **9. 大学院運営力の強化** 大学院委員会，委員会開催前の打ち合わせのほか，適時，連絡調整を密に行い情報共有を行いながら運営に努めた．その結果，滞りなく大学院運営を進めることができた．

活動概要	**10. 大学院教育における国際性の涵養** 看護学部国際交流委員会と連携し，大学院生に対し各種国際交流プログラムの案内を行い，国際交流を図った． **11. 大学院設置基準改正に伴う TA 業務の検討** 本大学院に入学した学生の教育背景や業務の重責を考慮し，TA としての担当業務について事前に Moodle で配信されるオンライン動画を視聴し，業務に臨むことを実施した． **12. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立** CNS および NP の受験者は，4 名全員が合格した．内訳は，がん 1 名，老人 2 名，NP1 名であった．いずれも大学院修了後に各分野の教員がフォローアップを行っていた． **13. 新型コロナ感染症への対応** 特に講義・実習等に関して対応したことはなかった． **14. その他** 1）収容定員比率の適正化 大学評価（認証評価） 改善課題：収容定員比率の超過について，入学試験における適正管理，また計画的な修了生の輩出により，収容定員比率は適正化している． 2）研究費（外部資金）獲得の促進 研究費（外部資金）獲得の促進について，現在の研究費獲得状況および院生の意向調査を行い，研究費の周知方法などを検討した． 3）大学院授業のオンライン実施 大学院授業のオンライン実施について，基本的には対面またはオンデマンド（全コマ数の 1/3 まで）とするが，履修希望者からリアルタイムオンライン受講の要望があった場合は，他の受講生への不利益がない範囲で，専門科目は科目責任者の判断とし，共通科目は科目責任者の判断のもと大学院委員会で検討を行うことを原則とすることとした． 4）学位論文の受理方法 何らかの理由で来学での提出が難しい場合は，あらかじめ上申書を提出の上，学位論文を郵送で受け付けることとし，次年度申請方法については検討することとした．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1)　標準修業年限内での修了等により収容定員の適正管理ができている． 2)　FD を充実させ，院生を対象にしたプレ FD を併せて実施できた． 3)　年 2 回の入試説明会・個別相談会を継続的に実施しており，院生の安定的確保ができている． 4)　入学金半額免除や広報などの結果，本学部卒業生が継続的に受験している． 5)　科目責任者の基準を整理し，共通認識できた．

評　価	**2. 改善すべき事項** 1)　学生調査，カリキュラム評価，授業評価アンケートの回収率を上げるために，一体的に調査票を再構成し，回答は 1 回となるよう工夫する必要性 2)　博士前期課程の受験生確保 3)　博士後期課程の定員超過が続くため，定員の見直しが必要 4)　博士後期課程院生の投稿先（主に国際誌）選択の際の留意点の周知（粗悪ジャーナルなどへの投稿回避） 5)　科目責任者の基準の明確化
将来に向けた発展方策・課題	1. 博士後期課程の定員管理と DNP コースの検討 2. 研究生制度・論文博士制度の検討 3. 共通科目の担当者の長期的計画 4. 投稿先（主に国際誌）に関する継続教育の必要性

3) 教育活動

(1) 博士前期課程

① 授業科目一覧

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								20単位以上
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理		講義	1		○							
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		人間関係論		講義	1	●								
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	1	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		医療英語		演習	1					●				
		国際言語文化		講義	2	○								
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇		
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇	
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	−	◇								↓
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0	0	
専門基礎科目	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		感染と免疫		講義	1	●								28単位以上
		からだと栄養		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルイグザミネーション		演習	1			●						
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
	病気と治療	からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				

●必修科目13単位
○選択科目7単位以上（人間理解または異文化理解から5単位以上、社会理解から2単位以上含まれていること）

●必修科目25単位
○選択科目3単位以上

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	保健と医療	医学概論		講義	1		○							28単位以上 ●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上 ↓
		医療人マインド（2021年度～多職種連携論１－医療人マインド）		講義	1	●								
		専門職連携医療論（2021年度～多職種連携論２－医療と専門職）		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1				●					
		リスクマネージメント		講義	1					●				
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習Ⅰ		実習	1				●					
		老年看護学実習Ⅱ		実習	3						●			
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	看護実践発展科目	地域救命救急		講義	1					○				79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること） ↓
		看護と生体診断法		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8							◇		
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		チーム医療論		講義	1					●				
		災害看護論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		原著講読		演習	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					74	2	8	14	13	8	20	4	5	
必修単位数合計					112	13	18	24	18	10	20	4	5	
履修登録できる単位数の上限					164	48		47		39		30		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

② 修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	コース 専門分野	学位論文タイトル
川上　和美	教育研究 看護教育	病院で勤務する一人前看護師のリーダーシップと関連要因の検討
甲斐　美奈子	高度実践 がん	術後再発膵臓がん患者の化学療法中のアンメットケアニーズに関する研究
岩浪　睦	教育研究 小児	入院中の発達障害の特性をもつ子どもに対する熟練看護師の看護実践
吉田　祐基	教育研究 小児	COVID-19 感染症の面会制限下にある小児病棟において看護師が捉えた親のニーズと看護援助
髙木　美穂	高度実践 プライマリケア	再入院することなく自宅療養を継続する高齢心不全患者の日常生活における取組み

（学位記番号順）

(2) 博士後期課程

① 授業科目一覧

博士後期課程 カリキュラム表

区分		授業科目	配当年次	実践支援看護学領域			療養生活支援看護学領域			地域家族支援看護学領域		
				単位数			単位数			単位数		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
基盤科目		看護科学研究論	1前	2			2			2		
		看護学研究法応用論（保健統計）	1後		1			1			1	
		看護学研究法応用論（実験法）	1後		1			1			1	
		看護学教育開発論	1前		2			2			2	
		英語論文演習	1前		1			1			1	
		異文化看護論	前(隔･偶数年度)		1			1			1	
専門科目	実践支援看護学	実践支援看護学特論	1後	2					2			2
		実践支援看護学演習	2通	1					1			1
	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	1後			2	2					2
		療養生活支援看護学演習	2通			1	1					1
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論	1後			2			2	2		
		地域家族支援看護学演習	2通			1			1	1		
特別研究		特別研究	1～3通	8			8			8		
合計				13	6	6	13	6	6	13	6	6

〈修了要件〉

3年以上在学して所定の単位（14単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉

指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。

専攻領域の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目1単位以上を履修する。

② 修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	領　域	学位論文タイトル
今井　理香	療養生活	同種造血幹細胞移植に伴う呼吸機能低下の実態と呼吸機能低下予防のための看護ケアの検討
生田　宴里	療養生活	救命救急センターの救急外来における新任看護師の外傷的出来事に対する認知的評価に影響を及ぼす要因の検討
髙岡　宏一	療養生活	本邦の救急臨床における国際的なトリアージツール導入の有用性の検証
坪井　茉莉	療養生活	テーラーメイドな外来支援に向けた身体症状のある造血幹細胞移植後初期の患者への口腔のセルフケアの困難と対処に関する研究
喜多下真里	療養生活	がん薬物療法を受けている進行がん患者の希望と精神的苦痛，Quality of Life との関係及びそれらの影響要因
森　つばさ	療養生活	在日中国人看護師が異文化適応の課題への対処に用いるスキルの検討

（学位記番号順）

Ⅳ．研究活動

１．研究実績

1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

2024 年度　科学研究費助成事業交付一覧

（研究代表者）

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
延長課題	基盤研究(C)	林　優子	急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践知の体系化－倫理的実践の質向上に向けて－	0
延長課題	基盤研究(C)	赤澤　千春	高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する継続可能な手技の開発	0
延長課題	基盤研究(C)	真継　和子	死生観を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	0
延長課題	若手研究	寺口　佐與子	在宅看護ケアで活用できるリンパ浮腫評価モデルの開発	0
継続	基盤研究(B)	鈴木　久美	青年前期の子どもと親のための Family-based がん啓発教育プログラム開発	0
延長課題	基盤研究(C)	池西　悦子	看護師のリフレクション学習を支援するファシリテーター育成プログラムの開発	0
延長課題	基盤研究(C)	川北　敬美	子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発	0
延長課題	基盤研究(C)	竹村　淳子	学校卒業後の在宅重症心身障がい児に適したデイサービスガイドラインの作成	0
延長課題	基盤研究(C)	草野　恵美子	地域共生社会における発達障害児家族を支える地域高齢者による支援モデルの検討	0
延長課題	基盤研究(C)	久保田　正和	認知リハビリテーションの効果を高める看護学的アプローチの検証	0
延長課題	基盤研究(C)	安田　稔人	スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する早期運動療法を併用した多血小板血漿療法	0
延長課題	若手研究	近澤　幸	乳児期の沐浴・入浴時の危険を防ぐ母親と家族のためのデジタルコンテンツ教材の開発	0
延長課題	若手研究	樋上　容子	認知機能低下予防のための睡眠障害に対する看護介入の長期的効果の検証	0
継続	基盤研究(C)	鈴木　美佐	食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築	780,000
延長課題	基盤研究(C)	二宮　早苗	横断・縦断調査による成人女性の下部尿路症状（LUTS）の実態とリスク因子の解明	0
継続	基盤研究(C)	倉橋　理香	幼児期の子どもが緊急入院した際の家族を支援するためのアセスメントツールの開発	390,000
延長課題	基盤研究(C)	中原　洋子	妊娠中から支援を必要とする母親のアセスメント指標の活用性の検討	0
継続	若手研究	南口　陽子	進行がん高齢患者の最期を迎える場に対する意思決定支援モデルの導入による効果の検証	910,000
継続	基盤研究(C)	山埜　ふみ恵	退職移行期高齢男性の能力を地域に活かす地域職域・連携役割移行支援プログラムの開発	650,000

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
継続	研究活動スタート支援	笹野　奈菜	非医療系学生向けプレコンセプションケアに基づく避妊の動画視聴型性教育アプリ開発	0
延長課題	研究活動スタート支援	間中麻衣子	妊婦のメンタルヘルス向上を目指したオンラインアプリケーションの開発	0
継続	基盤研究(C)	小林道太郎	ケアリングに関する看護理論の哲学的・現象学的検討	650,000
継続	基盤研究(C)	山岡　由実	気分障害による長期休職者のための当事者参画・オンラインプログラムの有効性検証	390,000
継続	基盤研究(C)	安田　稔人	多血小板血漿を併用したスポーツ選手のアキレス腱断裂術後のスポーツ復帰と腱長の変化	260,000
継続	基盤研究(B)(基金)	飛田伊都子	IoT 機器を活用した在宅腎臓リハビリテーションの遠隔支援システムの構築	3,640,000
新規	基盤研究(C)	津田　泰宏	訪問看護師を対象にしたPOCUSに特化した超音波トレーニングプログラムの開発	520,000
新規	基盤研究(C)	寺口佐與子	難治性リンパ浮腫患者の排液路に応じた用手的リンパドレナージ法と圧迫療法の開発	1,820,000
新規	基盤研究(C)	中原　洋子	「体罰」や「暴言」等がある親への乳幼児健診からの保健師の継続支援ガイドの考案	1,040,000
新規	若手研究	大橋　尚弘	腎移植レシピエントへのテーラーメイド型セルフマネジメント支援プログラムの開発	910,000

(研究分担者)

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
延長課題	基盤研究(C)	草野恵美子	子育て世代のがんサバイバーのコミュニティ・エンパワメントモデル開発	50,000
継続	基盤研究(C)	鈴木　久美	通院患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの有効性の検証	0
継続	基盤研究(B)	堀池　　諒	訪問看護事業所の災害時 BCP・BCM（事業継続計画/管理)の教育プログラム開発	0
継続	基盤研究(C)	鈴木　久美	治療を受ける若年成人がん患者の心理的適応を促進する看護ケアプログラムの開発	0
継続	基盤研究(C)	林　　優子	重症救急患者の家族成員におけるレジリエンスを支える看護援助モデルの作成	39,000
延長課題	基盤研究(C)	近澤　　幸	コロナ時代の産婦と夫の安全・満足な分娩体験につながる Web 夫立ち合い分娩の開発	30,000
延長課題	基盤研究(C)	土手友太郎	コロナ時代の産婦と夫の安全・満足な分娩体験につながる Web 夫立ち合い分娩の開発	30,000
継続	挑戦的研究(開拓)	鈴木　久美	がん薬物療法を受ける患者の包括的がん悪液質アセスメントツールの開発と実装	195,000
継続	基盤研究(B)	樋上　容子	軽度認知機能障害者に対する睡眠データを活用したハイブリッド型看護外来の構築	0
継続	基盤研究(C)	久保田正和	女性の生涯発達に関連した脳機能基盤の解明	0

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
継続	基盤研究(C)	竹村　淳子	高度実践看護師の能力の基盤「理論と実践の融合」を図る思考の発達モデルの生成	91,000
継続	基盤研究(C)	真継　和子	高度実践看護師の能力の基盤「理論と実践の融合」を図る思考の発達モデルの生成	91,000
継続	基盤研究(C)	赤澤　千春	与薬における看護師のリスクテイキング行動の判定ツールの開発	260,000
継続	基盤研究(C)	草野恵美子	乳幼児をもつがんサバイバーである母親のコミュニティ・エンパワメントモデルの開発	65,000
継続	基盤研究(C)	川北　敬美	看護学士課程における臨床判断能力を高める統合実習モデルの開発	91,000
継続	基盤研究(C)	林　　優子	SDM での重症心不全患者と看護師の相互作用を基盤とした状況特定理論の構築	26,000
継続	基盤研究(C)	小林道太郎	慢性病者の生を支える現象学的ケアモデル構築の試論	260,000
継続	基盤研究(C)	鈴木　美佐	予防接種を受ける子どもの「親のためのプレパレーションガイド」の開発	78,000
継続	基盤研究(C)	鈴木　美佐	発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム（FCPS）の開発	39,000
継続	基盤研究(C)	中原　洋子	社会経済格差をふまえた保険者別向老期における孤立予防の地域デビュー促進の実装研究	13,000
継続	基盤研究(C)	中原　洋子	子ども虐待予防における保健師の援助関係づくり尺度の開発とガイドの作成	65,000
継続	基盤研究(C)	二宮　早苗	産後女性の骨盤内を可視化した PFMT のデジタルヘルスケアシステムの開発と検証	19,500
継続	基盤研究(B)(基金)	堀池　　諒	訪問看護事業所の災害時 BCP・BCM（事業継続計画/管理)の教育プログラム開発	260,000
継続	基盤研究(B)(基金)	樋上　容子	軽度認知機能障害者に対する睡眠データを活用したハイブリッド型看護外来の構築	130,000
新規	基盤研究(B)(基金)	樋上　容子	説明可能な人工知能（XAI）によるがん患者の精神的・身体的状態予測モデルの開発	130,000
新規	基盤研究(C)	小林道太郎	親・医療者それぞれが考える 13・18 トリソミー児における QOL の解明	208,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　久美	外来化学療法を受けるがん患者の生きる力を支えるための看護介入モデルの開発	130,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　久美	骨転移を有するがん患者のセルフマネジメントを促進する看護介入モデルの開発	65,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　久美	前立腺がん術後患者の下部尿路症状に対する自己管理支援プログラムの効果検証	65,000
新規	特定領域研究	鈴木　久美	患者のがん疼痛セルフマネジメントを高めるための看護師教育プログラムの開発	260,000
新規	基盤研究(C)	林　　優子	臓器提供に関わる看護師の倫理的苦悩の実態と倫理教育プログラムの開発	65,000
新規	基盤研究(C)	竹村　淳子	在宅移行初期に医療的ケア児の体調管理をする家族のアセスメント支援シートの実用化	130,000
新規	基盤研究(C)	笹野　奈菜	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	13,000

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
新規	基盤研究(C)	近澤　　幸	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	65,000
新規	基盤研究(C)	間中麻衣子	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	65,000
新規	基盤研究(C)	土手友太郎	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	13,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　美佐	ICTを活用した多職種協働プレパレーション研修プログラムの開発	13,000
新規	基盤研究(C)	中原　洋子	虐待死を予防するエビデンスに基づいた標準化研修プログラムの開発と評価	130,000
新規	基盤研究(C)	草野恵美子	保健師らのコミュニティケアリング力を高める教育教材と教育プログラムの開発と検証	91,000

AMED・厚労科研費・各省庁・民間助成金

代表・分担	事業名	研究分担者	研究課題名	交付額(円)
分担	AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業	樋上　容子	Personal Life Record（PLR）と専門職の知見を組み合わせたヘルスケアサービスの社会実装を促進する研究プロセスとデザインのフローの可視化	5,603,000
代表	公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団	髙木　美穂	再入院することなく在宅で暮らす高齢心不全患者の日常生活における取り組み -患者のストレングスに着目して-	336,000
代表	一般社団法人日本公衆衛生看護学会	堀池　　諒	災害時保健活動における GIS をベースとした 360 度映像共有プラットフォーム構築と保健師活動の効率化に関する研究	235,000
代表	公益財団法人大阪対がん協会	菅野　　楓	外来で薬物療法を受けている大腸がん患者が体験する症状クラスターの同定と QoL の関連についての研究	300,000

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

1) Hashimoto R, Suzuki K.

Identity Experiences of Young Adult Women Diagnosed with and Undergoing Treatment for Cancer: A Phenomenological Study
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(1): 1-12.

2) Hiroaki Shima, Kosho Togei, Yoshihiro Hirai, Ken Tanaka, Toshito Yasuda, Masashi Neo.

Ultrasonography-Based Quantitative Evaluation of Second Metatarsophalangeal Joint Instability in Female Patients With Hallux Valgus
Foot Ankle Int, 2024; 45(7): 737-745.

3) Hiroaki Shima, Kosho Togei, Yoshihiro Hirai, Toshito Yasuda, Ryuzo Okuda, Masashi Neo.

Operative outcomes of hallux valgus with painful osteoarthritis of the lesser tarsometatarsal joints
J Orthop Sci, 2024; 29(1): 230-235.

4) Iseki C, Suzuki K.

Development of a nursing intervention program to promote psychological adjustment in adult women diagnosed with metastatic breast cancer
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(2): 43-51.

5) Itoko Tobita.

The value of case study methodology in nursing research
Creat Nurs, 2025; 31(1): 45881.

6) Kitashita M, Suzuki K.

Factors influencing the hope of patients with advanced cancer while receiving cancer pharmacotherapy
Japan Journal of Nursing Science, 2025; 32(1): 1-12.

7) Kosho Togei, Hiroaki Shima, Yoshihiro Hirai, Ken Tanaka, Hozumi Kumano, Toshito Yasuda, Masashi Neo.

Relationship Between the Relative Length of the Second Metatarsal and Occurrence of Metatarsalgia in Patients With Hallux Valgus
Foot Ankle Int, 2025; 46(2): 217-226.

8) Kristen Abbott-Anderson, Yoko Higami, Saika Yamauchi, Pat Chung, Ken Hok Man Ho, Qëndresa Thaqi, Rahel Naef.

Family Caregivers' Experiences of Long-Term Care Residents Living With Dementia During the COVID-19 Pandemic: An International Grounded Theory Study
J Adv Nurs, 2025.

9) Mari Tsuboi, Sayoko Teraguchi, Chiharu Akazawa, and Yasuhiro Tsuda.

Difficulties and Management of Oral Self-care in Patients with Physical Symptoms in the Early Period Following Hematopoietic Stem Cell Transplantation
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(2): 63-84.

10) Masako Yamanaka, Kumi Suzuki, Yoko Minamiguchi, Naoko Hayashi, Tomoki Doi, Yasuhiro Tsuda, Eiko Yamauchi, Akiko Fukawa, Yasuhito Fujisaka, Yuko Tomari.

Perceptions of cancer education among middle and high school teachers and factors related to these perceptions
School Health, 2024; 20(1): 1-13.

11) Ryo Horiike, Tomoya Itatani, Hisao Nakai, Daisuke Nishioka, Aoi Kataoka, Yuri Ito.

Using Spatial Scan Statistics and Geographic Information Systems to Detect Monthly Human Mobility Clusters and Analyze Cluster Area Characteristics
JMA J, 2024; 7(3): 319-327.

12) Sachiko Somaki, Yukie Majima, Seiko Masuda, Yumiko Nakamura.

An Examination of the Usefulness of a Human Resource Development Tool of New Visiting Nurses
Stud Health Technol Inform, 2024; 24(315): 649-650.

13) Sachiko Somaki, Yukie Majima, Seiko Masuda, Yumiko Nakamura.

Development of a Proposed Human Resource Promotional Tool to Visualize Skills Acquired by Recently Appointed Nurses at Home-Visit Nursing Stations in Japan
International Journal of Learning Technologies and Learning Environments, 2024; 7(1): 1-16.

14) Sanae Ninomiya, Hisayo Okayama, Kiyoko Naito, Shigehiro Morikawa.

Effects of Unsupervised Gluteal Muscle Contraction Versus Unsupervised Pelvic Floor Muscle Training in Women with Symptoms of Stress Urinary Incontinence: A Randomized Controlled Trial
Int Urogynecol J, 2024; 35(9): 1829-1837.

15) Sandy Richardson, Louisa Krueger, Anna Richardson, Elizabeth Coleman, Sarah Ogilvie, Kara De La Fosse, Itoko Tobita, Anna van der Wath, Meritxell Mondejar-Pont, Anita Mitterdorfer, Hans-Peter de Ruiter.

Collaborative international nursing writing group: A nonpatriarchal approach
Creat Nurs, 2024; 30(4): 299-307.

16) Sasaki, A., Chikazawa, S., Kumiko, N., Takako, T., Keiko, H., Yasufumi, I. and Nobutane, I.

Development and Evaluation of 3D Delivery Animation Software Designed to Improve the Mother's and Spouse's Satisfaction with Delivery
Health, 2024; 16: 439-458.

17) Suzuki K, Hayashi N, Yamanaka M, Minamiguchi Y, Yamauchi E, Fukawa A, Tsuda Y, Fujisaka, Doi T, Tomari Y.

Cancer awareness and its related factors among junior high and high school teachers in Japan: a cross-sectional survey
Arch Public Health, 2024; 82(1): 71.

18) Terao N, Suzuki K.

Development and evaluation of a program to promote self-management of blood glucose and side effect in patients with type 2 diabetes undergoing chemotherapy for cancer
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(1): 35-42.

19) Tomoya Itatani, Michio Kojima, Junichi Tanaka, Ryo Horiike, Kuniomi Sibata, Ryohei Sasaki.

Operational Management and Improvement Strategies of Evacuation Centers during the 2024 Noto Peninsula Earthquake—A Case Study of Wajima City
Safety , 2024; 10(3): 1-16.

20) Toshimi Kawakita, Yasuko Hosoda.

Work-family enrichment among parent nurses: a cross-sectional scale development and validation study
BMC Nurs, 2024; 23(1): 665.

21) Tsuda Y, Suzuki K, Minamiguchi Y, Yamanaka M, Doi T, Tomari Y, Hayashi N, Yamauchi E, Fukawa A, Fujisaka Y

Awareness of cancer and its associated factors for parents of adolescents and young adults A cross-sectional study
Medicine, 2024; 103(27): e38734.

22) 秋田 奈々、南口 陽子、鈴木 久美.

抗がん薬治療の中止の意思決定における進行がん患者および家族の情報ニーズと体験：文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 105-112.

23) 伊藤 英智、安田 稔人、飛田 高志、森内 宏充.

スポーツによる距骨骨軟骨損傷を伴う足関節内側・外側両側靭帯損傷の一例
日本足の外科学会雑誌, 2024; 45(1): 299-302.

24) 岩浪 睦、竹村 淳子、鈴木 美佐.

発達障害のある子どもが通う教育機関における支援についての文献検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 113-121.

25) 植村 美奈子、鈴木 久美.

母親の乳がんを伝えた後の思春期の子どもの反応と子どもへの関わり―母親の視点からとたえた子どもの反応に焦点をあてて―
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15(1): 75-87.

26) 北島 洋子、細田 泰子、根岸 まゆみ、片山 由加里、赤崎 芙美、土肥 美子、Kathie Lasater、Ann Nielsen.

ラサター臨床判断ルーブリック日本語版（LCJR-J）の信頼性と活用可能性の検討
日本看護科学会誌, 2024; 44: 228-238.

27) 草野 恵美子.

乳幼児健診の基本と保健師活動
あきた小児保健, 2024; (60): 17-26.

28) 倉橋 理香、竹村 淳子、鈴木 美佐.

国内外の低出生体重児を育てる母親のニーズと育児支援の現状に関する文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 18-40.

29) 小林 道太郎.

ケアリングの倫理的性格について: その人のためとはどういうことか
大阪医科薬科大学紀要 人文研究, 2025; (56): 1-21.

30) 酒向 なつみ、近澤 幸.

母親の産後ケア事業に対する認識についての文献検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 154-167.

31) **佐野　照恵、鈴木　久美、南口　陽子.**

免疫チェックポイント阻害薬を受けるがん患者の QOL とその関連要因：文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 168-178.

32) **澤本　さおり、鈴木　美佐、竹村　淳子.**

関節型若年性特発性関節炎の学童に在宅注射を行う親が導入初期に抱える困難と対処
日本小児看護学会誌, 2024; 33: 229-238.

33) **鈴木　久美、南口　陽子.**

治療前後における頭頸部がん患者の心理的苦痛と関連要因：文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 41-54.

34) **鈴木　美佐.**

思春期の子どもにおける食物アレルギーの心理社会的影響に関する文献検討
大阪医科薬科大学医学会雑誌, 2024; 83(1): 98-111.

35) **関口　瑛里、船越　明子、藤本　浩一、山岡　由実.**

急性期患者の身体的拘束の早期解除に向けて精神科中堅看護師が感じた困難とその対処、および工夫
日本精神保健看護学会誌, 2024; 33(2): 20-29.

36) **竹村　淳子、泊　祐子、古株　ひろみ.**

思春期の重症心身障がい児を対象とした看護師が行う放課後デイサービスにおける活動
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 65-74.

37) **近澤　幸、佐々木　綾子、土手　友太郎.**

コロナ禍において妊娠と出産を経て 4 か月児を育てる母親と父親の実態調査（第 1 回と第 2 回調査の比較）
大阪医科薬科大学医学会雑誌, 2024; 83(2): 49-61.

38) **近澤　幸、西村　美津子、緒方　敏子、吉田　道子、山下　典子、英　都貴子、西田　小百合、佐々木　綾子.**

高槻地区周産期地域連携の会における活動の成果と今後の課題
大阪母性衛生学会雑誌, 2024; 59(1): 26-30.

39) **津田　真弥子、山田　恵美子、井上　靖子、松尾　夕子、間中　麻衣子、松上　令子.**

新型コロナウイルス感染症患者汚染区域で業務を行う看護職の感じる快適度と気分－3 種類の個人防護服に対して VAS・気分調査票を使用した比較
日本看護学会誌, 2024; 19(2): 131-134.

40) **寺口　佐與子、赤澤　千春.**

リンパ浮腫患者の握力と弾性着衣圧の検討
日本リンパ浮腫治療学会雑誌, 2024; 7(1): 50-53.

41) **野口　美穂、川北　敬美、池西　悦子.**

新人看護師の職場適応に関連する要因についての文献検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15(1): 142-153.

42) **日髙　朋美.**

看護師のメタ認知の概念分析
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 3-17.

43) **藤谷　萌、石井　志摩、河野　加代子、野瀬　美郷、間中　麻衣子、松上　令子、吉田　雅代.**

新型コロナウイルス感染症専門病棟における終末期患者のオンライン面会に対する看護師の考えと今後の課題
日本看護学会誌, 2024; 19(1): 110-114.

44) **松枝　加奈子.**

産後の母親の睡眠に関する介入研究の系統的文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15(0): 133-141.

45) **松上　美由紀、池西　悦子、土肥　美子.**

副看護師長の看護管理者コンピテンシーの特徴と関連要因の検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025.3.; 15(1): 55-64.

46) **間中　麻衣子、本間　裕子.**

ストレス対処能力の向上をめざした産後うつ予防の看護実践―妊娠中期から産後 1 か月までの看護実践群と通常ケア群の経過から―
日本看護学会誌, 2024; 19(2): 112-116.

47) **間中　麻衣子、笹野　奈菜、近澤　幸、佐々木　綾子.**

日本における悪露に関連した衛生用品の課題についての文献研究
大阪母性衛生学会雑誌, 2024; 59 (1): 10-14.

48) **間中　麻衣子、松枝　加奈子、近澤　幸.**

日本における周産期ボンディングおよびボンディング障害に関する文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 122-132.

49) **間中　麻衣子、佐々木　綾子.**

妊婦の抑うつ予防をめざしたモバイルアプリケーションに対する適切性の検討　医療専門職者による意見を踏まえて
大阪医科薬科大学医学会雑誌, 2024; 83(2): 97-103.

50) **安田　稔人.**

アキレス腱症・アキレス腱付着部症の保存療法、手術療法
日本臨床スポーツ医学会誌, 2024; 32(3): 354-358.

51) **安田 稔人.**

新鮮アキレス腱損傷の治療方針　保存療法 vs 手術療法
Monthly Book Orthopaedics , 2024; 37(11): 1-5.

52) **山岡 由実.**

自律性自我を促進するセルフケア看護介入の現在と未来
PAS セルフケアセラピィ看護学会誌, 2024; 6(0): 3-6.

53) **山田 忍、池西 悦子、川北 敬美.**

臨地実習における教材化に関する文献検討
天理大学学報（医療編）, 2025; 76(4): 11-23.

54) **山埜 ふみ恵、三木 明子.**

定年退職後のシニア世代におけるヘルスプロモーション行動尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 88-104.

Ⅴ．社会活動

赤崎芙美	看護キャリアサポートセンター，講師・補助 大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会），会計 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，事務局
赤澤千春	日本看護科学学会，代議員・査読委員 日本看護研究学会，評議員・査読委員 日本看護学教育学会，評議員・査読委員 日本移植・再生医療看護学会，理事 日本看護研究学会第 50 回学術集会，運営委員 大阪医科薬科大学病院，リンパ浮腫看護外来 看護キャリアサポートセンター，講師 滋賀県立大学人間看護学研究科博士後期課程開設，検討委員 大阪府看護協会「2024 年度看護基礎教育を考える会」，委員
有田弥棋子	清恵会医療専門学院看護学科 成人看護学（終末期看護），講師
有吉真里菜	大阪医科薬科大学家族看護研究会，運営 大阪医科薬科大学家族看護セミナー，運営 在宅看護研究会，運営
近澤　幸	日本母性看護学会，査読委員 日本母性看護学会誌，査読 大阪医科薬科大学英文誌（Bulletin of OMPU），査読 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 Health，review 第 26 回日本母性看護学会学術集会，査読 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員 高槻地区周産期地域連携の会，事務局 大阪医科大学大学院看護学研究科母性看護学領域修了生の会「サクラの会」，運営 大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営 関森みゆき，定方美恵子，関島香代子，小澤淳子，井村真澄，柳生田紀子，西方真弓，佐々木綾子，竹明美，近澤幸，中込さと子，小林康江，高岡智子，横尾京子，村上真理，藤本紗央里（2024）．ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術，荒木奈緒，中込さと子，小林康江（編），2 章 17 節帝王切開時のケア，131-137，メディカ出版，大阪 池西静江，田中公章，近澤幸他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 2 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪 池西静江，田中公章，近澤幸他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪
土井智生	大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，センター員，講師 カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），運営 大阪医科薬科大学看護学部オープンキャンパス，模擬講義，講師 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員

土手友太郎	高槻市役所，産業医 健康たかつき 21 推進ﾈｯﾄﾜｰｸ会議，委員 高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会，委員 高槻市ホテル等建築審議会，委員 高槻市都市開発審議会，委員 厚生労働省（大阪検疫所)，医員 日本職業災害医学会，評議員， 日本衛生学会，評議員， カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），運営・講師 たかつき NPO 協働フェスタ（大阪医科薬科大学看護学部ブース），企画・運営
濱浦弘美	特記なし
日髙朋美	大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師・補助 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員
樋上容子	日本看護科学学会雑誌和文誌編集委員会，編集委員 日本老年看護学会国際交流委員会，委員 日本老年看護学会国際交流委員会企画オンラインセミナー，座長 日本老年看護学会日本老年看護学雑誌，査読委員 日本老年看護学会第 30 回学術集会，査読委員 Geriatrics & Gerontology International，査読者 Journal of Pain and Symptom Management，査読者 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読者 大阪大学大学院医学系研究科，招聘教授 なないろ訪問看護ステーション，認知症ケアアドバイザー The Japan Centre for Evidence Based Practice，委員 社会福祉法人成光苑研究発表会，審査委員 高槻市地域包括ケア推進会議，委員
堀池　諒	日本地域看護学会健康危機支援委員会，委員 日本地域看護学会次世代育成推進委員会，委員 全国保健師教育機関協議会健康危機管理対策委員会，委員 訪問看護 BCP 研究会，委員 データサイエンスに基づく健康になれるまちづくり研究，コンソーシアムメンバー 　医工薬連環科学教育研究機構（関西大学・大阪医科薬科大学)，構成員 厚生労働省令和 6 年度保健師等ブロック別研修会（近畿ブロック），講師 厚生労働省令和 6 年度保健師等ブロック別研修会（関東甲信越ブロック），講師 第 70 回四国公衆衛生学会総会令和 6 年度 地域保健行政従事者研修会，講師 日本看護研究学会第 50 回学術集会，シンポジスト 関西大学・大阪医科薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構機構運営 第 20 回医 　工薬連環科学教育研究機構機構シンポジウム，パネリスト 京都市右京区地域包括支援センター研修，講師

堀池　諒	一般社団法人高知県訪問看護連絡協議会 令和 6 年度第 4 回訪問看護管理研修(感染対策編)，講師 国際医療福祉大学大学院 公衆衛生看護学研究会，講師 堀池諒（2024)，保健師活動を地図で見える化！GIS を使いこなそう・5 能登半島地震における「保健師活動支援 Web GIS」の作成，医学書院，東京 堀池諒（2024)，保健師活動を地図で見える化！ GIS を使いこなそう・6（最終回） GIS と保健師のすぐそこにある未来，医学書院，東京
池西悦子	日本看護科学学会，代議員・会則等委員会委員 日本看護管理学会，評議員・専任査読委員 日本看護管理学会第 28 回学術集会，口演座長 日本看護研究学会，専任査読委員 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会，世話人 日本看護学教育学会，評議員・専任査読委員 日本看護学教育学会第 35 回学術集会，企画委員 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，学会長 日本看護学会誌，専任査読委員 日本看護学教育評価機構，評価員 日本臨床整形外科学会倫理審査委員会，委員 岐阜県立看護大学大学院看護学研究科「看護管理論」，非常勤講師 兵庫県立大学大学院看護学研究科「看護教育論」非常勤講師 愛知県看護研修研究センター実習指導者講習会フォローアップ研修，講師 京都私立病院協会看護中間管理者研修 I，講師 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 池西悦子，川北敬美，山田忍，草間賢介（2024）．看護教育，看護教育学のススメ，602-605，医学書院，東京.
勝山あづさ	日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員 医療の質・安全学会第 20 回学術集会，企画運営委員
川北敬美	日本看護管理学会誌，編集委員 日本看護科学学会和文誌，専任査読委員 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読者 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読者 第 36 回日本看護教育学会学術集会，企画委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 第 28 回日本看護管理学会学術集会編集委員会企画，企画・運営 池西悦子，川北敬美，山田忍，草間賢介（2024）．看護教育，看護教育学のススメ vol.9 これまでの看護を振り返り，これからの看護に生かす　大阪医科薬科大学大学院，65（5)，610-613，医学書院，東京.
小林道太郎	臨床実践の現象学会，事務局・編集委員長 中部哲学会，常任委員・編集委員

倉橋理香	カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），企画・運営，講師 第 11 回市民看護講座（看護学実践センター主催・高槻市後援），企画・運営 大阪医科薬科大学家族看護研究会，企画・運営 大阪医科薬科大学家族看護研究会看護セミナー，企画・運営 日本小児看護学会，第 34 回学術集会，実行委員 人材育成セミナー，企画・運営 高槻市×大阪医科薬科大学看護学部 もてきん体操普及動画作成，運営 つながろう難病キャンプ in 関西，ボランティア
草野恵美子	日本小児保健協会若手による小児保健検討委員会，委員 日本地域看護学会教育委員会，委員 全国保健師教育機関協議会教育課程委員会，委員 一般社団法人日本看護系大学協議会データベース委員会，委員 日本地域看護学会「日本地域看護学会誌」，査読委員 日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」，査読委員 日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」，査読委員 日本看護科学学会和文誌，選任査読委員 令和 6 年度奈良県中和保健所母子保健推進会議，講師 奈良県中和保健所「妊娠・出産・育児のための地域包括ケアシステムづくり保健所・市町村協働プロジェクト」，アドバイザー 高槻市子ども未来部子ども保健課 河内長野市健康推進課，研究協力
間中麻衣子	大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 大阪医科薬科大学看護学部同窓会役員，会計監査 大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営 高槻地区周産期地域連携の会，事務局補佐 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科母性看護学領域修了生の会「サクラの会」，運営
松枝加奈子	第 26 回日本母性看護学学会学術集会，実行委員 看護実践研究センター主催継続セミナー，企画/運営 たかつき NPO 協働フェスタ（大阪医科薬科大学看護学部ブース），企画・運営 医療財団法人足立病院 病棟会臨床講義，講師 第 11 回市民看護講座（看護学実践センター主催・高槻市後援），企画・運営 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員 第 34 回日本乳幼児医学・心理学会，シンポジスト Sleep and Biological Rhythms，査読 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科母性看護学領域修了生の会「サクラの会」，運営 大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営
真継和子	日本看護研究学会，評議員 日本看護系大学協議 JUNPU ナースプラクティショナー資格認定委員会，委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会，幹事

真継和子	日本家族看護学会編集委員会，編集委員 日本看護学教育学会，専任査読者 ヒューマンケア研究学会誌，専任査読委員 大阪医科大学看護研究雑誌，査読者 第 35 回日本看護学教育学会学術集会，企画委員 第 36 回日本看護学教育学会学術集会，事務局長 日本看護研究学会第 51 回学術集会，企画委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会，世話人 四條畷学園大学，非常勤講師 和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科，非常勤講師 京都私立病院協会看護中間管理職研修，講師 社会医療法人愛仁会高槻病院看護研究，講師 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪医科薬科大学家族看護研究会，企画・運営， 大阪医科薬科大学家族看護研究会家族看護セミナー，企画・運営 倫理事例検討会（看護学研究科修了生主催），アドバイザー
南口陽子	大阪大学大学院医学系研究科，招へい教員 日本がん看護学会誌，査読委員 第 40 回日本がん看護学会学術集会，企画委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 南口陽子（2025）．第Ⅷ章 事例で考えるがん看護，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学 改訂第 2 版，314-324，南江堂，東京． 南口陽子（2025）．第Ⅱ章 4.消化器系の機能障害を有する患者の看護 1)嚥下機能が障害された患者への看護，3)排泄（排便）機能を喪失した患者への看護，4)代謝機能が障害された患者への看護，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，123-125/129-133，南江堂，東京．
中原洋子	日本公衆衛生看護学会誌，編集委員 大阪市こども・子育て支援会議教育・保育・子育て支援部会，委員 保健師による親子ヘルス＆サポート推進協会研修，委員長 大阪医科薬科大学看護研究雑誌,査読 たかつき NPO 協働フェスタ（大阪医科薬科大学看護学部ブース），企画・運営 こども家庭ソーシャルワーカー研修，講師 ベルランド看護助産大学校講義，講師 大阪府内保健師児童虐待予防研修，企画・運営・司会 和泉京子,上野昌江,中原洋子ら（2025）.公衆衛生看護学第 4 版，和泉京子,上野昌江（編），家庭訪問 161-169,母子保健活動 248-269，中央法規，東京．

二宮早苗	看護理工学会，評議員・学術委員 第 12 回看護理工学会学術集会，運営委員 日本老年泌尿器化学会，評議員 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，事務局 日本看護研究学会近畿北陸地方会，世話人 日本看護研究学会近畿北陸地方会セミナー，委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 BMC Women's Health，査読 International Urology and Nephrology，査読 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読
新田和子	第 2 回市民公開講座（大阪医科薬科大学主催・高槻市後援），司会 カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），講師 神戸市看護大学大学院「コンサルテーション論」，非常勤講師
野口美穂	特記なし
野瀬珠美	日本手術看護学会，理事 日本手術看護学会　認定看護師委員会，委員 日本手術看護学会　教育統括委員会，委員 日本手術看護学会　CN ワーキンググループ，リーダー 日本手術看護学会　実践指導看護師認定審査委員会，委員 日本麻酔科学会 周術期管理チーム認定試験問題対策ワーキンググループ，メンバー 日本手術看護学会 認定看護師企画 第 2 回情報交換会災害対策，企画運営 第 29 回日本小児麻酔科学会，看護セッション座長 第 38 回日本手術看護学会年次大会 手術看護認定看護師実践報告会，司会 日本慢性期医療協会 研究プロジェクト「慢性期医療の質の評価・向上に関する調査研究」，分担研究者 医療の質・安全学会第 20 回学術集会，企画運営委員 野瀬珠美（2024）．この患者さん，どの情報が重要？！書きこみ式ワークシートで楽しく学ぶ！術前アセスメント STEP BY STEP，第 39 巻 10 号連載．オペナーシング，メディカ出版．東京．
大橋尚宏	日本腎臓リハビリテーション学会診療ガイドライン作成グループ，委員 日本腎臓リハビリテーション学会 SR チーム，サブリーダー 日本腎不全看護学会，専任査読委員 日本腎不全看護学会研究委員会，委員 日本移植・再生医療看護学会，専任査読委員 日本看護研究学会第 50 回学術集会，実行委員 いえすリハビリ訪問看護ステーション，顧問 奈良学園大学保健医療学部看護学科「地域・在宅看護学概論」「地域・在宅看護援助論」，非常勤講師（科目責任者） 日本看護研究学会第 50 回学術集会シンポジウムⅡ，座長

大橋尚宏	第 27 回日本腎不全看護学会学術集会研究委員会主催研究相談コーナー，企画・運営 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 日本腎不全看護学会第 3 回研究倫理セミナー，企画・運営 日本腎不全看護学会第 4 回研究倫理セミナー，企画・運営 日本腎不全看護学会第 4 回研究倫理セミナー，講師 保存的腎臓療法（CKM），公益財団法人医療科学研究所 第 33 回 2023 年度研究助成研究分担者 日本腎不全看護学会研究委員会 保存期ＣＫＤ実態調査，メンバー 大橋尚弘（2024）．疾患別看護過程ポケットブック⑬胃がん，146-157，学研，東京． 大橋尚弘（2024）．ナーシング・スキル動画講義シリーズ「外来看護師が知っておくべき社会資源」（10 分×4 コマ），エルゼビア・ジャパン，東京． 大橋尚弘（2024）．認知症／ACP／エンドオブライフ・ケア etc. いまこそ考えたい高齢透析患者と家族のケア：キーワードでみる高齢透析患者とケア 高齢透析患者の重要キーワード②，726-729，メディカ出版，大阪．
酒向なつみ	大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営
笹野奈菜	特記なし
杣木佐知子	大阪公立大学看護システム先端技術研究所，客員研究員 教育システム情報学会社員・関西支部運営委員・研究会委員 医療系 e ラーニング全国交流会，世話人 教育システム情報学会第 1 回研究会，企画運営 第 49 回教育システム情報学会全国大会，企画セッション座長 第 19 回医療系 e ラーニング全国交流会，企画運営 教育システム情報学会学生研究発表会，審査員 教育システム情報学会 2024 年度特集論文研究会，閲読・審査員 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員
鈴木久美	日本がん看護学会，代議員・理事・理事長 日本慢性看護学会，評議員 日本看護研究学会，評議員 聖路加看護学会，評議員 日本骨転移研究会，理事 乳房健康研究会，理事 日本がん看護学会誌，専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌，専任査読委員 日本慢性看護学会誌，専任査読委員 日本看護研究学会誌，専任査読委員 日本看護学会学術集会抄録，選考委員 BMC Cancer peer，reviewer 愛知県立大学大学院，非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院，非常勤講師

鈴木久美	京都橘大学大学院，非常勤講師 乳がん看護認定看護師教育課程，非常勤講師 がん薬物療法看護認定看護師教育課程，非常勤講師 公益社団法人日本看護協会 神戸研修センター認定看護師教育課程教員会，委員 一般社団法人日本看護系大学協議会，理事 一般社団法人日本看護学教育評価機構評価委員会，委員 公益財団法人大阪対がん協会 2024 年度がん研究助成奨励金選考委員会，委員 第 39 回日本がん看護学会学術集会編集委員会企画研修会，講師 第 39 回日本がん看護学会学術集会教育セミナー，座長 第 40 回日本がん看護学会学術集会，企画委員 大阪 QOL の会（患者会），世話人 南江堂月刊誌「がん看護」，アドバイザー 鈴木久美（2025）．第Ⅲ章 成人期にある人の健康，林　直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田　恵編，看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 5 版，82-86，90-103，123-133，南江堂，東京 鈴木久美（2022）．第Ⅳ章 成人期にある人を看護するための基本的な考え方，林直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田　恵編，看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 5 版，170-175，194-200，南江堂，東京 鈴木久美（2022）．第Ⅴ章 健康状態に応じた看護，林　直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田　恵編，看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 5 版，290-301，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．第Ⅰ章 がん看護とは，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学 改訂第 2 版，1-10，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．第Ⅲ章 1．がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 A. 診断期にあるがん患者の特徴と援助のポイント，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学，78-82，南江堂，東京 鈴木久美（2020）．第Ⅲ章 1．がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 C. 再発・転移がんの診断・治療期にある患者の特徴と援助のポイント，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学，86-90，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．なぜ消化器疾患について学ぶのか，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE　病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，3，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．序章 2．日本の医療の現状とこれからのあり方，石松伸一，林直子，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE　病態・治療論［1］病態・治療総論 改訂第 2 版，7-8，南江堂，東京
鈴木美佐	日本看護研究学会近畿北陸地方会，世話人 日本看護研究学会 第 50 回学術集会，実行委員 日本小児看護学会 第 34 回学術集会 ，実行委員

鈴木美佐	大阪医科薬科大学 家族看護研究会 ，企画・運営 大阪医科薬科大学 家族看護研究会 家族看護セミナー企画・運営 小児看護研究会（大学院博士前期・後期課程，修了生合同ゼミ）運営 PMEC 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム　スタッフ研修会，企画・運営 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム スタッフ研修会，ファシリテーター 愛仁会リハビリテーション病院，看護研究指導 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪医科大学看護研究雑誌，査読 大阪医科薬科大学英文誌 Bulletin of OMPU，査読 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読 池西静江，田中公章，鈴木美佐他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 1 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪. 池西静江，田中公章，鈴木美佐他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪. 池西静江，田中公章，鈴木美佐他（2025）．メディカコンクール 2025 第 115 回看護師国家試験対策テスト第 1 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪.
竹村淳子	小児看護研究会（大学院博士前期・後期課程，修了生合同ゼミ）,運営 日本家族看護学会誌，専任査読者 大阪医科大学看護研究雑誌，査読者 日本小児看護学会誌，査読者 日本小児看護学会第 34 回学術集会，企画委員 大阪医科薬科大学家族看護研究会，企画・運営 大阪医科薬科大学家族看護セミナー，企画・運営 日本看護研究学会第 50 回学術集会，実行委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪府看護協会，施設代表者
寺口佐與子	一般社団法人 日本看護系大学協議会会員校 関西・近畿ブロック，災害連携教員 日本移植・再生医療看護学会，第 6 期 理事・評議員 日本移植・再生医療看護学会 セミナー委員会，副委員長 日本リンパ浮腫治療学会，評議員 日本リンパ浮腫治療学会 総務委員会 SNS 小委員会，委員 リンパ浮腫 Net，副代表 リンパ浮腫 Net 大阪地区会，世話役 第 36 回日本看護教育学会学術集会，企画委員 第 24 回 リンパ浮腫 Net 定例会，世話役 第 2 回日本移植・再生医療看護学会セミナー，主催 日本看護研究学会第 50 回学術集会，実行委員

寺口佐與子	第 7 回　リンパ浮腫 Net 兵庫地区会，世話役 第 3 回日本移植・再生医療看護学会セミナー，主催 2024 年度 リンパ浮腫 Net 圧迫療法研修会，世話役 大阪医科薬科大学病院，リンパ浮腫看護外来 寺口佐與子（2024）リンパ浮腫外来で必要な基礎知識２：リンパドレナージ：今すぐ始めるリンパ浮腫治療，PEPARS，13(2)，14-19，全日本出版協会．東京
飛田伊都子	医療の質・安全学会，理事 日本腎臓リハビリテーション学会，幹事 医療行動分析学研究会，幹事 日本行動分析学会，監事・代議員 医療の質・安全学会　学術委員会，委員長 医療の質・安全学会　教育委員会，委員 医療の質・安全学会　医療の質・安全学会誌編集委員会，委員 医療の質・安全学会　医療の質・安全調査研究倫理審査委員会，委員 日本看護科学学会　看護倫理検討委員会，委員 日本腎臓リハビリテーション学会　編集・ガイドライン委員会，委員 日本腎臓リハビリテーション学会　指導士認定制度委員会担当，幹事 日本腎不全看護学会誌，専任査読者 第 19 回医療の質・安全学会学術集会，査読委員 令和 6 年度 京都府看護協会　認定看護管理者教育課程ファーストレベル，講師 看護サービスの質管理，講師 新生児集中ケア認定看護師会，講師 JA 静岡厚生連 静岡厚生病院．医療安全研修会，講師 医療の質・安全学会　2024 年度医療安全管理者養成研修，司会・グループディスカッションファシィリテーター 5th Japan-Taiwan Neutron Capture Therapy Academic Conference of Elite, Nursing Care of BNCT Patient，座長 第 19 回医療の質・安全学会学術集会　シンポジウム，座長兼演者 第 19 回医療の質・安全学会学術集会　パネルディスカッション，演者 日本慢性期医療協会 研究プロジェクト「慢性期医療の質の評価・向上に関する調査研究」，主任研究者 第 38 回日本保健医療科学会学術大会，実行委員 第 38 回日本保健医療科学会学術大会　ワークショップ，演者 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会　ジョイントシンポジウム，シンポジスト Creative Nursing, Guest Editor. 京都大学大学院，非常勤講師 奈良県立医科大学，非常勤講師 愛知県立大学，非常勤講師

飛田伊都子	日本赤十字豊田看護大学，非常勤講師
津田泰宏	日本内科学会認定内科医，総合内科専門医，指導医 日本消化器病学会専門医，近畿支部評議員，指導医 日本肝臓学会認定専門医，西部会評議委員，指導医 京都橘大学 健康科学部「臨床病態学」，非常勤講師 大阪保健医療大学「内科学」「臨床検査医学」，非常勤講師 関西福祉科学大学「病理学」，非常勤講師 大阪信愛学院大学「疾病治療論Ⅰ」，非常勤講師 看護学系漢方教育研究会，世話人 津田泰宏（2025）．第Ⅰ章 消化器の機能と障害，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，5-42，南江堂，東京． 津田泰宏（2025）．第Ⅱ章 消化器疾患の診断・治療，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，43-103/113-122，南江堂，東京． 津田泰宏（2025）．第Ⅲ章 消化器疾患 各論，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，135-282/326-327，南江堂，東京．
内田浩江	日本協同教育学会，広報委員 日本協同教育学会，一日研修講師 『気軽な勉強会 医療』，企画運営 認知症予防講座・歌唱療法セミナー，企画・運営 国際ケアリング学会，選挙管理委員 日本協同教育学会第 20 回大会，座長 近畿大学附属看護専門学校，非常勤講師 2025 大阪マラソン，ボランティア
山埜ふみ恵	高槻市社会福祉協議会，学生ボランティア派遣調整 公衆衛生看護学分野保健師卒業生同窓会，運営 山埜ふみ恵（2024）．老年精神科医のための知っておきたい社会資源と法令の知識（10）認知症施策の推進における地域保健の役割，老年精神医学雑誌（編），36（1），72-79，ワールドプランニング，東京
山岡由実	PAS セルフケアセラピィ看護学会，代表理事 日本精神保健看護学会,災害対策委員会，委員 日本看護学教育評価機構，評価員 PAS セルフケアセラピィ看護学会,第 7 回大会，企画委員 日本看護学教育学会,第 36 回学術集会，企画委員 日本統合失調症学会,第 19 回日本統合失調症学会，企画委員 大阪医科薬科大学医学会雑誌，編集委員 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読者

山岡由実	神戸看護学会誌，専任査読委員 PAS セルフケアセラピィ看護学会 第 7 回大会 シンポジウム，座長 日本精神保健看護学会，第 34 回学術集会,指定ワークショップ，企画・運営 日本看護科学学会,第 44 回学術集会，交流集会，企画・運営 日本精神保健看護学会災害対策委員会主催，研修会「Psychological Zero Aid」，企画・運営 精神看護・CNS 研究会，企画・運営 リエゾンの会，世話人
山内彩香	日本看護研究学会　近畿・北陸地方会，事務職（庶務担当） 1st International Day，運営
安田稔人	日本足の外科学会，理事 日本足の外科学会認定医委員会担当，理事 日本スポーツ整形外科学会，代議員， 日本整形外科学会専門医資格委員会，委員長 日本靴医学会，評議員 中部日本整形外科災害外科学会，評議員 関西臨床スポーツ医・科学研究会，幹事 近畿足の外科研究会，世話人 アキレス腱断裂診療ガイドライン，策定委員 American Orthopaedic Foot and Ankle Society (AOFAS) international member Editorial Board of the Journal of Orthopaedic Science 日本整形外科学会，専門医・スポーツ医・リウマチ医・運動器リハビリテーション医 日本スポーツ協会，公認スポーツドクター 日本リウマチ学会，リウマチ専門医 日本足の外科学会，認定足の外科認定医 ロコモアドバイスドクター 日本スポーツ整形外科学会 教育研修講演，座長 第 143 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会 教育研修講演，座長 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会シンポジウム，座長 第 49 回日本足の外科学会学術集会パネルディスカッション，座長 第 97 回日本整形外科学術総会，座長 第 11 回市民看護講座，講師 大阪医科薬科大学病院 整形外科，外来診療・手術 安田稔人(2024)．整形外科の病態と診察・診断，井尻慎一郎（編），体表解剖と痛みやしびれから想定される病態　下腿，105-108，中山書店，東京 安田稔人(2024)．整形外科保存治療ハンドブック，竹下克志（編），アキレス腱断裂，131-131，中外医学社，東京

編集後記

本年度は，大学統合 4 年目となる節目の年でした．大阪医科薬科大学看護学部・看護学研究科として地域や社会に発信する様々な活動が記録されました．年報編集委員会では，3 学部統合のスタイルを検討しながら，予算や業務の省力化に取り組み，「大阪医科薬科大学看護学部年報 2024 年度」を発刊することができました．

本報告書が，今後の活動や自己点検に役立てていただけましたら幸いです．最後に，年報作成にご協力いただいた教職員，関係者各位に深くお礼申し上げます．

2025 年 7 月

大阪医科薬科大学看護学部　年報編集委員会

大阪医科薬科大学看護学部 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科
2024 年度年報

発行日　令和 7 年 7 月 31 日
発　行　大阪医科薬科大学看護学部 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科
〒569-0095　大阪府高槻市八丁西町7－6
編　集　看護学部 年報編集委員会
寺口佐與子　森　瞳子　土井智生　倉橋理香　城山敏江
制　作　知人社

大阪医科薬科大学看護学部・大阪医科薬科大学大学院看護学研究科　2024 年度年報　目次

はじめに

Ⅰ．沿革 ……2

Ⅱ．看護学部
１．教員組織
1）教員構成および教員数 ……4
2）教員の補充について ……4
２．年間事業
1）活動内容……5
2）2024 年度看護学部予算執行額……7
3）学生在籍数 ……7
4）学事一覧……8
３．運営と教育活動
1）運営組織…… 10
2）センター
（１）看護学実践研究センター…… 11
（２）看護学教育センター…… 15
（３）看護学学生生活支援センター…… 24
3）委員会
（１）カリキュラム委員会…… 31
（２）カリキュラム評価委員会…… 36
（３）実習委員会…… 37
（４）ウェブサイト委員会…… 41
（５）看護研究雑誌編集委員会…… 43
（６）予算委員会…… 44
（７）物品管理委員会…… 45
（８）就職支援委員会…… 47
（９）国家試験対策委員会…… 49
（10）看護学部年報編集委員会…… 54
（11）国際交流委員会…… 55
（12）障がい学生支援委員会…… 59
（13）本学部看護学生を対象とする研究審査会…… 60
（14）将来構想ワーキンググループ…… 61
（15）カリキュラムワーキンググループ…… 64
4）教育活動
（１）授業科目一覧…… 66
（２）各分野の教育活動…… 72

Ⅲ．看護学研究科
１．教員組織
1）教員構成および教員数 …… 88
２．年間事業
1）活動内容…… 88
2）2024 年度看護学研究科予算執行額…… 89
3）学生在籍数 …… 90
4）学事一覧…… 91
３．運営と教育活動
1）運営組織…… 93
2）委員会
看護学研究科大学院委員会…… 94
3）教育活動
（１）博士前期課程
①授業科目一覧……101
②修了者学位論文タイトル一覧……104
（２）博士後期課程
①授業科目一覧……105
②修了者学位論文タイトル一覧……106
Ⅳ．研究活動
１．研究実績
1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況 …… 108
2）各自の業績（外部資金獲得除く） ……112
Ⅴ．社会活動 ……120

はじめに

看護学部および看護学研究科では，建学の精神「至誠仁術」を体現する医療人の育成を使命とし，豊かな人間性と優れた看護実践力を兼ね備え，地域社会や国際社会に貢献できる創造的な看護職者や高度実践者，教育研究者の育成に取り組んでいます．コロナ収束後，多くの変化が生じる中で，北キャンパスでは学生たちの活気と笑顔が戻り，かつての賑わいが復活しました．一方，病院での看護学実習は感染対策を徹底しながら継続的に実施されています．また，コロナ禍を契機としたデジタル技術の進展や社会全体の IT 化の波を受け，看護学部や看護学研究科ではデジタル技術を活用した教育活動を推進し，学習効果の向上と教育の質の改善に努めています．

今年度，看護学部では，アドミッションポリシーに基づいた学生の受け入れをめざし，入試制度改革の検討を進めるとともに，2026 年度に導入予定の「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」への対応に向けたカリキュラムワーキンググループを設置しました．また，安全で安心な学生生活を支えるための対策にも重点を置いて活動してまいりました．さらに，国際交流も本格的に再開され，6 月末には米国ミネソタ州立大学マンケート校から学生 4 名と教員 1 名を初めて受け入れました．ミネソタ州立大学および台北医学大学の学生の滞在中には，「International Day」を開催し，多様な背景を持つ人々との交流を深めました．また，ベルギーのトマス・モア応用科学大学との協定締結も実現し，今後さらに活発な国際交流が期待されています．

看護学部は 2025 年に設立 15 周年を迎えますが，2024 年度は 89 名の学生が卒業し，これまでに 1,029 名の卒業生を輩出しました．一方，大学院看護学研究科は設立 10 周年を迎え，この 10 年間に博士前期課程から 69 名，博士後期課程から 44 名の修了生を輩出し，多くの優秀な高度実践者や教育研究者を育成してまいりました．卒業生や修了生は臨床現場や教育現場で活躍し，看護実践や看護教育の質向上に大きく貢献しています．

今後も未来社会「Society 5.0」で活躍する看護実践者および教育研究者の育成に力を入れるとともに，将来を見据えた学部および大学院教育の充実に努めてまいります．

看護学部長
看護学研究科長
鈴木　久美

Ⅰ．沿　革

沿　革

1927	（昭和　2）	年　2 月	財団法人大阪高等医学専門学校設置認可
1927	（昭和　2）	年　4 月	大阪高等医学専門学校開校認可（修業年限 5 年）
1929	（昭和 40）	年　3 月	大阪高等医学専門学校附属看護婦学校設立認可
1946	（昭和 21）	年　3 月	大阪医科大学設置認可（旧制大学）
1946	（昭和 21）	年　4 月	大阪医科大学予科設置
1948	（昭和 23）	年　2 月	大阪医科大学医学部開学認可
1951	（昭和 26）	年　3 月	学校法人大阪医科大学認可（組織変更による）
1952	（昭和 27）	年　2 月	大阪医科大学設置認可（新制大学）現在に至る
1952	（昭和 27）	年　3 月	大阪高等医学専門学校廃校
1959	（昭和 34）	年　3 月	大阪医科大学大学院医学研究科設置認可
1965	（昭和 40）	年　1 月	大阪医科大学進学課程設置認可
1978	（昭和 53）	年　4 月	大阪医科大学附属看護専門学校設置認可
1982	（昭和 57）	年　12 月	大阪医科大学附属看護専門学校 3 年課程（全日制）設置認可
2009	（平成 21）	年　10 月	大阪医科大学看護学部設置認可
2010	（平成 22）	年　4 月	大阪医科大学看護学部開設
2012	（平成 24）	年　3 月	大阪医科大学附属看護専門学校閉校
2013	（平成 25）	年　10 月	大阪医科大学大学院看護学研究科設置認可
2014	（平成 26）	年　4 月	大阪医科大学大学院看護学研究科開設
2016	（平成 28）	年　4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の法人合併，新法人「学校法人大阪医科薬科大学」設立
2021	（令和　3）	年　4 月	大阪医科大学と大阪薬科大学の統合により大阪医科薬科大学に名称変更

Ⅱ．看護学部

１．教員組織

1) 教員構成および教員数

教員定員は 46 名である.

令和 7 年 3 月 31 日現在

領域	分野	教員構成（カッコ内は定員数）					
		教授	准教授	講師	助教	助手※	合計
実践支援看護学	基礎看護学	1（1）	2（2）	0（0）	2（2）	1	6
	看護教育学	1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0	1
	人文社会学	1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0	1
療養生活支援看護学	急性期成人看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	慢性期成人看護学	1（1）	0（1）	1（0）	1（1）	0	3
	精神看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	老年看護学	1（1）	0（1）	1（0）	0（1）	0	2
	がん看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	臨床医学	2（2）	0（0）	0（0）	0（0）	0	2
地域家族支援看護学	小児看護学	1（1）	1（1）	0（0）	1（1）	0	3
	母性看護学・助産学	0（1）	1（3）	2（0）	1（1）	1	5
	在宅看護学	1（1）	1（1）	1（0）	0（1）	1	4
	公衆衛生看護学	1（1）	0（3）	2（0）	1（1）	1	5
	社会医学	1（1）	0（0）	0（0）	0（0）	0	1
計		14（15）	8（15）	7（0）	9（11）	4（5）	42（46）

※助手の定員は看護学部全体として 5 名

2) 教員の補充について

【採用】

令和 6 年 4 月 1 日付で， 講師 1 名（母性看護学・助産学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（基礎看護学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（母性看護学・助産学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（在宅看護学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（慢性期成人看護学）を採用した.

令和 6 年 4 月 1 日付で， 助手 1 名（公衆衛生看護学）を採用した.

【退職】

令和 6 年 3 月 31 日付で， 教授 1 名（母性看護学・助産学）が退職した.

令和 6 年 3 月 31 日付で， 助教 1 名（慢性期成人看護学）が退職した.

令和 6 年 6 月 30 日付で， 教授 1 名（老年看護学）が退職した.

【実習補助員の採用】

母性看護学・助産学（2 名）,老年看護学（3 名）,慢性期成人看護学（1 名）を各実習期間内で不定期雇用した.

２．年間事業

1）活動内容

看護学部では各センターや各委員会，看護学研究科では大学院委員会が中心となり年間の事業計画を立案し，教育および研究の質向上をめざし，教育活動や研究活動に取り組んだ．2024 年度に実施した主な事業を報告する．

（1）教育活動について

①学部教育の充実と教育環境の整備

令和 6 年（2024 年）度は，対面授業に一部オンデマンド型授業を取り入れて教育活動を展開した．また，学生の健康状態を確認しつつ，適宜，感染予防対策の強化を図るとともに，安全に講義・演習，実習ができるように学生および教員は気をつけた．

本学で力を入れている多職種連携教育は，教育センターが中心となり医学部と薬学部と連携して，多職種連携論「医療人マインド」（1 年），「医療と専門職」（2 年），「医療倫理」（3 年），「医療安全」（4 年）を全学年で実施し，講義や 3 学部間のグループワーク（GW）を通して，学生から肯定的意見が得られた．コロナ禍ではオンラインの GW であったが，今年度はすべて対面での GW が実施できたことから高評価が得られたと考える．「多職種連携 - 臨床カンファレンス」は，例年と同じように母性・精神・急性・慢性の 4 分野で実施された．

文部科学省の看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂への対応として，カリキュラム委員会を中心にカリキュラムワーキンググループを立ち上げ，現行カリキュラムの比較を行い，教育内容の過不足を確認し，課題を整理した．

教育環境整備として，学生から要望のあった出席端末を増設し，後期から各教室の 2 か所で出席登録が行えるように整備した．また，多くの方々からご支援をいただいている「看護学部教育環境整備のための募金」を有効活用して，演習室のミーティングボードを壁掛け型モニターに交換し，演習室の利便性を図った．さらに，UNIPA RX に更改し，学生の学習環境を整えた．

②安心で安全な学生生活の支援

学生が安心で安全な学生生活を送れるように，学生生活支援センターを中心に，災害対策マニュアルと学生の自殺防止対策のフローチャートの作成に取り組んだ．2018年に作成された看護学部の災害時（地震）対応簡易マニュアルや大学病院のマニュアルを組み入れて，看護学部災害対策マニュアル暫定版を作成し，学科会議で教員に周知を図った．

希死念慮を抱く学生への自殺防止対策として，日本学生相談学会のガイドラインを参考に，希死念慮を抱く学生への対応に関するフローチャートを作成した．また，学生の自死防止対策をテーマとしたFD講演会を開催した．

③入試制度の改革

令和 6 年（2024 年）度から指定校推薦と専願制推薦を導入し，志願者数は至誠仁術入試 14 名，指定校推薦入試 8 名，公募専願制推薦入試 52 名，公募併願制推薦入試 72 名，一般選抜 497 名，共通テスト利用選抜 127 名の総計 770 名で昨年度より若干増加した．また，アドミッションポリシーに合致した学生を選抜するために，看護学部入試委員会で現行の入試制度を検討し，2026 年度一般選抜試験においても面接を導入することを決定した．入試制度改革を行った後も点検・評価を行い，よりよい学生選抜ができるように取り組んでいきたいと考える．

④看護職国家試験対策および試験状況

2024年度は89名の学生全員が国家試験を受験し,第114回看護師国家試験の合格率は98.9%,111 回保健師国家試験および 108 回助産師国家試験の合格率は 100%であった．例年と同様に対策講座や模擬試験などをスケジュール化し，学生が継続して学習できるように支援した．特に国家試験前のモチベーションを上げるために，国家試験対策委員会およびチューター教員とで連携をはかり，学生にきめ細やかな指導を行った．

⑤国際交流の推進

海外研修生として，令和 6（2024）年 6 月に台北医学大学から 3 名，ミネソタ州立大学マンケート校から 4 名と教員 1 名の計 8 名を受け入れ，サマープログラムを実施した．研修生の滞在中に国際交流委員会が第 1 回 International Day を企画し，アメリカ・台湾・タイの海外研修生・本学学生・教職員・地域住民のなど約 50 名が参加され，活発な交流が図られた．また，海外派遣として，令和 7（2025）年 3 月に学部生 1 名がミネソタ州立大学マンケート校で約 1 か月の研修を行った．

さらに，令和 6（2024）年 9 月にベルギーのトマス・モア応用科学大学との大学間国際協定が締結され，令和 7（2025）年 3 月に教員 2 名が訪問し，交流を深めた．

⑥大学院教育の充実

大学院教育においては大学院委員会が中心となり，前年度の授業評価やカリキュラム評価などの結果を基に年間計画を立案し，院生の学びや研究活動がより充実したものとなるように教育活動や研究指導に取り組んだ．そして，高度実践コースの学生を対象にした実習報告会，博士前期課程および後期課程の学生を対象にした研究計画発表会や中間発表会，論文発表会などを開催した．さらに，令和 6（2024）年 3 月の高度実践コース修了生 3 名（がん看護 1 名，老年看護 2 名）が専門看護師の認定試験に合格し，高度実践看護師（CNS，JANPU-NP）合格者は 19 名となった．

⑦教育の質の向上への取り組み

看護学部および看護学研究科の教育活動および研究活動について，外部委員を含めた教育研究内部質保証会議分科会で継続的な評価を実施し，教育の質の担保に努めている．

また，教員各自で教育および研究，社会貢献活動について自己点検を実施し，年報による業績報告により自己評価に取り組んでいる．

(2) 研究活動について

①競争的資金の獲得

令和 6（2024 年）度の科学研究費補助金採択件数は，新規 5 件と採択率が 33.3%であり，前年の 27.3%を上回った．また，他大学の教員との共同研究も多数されており，研究分担者の数も多い．その他に，AMED や民間企業の助成金の獲得もされている．

②研究支援

看護学部および看護学研究科では，看護学実践研究センターが中心となり，教員および大学院生の研究支援として看護研究継続セミナーや看護研究会を開催している．令和 6（2024 年）度の看護研究継続セミナーでは「効率的で楽しい文献収集と文献の読み方・まとめ方 : 様々な文献レビューの種類を知ろう」というテーマで継続セミナーを開催し，58 名の参加者が集まった．

看護研究会は，研究成果や研究活動を共有し看護職の研究能力向上を図ること，看護実践等の課題に関する研究の推進と研究成果を発信すること，実践や教育，研究について意見交換や交流ができる場とすることを目的とし，本学教員や大学院生，学部生，近隣の看護職員を対象に毎年開催されている．今年度は，2025 年 3 月 1 日に第 8 回大阪医科薬科大学看護研究会が開催され 58 名の参加者を得た．

(3) 社会貢献について

看護学部では，看護学実践研究センターが中心となり，看護職対象の人材育成教育セミナーの開催や，地域住民を対象とした健康づくりに関する事業を実施している．令和 6（2024）年度は，人材育成教育セミナーとして「看護職が知っておきたい医療経済学」をテーマに 11 月に開催され，学内外から 40 名の参加者が得られた．また，看護キャリアサポートセンターで行っている OMPU リカンレント教育事業への参画も行った．

地域住民を対象に，昨年に引き続き 2 カ月に 1 回のカムカムサロンを開催した．今年度のテーマは「防災に備えた体力作り」として 6 分野の教員が健康講和などを実施し，40 名の参加者を得た．2025 年度からは高槻市との共同開催により毎月開催する予定となっている．さらに，たかつき NPO 協働フェスタへのブース出展（9 月）を行い，28 名がブースに訪れた．さらに 12 月に「ロコモ・フレイルを予防しよう」というテーマで市民看護講座を開催し，80 人の参加者を得た．

2) 2024 年度看護学部予算執行額

予算執行額　　52,189,160 円

【内訳】看護学部教育経費　　38,989,160 円

看護学部奨学金経費　　13,200,000 円

看護学部研究活動経費　　0 円

3) 学生在籍数

2024 年 5 月 1 日現在

学年 （入学定員）	1 年 （85）	2 年 （85）	3 年 （85）	4 年 （85）	合計 （340）
男	3	7	0	1	11
女	82	81	90	90	343
計	85	88	90	91	354

2024 年 5 月以降退学者 2 名あり

2025 年 3 月現在　1 年生：女：80 名

2024（令和6）年度 学事予定表 教職員用

2024年 4月			5月		6月			7月			8月		9月		
日	曜	内容	曜	内容	曜	内容		日	曜	内容	曜	内容	曜	内容	
1	月	臨時 学部・研究科教授会 14～	水	水④	土	創立記念日 炎祭り		1	月	月⑪ 多職種連携論4－医療安全 メモ：授業評価	木	1.2.4年 採点締切 15:00 1.2.4年 追再試日程調査	日		
2	火	新入生オリエンテーション	木	木⑤	日			2	火	火⑬	金	1.2.4年 追再試対象者発表& 手続き 14:00	月		
3	水	新入生オリエンテーション	金	憲法記念日	月	月⑦		3	水	水⑬	土		火		
4	木	木① 前期授業開始 入学式	土	みどりの日	火	火⑨		4	木	木⑭	日	（オープンキャンパス）	水		
5	金	金①	日	こどもの日	水	水⑨ 実習連絡協議会		5	金	金⑬	月	1.2.4年 追再試手続き〆切 8:30	木		
6	土	健康診断：4年 13:00～	月	振替休日	木	木⑩		6	土		火	1.2.4年 追再試 採点登録開始 8:30	金		
7	日		火	火⑤	金	金⑨		7	日		水		土		
8	月	月①	水	水⑤ 学部・研究科教授会 15～	土	炎祭り（予備日）		8	月	月⑫	木		日		
9	火	火①	木	木⑥	日			9	火	火⑭	金	節電による閉室（予定）	月		
10	水	水① 学部・研究科教授会 15～	金	金⑤	月	月⑧		10	水	水⑭ 学部・研究科教授会 15～ 1.2.4年 採点登録開始 8:30	土		火		
11	木	木②	土		火	火⑩		11	木	木⑮	日	山の日	水	学部・研究科教授会 15～ 1.2.4年 単位認定、 実習科目の履修要件判定	
12	金	金②	日		水	水⑩ 学部・研究科教授会 15～ 3年 採点登録開始 8:30		12	金	金⑭ 3年分野別実習事前オリエンテーション① 2限 3年学校実習特別講義（高槻 中学校）日程調整	月	振替休日	木		
13	土		月	月④	木	木⑪		13	土		火		金		
14	日		火	火⑥	金	金⑩		14	日		水		土		
15	月	月②	水	水⑥ 学科会議 15～	土	PA会総会 健康診断：2年 13:00～		15	月	海の日	木	1.2.4年 追試再試採点締切 15:00	日		
16	火	火②	木	木⑦ 健康診断：3年 13:00～	日			16	火	火⑮ 3年 採点締切 15:00 3年 追再試日程調査	金	1.2.4年 追試再試合格発表 14:00	月	敬老の日	
17	水	水② 学科会議 15～	金	金⑥	月	月⑨		17	水	水⑮ 学科会議 15～	土		火		
18	木	木③	土	健康診断：1年 13:00～	火	火⑪		18	木	月⑬ 3年 追再試対象者発表& 手続き 14:00	日		水	臨時 学部・研究科教授会 15～ 学科会議 16:30～	
19	金	金③	日		水	水⑪ 学科会議 15～		19	金	金⑮ 3年 追再試手続き〆切 16:30	月	1.3年 後期授業開始 3年分野別実習オリエンテーション② 1.2限	木	成績開示	
20	土		月	月⑤	木	木⑫		20	土		火		金		
21	日		火	火⑦ メモ：授業評価	金	金⑪		21	日		水		土		
22	月	月③	水	水⑦ 臨時 研究科教授会 15～	土			22	月	3年 追再試採点登録開始 8:30 月⑭	木		日	秋分の日	
23	火	火③	木	木⑧	日			23	火		金		月	振替休日	
24	水	水③ 臨時 研究科教授会 15～	金	金⑦	月	月⑩		24	水	月⑮ 臨時 研究科教授会 15～	土		火	火① 2.4年 後期授業開始	
25	木	木④	土		火	火⑫		25	木		日	（オープンキャンパス）	水	水①	
26	金	金④ 新入生合同研修	日		水	水⑫ 臨時 研究科教授会 15～		26	金	3年 追再試採点締切 15:00	月		木	木①	
27	土		月	月⑥	木	木⑬		27	土		火		金	金①	
28	日		火	火⑧ 多職種連携論3－医療倫理	金	金⑫		28	日		水	臨時 研究科教授会 15～	土		
29	月	昭和の日	水	水⑧ 看護実践発展実習オリエンテーション AM	土			29	月	3年 追再試合格者発表 8:30	木		日		
30	火	火④	木	木⑨	日			30	火	3年 単位認定、分野別実習履	金		月	月①	
31			金	金⑧				31	水	臨時 学部教授会 15～ 1年実習オリエンテーション	土				

備考：統合看護学実習は各分野で6月～11月までに実施予定
備考：基礎看護学実習Ⅰについては9月26日～12月5日の期間、毎週木曜日に行う

2024（令和6）年度 学事予定表 教職員用

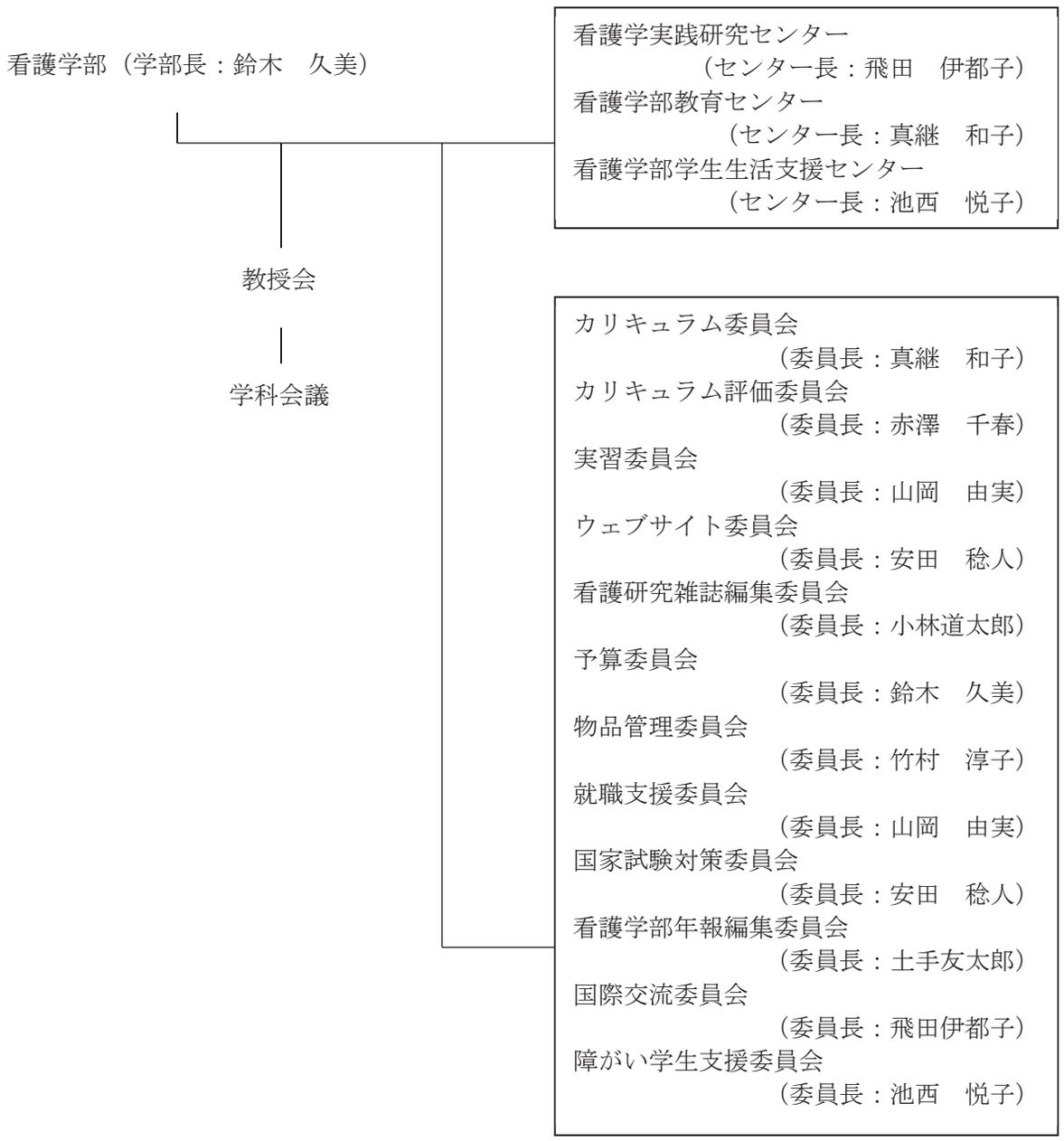
10 月			11 月			12 月			2025年 1 月			2 月			3 月		
日	曜	内 容	曜	内 容		日	曜	内 容		日	曜	内 容		曜	内 容		曜	内 容
1	火	火②	履修登録変更期間（後期）	金	金⑥	分野別実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	日			1	水	元日		土			土	
2	水	水②		土			月	月⑧ 臨時 学部教授会 15～	分野別実習	2	木			日			日	
3	木	木②	実践と理論の統合 助産学実習Ⅱ 公衆衛生看護学実習Ⅱ	日	文化の日		火	火⑪		3	金			月	1.2年 採点締切 15:00 1.2年 追再試日程調査	基礎看護学実習Ⅱ 分野別実習	月	次年度履修ガイダンス（新4年）10:40～ 仮 看護研
4	金	金②		月	振替休日		水	水⑪		4	土			火	1.2年 追再試対象者発表＆手続 14:00		火	追試再試採点締切 15:00
5	土			火	火⑦	分野別実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑪		5	日			水	1.2年 追試再試受験手続〆切 16:50		水	1.2.3年 追試再試合格者発表 14:00
6	日			水	水⑦		金	金⑪		6	月	月⑬ メモ:シラバス入力開始	分野別実習	木			木	卒業式（予定）
7	月	月②	分野別実習 助産学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑦ 4年 卒業演習採点依頼		土			7	火	火⑭		金			金	
8	火	火③		金	金⑦		日			8	水	水⑭ 学部・研究科教授会 15～ 4年 単位認定、卒業判定		土			土	
9	水	水③ 学部・研究科教授会 15～		土			月	月⑨		9	木	木⑭ 卒業発表 14:00～ 4年成績開示		日			日	
10	木	木③		日			火	火⑫	分野別実習	10	金	金⑭		月	追試再試採点登録開始 8:30	追再試期間 1年 基礎看護学実習Ⅱ 実践と理論の統合	月	
11	金	金③		月	月⑤		水	水⑫ 学部・研究科教授会 15～		11	土			火	建国記念の日		火	
12	土			火	火⑧ メモ:授業評価	公衆衛生看護学実習Ⅱ 実践と理論の統合	木	木⑫		12	日			水	学部・研究科教授会 15～		水	学部・研究科教授会 15～ 1～3年 単位認定、進級判定
13	日			水	水⑧ 学部・研究科教授会 15～		金	金⑫		13	月	成人の日		木	助産師国家試験（予定）		木	進級発表
14	月	スポーツの日		木	木⑧		土			14	火	火⑮ メモ:授業評価 1.2年 採点登録開始 8:30	分野別実習	金	保健師国家試験（予定）		金	
15	火	火④	分野別実習 助産学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	金	金⑧		日			15	水	水⑮ 学科会議 16:30～		土			土	
16	水	水④ 学科会議 16:30～		土			月	月⑩		16	木	木⑮		日	看護師国家試験（予定）		日	
17	木	木④		日			火	火⑬	分野別実習	17	金	金⑮		月			月	
18	金	金④		月	月⑥	公衆衛生看護学実習Ⅱ	水	水⑬ 学科会議 16:30～		18	土			火	卒業演習説明（新4年） 13:00～ 仮	基礎看護学実習Ⅱ 看護研究法 講義	火	
19	土	解剖慰霊祭		火	火⑨	分野別実習	木	木⑬		19	日			水	学科会議 16:30～		水	学科会議 15～
20	日			水	水⑨ 学科会議 16:30～		金	金⑬		20	月	月⑭⑮（仮）		木			木	春分の日
21	月	月③	分野別実習 助産学実習 公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑨		土			21	火	補講及び試験期間（1・2年）	分野別実習	金			金	成績開示
22	火	火⑤		金	金⑨		日			22	水	臨時 学部・研究科教授会 15～		土			土	
23	水	水⑤ 臨時 研究科教授会 15～		土	勤労感謝の日		月	月⑪ 2年基礎Ⅱオリエンテーション 1.2限		23	木			日	天皇誕生日		日	
24	木	木⑤		日		実践と理論の統合	火	月⑫		24	金	次年度履修ガイダンス（新2年）14:40～仮		月	振替休日		月	
25	金	金⑤		月	月⑦	公衆衛生看護学実習Ⅱ	水	臨時 研究科教授会 15～		25	土			火		追再試期間 2年 看護研究法 講義	火	
26	土	大学祭		火	火⑩		木	4年 採点締切 15:00		26	日			水	臨時 研究科教授会 15～		水	臨時 研究科教授会 15～
27	日			水	水⑩ 臨時研究科教授会 15～	分野別実習	金			27	月		基礎看護学実習Ⅱ 分野別実習	木	次年度履修ガイダンス（新3年）13:00～ 仮		木	
28	月	月④	公衆衛生看護学実習Ⅱ	木	木⑩		土			28	火			金			金	
29	火	火⑥	分野別実習	金	金⑩		日			29	水						土	
30	水	水⑥		土			月			30	木						日	
31	木	木⑥					火			31	金	メモ:シラバス入力締切					月	

備考：統合看護学実習は各分野で6月～11月までに実施予定
備考：基礎看護学実習Ⅰについては9月26日～12月5日の期間、毎週木曜日に行う

３．運営と教育活動

1）運営組織

（1）運営組織（センターおよび委員会組織図）



その他，審査会・ワーキンググループ等あり

2) センター

センター名	（1）看護学実践研究センター	SDGs との関連	
目　的	看護学実践研究センターは，本学部内，大学内をはじめ，外部機関および地域社会における看護実践の課題に関する研究を推進するとともに，その成果を発信することを使命とする．		
構成員	飛田伊都子（センター長）　安田稔人（副センター長）　土手友太郎　二宮早苗 南口陽子　中原洋子　松枝加奈子　倉橋理香　土井智生　藤井智子（事務）		
活動計画	**1．学部間連携共同研究の強化・推進** **2．研究支援** 1）看護研究セミナー 2）米国の大学の教員による教育講演 3）研究成果の発信・共有 4）研究体制の整備 5）研究助成に関する情報発信 **3．生涯学習支援** 1）人材育成教育セミナー 2）看護キャリアサポートセンター事業に対する教育支援 **4．地域貢献** 1）高槻フェスタへの出展協力 2）市民看護講座 3）カムカムサロン 4）地域活動への参加 **5．ホームページの充実**		
活動概要	看護学実践研究センター会議は全 12 回，開催した． **1．学部間連携共同研究の強化・推進** 2024 年度医学部・看護学部学術研究推進プロジェクト助成金や医薬看融合研究プロジェクト助成金の募集や研究カフェ開催に関して教員への周知を図った．看護学部教員が参画する研究が応募され，一部が採択された．研究カフェへの参加は少数名あった． **2．研究支援** 1）看護研究セミナー（継続セミナー） 2024 年 8 月 2 日，看護学部の教員ならびに看護学研究科の学生，臨床で勤務する看護師の研究能力向上の機会として文献レビューに関するセミナーを開催した．テーマは「効率的で楽しい文献収集と文献の読み方・まとめ方：様々な文献レビューの種類を知ろう」とし，兵庫県立大学 生涯広域健康看護講座 小児看護学 丸光惠教授に，研究のプロセスにおいて不可欠な文献レビューについて，具体例や参考になる Web サイトを示しながらご講演いただいた．参加者は教員		

や大学院生，大学病院看護師など計 58 名で，今後の研究活動に役立つ内容であったなどの感想が多くあり，満足度が高いセミナーであった.

2）米国の大学の教員による教育講演

2024 年 6 月 28 日国際交流委員会との共催でミネソタ州立大学マンケート校の Stacey Van Gelderen 先生によるシミュレーション教育に関する特別教育講演を対面で開催した.

3）研究成果の発信・共有

（1）看護研究会の開催

2025 年 3 月 1 日（土），様々な研究成果や研究活動を共有し看護職の研究能力向上を図ること，看護実践等の課題に関する研究の推進と研究成果を発信すること，実践や教育，研究について意見交換や交流ができる場とすることを目的として第 8 回大阪医科薬科大学看護研究会を開催した．本学部教員，大学院生，学部生，近隣の看護職員や大学院入学希望者など計 58 名が参加した．基調講演では，本学医学研究支援センター医療統計室の伊藤ゆり先生に「看護実践研究のために必要な医療統計の基礎知識」をテーマにご講演いただき，参加者からはとてもわかりやすくこれからの研究に活用したい，といった評価が得られた．また，研究交流会では地域の医療施設から 2 演題，学内から 12 演題（学部生 1，大学院生 4，教員 7），合計 14 演題のポスター発表があり，研究活動や看護実践について活発な意見交換の場となった．看護研究会に対する満足度について，アンケート回答者の全員から「非常に満足した」「満足した」との回答が得られた.

（2）研究ポスターの掲示

看護学部教員や大学院生が学会発表したポスターを看護学部棟 1 階の大学院生室近くの廊下に掲示した. 年に数回にわたり提供依頼のメールを教員宛に送信し，複数の教員からの提供があり，それらを 3～4 カ月毎に張り替えした.

また, 学部学生が卒業演習の分野を決める際の参考に役立てられるようにすることを狙いとして, 看護学教育センターとの合同ワーキングを立ち上げ, 2025 年 2 月 18 日～3 月 3 日の期間に 4 年生の卒業演習の成果物 21 名分を展示した. 閲覧実績としては，1 年生 0 名，2 年生のべ 12 名，3 年生のべ 26 名であったが，学生が閲覧している姿は多く見受けられたため, 実数としてはこれより多いものと思われる.

4）研究体制の整備

2024 年度公的研究費間接経費から本センター備品としてノートパソコン 2 台と SPSS を新たに購入し，教員および大学院生が利用できる.

5）研究助成に関する情報発信

各種企業・団体等の研究助成に関する情報について，適宜メール発信した.

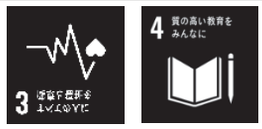
3. 生涯学習支援

1）人材育成教育セミナー

地域の看護職者や大学院生を対象に, 看護実践や看護研究の価値を診療報酬や医療経済学の観点から考える機会とすることを目的として, 大阪大学大学院の濱

	田吉之輔先生を講師にお招きし，「看護職が知っておきたい医療経済学」と題したセミナーを 2024 年 11 月 20 日（火）17:30～19:00 に開催した．参加者は学内外で計 40 名（対面 17 名，オンライン 23 名）であった．講演に対する満足度は非常に高かった． 2）看護キャリアサポートセンター事業に対する教育支援 看護キャリアサポートセンターの企画・運営に，本センターから 2 名の教員（二宮・土井），1 名の事務職員（藤井）をセンター員として協力派遣した． **4. 地域貢献** 1）高槻フェスタへの出展協力 2024 年 9 月 15 日，高槻市生涯学習支援センターで開催された「第 20 回たかつき NPO 協働フェスタ」に参加した．テーマは「運動機能は大丈夫？ロコモ度を知ろう！」とした．ロコモ（ロコモティブシンドロームの略）は，背骨や関節障害のために立つ，歩くなどの移動機能の低下をきたした状態のことで，ロコモ度とは移動機能の低下の程度を示す．その判定のため，今回は立ち上がりテストを実施した．整形外科医の安田稔人教授にも当日参加いただき，他 3 名の医師・看護師でロコモ度テストと説明を実施した．ブースには 28 名の方が参加された．今年度は多数の方に参加していただき，市民の健康への関心を高める機会となった． 2）市民看護講座 2024 年 12 月 14 日に看護学実践研究センターと大学病院看護部が共催，高槻市の後援を得て開催した．対面・オンラインあわせて 80 名の参加であった．「ロコモ・フレイルを予防しよう！～日常生活の活動維持・向上にむけて～」をテーマに整形外科専門医 看護学部 教授の安田稔人先生と，大学病院 看護部の老人看護専門看護師 看護副師長の上野山恵子先生を講師にご講演いただいた．タイトルは，安田先生は「ロコモを知り，健康寿命を伸ばそう！」，上野山先生は，「フレイルの予防にむけ，日々の生活について一緒に考えよう」であった．講演の後は，Q&A コーナーを設け，市民の皆様からの質問に対して講師の先生方から回答された．参加者からは「今日から取り組んでロコモ予防に励みたい」といったご意見や「オーラルフレイルの重要性がわかった」と好評であった． 3）カムカムサロン 看護学部で順次担当し，内容は任意とした．場所は看護学部棟 2 階講義室 2，時期は隔月で奇数月に 1 回（11:00 より 1 時間）で計 6 回であった．内容は，ミニ講話，健康チェック・健康相談等であった．対象者は原則，本学 Web サイト上のカムカムサロンのタブからオンラインで参加を募った．今年度のテーマは「防災」で，以下開催日・内容・担当分野（参加者数）を示す．2024 年 5 月 8 日（水）・被災後の生活と体力作り・老年看護学分野（6），7 月 11 日（木）・いざという時のための頭と下半身のストレッチ・社会医学分野（7），9 月 6 日（金）・2 つの震災を振り返って・人文社会学分野（7），11 月 6 日（水）防災に備えたこころの健康づくり・精神看護学分野（9），1 月 9 日（木）・災害に備える“地域の体力”づくり～・公衆衛生看護学分野（4），2025 年 3 月 7 日（金）・身体の中

	から備えよう！ 体力維持に必要な栄養と水分・小児看護学分野（7）であった．毎回クリッカーと自由記載にて講演に関するアンケートを行い，内容の充実に活用した．また次年度からは高槻市長寿介護課とのコラボによる“もてきん体操”やサロンを含む新企画を予定している． 4）地域活動への参加 学生主体の地域社会貢献活動として，本センター・公衆衛生看護学分野の教員のサポートのもと高槻市との協働（コラボ）活動「もてきん体操動画作成」を企画した．2024 年 10 月より高槻市（高槻市長寿介護課 三浦茜氏）とも協議を重ね，学生 17 名が参加，学生が主体となり考案した企画をもとに 2025 年 3 月動画撮影を行った．完成した動画は，今後高槻市 HP，本学 HP にて公開予定となっている． **5．ホームページの充実** 本センターの活動を学内外へ発信すべく，年間を通してタイムリーな更新を行った．
評　価	**1．効果が上がっている事項** 1）各種講演会やセミナーなどハイブリッド形式とすることで，教職員等は参加しやすい状況となっている． 2）国際交流委員会との共催で米国の研究者により講演を開催し国際的な研究活性化につながっている． 3）看護研究会は全面対面開催としたことにより，学部外からの演題発表や参加が増えている．今年度より学部生が卒業研究を発表する機会を設けたことより，今後参加学生が増えることが期待される． 4）高槻フェスタで市民看護講座の広報活動ができたことにより参加者増加につながった．今後のカムカムサロンの運営を高槻市と連携協働する体制が整備されたため次年度から実施できる見通しがたった． 5）ホームページが整理され，学部画面からの閲覧がしやすくなった． **2．改善すべき事項** 1）研究会やセミナーへの卒業生や修了生の参加が少ない．本研究会の周知を図るとともに参加意義を明確にし，多数の人が興味関心をもち参加できる工夫が必要である．また，学部教員による研究について演題登録率を高めていく． 2）社会貢献活動について，地域の他機関と連携協働を図り，住民のニーズを把握しながら進めていく必要がある． 3）他学部との学術共同研究が増えつつあるが，看護学部から発信する応募はほとんどない．看護学部からも応募しやすい研究助成の枠を検討していくなど，研究機構および他学部との調整を図る必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1．学部間連携共同研究のさらなる強化・推進に取り組む． 2．研究活動を活性化していくために，研究者が抱える課題やニーズを把握し，研究環境整備とともに，長中期的視点にたった研究支援策の検討を進める． 3．高槻市との連携により社会貢献活動（カムカムサロン）を強化推進する．さらに，地域住民のニーズを把握する調査等の企画を検討する．

センター名	（2）看護学教育センター	SDGs との関連	
目　的	看護学部の教育課程の円滑な遂行のために教育計画，教育環境整備，多職種連携教育，授業評価，FD（Faculty Development）等に関する事項の企画・調整・実施・評価を行うことを活動の目的とする.		
構成員	真継和子（センター長）　小林道太郎（副センター長）　山岡由実 樋上容子　鈴木美佐　寺口佐與子　近澤　幸　山埜ふみ惠　北川祐美 川端由夏（4～2 月）　田中佑美（4～9 月まで）　増田尚紀（7 月まで） 堀江雅彦（9 月～1 月まで）　村上佐智子（11 月～）　上久保純（2 月～） 倉田啓輔（3 月～）（看護学事務課）		
活動計画	1. 教育課程全般の運営 2. 教育センター担当科目の運営 3. FD 企画と実施 4. 多職種連携教育の調整と実施 5. 授業評価と改善 6. 実習ポートフォリオの実施 7. ティーチング・ポートフォリオの実施 8. 看護技術到達度の確認 9. 実習に関する事項 10. 教育環境整備の充実 11. 感染症に関する対応 12. その他		
活動概要	教育センター会議は全 14 回開催した. **1. 教育課程全般の運営** 1) 学事日程および時間割の調整 学事予定，時間割の調整，作成をした. 2) ベストティーチャー賞の選出及び選考基準の見直し ベストティーチャーの規定に沿い，各学年 1 名の計 4 名の教員選抜を行った. 現在，授業評価アンケートをもとに選考しているが，ベストティーチャーの要件といえる項目内容の選定を行うとともに新たな項目を追加し，2025 年度から運用できるよう整備した. 3) 定期試験および不正行為への対応 電子機器類を使用した不正行為を防止するため，試験監督時の留意事項（説明文書）について修正を行うとともに，定期試験においては試験前に学生に不正行為に関する注意喚起を行った. 試験時は各教室最低 2 名の試験監督を配置した. また，各学年の履修ガイダンスの時に懲戒規定および不正行為に対する事項を周知した. 4) GPA の分析と平準化 2024 年度成績について科目の成績の平準化をめざし，カリキュラム委員会およ		

活動概要	びIR室と連携をして各学年のGPAや各科目の箱ひげ図を作成し，教授会で共有し，授業改善につなげた. 5) 成績，進級，卒業判定と成績不良者への学生指導 学生の成績，進級，卒業判定は各要件に基づき教授会で審議し適正に行った．また，GPAが2.00（望ましい水準）未満の学生に対し，チューター教員等による学修指導を依頼・実施し，取り組みによって学生の改善がみられたか評価した. 6) 履修の手引きの見直しと作成 全体的に次年度カリキュラム等に対応する内容に対応させた．授業の出席について，授業開始時刻10分までは遅刻としないというこれまでの扱いを廃止し，授業開始後に来た場合は遅刻とすることを記載した．累積GPA 1.00未満が続く場合は退学勧告する場合があることを記載した. 7) シラバス作成要項に基づくシラバス点検の実施 シラバス作成要領に基づいて次年度のシラバス作成を教員に依頼し，作成されたシラバスについて，記載内容が適正という観点からセンター教員によるシラバス点検を実施した. 8) 各学年のオリエンテーション・履修ガイダンスの実施 各学年で次年度履修ガイダンスを企画し，教育目標や3ポリシー，学事日程，各学年の履修科目や単位取得に関すること，学年別目標，変更点などを説明した．また，成績の異議申立てや懲戒規程について周知した．カリキュラム委員会で作成した学生向けeポートフォリオ説明書およびアセスメントマップも説明した. 9) TOEIC受験 1年生は4月3日にTOEIC L&Rオンライン受験を行い，その結果に従って英語I・IIのクラス分けを行った．次年度英語III・IVのクラス分けは英語I・IIの成績により行う．新3年生は今年度からTOEICは任意受験とし，2月から3月に自宅受験で実施した. 10) 規程類の見直しと作成 出席の取り扱いについて，学生証を忘れた場合の対処として担当教員に「学生証忘れ申請書（兼授業出席届）」（看護学事務課での検印要）を提出することを義務付けることとした（2024年10月1日より運用）．また，遅刻および早退，欠席の取り扱いについて見直しを行った（2025年4月1日より運用）. また，GPAの学修指導への活用について，「累積GPA1.00未満が一定期間続いた場合には，学則第29条第2項により退学を勧告することがある」との文言を追加した（2025年4月1日より運用）. 11) 教育年報の作成 2023 年度の成績の解析結果と学勢調査の結果等を基にアセスメントポリシーに沿って3ポリシーの検証を行い，教育年報としてまとめた．解析結果は教育センターと共有し，科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた．また，教育年報は教育機構会議や学部間協議会に起案して協議をしたのち，教授会や学科会議で教員に周知・共有し，PDCAにつなげた.

活動概要	**2. 教育センター担当科目の運営と実施** 1) 卒業演習に関すること (1)卒業演習の発表会の運営・実施 2024 年度は 1～3 分野で報告会を運営し，他分野の研究に触れる機会にもなった．学内の発表者および聴講者は対面，学外聴講者は対面とオンラインでの開催とした．学生全員の研究発表が滞りなく実施できた． (2)卒業演習要項の作成と分野決定 2025 年度卒業演習要項を 2024 年度の課題をもとに修正を行った．主な修正箇所は，詳細な提出方法の追記，「卒業論文提出前チェックリスト」の追加とした．分野配置人数は例年通りの算出を行い教授会で調整後決定した．respon と抽選を用いて滞りなく分野決定を行うことができた．学生の希望する研究内容等の集約を UNIPA 入力で行い教員へ配信した． (3)卒業演習成果物の公表 看護学実践研究センターと共同で，1～3 年生への卒業演習成果物の公表を行った．卒業演習発表会で発表されたものの中から 1 分野につき 1～3 名の成果物を公表した．公表期間は 2025 年 2 月 18 日～3 月 3 日とした．公表された成果物を見た学生数は 1 年生 0 名，2 年生のべ 12 名，3 年生のべ 26 名であった．次年度は，成果物の公表が参考になったかどうかの評価が課題である． 2) 兼担教員科目の見学実習への対応 解剖実習見学について，体調不良者に対応できるように教員を配置し予定通り実施できた．カリキュラム改正により，実施時期が前期から後期に変更する予定である． 3) 保健師科目・助産師科目への対応 保健師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては，学事予定表を踏まえたスケジュールを立て，スケジュールに沿って実施し，29 名を選抜した．また，助産師国家試験受験資格希望者の選抜に関しては，学事予定表を踏まえたスケジュールを立て実施し，6 名を選抜した． **3. FD 企画と実施** 1) 大阪医科薬科大学教員，大学院生を対象とした FD 企画と実施 2024 年度は，昨年度の FD にて議論された実践能力・生涯学習能力向上のため DX について，より具体的な方法について示唆を得るため，「学習成果とその可視化」をテーマとした FD を企画した．2024 年 12 月 16 日（月）に大阪医科薬科大学教員，大学院生を対象に開催した．参加者は看護学部 32 名，医学部 14 名，薬学部 6 名，大学院生 4 名，医学事務課 IR 1 名の計 57 名であった．実施後のアンケートでは，全員が「今後の教育に役立つ機会となった」と回答し，学習成果の可視化の考え方の理論および具体的な取り組みについて知見を得ることができた等の肯定的な意見が挙げられた． 2)新任教員対象の FD 企画と実施 2019 年度より開始した新任教員 FD は，今年度より助手も対象とし，実施要領

活動概要	にそって開催した．入職 1 年目の 5 名には 6 月 21 日と 3 月 13 日の計 2 回行い，入職 2 年目の助教 1 名に対しては，8 月 29 日に最終 FD を行った． 1 年目は，非常勤教員から常勤助手となった教員が多く，昨年度の非常勤教員としての経験をふまえた学生像の捉え方の変化を共有した．また，科目担当に加えてチューター役割を担うことで大学教員の意識化ができていた．年度末 FD は，ティーチング・ポートフォリオや「臨地実習における学習支援力」チェックリストにそって各自の振り返り，課題とその対処についてはタイムマネジメントなどを提案した．また，FD や学内の授業見学等で他の学年や科目に視野を拡げ，教育方法のアップデートなど自己研鑽の行動がとれていた．2 年目では，複数の実習科目の経験を中心に振り返りを共有し，FD 全体を通して出来ていることや課題の確認を通して，新たな視点をふまえた学生指導への気づきを認識し成長できていることが評価できた． **4. 多職種連携教育の運営と充実** 1）多職種連携教育科目への対応 医学部・薬学部の担当教員，看護学部事務担当者と綿密に情報を共有しながら，「医療人マインド」「医療倫理」「医療安全」のグループワーク（GW）のファシリテーター・レポート評価，「医療と専門職」の運営企画・コーディネート・全面対面 GW のファシリテーター・レポート評価を担当した．「医療と専門職」と「医療安全」では，事例改訂が行われ GW は全対面へと変更があった．また，「医療人マインド」と「医療と専門職」では，レポートの評価基準であるルーブリックの改訂がなされた．学生アンケート調査により，講義や 3 学部間の GW を通し，多職種連携の重要性やその中での看護師の役割を理解した学生がほとんどであった．また，対面の GW はディスカッションしやすいという理由から好評であった．各科目において，事例の難易度や時間配分については次年度の更なる検討が必要である． 「多職種連携 -臨床カンファレンス」は，例年通り，母性・精神・急性・慢性の 4 分野での実施となった．3 月にまとめと評価を行い，学生によるアンケート評価では，「専門的知識の違いが分かった」「視点の違いに気付いた」等の質問項目 6 項目全てにおいて，「そう思う」「とてもそう思う」が 8 割以上を占めていた．一方，方法や時間配分など運営に関する学生からの意見があり，今後の課題である． 「地域医療実習」は看護学部，医学部及び薬学部の学生各 3 名の計 9 名が高知県嶺北地域の病院や診療所，薬局，地域包括支援センターなどの場で，学生同士やスタッフとのディスカッションを重ね，へき地の医療・介護・福祉の実状や人々の暮らしについて学んだ．学生からは，地域医療における多職種連携の意義とそのなかでの看護職の役割について考える有意義な実習になったとの声があった． 2）多職種連携カリキュラム委員会への参加 2 回開催された委員会に参加した．学生らの授業参加状況やアンケートを踏まえ，委員会では授業形式，評価方法，GW 方法などについて検討した．次年度に向けて，「医療人マインド」の講師の変更，「医療倫理」の SA（学生アシスタント）の本格的な参画が決定され，「医療と専門職」と「医療安全」においては次年度引

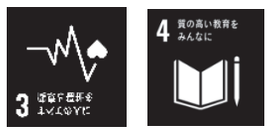
活動概要	き続き事例の難易度や時間配分等の運営方法について検討されることとなった. **5. 授業評価・改善** 1) 学生の授業評価 各科目の終了時に，学生にユニパを用いた授業評価の実施を依頼した．事前に定めた各科目の評価時期に合わせて，看護学事務課から全教員に授業評価依頼のメール配信を行った．評価時期は年度開始時に確認し，各科目の開講期間や試験実施期間に合わせて広く設けた．学生の平均回答率は，前期 / 後期の授業評価が66.4%/56.0～72.5%（昨年 66.6%/64.0%），実習評価は 48.2～87.1%（昨年 21.5～87.6%）であった. 2) 教員の授業改善 年度開始時に，学生の授業評価時期に合わせて授業（実習）改善報告書の記入・公開時期を確認し，「2024 年度（授業（実習）改善報告書」実施要領を作成した．実施評価の公開期間に合わせて全教員に授業（実習）改善報告書の作成依頼を行い，その後学生に公開した．今年度は授業・実習評価を長期間確認できるよう，前期授業科目については回答期間終了後 1 カ月，後期授業科目および実習科目については 3 月末までとした．すべての科目について，学生の授業評価内容をふまえた授業改善報告書の提出がなされ，学生に公開した. 3) 授業見学の推進 今年度の授業見学として計 12 件の報告が上がった．報告者は准教授，講師，助教であった．授業を見学し，「自身の担当科目に参考になった「カリキュラムにおける科目間の関連性がわかった」等の報告がなされた. **6. 実習ポートフォリオの実施** 学科会議にて実習担当教員の協力を仰ぎ，教育センターからのリマインドに加えて，実習教員からも実習前後に入力を促すよう依頼した．学生と教員を対象に全ての実習終了後にアンケートを行った結果，概ね肯定的な評価であったが，入力率が経年的に低下しており，単なる入力作業にとどまらず，実習の学びを深めるためのツールとして実質的に活用できる仕組みを引き続き検討していく．また看護基本技術経験チェックリストについて項目ごとの集計し評価した．その結果，学年が上がるにつれて「ひとりで実施」できる技術が増加していた．基礎的な技術は全学年で経験率が高く，実習場面に応じた技術の明確化やセルフトレーニングの充実が求められる. **7. ティーチング・ポートフォリオの実施** 「教育の責任」「教育の理念」「教育の方法」「教育の成果」「自己省察・今後の目標」の 5 項目とし，「教育の責任」「教育の理念」は 8 月末までに UNIPA 上で入力し，その他 3 項目は 2 月末の入力とした．ティーチング・ポートフォリオの導入 3 年目となる本年度における，一部のみの入力率は 97.5%，「自己省察・今後の目標」といった振り返りまでの項目全体の入力率は 92.3%であった．今後の教育活動へ活かすために，各教員が入力した「教育の方法」を匿名化したうえで，とりまとめを行った.

活動概要	**8. 実習に関する事項** 実習委員会と連携し，①「看護実践の理論と統合」の評価および出席管理を確認し，申し合わせ事項を作成した．また，②看護学部の臨床教授等の実習に関する役割を検討し「大阪医科薬科大学 看護学部・看護学研究科 臨地教育教員の役割」としてまとめた．その他各学生の実習状況，履修状況など実習委員会と情報の共有や連携を図った． **9. 教育環境整備の充実** 1）教育環境（講義室・実習室等）の充実・整備 学生から要望があった出席端末の増設が前期末に行われ，後期から 2 か所で出席登録が行えるようになった．また，演習室のミーティングボードを壁掛け型に交換した． 2）UNIPA RX 更改について 2025 年 1 月の UNIPA RX 更改に際し，操作に関する簡易マニュアルの作成と説明，テスト環境での動作確認の依頼，URL 等おもな変更点について学生および教員に周知した． 3）ICT 教育の整備（Web 会議システムや遠隔授業システムの検討） 大学全体において ICT の充実と活用の促進を図る等教育研究活動の方針が示され，総合情報システム課では，データサーバー等の学習支援システムの検討がされており，看護学部においてもより一層の充実を図るため，看護学部教員に対し，学習・業務支援システムの活用状況や今後の利活用の検討のため，アンケート調査を実施した．その結果，看護学部教員は，学部生・大学院生の講義や課題の提示や提出，指導，また学内外のオンライン会議等業務に，zoom や UNIPA，Moodle，Teams 等既存のシステムを利用しており，約半数の教員が学内で学生が活用可能なデータストレージサービスの利用希望があった．データストレージサービス利用開始にあたっては，学生への利用に関する教育の必要性について意見があった．これら結果は，総合情報システム課に提出し検討材料とされた． 4）セルフトレーニングの企画・実施 学生の看護技術の向上を目的として，統合実習前の 6 月，領域別実習前の 8 月，基礎実習前の 1 月の計 3 回，セルフトレーニング企画を開催した．6 月には 4 年生 9 名が参加し，吸引や輸液管理，フィジカルアセスメントなどのトレーニングを行った．8 月には 3 年生 73 名が参加し，日常生活援助技術やフィジカルアセスメントの復習を行った．1 月には 2 年生 81 名が参加し，模擬患者として協力いただいた NPO 法人ナルク高槻の高齢者 9 名に対し，バイタルサイン測定や問診などのトレーニングを行った．参加した学生へのアンケート結果では，全学年の全員が「実習に役立つ機会となった」と回答し，定期的な開催を望む声が多かった．今年度より全分野の教員がセルトレ企画に参画し，また大学院生にも協力を求めたことで，より充実した技術指導ができた．一方で，学生からより高度な技術練習を望む自由意見もありバリエーションを再検討する必要がある．セルフトレーニング企画の様子は企画・広報課にて写真撮影および看護学部教育センター

活動概要	HP（https://www.ompu.ac.jp/education/f_nursing/center/education_center/of2vmg000000d53w.html）に掲載，随時更新した． 5）シミュレーション教育の促進 今年度は，全学年のセルフトレーニング企画においてシミュレーターが活用され，多くの学生や全分野の教員が触れる機会となった．更なる利活用を促進するため活用方法の周知を進めていく． 6）実習記録のクラウド化の検討 実習記録のクラウド化に向けて学生を対象にアンケート調査を実施した．学生354名中95名より回答があり（回収率26.8%），電子化を「希望する」が82名（86.3%）であった．その理由としては，「記録の効率化」「記録時間の時短による睡眠時間の確保」「時間確保により必要な学習ができる」等であった．10月9日，16日には，2業者によるデモ説明会を開催した．導入に向け，患者の個人情報を扱うことから情報管理とセキュリティ，各実習施設との合意形成などの課題対応を含め検討を開始した． **10．感染症（新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ）に対する授業対応** 学生や実習病院等における新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染状況を確認しながら，適宜，感染予防対策の強化を図るとともに，学生と教員に周知した． **11．その他** 1）私立大学等改革総合支援事業への対応（タイプ1） タイプ1の獲得をめざし，看護学部で必要な要件が整っているか確認し，対応した．「進級及び卒業判定におけるGPA活用」への指摘もあり，タイプ1獲得には至らなかった． 2）大阪医科薬科大学転学部規程（案）の検討 学則第3条に則り学内における転学部制度の導入にあたり，転学部の時期や受入人数，試験方法等の検討を行った．2026年度より薬学部から医学部への転学部に限って実施することとなった． 3）公共交通機関の遅延による授業の遅刻・欠席について 公共交通機関の大幅な遅延が発生したことを受け，学生の出席状況（授業開始時の学生数が約2分の1に満たない場合を目安）を確認し，状況に応じて授業のzoom録画を行い，オンデマンドでの授業対応を行った（2024年6月12日・19日）． 4）合理的配慮を必要とする学生への対応 科目責任者にオンライン授業の可否の確認，オンライン授業設定，別室受験及び試験監督など合理的配慮を要する学生への対応を行った．また，2025年度受講に向けてオンライン授業の可否確認，時間割調整を行った． 5）看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応 カリキュラム委員会，カリキュラムワーキンググループとの調整を図り，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応に向けた進捗状況の確認を行うとともに，看護技術経験チェックリストにもとづき学生の自己評価が徹底できる

活動概要	よう周知し，その結果をとりまとめた. 6) シラバス作成要領の見直し シラバス作成要領の見直し，作成依頼および要領に沿ってシラバス点検を行い，シラバス作成上の課題を整理した.
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1) 教育課程全般に関すること GPA2.00（望ましい水準）未満の学生に対し，チューター教員による学修指導の取り組みを評価した結果，高学年になるほど GPA2.00 未満の学生数は減少傾向にあり，チューター教員による学修指導は一定の成果があることが示された. 2) 授業評価と実習ポートフォリオに関すること 授業改善報告書については全科目で提出がなされ，学生により得た評価やコメントに基づいて改善報告が行われていた. 実習ポートフォリオの実施については，実習の学びが積み重ねることにつながっており，学生・教員ともに実習ポートフォリオの目標を概ね達成できている，と評価している. 看護基本技術経験チェックリストの評価について学生への周知を図ったことで入力率が向上した．その結果，学年ごとの課題を可視化することができた. 3) FD について ティーチング・ポートフォリオの入力率は 92.3%と高い．各教員からは多様な優れた具体的な教育方法が提示され，新年度明けに新任教員を含めた全教員で共有することとした．今年度の新任対象 FD は，助手と昨年度入職した助教を対象に実施し，概ね適切であることを確認した. 4) 多職種連携教育の運営と充実について 3 学部教員と事務担当者との綿密な情報共有がなされ，連携体制の整備が図られていることを確認した. 5) 教育環境整備の充実 年 3 回のセルフトレーニング企画について，実習直前に実施したこと，教育センター委員だけでなく全分野の教員の参加や大学院生の協力があったこと，模擬患者として地域の方のご協力を得たこと等により，多くの学生が参加し，高い満足度につなげることができている. 演習室のミーティングボードを壁掛けにしたことで，部屋面積も確保され活用の幅が広がった. **2. 改善すべき事項** 1) 授業評価に関すること 授業評価の入力率が課題であり，特に 2，3 年生の実習評価の入力率が低い．授業評価の意義や効果についてのアナウンスや入力依頼を更に強化する必要がある. 2) 実習ポートフォリオに関すること 入力率の低迷が続いており，単なる入力作業にとどまらず，実習の学びを深めるためのツールとして実質的に活用できる仕組みを引き続き検討していく必要がある.

評　価	3) セルフトレーニングの企画について 　看護基本技術経験チェックリストの項目ごとに評価した結果，実習場面に応じた技術の明確化やセルフトレーニングの充実が必要である．さらに，学生からも高度な技術演習を望む意見もありバリエーションの再検討およびシミュレーターの更なる活用に向けての周知を図ることが必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1. 3 つのポリシーに基づくアセスメントの概要，各レベルでの査定とフィードバックの流れに沿った各委員会と連携 2. GPA2.00 未満の学生への学修指導の強化および GPA の分析と活用促進 3. 多職種連携教育の推進と他学部との連携強化 4. 教育環境整備の促進と充実 5. セルフトレーニングの企画・運営の充実 6. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応と新カリキュラムの評価

センター名	（3）看護学学生生活支援センター	SDGs との関連	
目的	本センターは，看護学部における円滑な学生生活の提供を目指し，学生生活の中で学生が抱える諸問題（修学，大学生活への悩み，経済的事由に起因する悩み等）に組織的に対応し，学生の主体的な大学教育への適応を図り修学効果を高められるよう厚生補導の一役を担う．		
構成員	池西悦子（センター長）　津田泰宏　川北敬美　新田和子　間中麻衣子 杣木佐知子　堀池　諒　日髙朋美		
活動計画	2024 年度の年間計画 1.　総代・副総代との連絡会 2.　チューター制度：チューター活動がしやすく，学生が相談しやすい環境作り 3.　学生調査：医学部・看護学部合同の調査内容の見直し，実施 4.　奨学金：各種奨学金支援 5.　学生からの要望に対する対応：意見箱の運用，懇談会の実施 6.　学生自治：学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決する支援，学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援 7.　ホームページの内容の充実 8.　学習環境の整備 9.　正課外活動ポートフォリオの作成 10. 学生生活支援機構（医・薬学部との連絡会議） 11. 健康管理：感染予防対策，保健管理室との連携 12. 障がい学生関連 13. 懲戒規程関連 14. 大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価 15. 災害対策 16. 自殺防止対策 17. FD講演会 18. 新入生合同研修の取り組み 19. その他（学外研修会，学籍異動，学生生活の手引き修正）		
活動概要	**1. 総代・副総代との連絡会** 各学年総代・副総代の決定支援および総代連絡会を実施した．学生からの要望により開催されることとなった学生交流会に向けて，企画支援を行った． **2. チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り** 1) 2023 年度のグループ編成を基盤にチューターループの編成を行った．グループ数を減らし，教員 3～4 名が 1～3 学年の学生 22～23 名を担当した．4 年生は，卒業演習の分野教員が担当し，学生生活支援センターがフォルダを管理した． 2) 1～3 年生のチューター教員の組み合わせは下記の通りとした．		

活動概要

表 1．2024 年度チューターグループ（1～3 年生担当）

No	担当教員	No	担当教員
1	久保田，近澤，日高，濱浦	7	小林，中原，赤崎
2	飛田，大橋，倉橋	8	草野，鈴木（美），山内，有吉
3	津田，樋上，松枝，野口	9	赤澤，間中，内田
4	土手，二宮，南口	10	真継，有田，土井
5	安田，川北，杣木	11	池西，山埜，勝山，酒向
6	竹村，新田，堀池	12	山岡，寺口，野瀬

3) チューター面談シート

4 月に教員に対して，チューター制度に関する指針を周知し，チューター面談シートの活用を呼びかけた．

4) チューター活動の評価

今年度から教員に加え，学生を対象とした調査を実施した．調査結果において，グループ編成は，学生・教員ともに現状のままが良いとする意見が 8 割を超えた．学生の面談内容への満足度は 84%であった．

3. 学生調査：医学部と看護学部合同の調査内容の見直し，実施

12月から1月にかけて，対面で実施した．今年度は2・4年生に対して，文部科学省から依頼があった全国学生調査も併行して実施した．調査の説明を行う際，全数調査であることを伝え，その場でWeb入力する時間を設定し実施した．学生調査の1-4年生の回答率は85-96%（平均93%）であった．昨年度と比較すると9.6%上昇した．学生調査の結果は，各学年の新学年ガイダンスで，課題と対策を説明した．

4. 奨学金:募集説明会，選考，手続きを行った．内容は以下の通りであった．

1) 2024年度各種奨学金

2) 日本学生支援機構　学生等緊急給付金

3) 文部科学省　学びの継続のための緊急給付金

4) 看護学部給付奨学金について経済的事由を第一とする選考方法に変更し,家計急変奨学金の選考基準を改訂し，給付を開始した．

5. 学生からの要望に対する対応：意見箱の運用，懇談会の実施

1) 意見箱：月 1 回の開箱とした．今年度の投書は 0 件であった．

2) 学生懇談会：対面での懇談会を実施，各学年の総代・副総代を通じて意見を集約した．

6. 学生自治：学生が自ら話し合い，学生生活の問題を解決する支援

学友会役員選考支援，謝恩会準備の支援を実施した．学友会役員は各学年の立候補者から選抜した．謝恩会を開催し，寄贈品の贈呈を実施した．次年度開催に向け，学生間で引継を実施した．

活動概要	**7. ホームページの内容の充実** 学生生活の看護学学生生活支援センターのホームページにおいて，学友会行事等の開催について，随時写真や記事を更新した． **8. 学習環境の整備** 演習室 7～9 を自習室としてユニパで予約し自由に使用できる体制に戻した．また，講義等で使用していない場合は講義室も自習室として使えるようにした． **9. 正課外活動ポートフォリオの作成** 正課外活動の充実のために学生から要望のあったボランティア活動の情報収集ができるように掲示板を作成した．半年後に活用度についてアンケートを行ったところ，34.2%の学生が「掲示板を見たことがある」と答え,うち 12 名（3.9%）が情報をもとに「活動に参加した」．正課外ポートフォリオの記載は 7 月にユニパでの連絡と 12～1 月に対面で説明・入力の時間を設けた結果，各学年の回収率は 54.5～93.4%（平均 79.0%）で 2 年生が最も低かった． **10. 学生生活支援機構（医・薬学部との連絡会議）** 学生生活支援機構会議に毎月センター長が参加し，3 学部での情報共有と連携を行った． **11. 健康管理：感染予防対策，保健管理室との連携** 1）保健管理室，実習委員会と連携して 4 種感染症，B 型肝炎ウィルス，インフルエンザワクチンの期限内接種を促した． 2）学内の環境整備:アクリルパーテンションを撤去し,学内環境の整備を行った． 3）感染対策の方針を毎月ユニパから配信・周知した． 4）実習期間は，健康観察票を記録し，マスク装着を必須とした． **12. 障がい学生関連** センター長が障がい学生支援委員長を担い，支援計画の検討に参加した． **13. 懲戒規定関連** 各学年ガイダンスにて注意喚起を行った．今年度は議論の対象となる懲戒事例はなかった． **14. 大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価** 学生生活支援センター各種行事等のPDCAシートを作成し，点検評価を行った． **15. 災害対策** 看護学部における発災時のマニュアルを作成するため,JANPUの防災マニュアル指針2022を基盤に，2018年に作成された看護学部の災害時（地震）対応簡易マニュアルや大学病院のマニュアルを組み入れながら，看護学部災害対策マニュアル暫定版を作成した．講義室や実習室の「地震時における教員避難手引き」を刷新した．学科会議で災害対策マニュアル暫定版について説明し，発災時の対応や安否報告の方法について，周知を図った．災害対策の整備の一環として懐中電灯を購入・設置した． **16. 自殺防止対策** 希死念慮を抱く学生への対策として，日本学生相談学会から出されているガイ

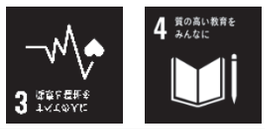
活動概要	ドラインを参考に，学生の希死念慮が見られた場合のチャートと事後対応のチャートを作成した．また，学生の自死防止対策についてFD講演会を開催した． **17. FD 企画と実施** 「希死念慮を抱く学生の支援において教職員がすべきこと，注意するべきこと」をテーマとして，早稲田大学，保健管理センター教授の石井映美先生を講師として招聘した．2025年3月3日，対面とzoomのハイブリッドにて3学部の教職員を対象に開催し，参加者は56名であった．実施後のアンケートは回収率53.6%で，全員が「今後の教育や学生生活支援に役立つ機会になった」と回答した． **18. 新入生合同研修** 対面で 3 学部新入生合同研修を実施し評価した．次年度も対面実施を決定し，会場や内容，チューターについて検討を行った． **19. その他** 1）学外研修会：今年度，セミナーへの参加者はいなかった． 2）学籍移動について：学籍移動への対応を行った． 3）学生生活の手引きを修正した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1）総代・副総代との連絡会 総代連絡会開催が，学生からの意見集約につながった．1～3 年生の総代・副総代との会議で意見交換ができ，学生交流会の企画が PA 会の支援で実現した． 2.）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り チューター活動に関する調査結果から，教員はいずれの学年とも 1 年間を通じて関わりを持っていた．学年が上がるにつれ面談回数が増え，就職・進路や国家試験対策などの指導が実施されていた．チューター制度により，細やかな支援活動が行われていた． 3）学生調査 昨年度よりも回答率は上昇し，新学年オリエンテーションでは，調査結果を踏まえたアドバイス等を学生に提示できた． 4）奨学金 希望学生はほぼ全員受給できた．対象学生の面談を行い全員適格であった． 経済情勢から，経済的事由を第一とする奨学金の設定や給付奨学金の規程変更の検討等，柔軟に対応できた．更に利用可能な奨学金について情報を収集し，適宜学生に案内を行う． 5）学生からの要望に対する対応 懇談会にむけて 30 件の要望が提出された．内 15 件は授業実施方法や評価・課題等に関する内容であり，教育センターからの回答も集約して，7 月に懇談会を対面で開催した．学生の意見の中から，冷水器の修理や学年ごとの交流会の開催および講義室の机配置の変更希望について学生の希望通りに改善した． 6）学生自治 学友会役員は各学年の立候補者から選抜することで各種行事への主体的な参加

評　価	につながった．寄贈品の贈呈と謝恩会開催に向け，スケジュールと各役割を記載した資料を作成し伝達ができた． 7）ホームページの内容の充実 学生委員会が企画を報告するページを作成し，4 月：新入生合同研修，6 月下旬：看護学部七夕祭り，7 月：学生と教員の懇談会・懇親会，11 月：学園祭，3 月：卒業生の記念贈呈品を掲載することができた． 8）学習環境の整備 感染症が収束し，学生が自由に使用できる場の拡大を行った． 9）正課外活動ポートフォリオの作成 ボランティア活動の情報を提供する掲示板を作成し,『大学に寄せられるボランティア情報』『本学学生のボランティア活動やその情報取得方法』を掲示することで，学生の積極的な活動につながった． 10）学生生活支援機構会議 定例会議によって，3 学部の学生生活支援に関する情報共有と検討を行い，連携することが出来た． 11）健康管理（感染予防対策，保健管理室との連携） 保健管理室と連携をとり学生の健康管理が行えた．インフルエンザ，COVID-19 等の学内における感染拡大もみられなかった．現在の方法で健康管理を継続する． 12）障がい学生関連 法律に基づいた支援が行えている．合理的配慮の方針に基づいて学生支援を実施できた．過重負担にならない支援の実施が課題である． 13）懲戒関連 懲戒事例がなかったことから，引き続き注意喚起を実施する． 14）大阪医科薬科大学学生支援の方針に基づく点検評価 今年度は自殺防止対策，災害対策など，基盤となる体制整備を追加して実施評価を行った．今後も必要な課題を追加し，実施・評価を継続する． 15）災害対策 発災時の組織体制や対応について明示でき，学生および教職員の安否報告・確認について，一元化できた．刷新した「地震時における教員避難手引き」により各場所からの避難経路や消火器等の位置がわかりやすくなった．災害対策備品は年度ごとの災害対策予算の範囲で順次整備していく． 16）自殺防止対策 希死念慮を抱く学生に対するチャートや事後対応のチャートを作成し，そのような場合の教員の負担軽減と対応の方法がわかるようにした． 17）FD 研修会 昨年度から学生生活支援センター主催の FD を開催し，2 回目の開催となった．FD 後のアンケート結果により，受講者は精神保健の観点から，希死念慮を抱く学生への理解や対応の留意点，保護者や関係機関との連携など，支援の具体的方法を理解することができていた．今回のテーマや内容は参加者のニーズに沿ったも

評　価	のであったと評価できた. 18）新入生合同研修 対面にて開催し，学生の 98%が対面開催でよかったとし，教職員全員が，各プログラムは学生にとり有意義であったと回答しており，目的が達成できていた. **2. 改善すべき事項** 1）総代・副総代との連絡会 1 年生は 4 月早々に総代・副総代決定にむけて上級生から説明を行い，昼休憩に立候補等で決定する．次年度も早期に総代副総代会を開催し，学生の意見集約，卒業関連役割分担・引継状況の確認を行う. 2）チューターが活動しやすい，学生が相談しやすい環境作り 今年度の編成を，87.5%が肯定的に評価し，「役職のバランスをとる」「学生の負担度が偏らない」という要望が挙げられた．次年度も今年度と同様の方針のもと，教員の異動に伴う変更を加え負担が偏らないよう編成する. 3）学生調査 学年により回答率の差を認めたため，学生の疲労や集中力を考慮し調査日の設定を行う. 4）奨学金 募集周知と希望学生が受給できるよう，募集説明会，選考，手続きを行う．経済情勢を見て，適宜奨学金の紹介などを実施する. 5）健康管理 実習前に必要な予防接種施行の確認と，各種予防接種の期限内の接種を促す．精神健康度の低い学生が増加している．専門の職員配置等を考慮し，引き続き注視していく. 6）学生からの要望に対する対応 懇談会の開催方法，これまでの改善結果などを伝えて，より意見を出してもらえる工夫を行う. 7）学生自治 学生の希望に沿って学友会役員は各学年の立候補者から選抜し，謝恩会の開催・準備について支援を行う．今年度は学生主体で進めることが難しい状況にあったことから，総代・副総代自身が謝恩会の目的や開催まで計画，委員への依頼内容などの詳細が把握できていることを確認する．また適宜，計画通りに実施できているか確認を行う．4 年生から 3 年生への確実な引継ぎと下級生の謝恩会への参加について継続して実施する. 8）ホームページの内容の充実 学友会の行事についての情報も共有し，学生生活について適宜 HP に随時掲載する. 9）学習環境の整備 演習室 7～9 を自習室とするが，使用方法に問題がある場合には指導を行う.

評　価	10）正課外活動ポートフォリオの作成 　ポートフォリオの記載率が前年度より 10%程度低下したため，学生の疲労度を鑑みた調査日時の設定をする．現在の記載様式が目的と合致しているか，学生自身が活用可能であるかについて検討を行う．ボランティア活動の掲示板活用は，教職員・学生に掲示板の周知を図り，情報は本掲示板に集約する．また，学生にはユニパによるアナウンスなども検討する． 11）健康管理：学生の報告が回復後になることがあるため，引き続きガイダンスで周知する． 12）災害対策 　災害対策マニュアルは暫定版であり，地震による災害対策を中心に作成した．次年度は，発災時対応の詳細内容，発災への備えについても検討が必要である．災害対策備品は年度ごとの災害対策予算の範囲で順次整備していく． 13）その他 　学外研修会は，積極的に参加できるよう情報提供を行う．学籍移動については，チューターと連携をはかり，規程に沿って速やかに対応する．学生生活の手引き修正は，学部間の統一をはかり，洗練する．
将来に向けた発展方策・課題	1. チューターが安心して活動できるような環境，学生が相談しやすいような環境を整備する． 2. 外部各種団体の奨学金情報をタイムリーに学生に周知し，推薦者の選考に関して，獲得を目指して吟味する．また，経済情勢を見極めて，選考方法の変更など柔軟に対応する． 3. 保健管理室と情報共有を図り，学生の健康管理（特に精神的な健康）を強化する． 4. 障がいのある学生の支援システムの充実とマンパワーの整備が課題である．引き続き保健管理室，病院との連携をはかりながら対応を行う． 5. 学生の自治活動推進のため，学友会活動への参加，新入生合同研修の充実，学年縦割りの交流の機会を設けるなどの運営ができるように支援する． 6. 学生が主体的に学習し，安心して学生生活を送ることができる環境整備を行う． 7. 学生支援の方針に基づく点検評価による内部質保証を継続する． 8. 災害時の迅速かつ的確対応のために，災害対策マニュアルや防災資機材の整備，訓練と教育など，防災計画の充実を行う． 9. 次年度も FD の企画と開催を年に 1 回行う．学生への組織的な支援の構築につながるような内容を検討する． 10. 学外研修会への参加を促し，学生生活支援に活かす．

3) 委員会

委員会名	（1）カリキュラム委員会	SDGs との関連	
目　的	本学部の教育目標の下，カリキュラムの改善のために科目の設定や統合，教育内容，教育評価などの事項について PDCA を実施する．		
構成員	真継和子（委員長）　草野恵美子　寺口佐與子　二宮早苗　有田弥棋子 間中麻衣子　北川祐美（看護学事務課）		
活動計画	**1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握** 1) ジェネリックスキルテストの実施 2) ディプロマポリシー基づく看護実践能力到達度調査の実施 3) ディプロマサプリメントの運用と学生への説明 4) アセスメントポリシーに基づいた分析 **2. 現行カリキュラムの運営評価の実施** 1) 常勤教員を対象とした調査 2) 学生を対象とした調査 3) 卒業生を対象とした調査 4) e ポートフォリオの導入の検討 5) 学生用アセスメントマップの周知 **3. 非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施** **4. 数理・データサイエンス・AI プログラム委員会との連携** **5. IR 室との連携と成績分析** 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応		
活動概要	会議は合計 13 回開催した． **1. アセスメントポリシーに基づいた学修成果の把握** 1）ジェネリックスキルテスト（GPS-A）の実施 2024 年度入学生（1 年生 84 名）は 4～5 月に全員が受検し（受検率 100%），個人結果レポートはチューター面談に活用できるように，チューター教員に配布した．学生には個人結果レポートの活用方法についてベネッセ担当者より説明する機会を設定し，教員には入学生の特性や在学生との比較結果などについて資料をもとに 7 月の学科会議にて委員から説明した． 2022 年度入学生（3 年生 90 名）は 12～1 月に全員が受検した（受検率 100%）．受検者には，入学時からの成長などの自己分析や，就職活動における自分の強みやアピールポイントの言語化などに個人結果レポートを役立てるように，2025 年 2 月に活用方法をベネッセ担当者から説明する機会を設けた．教員には就職支援で活用していただけるように次年度 4 月に活用方法に関する資料提示を行う予定である． 6 月に GPS-Academic 活用研究会（業者主催）の開催アナウンスを行った．各大学では学生の GPS-A への認識の低さから回答率が低いことが挙げられてい		

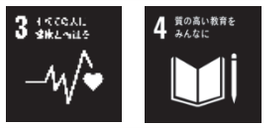
活動概要	た．GPS-A の結果から学生の強み等をポートフォリオ上で自己分析させる等の工夫がされ，就職活動に活かしている現状があり，他学の状況から本学での活動もそれに準じて実施していることが評価できる． 2）DP に基づいた看護実践能力到達度調査の実施 回答者数（回収率）は，1 年生 82 名（99%），2 年生 86 名（98%），3 年生 89 名（99%），4 年生 85 名（93%）であった．昨年までと同様に， DP2 課題探求力の達成度が低く，特に 2 年生の達成率が 70%未満と低下した．次いで DP3 専門職としての実践力が低い傾向にあった．一方，4 年生は全項目が 80%以上の達成率を維持し，一昨年までの課題となっていた「グローバリゼーション・国際化の動向における看護のあり方について説明できる」の達成度が今年度さらに改善し，89.4%に達した． 新カリキュラム初年度の学生は，2022 年度や 2023 年度の 3 年生に比べて，全体に達成率が高い傾向にあり，特に DP4 と DP5 の項目については 12 項目中 10 項目において高かった．また，1 年生と 2 年生からの推移では，2 年生で一部達成度が低下した項目もあったが，3 年生では 44 項目のうち 42 項目が 2 年生よりも上昇していた．2 年生よりも達成度が低かった項目は，「50．看取りをする家族の援助について説明できる」「57．自主グループの育成，地域組織活動の促進について説明できる」の 2 項目であった．今後も継続して新カリキュラムによる影響を確認するとともに，各学年の特徴を踏まえた対策が必要である． 3）ディプロマサプリメントの運用 例年に引き続きディプロマサプリメントをマイステップに添付して，学生が自身で自分の DP 達成度と課題を確認できるようにし，教員にも活用方法の周知を図った．就職活動やチューター面談などに活用されており，今後さらに，学修指導への活用を定着させていくとともに，その評価をしていく． 4）アセスメントポリシーに基づいた分析 2023 年度の成績について IR 室に分析を依頼し，解析結果をアセスメントポリシーに沿って 3 ポリシーの検証を行い，教育年報としてまとめた．解析結果は教育センターと共有し，科目間の成績の平準化をめざして授業改善につなげた．また，教育年報は教育機構会議や学部間協議会に起案して協議をしたのち，教授会や学科会議で教員に周知・共有し，PDCA につなげた． **2．現行カリキュラムの運営評価の実施** 1）常勤教員を対象とした調査 常勤教員に，新カリキュラムに関して良かった点や改善を要する点についての意見を求めた（2025 年 2 月）．新カリキュラムの科目担当教員に対する調査では，「看護研究法の開講時期が早まり，卒論ゼミを早期から開始できる上でよかった」「3 年の老年看護学実習は目標の到達度は変わらず来ている」「以前よりも退院後の生活についての視野を持った学生が増えたように思うので，地域・在宅ケア実習：基礎実習の初年次からの導入は良かった」等，カリキュラム改正の効果に関する意見が出された．

活動概要	また，全教員に対する新カリキュラム全般への意見収集では，看護研究法，多職種連携論等の学修が後に活かされると思われるという意見が出されていた．低学年から研究的な視点を持てる科目があるとよいとの意見もあった． 新任教員に対する意見収集では，「学生が幅広い学びができるように組まれたカリキュラムだと思う」「学生は真面目に受けられていた」など肯定的な評価がされていた． 2）学生を対象とした調査 新カリキュラム 3 年目となり，カリキュラム改正評価に活用するために 1・2・3 年生全員を対象にアンケート調査を実施した．回収数および回答率は以下の通りであった． 1 年生･･･回収数 : 79，回答率 95.2%　2 年生･･･回収数 : 88，回答率 88.6%　3 年生･･･回収数 : 90，回答率 96.% 1 年生への調査では，新設・内容変更された科目について 1 年生科目として設定されていることについて，概ね半数以上が適切と回答していた．　1 年生全体科目数（授業時間数）については，前期は 53.2%が「適当」，次いで 26.6%が「どちらかという多い」と回答していた．後期は 53.2%が「適当」と答えていた．オンデマンド授業については 63.3%が「もっと多い方がよい」，36.7%が「ちょうどよい」と回答していた． 2 年生への調査では，開講時期等が変更となった科目について「フィジカルアセスメント」は 84.6%，「基礎看護学実習Ⅱ」は 94.9%が，開講方法が適切である・どちらかというと適切であると回答していた．「基礎看護学実習Ⅱ」については，2 週間連続の実施は適切であったかという問いに対し，「そう思う」60.3%，「どちらかというとそう思う」35.9%となっていた．また「基礎看護学実習Ⅱ」を履修しての感想がたくさん寄せられ，記録などが大変だったが 2 週間連続だったので集中して取り組めた，患者理解につながった，3 年生の実習のイメージにつながったといった意見が出されていた．2 年生全体の科目数（授業時間数）については，前期は「どちらかというと多い」42.3%，「適当」35.9%，「多い」21.8%，後期については，「適当」48.7%，「どちらかというと多い」30.8%，「多い」20.5%との回答していた．オンデマンド授業については 59.0%が「もっと多い方がよい」，39.7%が「ちょうどよい」と回答していた． 3 年生への調査では，新設・内容変更された科目について 3 年生科目として設定されていることについて，6 割以上が適切と回答していた．「老年看護学実習」が内容変更されたが適切であったかという問いについては，「そう思う」51.7%，「どちらかというとそう思う」39.1%となっていた．3 年生全体科目数（授業時間数）については，前期は 35.6%が「適当」，次いで 32.2%が「どちらかという多い」「多い」と回答していた．後期は 57.5%が「適当」と答えていた．オンデマンド授業については 63.2%が「もっと多い方がよい」，35.6%が「ちょうどよい」と回答していた． 3）e ポートフォリオの導入の検討

活動概要	Universal Passport のシステムが更新され，2025 年 1 月より「ユニパ RX」の運用が開始となった．e ポートフォリオについては，新しいシステム上での看護学部における e ポートフォリオ運用案について検討した． 4）卒業生を対象とした調査 就職支援委員会と共同し，2021～2023 年度卒業生および 2017～2023 年度卒業生の就職先に対して，卒業生には在学中の教育内容やキャリアサポートへの満足度，就職先には重要とする看護実践能力や卒業生が入職時に修得できていた能力，本学の教育内容に関する意見等についてのアンケート調査を行った．2023 年度卒業生 27 名（40.3%），2022 年度卒業生 17 名（25.4%），2021 年度卒業生 4 名（6%），その他 23 名（28.3%）から回答が得られた．自己評価が高かった項目は「看護実践や自己の成長のために，他者の支援を求めること」「チームの一員としての自分の役割を認識した行動をとること」などであった．また，自己評価が低かった項目は「後輩や学生の指導をすること」「緊急時の対応をすること」であった．ほぼ，前年度と同様の結果であった．本学の看護学部教育への期待としては，「臨床・臨地との協力」「図書館の充実」「研究機関としての発展」「教育カリキュラムの充実」「地域貢献」を期待する意見が多かった． 卒業生の就職先では，13 施設（回答率 25.0%）から回答が得られ，本学の学位授与方針に関する 16 項目のうち，ディプロマポリシー等の重要度が高かった項目は，「生命の尊厳及び人権の尊重」「ストレス対処能力」などであり，入職時に習得度が高い項目と捉えていた．一方で，「国際的な視点」「看護に関する課題の探求」については，入職時に習熟度が低いと捉えていたことが示された． 5）学生用アセスメントマップの運用 2022 年度に学生用アセスメントマップが作成され，2023 年度から「学生向け e ポートフォリオ説明書」に組み入れられた．教育センターと連携をとりながら履修ガイダンス等での周知を図り，学生に活用を促した． **3．非常勤教員・兼担教員対象の調査の実施** 非常勤，兼担教員を対象に「看護学部学生の学習に対する姿勢や態度，日頃の学習行動」に関する意見調査を行った（2025 年 2 月）．19 名中 12 名（63.1%）から回答が得られた．学生の受講態度は概ね良好で，真面目に講義に集中しているという評価が多かったが，私語が過ぎる，積極性・自主性に欠けるといった指摘もあった．工夫として，毎回の講義の最後に確認問題を実施し提出させる，双方向のやり取りを意識した授業等を展開していることがうかがえた． **4．数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会との連携** 看護学部の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員と連携をとり，委員会で検討している事項について情報共有を行った． **5．IR 室との連携による成績分析** 成績の分析について IR 室に相談するとともに，分析依頼を行った．ジェネリックテストや成績との関連について分析を依頼し，講義の成績や実習成績，学生生活状況との関連を検討する予定である．さらに，2022 年度新カリキュラム改

活動概要	正が学生の DP 到達度にどう影響している分析する予定である．また，GPA の活用促進（進級および卒業判定）に向けて GPA と DP 到達度の関連をみていく． **6. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定への対応** カリキュラムワーキンググループと連携し，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂への対応について検討した. 現行カリキュラムと比較しながら教育内容の過不足を確認し，課題を整理した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** GPS-A 活用の周知を図ったことにより，学生，教員とも就職活動等に活用されてきたことは評価できる．また，アセスメントポリシーに基づき学修成果を可視化することにより，学生の DP 到達度と課題が明確となっている．今後，課題に対する具体的方策を立案し学修成果をあげていく． 2022 年度からの新カリキュラム下において新科目の設置や科目の配当年次を変更したが，いずれも学修成果につながっている． **2. 改善すべき事項** ディプロマサプリメントの活用の充実とその評価が課題である．
将来に向けた発展方策・課題	1. アセスメントポリシーに基づいた 3 ポリシーの検証と教育改善への活用 2. ディプロマサプリメント活用の充実と評価 3. 看護学教育モデル・コア・カリキュラム令和 6 年度改訂版への対応

センター名	（2）カリキュラム評価委員会	SDGs との関連	
目　的	本学看護学教育カリキュラムについて継続的に評価することであり，委員に複数の学生を含め多角的に評価を行うことで，自己点検および評価活動に反映させ看護学部教育水準のさらなる向上を目指す.		
構成員	赤澤千春（委員長）　草野恵美子　久保田正和（6 月 30 日まで）　南口陽子 川北敬美　堀江雅彦　長田紗季（看護学事務課） 学生委員：坪井茉莉　岩浪　睦　西野菜々美　須山智司		
活動計画	1. 学部，研究科における昨年度カリキュラム評価の振り返り 2. カリキュラムの評価方法，評価リストの検討と決定 3. 2023 年度を対象としたカリキュラム評価の実施と意見交換 4. 報告書の作成と公開		
活動概要	1. 委員会は計 5 回開催した．昨年度報告書は HP で公開した. 2. 2024 年度は，学部，および研究科のカリキュラムを評価対象とし，学生委員は学部 2，4 回生と大学院生とした.「看護学部アセスメントプラン，看護学研究科アセスメントポリシー」に基づき作成された本学独自の評価リストを用いた．評価リストは，学部，研究科（修士・博士課程）毎に，課程レベル，科目レベルに分け，AP，CP，DP の評価項目について PDCA が行われているかを 3 段階で評価する構成とし，カリキュラムが機能しているかを検証した. 3. 2024 年 9 月～11 月の間で，委員が評価項目に基づき評価を行い，11 月開催の第 4 回委員会において，学生委員を含めた結果共有と意見交換を行った．学生委員は，評価は行わず，委員の評価結果を共有し，意見交換を実施した. 4. 今年度実施したカリキュラム評価リスト作成と評価結果，総括および今後の課題を報告書にまとめた．報告書の内容は，学部長に報告後，看護学部および研究科教授会において報告を行い，本学部教職員と評価結果の共有を行った.		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1）評価リスト作成を用いて評価したことで客観的に行うことができた. 2）評価結果：概ね PDCA がなされているという評価であった. **2. 改善すべき事項** 1）学部：入学時調査を継続実施し AP に適った学生獲得に努めること，正課外活動ポートフォリオ・ティーチングポートフォリオの活用と評価，学部生より多職種連携講義の拡充 2）研究科：大学院生に向けて研究助成金の獲得にむけた情報提供や指導の充実		
将来に向けた発展方策・課題	1. 学部・研究科共に，退学者を出さない入試・学修支援にむけて，評価，改善を継続する. 2. 学部のアセスメントプラン，研究科のアセスメントポリシーの点検・評価と，それに伴う評価シートの点検・評価を恒常的に実施する. 3. 3 学部合同開催の教育研究内部質保証評価会の評価視点と今年度作成したカリキュラム評価リストの整合性について検討を行う.		

委員会名	（3）実習委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学実習に関わる事項（年間計画の立案，実習要綱の作成，実習連絡協議会の企画・運営，予算案作成，インシデント等に関する検討など）の調整をする．		
構成員	山岡由実（委員長）　竹村淳子　大橋尚弘　近澤　幸　南口陽子　山埜ふみ恵 赤崎芙美　山内彩香　勝山あづさ　杣木佐知子　有田弥棋子（4～5 月） 野瀬珠美（10～3 月）　北川祐美（看護学事務課）		
活動計画	1. 実習連絡協議会の企画，運営 2. 実習オリエンテーションの企画，運営 3. 看護学実習要綱（共通事項），各実習要項の修正と取りまとめ 4. 臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援 5. 領域別実習のグループ編成，看護学実習に関する調整，年間計画の立案 6. 実習状況に関する学生の情報共有 7. 委員会 FD の実施（委員会内，臨地実習指導者・教員対象） 8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と今後の対策の検討 9. 実習前の倫理学習に関する学生及び教員へのアンケート調査の実施，まとめ 10. 感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等，COVID-19）に関わる調整 11. 実習調整・対応 12. 臨床教授等役割検討 13. 看護実践の理論と統合の出席管理 14. その他		
活動概要	委員会の開催：12 回の委員会を開催した． **1. 実習連絡協議会の企画，運営**：今年度は，第 I 部の全体会議は対面開催とオンライン（zoom）で，第Ⅱ部の分科会は対面開催（急性，小児）・ハイブリッド開催（慢性，精神，在宅）で実施した．全体会議は実習指導者等 49 名と教員 36 名が参加した．全体会議では 2023 年度の看護学実習関連の報告と 2024 年度の看護学実習の概要を報告した． **2. 実習オリエンテーションの企画，運営**：1～3 年生の実習オリエンテーションを開催した．いずれの学年においても，実習における倫理，個人情報保護，健康管理・感染症対策，実習におけるハラスメントの相談窓口などについての内容とした．これまでの学生のヒヤリハットやインシデント報告を反映させた内容になるように調整した．また，学生が意欲的にオリエンテーションに参加できるように，教員からの説明だけでなく，学生が発言する機会を設けるなどの工夫を行った．学生が主体的にオリエンテーションに参加し，スムーズに実習を開始できるような取り組みについて継続して検討する． **3. 実習要綱等の作成**：各分野での要綱・要項配布・在庫状況を確認し，2025 年度看護学実習要綱（共通事項），各分野別実習要項，統合看護学実習要項を作成した．		

活動概要	**4. 臨地実習における合理的配慮が必要な学生への支援**：2024 年度申請のあった学生 3 名に対し，看護学部障がい学生支援委員会の基本方針に則り，各分野で具体的支援計画を作成し対応し，教育センター，教授会で検討・審議した．当該学生は問題なく実習を終了した． **5. 実習グループの編成等** 1) 分野別実習グループ編成：グループ作成手順に基づき，4 年生 1 名は国家試験対策に影響の少ない早期に実習ができるグループに配置し，助産科目選択の学生，3 年生科目における成績などを考慮して，実習グループを作成した． 2) 実習に伴う教室利用の計画・調整：実習期間中の学内日や「実践と理論の統合」に関わる教室使用，および実習期間中の昼食場所の調整を行った．4 年生の統合実習では，実習期間中の学内待機場所や休憩場所の調整を行った．3 年生の分野別実習では，期間中の休憩場所として，講義室を確保した．学内日と重複する日については，休憩場所の調整を行った．また「実践と理論の統合」で使用する教室についても，各分野と調整を行い確保した． 3) 2025 年度実習計画：2024 年度と同様に，8 グループ編成とし，分野別実習の実習計画案を作成した．2025 年の大学病院の新病棟移転のため，各領域の実習病棟の確認を行い，大学病院実習計画表を作成した．また，2025 年度より実践発展実習が公衆衛生看護学実習および助産学実習選択者以外の必修科目となったことに伴い，4 年生の実習計画案を作成した．1～4 年生の実習計画案について大阪医科薬科大学病院および三島南病院看護部の了承を得た． **6. 実習状況に関する学生の情報共有**：実習における気になる学生の情報を共有し継続的な支援につなげることを狙いとして 2023 年度より導入した．全教員がファイルにアクセスし，必要時確認すると共に，口頭でも共有することで，指導方法や対応方法について教員間での引継ぎや連携，相談が柔軟にできるようになった． **7. 委員会 FD 実施**：今年度の FD は「コロナ禍を経験した医療系学生の傾向と支援のあり方　今どきの学生の特性，学生支援のあり方，コロナ禍が及ぼした影響」をテーマとし，6 月 5 日実習連絡協議会後に臨床指導者と看護学部教員を対象にハイブリット形式で開催した．参加者は 86 名だった．回収した事後アンケート 40 件（回収率 46.0%）の 95%が講演に満足したと答えていた．具体的な実習場面での支援についてより深めて知りたいとの要望もあった．その他，今後希望する FD 講演会テーマとして，Z 世代への実習指導，ハラスメント対策などの希望がみられた． **8. 実習中のヒヤリハット/インシデント/アクシデント分析と対策** 実習終了後の 3 月に分析し，共有した．学生のインシデントは計 9 件（昨年度 13 件），アクシデントが 1 件であった．内容別には，記録物の不適切な管理は 6 件が最多であった．低学年のインシデントは 3 件で昨年度と横ばいであったが，高学年のインシデントは昨年度の 10 件から 7 件に減少した．実

活動概要	際に発生したインシデントをオリエンテーションや倫理 GW の中で説明し，学生がどのように行動したら良いのかイメージできるようにしていく必要がある．記録物の不適切な管理に関しては，低学年では倫理 GW の事例を継続し，高学年はオリエンテーションで記録物管理の説明を強化する必要がある．電子カルテの興味本位での閲覧のアクシデントが発生しており，個人情報保護については，患者に実害が及ばないように，宣誓書内に記載されている個人情報保護に関する内容について学生への周知方法や理解度の確認方法を次年度のオリエンテーションに向けて委員会で検討していく． **9. 倫理グループワークアンケート調査** 1) 学生対象調査（3 年生）：倫理グループワーク実施直後の調査結果では全員が「参考になった」と回答し，実際に起こりうる状況を事前に知ることができ，様々な意見を聞けた点が良かったとの意見があった．分野別実習後に実施した調査の結果では， 92.3%の学生が実習で役立ったと回答し，倫理的視点の向上や実習への姿勢の向上につながった． 2) 教員対象調査は，分野実習終了後の 2 月に実施した．倫理的な課題があると感じた場面として，言葉遣い，患者への配慮不足といった実習態度に関する課題や，医療者の発言・対応，指導方法に関する課題が挙げられた．今後のグループワークでは，電子データや個人情報の取り扱い，自己省察を促す事例を取り上げることが求められていた．また，具体的な事例を提示することで理解が深まり，危機意識や予防策を考えるきっかけになるとの意見があったことから，引き続きグループワーク形式で学生が倫理的観点に基づいた看護を実践できるように支援していく． **10. 感染症対策（ワクチン接種状況，感染予防等，COVID-19）に関わる調整** 「大学病院における学生実習について」を周知した．実習期間中は各クールの実習前検査の実施．学生の体調に関する校医・保健管理室への相談，感染症による実習受入れ中止時の施設・病棟変更等の調整，追実習を行った． **11. 実習依頼・調整**：2025 年度実習計画策定・実習依頼を行った.2025 年より実践発展実習が必須となること，7 月に B 棟への移転などにより，統合実習の分野間及び看護部との調整を 8 月に開始し，11 月の教授会で報告した． **12. 臨床教授等役割検討**：看護学部の臨地実習指導においては，これまで実習指導者に関する役割の申し合わせがあった．今年度，これとは別の称号として設けられている臨床教授等について，実習に関する役割を検討することとなった．検討は，文部科学省から平成 9 年に出された医学部教育の臨床教育の充実を図るための通知文「「臨床教授（臨床助教授・講師を含む)」（仮称）の称号の付与について（通知)」と，臨床教授等の役割に関する他大学のホームページの記事，本学部教員への調査結果を根拠資料として行った． 教授会での審議を経て，最終的には臨床教授等の称号名を外し，「大阪医科薬科大学看護学部・看護学研究科 臨地教育教員の役割」として承認された．検討当初は学部教育における実習を想定していたが，学部教育のみならず大学院にお

活動概要	ける高度実践コースの実習も包含した考え方となった．また，実習施設は異なる組織形態や規模等の事情があり，役割と称号名が必ずしも一致しないことがあるため，役割のみを残す形となった．令和 6 年度から適用となる． **13. 看護実践の理論と統合の出席管理**：看護実践の理論と統合の出席管理および評価について申し合わせ事項を作成した．出席管理について学生の自覚を促す目的で，出席カードを作成した． **14. その他**：ワクチン接種状況の把握と必要な学生への促しについてフローシートを作成し，学生生活支援センターと共有して，役割を明確化した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1） 実習連絡協議会の配布資料について，これまでは必要部数を確認して準備していたところ残部が多く出ていた．そこで，今年度より配布病棟の一覧表を作成し看護部に必要部数の入力を依頼したうえで，該当部署に必要部数を配布し，欠席した部署の資料を看護部に持ち帰りいただくようにした．それにより，残部が生じず印刷費用の削減につながった． 2） 大学病院看護部と随時連携をとり，カリキュラム変更及び感染症等の実習に関連する事項，配慮が必要な学生の実習支援について必要時相談し対応できた.それにより学生への不利益が生じることなく臨地実習を実施できた． 3） 臨床教授等役割検討については，改めて検討し，看護部と共有することで，実習や演習等への参画について役割機能を共有できた.また実習要項に追加したことで，継続して共有，検討できる体制をとれた． 4） 各分野の実習と関連している科目「看護実践の理論と統合」の出席管理カードを作成することで，他分野にわたる出席状況が把握でき，学生の実習指導につなげることができた． **2. 改善すべき事項** 1） 電子カルテの閲覧，記録の取り扱いに関するインシデントが生じたため，引き続き学生の意識付けを強化すると共に，指導継続する． 2） COVID-19 に対する感染症法上の分類は 2023 年 5 月 8 日より 2 類から 5 類に変更となったが，2024 年度も実習中の感染者の増加が認められる時期があった.本学学生は医療従事者に準ずるため，感染症予防・り患時の対応の重大性についての指導を継続する．
将来に向けた発展方策・課題	1. 臨床教授等役割を検討し，看護部と共有できた．実習指導者はもちろんのこと，臨床教授等も含めて FD への参加を促し，実習指導，教育への能力向上と共に学部との協働体制の強化に努め，成果を評価する． 2. 2022 年度改正カリキュラムの成果の継続的評価を引き続き行い，看護学教育モデル・コア・カリキュラムの検討に活かす． 3. 実習記録のクラウド化を引き続き検討し，実習指導の充実への活用，課題について検討する．

委員会名	（4）ウェブサイト委員会	SDGs との関連	 
目　的	大阪医科薬科大学看護学部のウェブサイトを円滑に管理運用する.		
構成員	安田稔人（委員長）　鈴木美佐　大橋尚弘　堀池　諒　日髙朋美　野口美穂 看護学事務課　堀江雅彦　村上佐智子 オブザーバー　企画・広報課　松田久美　田中庸介		
活動計画	1. 看護学部教員・各領域・分野に関する情報更新 2. 学部長あいさつ，トップページ写真等の更新 3. 各センター・委員会関連ページの更新・充実 4. 看護学部年報，看護研究雑誌の最新号掲載 5. その他必要な更新および情報公開（随時） 6. アドミッションセンター（AC）が企画，運営するオープンキャンパス（OC）への協力，OC の日時や企画内容の看護学部教員への周知 7. 看護学部案内の企画 8. Web サイトの評価		
活動概要	1. 委員会（9 回）の開催：すべて対面で委員会を 9 回開催した. 2. OC 業務の教員への協力依頼（模擬講義，個別相談など）を行った. 2 名の教員が模擬講義を担当，第 1 回，2 回とも 7 名の教員が個別相談を担当した. 3. OC 参加学生のアンケート結果を分析し，次年度への検討項目を抽出した. 4. 日本看護系大学協議会（JANPU）に登録して本学の OC の案内を HP に掲載した. 5. 本委員会の代表メールアドレスを作成した（website-n@ompu.ac.jp）. 6. JANPU の特別企画「専門看護師をめざす」を本学看護学部，看護学研究科の HP に掲載した. 7. 一般社団法人 日本私立看護系大学協会からの依頼によりベネッセの web ページに大学の魅力と教育の特色，ロゴマークを掲載した. 8. サイト更新 1) 教員一覧，教員情報，教員からのメッセージ，領域・分野ページ,実習の写真の更新 2) 学部長あいさつの更新 3) 3 センターのサイトの更新，国家試験情報，就職・進路状況の更新 4) 2023 年度看護学部年報，看護研究雑誌第 15 巻掲載 5) 各種告知事項，実施報告等の更新		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 対面式 OC については，午前，午後と入れ替え制で予約制としたが，予約者のほとんどが来校し（2 回の OC で 524 名が参加，昨年は 431 名参加），アンケート調査においても来校者の満足度は高かった．看護学部キャンパスだけでなく，		

評　価	本部キャンパスの解剖実習室や図書館の見学ツアーも高い評価を得られた．OC参加の理由は「大学病院があり，実習施設が充実している」,「通学可能な距離にある」,「保健師・助産師教育課程がある」という回答が多かった． 企画・広報課職員の参加により，看護学部教員と事務課との連携が強化され，企画・広報課の協力により教員の意見を HP に反映できた．実際の病棟実習風景の撮影と学生の感想と指導教員のコメントを取材し，質の高いコンテンツが作成できた．受験生向けの紹介動画を受験生サイトに掲載し，HP の掲載内容の改善に役立てた．OC や HP の充実が本年の看護学部の受験者の増加の一員となっていると思われる． **2. 改善すべき事項** 本委員会の役割は広報を含むため，AC とも密に連携をとり，受験生にとってより見やすい HP を目指す．
将来に向けた発展方策・課題	受験生が受験校を選択する際は大学の HP や OC を参考にする場合が多く，さらなる HP の充実に加えて，AC ともさらに連携し，OC の企画内容を充実させる．次年度の HP については学問分野の興味を引き出し学生募集につなげるため「夢ナビ企画」を検討していく．OC については実習室にモデル人形以外の目玉となる展示を企画する．また，受験生の進路指導をする教員に対しても本学 OC の参加を勧めていく．

委員会名	（5）看護研究雑誌編集委員会	SDGs との関連	 
目　的	大阪医科薬科大学看護学部における教員等の教育研究成果を広く看護界に発信し，看護学の向上と発展に寄与する		
構成員	小林道太郎（委員長）　大橋尚弘　寺口佐與子　有田弥棋子		
活動計画	1. 看護研究雑誌第 15 巻の編集・発行 2. 投稿・査読関連の手順および書式等の整理 3. 第 14 巻の看護学部サイト掲載		
活動概要	1. 委員会の開催 : 年間 6 回の会議を開催し，以下の事項の審議と確認を行った. 2. 看護研究雑誌第 14 巻の学部サイト掲載 : ウェブサイト委員会に依頼して看護研究雑誌第 14 巻を Web 公開した. 3. 看護研究雑誌第 15 巻の編集・発行 : 投稿規定に基づき，8 月末題目登録締切，10 月末原稿提出締切，3 月発行というスケジュールで，投稿の募集から査読，編集の諸業務を行った．結果，掲載論文は 15 篇となった. 4. 過去の掲載論文について，博士論文の一部として大阪医科薬科大学リポジトリで公開することの許可を求める連絡があったため対応した.		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 第 15 巻の査読・編集作業は予定通り進行し，前年度より多くの論文を掲載することができた. 前年度の反省を踏まえ，修正論文の修正箇所の明示と刊行日程を 3 月 20 日以前にすることについて確認を行った. **2. 改善すべき事項** 特になし.		
将来に向けた発展方策・課題	1. 投稿規定，執筆要領を必要に応じて見直す. 2. 査読の質の維持向上は雑誌としてつねに継続して取り組むべき課題であり，引き続き方策を検討していく.		

委員会名	（6）予算委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学部における適正な年間予算案を要望することを目的とする.		
構成員	鈴木久美（委員長）　真継和子　山岡由実　竹村淳子　土手友太郎 増田尚紀　森川健太（看護学事務課）		
活動計画	各部署等より提出された予算案を基に作成された 2024 年度看護学部予算案の審議を行い，教授会で承認を得た. 1. 学生の教育，学生の実習に係る備品等 2. 各センターおよび各委員会に係る活費 3. 教員の研修等に係る活動費 4. 教員の交通費 5. 実習補助員に係る諸経費 6. 看護学事務課に係る諸経費 7. その他，学部長が必要と認めたもの		
活動概要	次年度予算案を作成するにあたり,看護学部に係る全体的な予算をできるだけ削減するように努め，看護学部として以下の新規購入を要望した. 1. 看護学部北キャンパス講義室 4，5 のスクリーンの買い替え（教育センター） 2. 看護学部棟事務室設置の印刷機（複合機）（看護学部）※経常新規 3. 実習記録のクラウド化（教育センター）※経常新規 4. シミュレーション DX 構築システム（教育センター）※経常新規 5. 看護学部 15 周年・看護学研究科 10 周年記念誌作成費用（看護学部）		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 近年の法人の財政状況を踏まえ,優先的に買い替えや設置が必要な機器等に絞り込んだうえで，充足を実施している. **2. 改善すべき事項** 経年による看護学部内での全体的な設備機器の状況を確認しながら,備品等を予算に合わせて合理的に更新できるよう，検討が必要である.		
将来に向けた発展方策・課題	看護学部全体の適正な設備修繕や機器備品等の更新について,優先順位を明確にしたうえで，予算要望を検討することが重要である.		

委員会名	（7）物品管理委員会	SDGs との関連	
目　的	講義・演習を円滑に進めるため，授業に関する物品の維持および管理，物品に関する情報収集と学部内教員への発信，その他物品管理に関する事項を行う.		
構成員	竹村淳子（委員長）　川北敬美　間中麻衣子　勝山あづさ　有吉真里菜 森川健太（看護学事務課）　増田尚紀（看護学事務課）		
活動計画	1.　委員会の開催 2.　教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検 3.　教務関係備品の貸し出し管理 4.　実習室，器材庫，シミュレーションルームの整備 5.　経年劣化による物品の確認および修理・購入の必要性を検討 6.　COVID-19 感染拡大時に備蓄した物品の消費状況の把握 7.　2025 年度教務関係物品購入予算案の作成		
活動概要	**1. 委員会開催** 2024 年 4 月～2025 年 3 月に計 6 回の委員会を開催した. **2. 教務関係備品等・消耗品の在庫管理と点検** 1）教務関係備品の管理 5 つの共通物品の定数の札が不足しており，事務課へ依頼し補充を行った. 車いす，ストレッチャー，ベッドは数年ごとに点検・修理・買い替えを行っているため，車体ごとの管理が行えるよう，Share 内の分娩台帳のファイルに管理シートを設けた. 2）定期点検 モデル・シミュレーター（京都科学，坂本モデル，高研）の点検について，各分野物品管理係に確認し実施した. 3）教務関係備品の点検・消耗品の在庫管理 各分野へ業者点検依頼の希望のある物品を募ったが，どの分野からも希望がなかった．備品・消耗品確認の流れに関する文書について委員会で検討し，今年度は改訂がないことを確認した. 共通物品の備品・消耗品の点検と整理を 2 月 14 日に実施した．年度末に，各分野の備品・消耗品点検について各分野の物品管理係に依頼した．今年度は，分野物品のカウントを行う各分野の物品管理係より，カウント方法やリストについての問い合わせが委員に入ることはなかった．消耗品の在庫数の減少は認めなかったが，共通物品に 2 つ不足している物品があり，教職員へ一斉メールで返却依頼した. **3. 教務関係備品の貸し出し管理** 2024 年度は，実習室物品の貸し出しとして，看護キャリアサポートセンターへ，計 5 回，物品管理委員会の管理下である実習室物品（ベッド，ベッドシーツ，各種モデル，枕等）の貸し出しを行った．管理に関しては，看護学事務課より，使用後に状況を確認のうえ，返却受取に係る情報を記入のうえ申請様式を整えている.		

活動概要	**4. 実習室，器材庫，シミュレーションルームの整備** 器材庫の整理と地震対策実施について，各分野が使用している棚の経年劣化した地震対策用ゴムの状況を確認するとともに，器材庫内に配置している物品の整理を行った．モデルの故障やベッドの破損などを確認した際には，貼り紙掲示やベッドの移動を行い，物品が安全に使用できる環境を整えた．また，定期的な清掃およびリネン類のクリーニングの実施を行った． **5. 経年劣化による物品の確認および修理・購入の必要性を検討** 演習で使用するリネン類（綿毛布，マットレスパッド）は，生地の擦り切れや10cm 以上の縮みが生じているため，買い替えの検討を行い，マットレスパッドを28 枚新規購入した．また，実習準備室の乾燥機 2 台，洗濯機 1 台が故障し，順次買い替えを行った． **6. COVID-19 感染拡大時に備蓄した物品の消費状況の把握** 備蓄分はエプロンのみ余っているため，次年度も順次使用していく． **7. 2025 年度教務関係物品購入予算** 今年度の教務関係物品購入はすべて予算内で執行した．また，今年度は点検の結果，車椅子を 1 台新規購入し買い替えた．2025 年度はストレッチャーの点検が予定されており，必要時，修理および買い替えを検討していく．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 教務関係の備品，機材の維持 備品，機材および消耗品の管理は，各分野の担当者を介して点検され，当委員会が統括することで円滑に管理できている． **2. 改善すべき事項** 1)　共通消耗品の購入ルールの徹底 共通で使用する消耗品の購入に関して，使用した分が適切に補充されるシステムが作られているが，定数の札が紛失するなどが散見される．演習時に必要な数が提供できるようルールの徹底を呼び掛ける必要がある． 2)　共通物品の定数カウントおよび管理について タオルやシーツ等のリネン類は，古くなったものは徐々に破棄しているが，今年度は定数の漸減は認めなかった．
将来に向けた発展方策・課題	**1. 経年劣化のベッド等，高額物品の買い替えに関する検討** 実習室 1 に設置されているベッドは，一部新規購入し，修理可能なものはそのまま使用している．ベッド支柱のロール部分が壊れているものもあるため，使用する学生の安全面を考え優先的に買い替えを計画する必要がある．故障に伴う高額物品の買い替えは，他学部の現有する備品の有効活用も検討し，教育の質も踏まえて検討していく． **2. 予算計画の検討** 高額物品の購入および修理について，使用頻度をふまえて数年単位の計画を立てる必要がある．併せて，経常的な予算の範囲における物品購入の他にも，適宜法人へ新規予算申請のうえ購入が必要な物品に関しては，実施する必要がある．

委員会名	（8）就職支援委員会	SDGs との関連	
目　的	大阪医科薬科大学看護学部の学生の就職・進路の支援		
構成員	山岡由実（委員長）　南口陽子　内田浩江　松枝加奈子　赤崎芙美　濱浦弘美　藤原敏洋		
活動計画	1. 学生に対する就職情報提供 2. 学生の就職活動力強化のためのサポート 3. 教員の就職活動支援力向上のサポート 4. 進学，就職活動及び内定状況の把握 5. 卒業生と在校生の交流の機会を設け，情報提供の充実をはかる 6. 来校人事担当者との対応による情報収集 7. 卒業生の動向に関する情報収集のあり方に関する検討 8. HP の更新 9. その他		
活動概要	1. 学生に対する就職情報の提供として，就職活動スケジュール等の情報や看護職員募集情報，パンフレット等をキャリアサポートルーム内外に設置した．また，タイムリーな就職活動ができるよう必要時ユニパで情報を発信した． 2. 就職活動力の強化支援として，就職ガイダンスを 3 回実施した．第 1 回目（入門編）は，2024 年 6 月 12 日（水）に大学病院担当者，就職支援業者による講演を対面開催した．3 年生 78 名が参加した．第 2 回目は（実践編），2025 年 1 月 25 日（土）に大学病院担当者，卒業生の看護師，保健師，助産師による講演，就職支援業者による履歴書・面接対策の講演を実施した．3 年生 81 名が参加した．履歴書添削セミナーは，2024 年 2 月 26 日・28 日に zoom による個別指導で開催した．参加者は 17 名であった．低学年ガイダンスは 2024 年 11 月 29 日（金）に就職支援業者による就職活動準備講座を開催した．2 年生 87 名が参加した． 3. 教員の就職活動支援力向上にむけて，第 2 回就職ガイダンスにおける履歴書・面接対策の講演内容を業者の了解を得て録画し，閲覧できるようにした． 4. 進学，就職活動および内定状況の把握は就業調査票にて行い，2025 年 3 月に卒業年次生の進路確定状況を学部教授会で報告した． 5. 卒業生と在校生の交流は，第 2 回就職ガイダンスで各職種の卒業生と質疑応答の時間を設けた． 6. 来校人事担当者の対応は委員が行い，次年度採用試験の日程や人材育成の方針等の情報収集を行い，来校者応接録を作成した． 7. 卒業生・施設アンケートは，対象者を卒後 3 年目までに拡大し，回答方式をオンラインで実施した．卒業生の回収率は 26.9%，施設の回収率は，25.0%であった．回収率が減少していることから調査依頼方法の検討が必要．		

	8. HP には，就職ガイダンスの開催，今年度の就職先情報，卒業生・施設代表者調査の結果を更新した． 9. 大阪府看護協会ナースセンターの就職支援の活用について，次年度低学年ガイダンスへの参加を検討した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 就職ガイダンス，低学年のガイダンスの開催やタイムリーな就職情報を発信し，学生の意識向上を図った．情報収集元について掲示板，ユニパ，サポートルームの資料と回答した者が 40-50%と学生の半数が利用しているため必要性が高い． 就職ガイダンスは，今年度は対面開催とし，学生の参加率は 3 年生第 1 回，第 2 回とも 90%以上と昨年度より参加率が高く，低学年は 99%であった．満足度約 90%とすべて高く，学生のニーズに沿っていると考える．アンケート結果から，開催時期を早くして欲しいとの希望や近年の就職試験が 4～5 月と早くなっていることから，第 2 回の就職ガイダンスを 1 月から 12 月へ早めることとなった． 履歴書添削セミナーは，就職支援業者による zoom での個別指導形式で実施した．終了後のアンケートでは 100%の学生が「とても役立った」もしくは「役立った」と回答した．今後も継続の方向で検討したい． 就職活動および就業調査票は，全員の提出があった．就職活動調査票の結果が更新されたことを学生に対し例年よりも早くユニパにて周知し，早期の就職活動を促進した． 卒業生に関するアンケート調査は，昨年度より卒後 3 年目までを対象に調査を実施したが，回収率が 26%と悪く，中でも 2 年目は 2 割，3 年目 1 割未満であり，また 2，3 年目は重複して回答することになるため，次年度は卒度 1 年目のみに戻すこととなった．学生対象の結果では，「看護実践や自己の成長のために，他者の支援を求めること」「チームの一員としての自分の役割を認識した行動をとること」が高評価であった．今後のキャリアアップについて，最も多かった意見は認定看護師であり，看護管理者，教育・研究者と続いた．大学院博士前期課程進学を考えているものもおり，本学の卒業生のキャリアアップに生かすことができるよう，進学に関する情報提供を在学中から行っていく必要がある．施設側は，回収率が 25%であった．結果から，「生命の尊厳および人権の尊重」「組織で働くための規律」「ストレスコントロール力」が高評価であった．今後，期待することが多かった項目は「看護実践能力の向上」であった．
将来に向けた発展方策・課題	1. ガイダンスは，内容を精選し時間短縮を図ること，3 年生の第 2 回を早めることが課題である．卒業生からの講演や面接の模擬練習は継続していく． 2. 就職活動および就業調査票は，100%の回収率であった．今後もユニパでの提出を継続し，集計作業の簡便化，後輩への情報提供の迅速化をはかる． 3. 卒業生および就職先の施設に関するアンケート結果から，キャリアップについての情報提供を検討することが考えられる．また次年度は，卒後 1 年目に戻し回収率を上昇させる．2026 年度にはこれまでのアンケート調査内容を評価する．

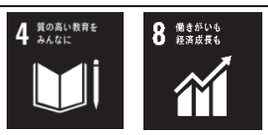
委員会名	（9）国家試験対策委員会	SDGs との関連	
目　的	大阪医科薬科大学看護学部学生の看護師・保健師・助産師の国家試験受験をサポートして合格率向上を目指す.		
構成員	安田稔人（委員長）草野恵美子　近澤　幸　中原洋子　内田浩江　倉橋理香 赤崎芙美　野瀬珠美　森川健太		
活動計画	1.　全員合格を目指した国家試験受験対策指導の継続 2.　2024 年度国家試験対策の模試及び対策講座の実施 3.　2025 年度国家試験対策の企画及び予算案の作成 4.　模試成績不良者の対策 : 講座への出席率を向上させる方策の検討，チューターとの情報共有及びさらなる協働方法の検討，集中勉強会，直前勉強会の開催 5.　国家試験対策（模試および対策講座）の評価		
活動概要	**1.　委員の役割と実施内容** 役割分担 委員の役割分担は以下の通りとし，実施方法の変更が生じた際などはその都度調整を行った. 1）議事次第作成・委員会進行・全体総括 2）議事録作成 3）東京アカデミー窓口 4）全学年へのオリエンテーションの実施 5）看護師国家試験対策 6）保健師国家試験対策 7）助産師国家試験対策 8）国試対策医学系講義・模試低正解率問題の再回答と解説 9）郵便物・広告物・掲示物・図書 10）模試・対策講座 11）勉強会担当 12）自己採点会担当 13）学生への国試対策に関するアンケート 14）来年度予算・必要物品購入 **2. 国試対策オリエンテーションの実施** 全学年に各 1 回，国試対策についてオリエンテーションを行った．オリエンテーションでは，4 年間の全体のロードマップを作成して各学年に応じた意識付けができるように説明した. また, 今年度のスケジュールや注意事項, 医学書院 Web 等の活用できるツール等について説明した. **3. 模試と対策講座** 4 年生では，例年同様に全国規模の模擬試験，対策講座を実施した．学生委員を中心に運営を行った．回数は，看護師国試対策講座 12 回（傾向分析会含む），看		

活動概要	護師国試模試 6 回，保健師国試対策講座 5 回（傾向分析会含む），保健師国試模試 3 回，助産師国試対策講座 2 回，助産師国試模試 4 回であった．東京アカデミーの全国公開模試（3 回分）は，解説動画を Moodle にアップし，復習できる機会を設けた．また，模試の結果が必修問題 80%未満もしくは，C，D 判定の成績低迷者には，解説動画の視聴を促すため，解説動画で解説された問題を Respon で回答することを課題とした． 3 年生については全国規模の模試 2 回，1，2 年生については全国規模の模試を 1 回ずつ実施した．尚，各対策講座の開講方法は，大学または東京アカデミー大阪校での対面開催，zoom によるオンライン開催とした． 模擬試験や対策講座への出席状況や模擬試験の成績を，適宜チューターや教員へのメール配信，学科会議での報告によって共有した． **4．情報提供と勉強会の運営** 1） 国試対策関連の情報提供 医学書院 Web 導入と教科書のデジタル化の方針を受け，新規図書の購入は行わなかった．業者からの過去問集など献本は昨年度と本年度の 2 年間分を委員会キャビネットに昨年同様保管することに決定した． 国家試験対策に関する情報については，学生が活用できそうな情報やチラシはキャリアサポートルームに掲示し,学生が情報収集できるようにした． 2） チューターとの情報共有 対策講座・模試の出欠状況や成績をチューターと共有するため，適宜学科会議で周知した．また，11~12 月，1 月の勉強会の対象学生の選定にあたり，選定基準のための資料を教授会および学科会議等にて教員に提示した．適宜チューターを通じて学習状況や健康面について情報を把握，またチューターに勉強会への出席状況をフィードバックするなどして協働的に対応した． **5．既卒生への対応** 今年度は該当者なしであった． **6．看護師国試対策勉強会** 看護師国試対策については，4 回生の模擬試験の結果の推移に基づいて 11～12 月および 1 月に勉強会を実施した． 1）集中勉強会（11～12 月） 5～9 月に実施した計 4 回の看護師国家試験模擬試験において，成績が伸び悩んでいる学生に対して学習習慣を強化し，必修問題および正答率の高い問題を確実に回答できるようにすることを目的に，計 5 日間「集中勉強会」として勉強会を設けた．また，最終日は東京アカデミー第 3 回全国公開模試を実施した．今年度も昨年同様に感染状況を考慮し，十分な感染対策を講じながら対面で実施することとした． 学生の選抜条件は，①直近の模擬試験(東京アカデミー第 2 回模試)において必修得点率が 70%以下もしくは 4 回の必修模試すべて 80%未満の学生とした．対象は 36 名であった．また，集中勉強会の目的が，成績低迷者に対する学習の強化

活動概要	であるため，選抜された学生以外からの参加は認めないこととした． 集中勉強会では，毎回，医学書院 Web 上で作成した小テストを当日担当教員が提示し，学生は回答後に各自で解説を確認した後，各自で自習を中心とした学習を行った．毎日委員 1 名が交代で担当し，学生からの質問があれば対応するようにした．さらに，当日の担当教員の可能な範囲で正答率の低い問題や解説のわかりにくい部分について解説を加えるようにした． 学生の出席率は平均 86%であり，36 名の学生は半数以上出席していた．欠席理由は，体調不良・自己都合等での欠席が多く，無断欠席や遅刻も散見された． 2）直前勉強会（1 月） 11～12 月に実施した 2 回の看護師国家試験模擬試験において，合格基準に達していない学生を中心に全受験者を対象に，計 6 日間「直前勉強会」として勉強会を設けた．本番を想定しながら勉強に取り組めるように，昨年度同様感染状況を考慮しながら，対面で実施することとした． 学生の選抜条件は，①最終の模擬試験（東京アカデミー第 3 回模試）において必修得点率が 80%未満，②一般＋状況設定問題得点率 62%未満の学生とし，12 月に実施した東京アカデミー模試の結果を参考とした．また，最終の模擬試験の未受検者も対象とし，選抜された対象は 27 名であった．大学で勉強したいという学生の希望も考慮し，今回は選抜者以外に，希望する学生の参加も認めることとした． 直前勉強会では，医学書院 Web 上で過去問題を中心に作成した公開テストを当日担当教員が提示し，学生は解答後,各自で解説を確認し,自習に取り組んだ．担当委員は勉強会の時間中，教室に常駐し，学生がいつでも教員に質問できるようにした．直前勉強会の中で解説講義として，医学系の模試低正解率問題を医学系教員が解説した． また，看護師国家試験に自信をもって臨むことができるよう，勉強会の最終日に追加模擬試験（なすもし）を実施した．参加対象者は原則，看護師・保健師国家試験対策直前勉強会選抜者と希望者とし，77 名が受験した． 選抜者 27 名の出席率は 87%であった．希望者も含め 6 日間で延べ 303 名が参加した． **7．保健師国試対策** 保健師の国試対策については対策講座をオンライン，模擬試験を対面で行った．保健師選択者対象の直前勉強会を 1 月の看護師国試対策勉強会と同時開催にて実施した．勉強会の必修対象は 12 月模擬試験結果 61%未満とし，勉強会参加者へは紙媒体で過去の保健師国家試験問題や予想問題の実施や質疑対応以外は自習を中心とした学習とした．その他公衆衛生看護学分野の協力を得て，個別に成績の伸びない学生に対する個別指導を行う等の対策を行った．3 年生の国試対策は，公衆衛生看護学分野にて 12 月模擬試験結果 60%未満をレポート課題として個別の学習指導を行った． **8．助産師国試対策** 模擬試験 4 回および対策セミナー2 回を行った．模擬試験は学内で対面実施し

活動概要	た．対策講座はオンラインと対面が 1 回ずつであった．適宜学習状況の面談を行い，成績が伸びない学生に対しては，個別指導を行った． **9. 自己採点について** 看護師の結果については，東京アカデミーの「第 114 回看護師国家試験 解答速報＆自己採点会」に参加し，これを用いて自己採点するよう周知した．保健師，助産師は解答例を示し，自己採点するよう周知した．保健師・助産師・看護師すべてについて 2/16～18 に各自が結果を委員会作成の Google Forms へ入力した．全員から自己採点結果の報告を受け，結果は，教授会，学科会議およびメールで教員に周知した． **10. 自己学習環境支援** 東京アカデミーをはじめ各社からの国試対策勉強会に関する情報を整理し，学生がいつでも閲覧できる部屋の環境を整えた．国試が近づくにつれ，閲覧している学生が多く見受けられた． また，模擬試験の結果から対象学生を選出し，直前勉強会の実施と勉強会終了後に学生が集中して自己学習できる環境を提供し支援に努めた． 2020 年度より「医学書院　看護師/保健師国家試験問題 Web サービス」を導入し，今年度も継続して利用し，学生が Web 上でも自己学習できる環境を整えた． **11. 学生へのアンケート** 4 回生を対象として国家試験終了後にアンケートを行った．回収率は 64%であった．対策講座については，「非常に役に立った」「まあまあ役に立った」との回答が 87.8%であった．1 回の時間について，61.4%が「ちょうどよい」と回答していた．模試については，ほぼ全員が大学での一括申し込みを希望しており，回数についても 80.7%が「ちょうどよい」と回答していた．直前勉強会については，開催期間が「ちょうどよかった」79.5%，1 回の時間が「ちょうどよかった」87.2%であり，ともに適切であったといえる．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1）看護師・保健師・助産師の各国家試験の合格率について，看護師 98.9%，保健師 100%，助産師 100%であった．具体的には，第 114 回看護師国家試験は受験生 88 名が合格，不合格者 1 名であった（全国平均：新卒 95.9%）．第 111 回保健師国家試験は受験生 34 名が全員合格した（全国平均：新卒 96.4%）．第 108 回助産師国家試験は受験生 6 名が全員合格した（全国平均：新卒 99.3%）．（今年度は既卒生の受験なし） 2）Web を活用した情報提供，学習支援は有効であった． 3）1 月の直前勉強会にて，今年度も昨年度の引き続き追加模試を実施し，学生からも好評であったとともに，直前の実力をアセスメントできる機会となった． 4）就職関連の予定について調整できるよう，看護教育調整会議にて大学病院・三島南病院看護部とスケジュールを共有した． **2. 改善すべき事項** 1）対策講座等への出席率が低下傾向であり，今後，学生の意見も聞きながら，開

	催方法などを再検討していく．国試委員以外の教員との出席率の共有も行う． 2）国家試験対策委員の負担が大きいため，対策が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	1．成績の伸び悩む学生を対象にした勉強会については，全て対面とし，短期間に集中的に行った．本年度は例年より模試での必修得点率が低かったため，勉強会の日数を増やした．教員負担とのバランスをみつつ，より効果的な媒体を活用しながら今後も実施していく必要がある．ただし，集中・直前勉強会については．模試の結果だけでなく，模試の出席状況や普段の成績（GPA 等）も参考にし，選定方法や学習方法自体の支援について引き続き検討していく必要がある．また，国家試験本番に向けて学生のメンタル面にも注意しながら，チューターと情報を共有していく． 2．講座への出席率の低下が引き続きみられるため，学生のニーズを勘案しつつ，学部教員全体で出席を促すことや出席することによるメリットを増やす等の対策が必要である．また模試と対策講座については一定の業者を中心としたスケジュールを組んでいるが，学生にとって勉強しやすい方法や媒体を少しでも増やすことができるように，必要に応じてWeb 上でのオンライン講座等の利用なども検討していく．本年度は当日朝の開始直前に対策講座中止という事例が発生したため，次年度は急な中止の場合は模試に切り替えるなどの代替案を検討していく． 3．国家試験対策活動の保護者への周知 PA会からの支援（対策講座や国家試験参考書の配布など）による成果をフィードバックするとともに，講座出席率向上に向けての協力を仰ぐ必要性等について検討する．

委員会名	（10）看護学部年報編集委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学部・看護学研究科の年報編集・印刷に関わる事項を調整する.		
構成員	土手友太郎（委員長）　新田和子　土井智生　日髙朋美		
活動計画	1. 2023 年度年報の取りまとめ・発行 2. 2023 年度年報の HP 上での公開 3. 2024 年度年報作成のための原稿依頼		
活動概要	1. 委員会の開催 2024 年度 は 7 回の委員会を開催した. 2. 2023 年度年報の発行 1）2023 年度の原稿の校正と編集 2）2024 年 7 月 31 日に 2023 年度の看護学部年報を発行した. 3）冊子 35 部を作成し関連部署に配布した. 4）看護学部教員へはホームページ上で PDF を公開した. 3. 2024 年度年報作成の手順を下記に変更し原稿を依頼した. 1）論文の種類や言語に関わらず各自が FORMS の URL リンクから入力する. 最新の大阪医科薬科大学看護研究雑誌掲載論文を除き，当該年度 3 月 31 日時点で in press の論文は入力しない. 2) 学会発表および外部資金・競争的研究資金等（研究協力課から入手）は提出しない. 3) 各センター・委員会・分野・看護学事務課の内容については，Share フォルダの Word ファイルに担当者が入力する. 4) 個人の研究活動のうち,「地域・社会貢献」「その他」と著書については「社会活動」のアルファベット順に作成された入力欄に順序は任意で記載する.		
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 年報に学会発表などを記載することがなくなり，提出者の事務負担が軽減した．また FORMS および Share フォルダへの直接入力により編集作業が大幅に簡略化された. **2. 改善すべき事項** Share フォルダのファイルの削除や行方不明などの不具合が生じる可能性がある．締め切り期限まで適宜入力状況を管理する必要がある.		
将来に向けた発展方策・課題	1. 2024 年度年報内容が各種評価を受ける際の根拠資料として十分であるかを検討する. 2. 2024 年度年報の印刷部数および予算の見直し.		

委員会名	（11）国際交流委員会	SDGs との関連	 
目　的	看護学教育・研究に寄与する国際交流活動を推進することを使命とする.		
構成員	飛田伊都子（委員長）　樋上容子（副委員長）　内田浩江　山内彩香 堀池　諒　勝山あづさ　野瀬珠美　増田尚紀（事務）　藤原敏洋（事務）		
活動計画	1.　国際交流に関する基盤整備 2.　国際交流活動（International Day・Julia 先生来訪・欧州大学訪問） 3.　学生の国際交流活動（受け入れ） 4.　学生の国際交流活動（派遣） 5.　学生の国際交流活動（web international module; CRISIIS） 6.　学生の国際交流活動としての SDGs 活動（NEXUS） 7.　学生の国際交流活動支援（海外留学説明会・助成金） 8.　大学院生・教員の国際研究活動支援（International Writing Group） 9.　教員の国際研究活動支援（国際共同研究） 10.　国際交流活動の広報		
活動概要	**1. 国際交流に関する基盤整備** 1）国際交流協定締結・更新 2024 年 9 月 9 日ベルギーのトマス・モア応用科学大学との大学間国際交流協定を締結した．毎年最大 2 名の学生を本学のサマープログラムに受入れ，最大 2 名の学生を先方に派遣できる．さらに最大 2 名の教員が相手の大学で毎年講義を行うことができる．Erasmus+（エラスムスプラス）に採択され（Key Action 171; KA171），2024～2027 年 6 月の期間に 5370Euro（約 87～88 万円）を本学の学生 2 名が使用できる．2024 年 7 月 16 日には米国のミネソタ州立大学と，2025 年 1 月 15 日には台湾の台北医学大学との国際交流協定を更新した. 2）看護学部海外短期留学生奨学金給付に関する事項 経済的世界情勢を鑑みて大阪医科薬科大学看護学部海外短期留学奨学金の給付額をアジア地域の場合は 5 万円，欧米地域の場合は 10 万円に改正することが教授会の議を経て承認された. 3）2025 年度予算案の策定 他学部の国際交流委員会の事業計画を鑑みつつ，看護学部における研修生の受け入れによる国際交流，学部生の海外派遣及び学生の国際交流活動としての SDGs 活動の活性化を図るための予算案の作成を行った. **2. 国際交流活動** 第 1 回 International Day を企画し，6 月 30 日（日）に開催した．第 1 部はミネソタ州立大学看護学部の Stacey Van Gelderen 教授による「アメリカの医療～多様な家族への対応と支援～」の講演，第 2 部は NEXUS の学生が主体となり健康・医療・看護に関する発表・クイズ・体操を実施した．アメリカ・台湾・タイの海外研修生・本学学生・教職員・地域住民の方々など約 50 名が参加して		

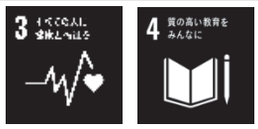
活動概要	国際交流を楽しんだ. 2024 年 7 月 23 日にオーストリアのザンクト・ペルテン応用科学大学看護学部の Julia Glösmann 教授が本学に来訪され，本学教員との昼食懇親会の後に看護学部学生によるキャンパスツアー，大学病院長・看護部長との交流・大学病院訪問を行った．オーストリアと日本での医療・看護体制や看護教育について活発な意見交換となった. 日本私立看護系大学協会の先駆的な国際交流活動を行っている大学の視察調査等の助成事業に採択され 100 万円の助成金を獲得したため，本委員会より教員 2 名が 2025 年 3 月 16～28 日に渡航した．ベルギーのトマス・モア応用科学大学の International Day に参加し，加えてオーストリアのザルツブルク応用科学大学とザンクト・ペルテン応用科学大学も訪問し教員達と交流した. **3．学生の国際交流活動（受け入れ）** 2024 年 6 月 24 日～7 月 5 日に，台北医学大学（TMU）の研修生 3 名（学部 2 名，大学院生 1 名）と，ミネソタ州立大学マンケート校（MSUM）の研修生（学部 2 名，大学院生 2 名）と教員 1 名に対し，受け入れ研修サマープログラムを開催した．ミネソタ州立大学マンケート校からは初めての学生派遣となった．2 週間を通し，看護学部 8 分野と 1 科目，大学病院看護部や高槻市，外部研修先の協力を得て受け入れ研修を開催した．研修生からは，日本の医療制度や日本人の生活, 看護実践について, 本学学生や受け入れ校の学生同士の相互交流の中で, よく理解できた等と高い評価を得た. 本学学生にとっても国際交流や発表の機会となった．海外からの研修生の服装やマナーについては，ガイダンス資料を先んじて送付しておくことで問題なかった. 時差の大きな国から派遣されてくる学生にとってはスケジュールがタイトであることや，免疫等の申請書類の送付・確認に時間を要すため，早期に申請を受け付けるといった課題がみられた. 2025 年度より新たにトマス・モア応用科学大学より 2 名以内の受け入れ予定である．事前の大学間の情報共有，申請などに時間を要すことを鑑み，今年度中に各方面の調整を終えプログラムを作成した. **4．学生の国際交流活動（派遣）** 学生の海外派遣再開に関する大学方針の決定に基づき，MSUM の担当者との話し合いを 9 月 10 日，10 月 8 日にオンラインで実施した．研修期間は 2025 年 2 月 18 日～3 月 30 日で合意し，研修プログラム内容の調整を行った．今年度は 1 名の学生の応募があり加えて，文部科学省のトビタテ！留学 JAPAN にも採択された派遣となった．また，安全に学生派遣できるように国際交流センター，MSUM 担当者との調整，情報共有を図った．バンクーバーサマープログラムの募集は 1 名の学生の応募があったものの最小催行人数に達しなかったため実現しなかった. **5．学生の国際交流活動（web international module ; CRISIIS）** MSUM が主幹で実施するオンライン国際交流学習プログラムに今年度は 2 年生 1 名の応募であった. 参加学生は MSUM の 2 名の学生と計 3 名で 1 つのグル

活動概要	ープとなり，9〜12 月までにオンラインで「家族など身近な人が亡くなった時にどのようにその悲しみを乗り越えるか」をテーマに設定して活動を行った．「日本と海外での考えや価値観の違いや共通点について知ることができた」「良い経験ができた」等の感想があった．また，プログラム開始前・修了後には，海外の全参加校の担当教員らと，オンライン会議にて情報共有と振り返りを行った． **6. 学生の国際交流活動としての SDGs 活動（NEXUS）** 参加学生は，今年度新たに 9 名の学生が加わり，1 年生 7 名，2 年生 2 名，3 年生 2 名，4 年生 5 名の合計 16 名となった．今年度は International Day の企画・運営と大学病院における外国人患者への支援体制と看護ケアに関するインタビュー調査を実施した．インタビュー調査のデータ収集・分析・執筆の過程は NEXUS の学生と NEXUS 担当委員が共同で実施した. 2025 年 3 月に本学の Bulletin OMPU に投稿を予定している． **7. 学生の国際交流活動支援（海外留学説明会・助成金）** 令和 6 年度官民協働海外留学支援制度〜トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラムに 1 名採択された. 本学派遣プログラムとトビタテ留学プログラムを組合せ，2 月中旬から 3 月末まで約 5 週間の留学が開始される．今後より多くの学生の海外留学支援のために，本学の奨学金制度以外に，国内外の政府，地方自治体，民間団体等で応募可能な制度の導入を検討していく． これら，さまざまな支援を準備したうえで，海外留学説明会を開催し，より多くの学生が海外留学を希望できるように準備を進めている． **8. 大学院生・教員の国際研究活動支援（International Writing Group）** MSUM が主催する Writing Group の情報発信と参加の支援を行った．2024 年度は 1 セメスター : 1 月 24 日〜4 月 24 日，2 セメスター : 9 月 4 日〜11 月 27 日の毎週水曜日（6 回）開催された．MSUM を中心に各国より毎回 5〜8 名が集まり交流した．本学からは大学院生を含む 4〜7 名が参加し，国際交流の貴重な時間となった．書籍「Writing your journal article in twelve weeks」の内容に沿って進行され，参加者は建設的な意見を述べ，好意的な関わりの中で進められた．また，参加状況により臨機応変にテーマを設定し，研究計画書の書き方から論文投稿までのプロセスについて議論がなされた．参加者からは，交流を通して参加者の方より助言を頂き，論文投稿発表につなげることができ，視野が広がる貴重な体験ができたと満足度の高い感想が得られた． **9. 教員の国際研究活動支援（国際共同研究）** サマープログラム中に来日した MSUM の教員と本学教員の研究交流の場を設けた．現在，看護学生の共感力の育成に関する MSUM との国際共同研究が遂行中である．International Writing Group の活動意義を Review としてまとめた論文が Creative Nursing に掲載され，バーチャルイベントが 2024 年 12 月に開催された. COVID-19 パンデミック下に施設入所する高齢者の家族介護者の経験に関する国際共同研究の論文が Journal of Advanced Nursing に採択された．2025 年 2 月の Creative Nursing でケーススタディが特集され，委員長がゲスト

活動概要	共同編集者に就任し，ケーススタディの価値に関する論文も掲載された．本件に関するバーチャルイベントが 2025 年 3 月に行われた．前述の International Writing Group にて，国際学会発表・国際雑誌論文投稿支援の機会の提供し，本学教員・大学院生の国際研究活動の推進に向けた方策を検討した． **10. 国際交流活動の広報** 活動の実際が本学の学生のみならず入学を検討する高校生らにも活動の様子をわかり易く伝えることができるように，これまでの活動の写真や学生の学びや声といった情報を掲載した．最新の情報が公開されるよう，写真の変更などを行うとともに海外派遣や SDGs 活動（NEXUS），Writing Group，教員研究活動のページを更新した．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1) 本学初である EU 圏の大学との国際交流協定締結により国際交流先が米国・台湾だけでなく欧州に拡大してきている．さらに現地視察のための助成金が獲得できたことにより直接交流できる機会が得られた． 2) 本学部主催の International Day により近隣周辺の国際交流活動が活発化している． 3) 今年の受け入れプログラムに初めて米国ミネソタからの学生が参加したことにより，英語による交流の機会が増えた． 4) 学生の国際交流を支援するトビタテに採択されたことにより，海外留学のための経済支援の選択肢が増加した．さらに，国際経済情勢を鑑みて本学の助成金支給額も増額したため，今後海外留学を支援できると期待される． 5) 学生および教員の国際関連の論文執筆活動や共同研究が活発化している． 6) MSUM 研修プログラムは充実しており，参加学生の満足度が非常に高い． 7) オンライン会議で頻繁な情報共有やディスカッションが可能となっている． 8) 海外派遣における危機管理について，国際交流センター主導のもと安心サポートデスクの活用ができるなど体制整備がなされた． **2. 改善すべき事項** 1) 海外留学を希望する学生数が全般的に少なく，特に台湾への派遣プログラムに応募する学生が少ないため対策を検討する必要がある． 2) 国際交流委員会の活動を学部内で共有しつつ，今後は大学院委員会との連携しながら大学院生の活動支援を強化する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	EU 研の大学との国際協定締結を記念しての特別講演会の開催を検討する．また，本学部主催の International Day を学事予定に入れ，全教職員・学生に周知させたうえで実施する．学部生の海外留学支援を強化するための保護者も含めた説明会を開催する．さらに派遣対象を大学院生に拡大することを検討する．将来的には世界展開力強化事業に応募できるような体制整備を目指す．

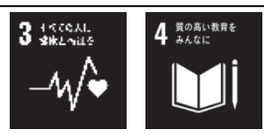
委員会名	（12）障がい学生支援委員会	SDGs との関連	
目　的	障がいのある学生が，講義・演習・実習において他の学生と等しく教育や受験の機会が得られるよう適切な支援（合理的配慮）を提供することを目的とする．		
構成員	池西悦子（委員長）　鈴木久美（学部長）　山岡由実（実習委員長） 津田泰宏（校医）　鈴木美佐（教育センター委員）　澤村律子（保健管理室） 増田尚紀（看護学事務課）		
活動計画	次の各号に揚げる事項について審議し，その実施にあたる． 1）講義・演習・実習の課題に関すること 2）支援体制に関すること 3）施設・設備の整備に関すること 4）その他，障がいのある学生への支援に関して必要なこと		
活動概要	障がい学生支援委員会の開催 第 1 回（2024 年 5 月 20 日）: 申請のあった 1 年生 1 名の支援計画について審議し，履修可能科目のオンライン受講について承認した． 第 2 回（2024 年 7 月 16 日）: 申請のあった 3 年生 1 名の支援計画について審議し，承認した．支援に関する申し合わせ事項の一部修正について審議，承認した． 第 3 回（2024 年 7 月 19～20 日）: 申請のあった 1 年生 1 名の支援計画について審議し，条件付き別室受験の合理的配慮を承認した．また，3 年生 1 名の支援計画について審議，承認した． 第 4 回（2024 年 9 月 30 日）: 申請があった 1 年生 1 名の支援計画について審議し，入院中のオンライン受講について承認した． 第 5 回（2025 年 3 月 19 日）: 年報案，次年度の申請があった新 2 年生 1 名，新 4 年生 2 名の支援計画について審議し，承認した．支援後，学生との面談を通して 2024 年度の支援の評価を行った．		
評　価	**1．効果が上がっている事項** 1）　「障がいのある学生への支援に関する申し合わせ事項」の支援の流れを実態に合わせ修正したことで，障がい学生支援委員会の役割がより明確となった． 2）　合理的配慮は，支援計画に基づき保健管理室・大学病院と連携して実施され，学生の支援に関する満足度は高かった． **2．改善すべき事項**：支援内容が合理的配慮の範囲を超える場合は，配慮内容の見直しを検討する．そのことを事前に学生と保護者にも説明しておく．		
将来に向けた発展方策・課題	1．障がい者差別解消法と日本学生支援機構，障害学生支援の拠点校等の情報に基づき合理的配慮の内容の検討と提供を継続する． 2．柔軟な解決策の検討と支援の実施にむけて，学生・保護者との建設的対話を継続する．		

委員会名	（13）本学部看護学生を対象とする研究審査会	SDGs との関連	
目　的	看護学部生に対し学部内および学部外から研究協力の依頼があった場合に，基本的な事項，内容および日程等から研究協力の受諾の可否を検討する．		
構成員	津田泰宏（委員長）　樋上容子　中原洋子		
活動計画	1．研究協力依頼方法のホームページでの公開 2．研究審査書類の不足・不備の確認，研究協力依頼申請者への再提出の依頼 3．研究協力受諾の可否の審議 4．研究協力依頼申請者への審議結果の通知 5．学外からの承認された研究に関係する資料の学生への配布		
活動概要	**1．研究審査会の開催** 研究協力依頼申請は 6 件あった．その都度，研究審査会議を開催した． **2．研究協力受諾に関する審議** 「看護学部学生への研究協力の依頼に対する対応」（2019 年 5 月改訂版）に則り，研究協力の時期や分量などが学生にとって無理がないか，研究への協力が学生に還元されるものであるかの観点で審議した．研究協力は，原則として研究協力に同意した学生が個別に回答することとしていることから，学生に強制したり，単位認定に影響がでないか，また，学生が研究活動に対する理解を深められるよう配慮がなされているかの視点でも検討した． 研究協力受諾可は 4 件，学生への負担が過剰になる等で 2 件は不可とした． **3．研究協力依頼方法および審議結果についての問い合わせ** 学部内および学部外から研究協力依頼申請に関して不明な点や，申請者から審議結果に対する問い合わせはなかった．		
評　価	**1．効果が上がっている事項** 研究協力依頼申請があった際に，速やかに研究審査会議を開催し，審議した．研究者にとっては，研究協力が得られるかどうかは研究遂行において重要であり，審議結果を速やかに通知することができた． **2．改善すべき事項** 様式 1 の添付がなく，再提出となる研究が多かった．		
将来に向けた発展方策・課題	1．研究協力依頼申請があった場合の迅速な審議の実施 2．1 の審議結果の通知実施 3．様式 1 の添付がないために再提出となるケースを減らすために周知方法を検討する．		

委員会名	（14）将来構想ワーキンググループ	SDGs との関連	
目　的	看護学部および看護学研究科の長期的な展望を議論し，将来の方向性について議論する．		
構成員	草野恵美子（WG 委員長・大学院委員長）　鈴木久美（看護学部長） 池西悦子（学生生活支援センター長）　真継和子（教育センター長） 飛田伊都子（看護学実践研究センター長） 川端由夏　上久保純　堀江雅彦　増田尚紀（看護学事務課）		
活動計画	**1．看護学部・看護学研究科の課題の抽出** **2．今年度の重点課題についての検討** 1）入試制度の改革と学生数確保と維持 2）学部・研究科の特色あるカリキュラムについて（モデル・コア・カリキュラム対応，保健師・助産師教育含む） 3）学部経営について		
活動概要	会議は合計 10 回開催した． **1．看護学部・看護学研究科の課題の抽出** 第 1 回会議にて，今年度の重点課題について以下の通り抽出した． 1）入試制度の改革と学生数確保と維持 ・入試制度の改革（受験生の減少傾向，ミスマッチの学生を減らすための方策） ・入学後の学生数の維持（退学者，留年者を減らすための方策） 2）学部・研究科の特色あるカリキュラムについて ・モデル・コア・カリキュラム改訂版への対応 ・保健師・助産師の将来構想 ・大学院教育の将来構想 3）学部経営について ・収支の黒字化 **2．今年度の重点課題についての検討** 1）入試制度の改革と学生数確保と維持 (1)　ミスマッチを減らすための面接方法の検討 入学制度改革において，面接方法の工夫について検討し，入試委員会に提案した． (2)　FD の実施 求める人材像の学部全体での再確認とそれに向けた学部教育のあり方の検討するために，FD を実施した． テーマ：「2040 年を見据えた魅力的かつ独創的な OMPU 看護学教育」 日　時：2024 年 7 月 31 日（水）16:00～17:15 検討内容：①2040 年問題を見据え，本学（学部･大学院）が育成したい人材像 ②そのための教育の方向性 方　法：各自意見を持ってきてもらい，グループディスカッションを通して共		

活動概要	有，検討した． (3)　新規キャッチフレーズの検討 看護学部の特徴や魅力を再発見し，目指す方向を共有するために，新たなキャッチフレーズを募集し，選定した．前回は教員のみ対象としていたが，今回は学部学生全員も対象とした．その結果，4 つのキャッチフレーズの応募があり，投票の結果，上位 2 つを選定し，表彰した． 2）学部・研究科の特色あるカリキュラムについて（モデル・コア・カリキュラム対応，保健師・助産師教育含む） (1) 特色あるカリキュラムの検討体制の整備 カリキュラム委員会を事務局とするカリキュラム WG の立ち上げ，スケジュール等について検討した． ・対応方針 モデル・コア・カリキュラム改訂版（当面は案をもとに）に照らし，FD で検討する将来社会を見据えた目指す育成人材像を確認しながら，現行カリキュラムの過不足を検討 上記のうち，モデル・コア・カリキュラム改訂版適用の令和 8（2026）年度に間に合う範囲のカリキュラム変更の検討 各分野の教員で構成した WG を立ち上げ，本学が目指す教育を明確にし，過不足を検討 実習について 2022 年度に改正されたカリキュラムの評価を行い，検討 (2) 保健師・助産師教育の将来構想 ・保健師大学院化について 昨今の学生募集状況の厳しさも鑑みつつも，これまで同様の教育では他大学との差別化が難しい点もあり，これまで検討してきた学部・大学院一貫プログラム構想を基にした別パターンのプログラムも合わせて検討していく方針となった．また，これは学部教育・大学院教育の大きなカリキュラム変更にも関係するため，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版への対応などとも合わせて今後，検討していくこととなった． (3) 助産師教育の将来構想 担当分野教員の意見を聴取した． ・大学院化については現時点での明確な方針は未定 ・医療機関ではアドバンス助産師（日本助産評価機能で認証）が求められる傾向があるなどのニーズへの対応も必要 ・学部で助産師が取得できることは私立大学として受験生にとっては魅力の 1 つとなっている現状もある． (4)　大学院の将来構想に関する検討事項の確認 大学院の将来構想に向けて，以下の通り検討事項が整理された． ①現状の本学大学院の課題の整理 ②「認定看護管理者」の養成（日本看護協会による認証）

活動概要	③博士後期課程 DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの検討 ④学部・大学院一貫教育の検討（5 年または 6 年一貫の検討，学部学生募集との関連を含む）⑤保健師・助産師教育の検討 (5) 博士後期課程 DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの検討 大学院の将来構想に関する検討事項のうち，DNP コースについての検討が行われた．DNP の実際や課題を教員全体で共有するために，先発校から情報を得るための FD を開催した（大学院委員会主催にて 3/12 に実施）． 3） 学部経営について (1) 収支の黒字化に向けた検討 看護学部・看護学研究科の収支を確認するとともに，黒字化に向けた方策について財務部を交えて意見交換をし，将来の方向性について検討した．1 学年の学生数の維持，少額でも経費削減につなげる努力，AMED，受託研究等の推進による「経常費等補助金（私学助成時補助金）」の獲得等の方策案が出された．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 看護学部・看護学研究科の長期的な展望をみすえた会議体として，将来構想とそれに向かうための課題の整理と重点課題に焦点化した取り組みを進めることにより，中長期的な方針のもとによる検討を行うことができた．さらに関係会議体との連携により，看護学教育モデル・コア・カリキュラム等の喫緊の課題について検討を進めることができた． FD の開催等により看護学部・看護学研究科に関わる教員全体での将来構想の検討の機会を設けたことは，共通理解のもと，将来に向かう 1 つの機会となったと考えられる． 教授会を含めた常設会議体等では検討機会が少ない学部経営についても，財務部を交えながら検討することができ，黒字化に向けた具体策の検討をすることができた． **2. 改善すべき事項** 今年度重点課題となった，入学生確保や大学院を含む魅力あるカリキュラムの検討，学部経営については引き続き課題が残る．次年度も重点課題を明確化して検討を進める必要がある．また，今回は FD により，教員全体で将来構想を考える機会を設けたが，引き続き関係委員会等と連携しながら，教員全体で将来構想に向けた具体的な方策について検討し，共通理解のもと推進していく必要があると考えられる．
将来に向けた発展方策・課題	1. 重点課題の整理と看護学部全体での共有推進 2. 入学生確保の方策の検討 3. 魅力あるカリキュラム構築のための将来構想（学部のカリキュラム改正，研究科における DNP コースの検討・保健師教育の検討・学部と大学院の連続性に関する検討等）

委員会名	（15）カリキュラムワーキンググループ	SDGs との関連	
目　的	看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定に向けての対応を検討し，本学部の特色のあるカリキュラムについて議論する．		
構成員	真継和子（WG 委員長）　草野恵美子　鈴木美佐　寺口佐與子　二宮早苗 樋上容子　新田和子　間中麻衣子　杣木佐知子（9～12 月） 川端由夏（8～2 月）　上久保純（2 月～）　堀江雅彦（9～1 月）（看護学事務課）		
活動計画	**1. モデル・コア・カリキュラム改定趣旨の理解** **2. モデル・コア・カリキュラム改定への対応に向けた検討課題の抽出** **3. 課題についての検討** 1）本学部が目指す教育と特色の明確化 2）モデル・コア・カリキュラム提示内容と現行カリキュラムとの比較検討 3）2019 年度・2022 年度カリキュラム改正に伴う実習評価 4）新たな科目配置等について 5）模擬患者育成について		
活動概要	会議は合計 7 回開催した． **1. モデル・コア・カリキュラム改定趣旨の理解** 第 1 回会議において，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定連絡統制委員会配布資料を確認し，対応に向けた意見交換を行った． **2. モデル・コア・カリキュラム改定への対応に向けた検討課題の抽出** 検討方針として，現行カリキュラムを照らし合わせ，不足内容を充填することとした．また，①必ず満たさなければならない要件がある，②現行カリキュラムでの課題が明白であり緊急対応が必要である，のいずれかに該当する場合は，カリキュラム変更を検討することとした． 検討課題として，①本学部が目指す教育および特色の明確化，②モデル・コア・カリキュラムの提示内容と現行カリキュラムの比較検討，③2019・2022 年度カリキュラム改正に伴う評価が課題として確認された． **3. 課題についての検討** 1）本学がめざす教育と特色の明確化 7 月に実施された将来構想ワーキンググループの FD「2040 年を見据えた魅力的かつ独創的な OMPU 看護学教育」におけるグループディスカッションでの意見，カリキュラムに関する各種調査結果（新カリキュラムに対する学生および教員のアンケート，旧カリキュラムに対する卒業生アンケート，就職先を対象とした卒業生に対するアンケート，DP に基づく看護実践能力到達度調査）をもとに，本学部の強みと課題について検討した． 強化すべき必要な能力として，国際的視点，病態理解による臨床判断力，探求力・課題解決力，基本的な技術力等があがった．さらに，こうした能力を強化するために模擬患者育成に関する課題が確認された． 2）モデル・コア・カリキュラム提示内容と現行カリキュラムとの比較検討 モデル・コア・カリキュラム改訂版で提示された資質・能力について，現行カ		

活動概要	リキュラムでの実施，到達状況を確認した．当初，AI を活用した分析を試みたが，現行シラバスの内容では十分な分析がなされないことが判明し，一覧表を作成し本学部カリキュラム内容との整合性を可視化した． 必修科目における提示された資質・能力の項目の過不足を確認したところ，58 項目が網羅されていないことが確認された．これら 58 項目について各科目内容に盛り込めるか確認した結果，「災害看護」や「情報」の項目が網羅できていないことが確認された．「災害看護」が現在，選択科目であることから，今後，必修科目とする必要性について検討することとした．「情報」に関しては，モデル・コア・カリキュラムが求めるレベルの適切性を検討することとした．検討課題はあるものの，緊急性を要する対応は必要ないことが確認された． 3）2019 年度・2022 年度カリキュラム改正に伴う評価 2019 年度に 2 単位から 3 単位に変更となった慢性期成人看護学実習および急性期成人看護学実習に関する評価について確認した．実習期間内での多職種連携カンファレンスの実施や受持ち患者数が複数名となることから，一定の学修効果が得られているとの評価であった．また，配当年次および単位数が変更となった老年看護学実習については，2022 年度改正のカリキュラムを受講した学生の評価も含め継続的に評価していくことが確認された．さらに，2022 年度改正において新規に設置された科目や配当年次が変更となった科目等についても，今後，評価していくことが確認された． 4）新たな科目配置等について 2022 年の看護学分野別評価において「看護実践と理論の統合」に対する意見があったことを鑑み，この科目の必要性及び各実習科目のなかでの学修の可能性を検討した．また，探求心と課題解決能力を養うために早期ゼミの配置，客観的臨床能力試験（OSCE）の実施等の検討を進めることが確認された．国際的視点の強化については，国際交流委員会との連携を図りながらその対策を講じていくことが提案された． 5）模擬患者育成について 模擬患者育成の必要度，また，どのレベルの模擬患者を求めるかについて，他大学での模擬患者養成プログラムも参考にしながら意見交換を行った．
評　価	**1．効果が上がっている事項** 全分野での協議により他分野の教育内容について共通理解を深める場となり，看護学教育モデル・コア・カリキュラム改定版への対応について検討を迅速に進めることができた．また，本学部における課題抽出につながった． **2．改善すべき事項** 2029 年度には看護学分野別評価受審の予定である．課題解決に向けた新たな科目配置等について検討を進め，2027 年度 4 月入学生より運用開始できるよう，看護学教育センター，カリキュラム委員会をはじめ関連する委員会との連携をとりながら検討を進めていく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	1．2024 年度検討課題と進捗状況に関しての看護学部全体での共有推進 2．カリキュラム改正を見据えた新科目配置等の検討 3．客観的臨床能力試験（OSCE）の実施についての検討

4) 教育活動

(1) 授業科目一覧

2020～2021年度入学生（4学年次）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数	
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上	
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑	●必修科目13単位 ○選択科目7単位以上（人間理解または異文化理解から5単位以上、社会理解から2単位以上含まれていること）
		生物学		講義	2	○									
		化学		講義	2	○								20単位以上	
		物理学		講義	1		○								
		くらしの中の倫理		講義	1		○								
		大阪を学ぶ		講義	1		○								
		哲学		講義	1		○								
		くらしと文学		講義	2	○									
		教育学		講義	2	○									
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○									
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○								
		人間関係論		講義	1	●									
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●									
		健康科学概論		講義	1	●									
		情報リテラシー		演習	1	●									
		データ処理演習	＊	演習	1				○						
		統計学		講義	2		●								
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○									
		くらしと社会・環境		講義	2	○									
		くらしと経済		講義	2	○									
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○									
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●									
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●								
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●							
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●						
		医療英語		演習	1					●					
		国際言語文化		講義	2	○									
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇			
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇		
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	－	◇								↓	
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0	0		
専門基礎科目	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑	●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●								
		感染と免疫		講義	1	●								28単位以上	
		からだと栄養		講義	2		●								
		こころの仕組みと働き		講義	1		●								
		フィジカルイグザミネーション		演習	1			●							
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○							
	病気と治療	からだとくすりの働き		講義	2			●							
		病気の成り立ち		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●						
		食生活論		講義	1					○					

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	保健と医療	医学概論		講義	1		○							28単位以上 ●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上 ↓
		医療人マインド（2021年度～多職種連携論１－医療人マインド）		講義	1	●								
		専門職連携医療論（2021年度～多職種連携論２－医療と専門職）		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1				●					
		リスクマネージメント		講義	1					●				
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習Ⅰ		実習	1				●					
		老年看護学実習Ⅱ		実習	3						●			
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	看護実践発展科目	地域救命救急		講義	1					○				79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること） ↓
		看護と生体診断法		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8							◇		
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		チーム医療論		講義	1					●				
		災害看護論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		原著講読		演習	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					74	2	8	14	13	8	20	4	5	
必修単位数合計					112	13	18	24	18	10	20	4	5	
履修登録できる単位数の上限					164	48		47		39		30		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

2022～2024年度入学生（1～3学年次）用

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数	
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上	
基礎科目	基盤科目	アカデミックスキル		講義	1	●								↑	
		情報リテラシー・データサイエンス		演習	1		●								
		キャリアマネジメント		講義	1	●								20単位以上	
		心理学		講義	1	●									
		人間関係論		講義	1	●									
		倫理学		講義	1	●									
		統計学		講義	2		●								●必修科目13単位
	人間と科学	生物学		講義	1	○									○選択科目7単位以上（人間と科学から2単位以上、人間と社会から5単位以上含まれていること）
		化学		講義	1	○									
		物理学		講義	1		○								
		データ処理演習	＊	演習	1				○						
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○									
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○								
		医工薬連環科学遠隔講座		講義	2	○		○		○		○			
	人間と社会	大阪を学ぶ		講義	1		○								
		くらしと文学		講義	2	○									
		くらしと社会		講義	2	○									
		くらしと経済		講義	2	○									
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○									
		教育学		講義	2	○									
		哲学		講義	1		○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○									
		異文化論		講義	1		○								
	人間と言語	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●									
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●								
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●							
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●						
		医療英語		演習	1					●					
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇			
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇	↓	
基礎科目必修単位数					13	6	4	1	1	1	0	0	0		
専門基礎科目	人間と健康	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑	
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●								
		感染と免疫		講義	1	●								26単位以上	
		からだと栄養		講義	2		●								
		こころの仕組みと働き		講義	1		●								●必修科目23単位
		健康科学論		講義	1	○									○選択科目3単位以上
		病気の成り立ち		講義	2		●								
		からだとくすりの働き		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●							
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●						
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○							
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○							
		リハビリテーション医学		講義	1					○					

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	健康と環境	医学概論		講義	1		○							26単位以上 ●必修科目23単位 ○選択科目3単位以上 ↓
		多職種連携論１－医療人マインド		講義	1	●								
		多職種連携論２－医療と専門職		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学		講義	2	●								
		疫学	◎	講義	1				○					
		ヘルスプロモーション論	◎	講義	1					○				
		リスクマネジメント		講義	1					●				
専門基礎科目必修単位数					23	6	9	4	3	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 81単位以上 ●必修科目75単位 ○選択科目6単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から看護実践発展実習を含む3単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		フィジカルアセスメント		演習	1			●						
		看護展開論		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援看護	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習		実習	3						●			
	地域家族支援看護	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		地域・在宅看護論		講義	1	●								
		地域・在宅ケア実習		実習	1		●							
		在宅看護学概論		講義	2			●						

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	地域家族支援看護	在宅看護学援助論		演習	1				●					81単位以上
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論Ⅰ		講義	1				●					
	看護実践発展科目	看護と生体診断法		演習	1								○	
		医療カウンセリング		演習	1								○	
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	◎,☆	講義	1				○					
		公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	2							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8							◇		
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		災害看護論	◎,☆	講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		多職種連携論３－医療倫理		講義	1					●				
		多職種連携論４－医療安全		講義	1							●		
		異文化看護入門		演習	1					○				
		国際交流演習		演習	2		○		○		○		○	
		原著講読		演習	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1						●			
		卒業演習		演習	3							●		
		統合看護学実習		実習	2							●		↓
専門科目必修単位数					75	3	9	14	12	8	21	3	5	
必修単位数合計					111	15	22	19	16	10	21	3	5	
履修登録できる単位数の上限					177	55		46		41		35		

●必修科目75単位
○選択科目６単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から看護実践発展実習を含む3単位以上含まれていること）

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

(2) 各分野の教育活動

分野名	基礎看護学
担当教員	川北敬美　二宮早苗　赤崎芙美　日髙朋美　野口美穂
担当科目	看護学概論，日常生活援助技術，治療過程に伴う援助技術，看護展開論，フィジカルアセスメント，看護管理，基礎看護学実習Ⅰ，基礎看護学実習Ⅱ，卒業演習，統合看護学実習
現状の説明	「看護学概論」では，看護の歴史，看護の基本概念である「人間」「環境」「健康」「看護」を中心に，看護活動の場，看護倫理，看護教育等について教授した． 「日常生活援助技術」では，コロナ禍において対面実施できなかった『食事援助技術』の演習を再開した．「治療過程に伴う援助技術」については「看護展開論」の進行に合わせた演習項目になるように調整した． 「看護展開論」では，転倒による大腿頸部骨折の事例を用いて，“情報収集”から“看護の実施・評価”までを学習できるように授業を組み立てた． 「フィジカルアセスメント」では，臨床判断を含むシミュレーション演習の教材を新たに作成した．すべての学習項目を評価できる技術試験の構成に変更した． 「看護管理」では，各単元で演習やグループワークを含める構成に変更した． 「基礎看護学実習Ⅰ」では，外来の各診療科における学びを共有するために，臨地での振り返りに加え，学内でのカンファレンスを追加した． 「基礎看護学実習Ⅱ」では，昨年度より新カリキュラムとなり 1～2 月の 2 週間に実施した．88 名の学生が前半・後半に分かれて実習を行い，受持ち患者の看護展開を行う実習を行った． 「統合看護学実習」では，9 名の学生が第二東和会病院で退院支援を必要とする患者の看護展開を行う実習を行った．また，実習後に OSCE を実施した． 「卒業演習」では，各教員が 2～3 名の学生を担当し，文献検討や調査，実験等を通して深めた知見に関して卒業論文を作成し発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 「統合看護学実習」の OSCE を『状況に応じた臨床判断力』を評価する課題に変更したことで， 学生の到達状況を適切に評価できるようになった． 「基礎看護学実習Ⅰ」では，外来の各診療科での学びを共有することで，職種の違いや病院全体における診療科の役割について理解することができた． 「看護管理」で取り組んだ多重課題の優先順位の検討は，新人看護師の多くが直面する課題であり，学生たちに好評であった． **2．改善すべき事項** 今年度実施した「基礎看護学実習Ⅰ」での外来の各診療科での学びの共有は，実習時間を超過しているため，必要性および実施時間の検討が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	シミュレーター類の耐用年数が過ぎ一部使用が困難になっているため，学内で保有するものを有効利用できるような体制を整えていく必要がある． 「統合看護学実習」の OSCE について，実習における課題を見出し，最終の到達度を高めるために，実習後ではなく実習前に実施することを検討する．

分野名	看護教育学
担当教員	池西悦子
担当科目	キャリアマネジメント，リスクマネジメント，看護教育，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	「キャリアマネジメント」では，働くことの意味，キャリア理論，ダイバーシティとインクルージョン，看護職のキャリアマネジメントについて，講義，ワーク，看護職の講演・質疑応答を通して学び，自己のキャリアと学生生活を考える授業を展開した． 「リスクマネジメント」では，医療安全の考え方，医療現場における安全対策，臨地実習で起こりやすい医療事故とインシデント報告，KYT や個人特性の評価など，実習前に理解しておく内容とリスク感性向上を目指した授業を展開した． 「看護教育」では，看護学教育とは，学習理論，教育方法・評価について教授し，実習体験の省察から，自己の強みと課題の明確化と行動計画の立案を行った． 「統合看護学実習」は 5 名の学生を受け入れ，兵庫県立尼崎総合医療センターで，看護の専門性の理解を深める実習を 1 週間展開し，大阪医科薬科大学病院の病棟で，看護師個人・チーム・病棟のマネジメントを学ぶ実習を 1 週間展開した． 「卒業演習」では，2 名の学生を担当し，文献検討と学生を対象とした調査を実施し，深めた知見に関して卒業論文の作成と発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** すべての科目で実施したミニレポートのフィードバックは，多様な意見に触れ，視野の拡大につながったと評価された． 「キャリアマネジメント」において，企業のインクルージョンを調べ発表する授業展開を追加したことで，より現代社会の課題を意識した内容となった．看護職の講演は，キャリアを学ぶ意欲につながった． 「看護教育」では，これまで受けた教育と実習経験の省察が，学生の自己理解と課題の明確化につながった． 「統合看護学実習」にマネジメント実習を取り入れたことで，領域実習では学ぶ機会がなかった時間管理，報連相の重要性の理解と，チームの一員として行動する際の自己課題に気づきにつながった． 他分野の教員の協力を得て，複数体制で授業を展開したことで，グループワークにおける学生への関与が深まり，授業内容もより充実させることができた． **2．改善すべき事項** 引き続き新たな知見や社会の変化に応じて授業内容・方法を更新する．
将来に向けた発展方策・課題	実践看護師の授業への参画や臨床現場における医療安全の実際等，リアルな現状を教材とした授業が学習意欲につながっている． 看護教育においては，生涯学習力の基盤となる自己主導型学習に関する内容をさらに充実させる．

分野名	人文社会学
担当教員	小林道太郎
担当科目	アカデミックスキル，情報リテラシー・データサイエンス，倫理学，哲学，異文化論，多職種連携論 3 医療倫理，原著講読，卒業演習，インタラクティブ・イングリッシュⅠ・II
現状の説明	アカデミックスキルは今年度よりほぼ全分野からの協力を得て行うこととなった．引き続きレポートの書き方とグループワーク・発表を中心とした授業と課題のチェック・コメント等を行った．情報リテラシー・データサイエンスは，昨年度の結果を踏まえてグループワークと発表の時間等を調整した．異文化論は時間割変更もあって受講者が減ったが，前年度に続いて最終回に JICA 海外協力隊セミナーを依頼し実施することができた．倫理学，哲学，原著講読は概ね前年を引き継いだが，必要箇所について内容をアップデートした．新カリキュラム 3 年目のため今年度より多職種連携論 3 医療倫理が開講となった．前半 4 回は講義，後半 4 回分は阿武山キャンパスで 3 学部合同ディスカッションと発表を行った．卒業演習は 3 名の学生を担当し，発表会は実践支援看護学領域合同で行った．インタラクティブ・イングリッシュは他学部の担当教員および事務課と共同して授業準備・運営を行った．ネイティブ講師による授業を一部見学し，採点登録等を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** アカデミックスキルと情報リテラシー・データサイエンスでは，学生が自分たちで調べて発表することで多くのことを学んだと実感されている．多職種連携論 3 医療倫理は，これまで看護実践と理論の統合の一部としていた 3 学部合同ディスカッションを後半に組み込んだ科目であり，その部分の実施と採点についてはこれまで同様教育センターの協力を得て行った．当日，学生は全員出席であり，運営，採点とも特に問題なく実施することができた． **2．改善すべき事項** 次年度新入生は高校で情報科目を必修として受講していること，AI 等の技術や関連する社会状況は日々大きく変わっていること等を踏まえ，情報リテラシー・データサイエンスの内容はさらに修正していく必要がある．原著講読は次年度より選択科目となるため，受講者数に合わせて授業の進め方を工夫することが必要である．
将来に向けた発展方策・課題	学生が主体的に授業に参加し，自分で何かを考えたり発見したりする経験ができるよう，講義科目でも学生にワークや話し合いをしてもらう部分を増やしていきたい． 倫理学，異文化論，データサイエンス等は，特に社会の変化に対応して教える内容を毎年アップデートしていくことが必要である．

分野名	急性期成人看護学
担当教員	赤澤千春　寺口佐與子　勝山あづさ
担当科目	成人看護学概論，急性期成人看護援助論，急性期成人看護学援助方法，急性期成人看護学実習，統合実習，卒業演習，災害看護論
現状の説明	一部授業をオンラインで実施した．1 年生の成人看護学概論で成人を対象とする一般的な概念や理論を教授した．2 年生の急性期成人看護援助論で「生命の危機的状況にある対象」の概念と理論，身体心理社会的な看護問題と介入について教授した．3 年生前期の急性期成人看護学援助方法では，アクティブ・ラーニングを用いて，既習知識を活用し，周手術期患者の事例をもとにした看護計画の立案とロールプレイ演習を展開し，具体的な看護介入方法の探求と理解を目指した．後期の急性期看護学実習で周手術期患者の受け持ちを通し，生命の危機的状況にある対象についての看護計画を立案・実行・評価することで，急性期看護に必要な基礎的知識・技術・態度の習得につなげた．また，選択科目の災害看護論では災害時の応急処置や搬送等の実技指導を行った．4 年生の統合実習では 1〜3 年生までの知識と技術を統合させるために学生自身が実習計画を立て，急性期看護についての学びを深めた．また，卒業演習として興味のあるテーマに関する文献検討に取り組み，論文作成と研究発表を実施した．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 急性期領域の核となる「生命の危機的状況」にある対象について，1 回生から 3 回生まで講義，演習，実習と「命を守る」ための一貫した内容を教授し続けることで，急性期の特徴を理解しつつ急性期看護の対象，アセスメント，看護ケアを学ぶことができている．また，双方向ツール respon での小テストを取り入れることで学生の主体的な学習行動につながっている． **2．改善すべき事項** 1）「生命の危機的状況」にある対象のアセスメントが難しいため繰り返しの知識の定着を図ることと，3 回生では，その応用に適した事例を用いて理解させる必要がある．その準備が不十分だと，急性期領域実習の看護過程を展開することが困難となるため，根気よく指導する必要がある． 2）看護問題抽出を多角的にとらえることができるように，必要な基礎知識とその応用ができるように絶えず学生に問いかけ，指導していく必要がある． 3）実習では「生命の危機的状況」を強調した指導や，患者入院期間の短縮に伴い，心理社会的側面からの看護問題の抽出や介入が困難な学生も見受けられ，早期から身体的心理的社会的側面を統合することを指導する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	急性期看護学の知識の定着のためには繰り返しの教授を行う必要がある．また，現象を学生の持っている知識に照らし合わせて「言語化」することができるように，演習・実習ではできるだけ学生に「語らせる」ことを念頭に関わり，「考える」「考え続ける」ということを刺激することを意識した内容を取り入れる．

分野名	慢性期成人看護学
担当教員	飛田伊都子　有田弥棋子　野瀬珠美
担当科目	成人看護学概論，慢性期成人看護学援助論，慢性期成人看護学援助方法， 慢性期成人看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	成人看護学概論では，成人期の対象のライフステージと健康レベルに応じた身体的・社会的・精神的特徴が理解できるように可能な限り事例を紹介しながら授業を行った．援助論では，前半に主要な慢性疾患とその看護について講義し，看護過程やアセスメントについては「看護展開論」の教員と連携しながら理解が進むように努めた．援助方法では，教員が作成した事例に基づき，講義と事例展開，技術演習を行った．学生の基本的理解を把握できるように事前課題を提示し，授業中には学生の創意工夫の視点や学生間の双方向の力を共有できるアクティブ・ラーニングを取り入れる授業にした．慢性期成人看護学実習は，今年度より大学病院の消化器の病棟から循環器の病棟に実習場所を変更し，4 つの病棟で実施した医師および慢性看護の CNS による臨床講義を取り入れ，医学部・薬学部との多職種連携カンファレンスを実施した．統合実習は学生が希望するテーマに応じて大阪医科薬科大学病院，大阪医科薬科大学三島南病院，沖永良部島徳洲会病院，高槻日赤病院の 4 か所で実施した．卒業演習は，教員が 6 名の学生を受け持ち，学生が選ぶテーマに応じて文献検討を行い，論文を作成し学内発表を行った．そのうちの 1 名は看護研究会で発表し，参加者からの質問に対応した．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 昨年度より「看護展開論」の授業と「慢性期成人看護学援助論」の授業を上手く連携できるように基礎看護学分野の教員と調整を図り，「看護展開論」で看護過程を教授したのちに慢性が事例の看護過程を演習するように取り組んでいる．援助方法では，全般的に能動的な授業参加ができており，アクティブ・ラーニング（グループワークや技術演習）を積極的に取り入れたことが影響したと考えられる．実習においては，実習先との綿密な連携により，目標達成を意識して健康管理を行い，実習に臨む学生が多くみられた． **2．改善すべき事項** 次年度は「病気の診断・治療」の講義と「慢性期成人看護学援助論」との連携を調整することにより，病態生理の理解を把握したうえで講義を進める．また実習では，学生の特性や到達度を考慮し，実習終了時には目標に到達できるように，実習先の指導者と教員の連携による指導体制を強化する．多職種連携や倫理的課題についても理解を深めるようにカンファアレンスを充実させていきたい．
将来に向けた発展方策・課題	概論・援助論・援助方法・実習と続く学習プロセスに沿った思考の整理について学生が意識できるような説明が必要である．知識と技術の統合を基盤とし，病いとともに生きる人とその家族に対する看護援助について系統的に思考を深め，学習課題を焦点化して授業を計画する．事例の倫理的課題や意思決定支援に関しても理解を深める授業内容を検討する．

分野名	精神看護学
担当教員	山岡由実　新田和子　山内彩香
担当科目	人間関係論，精神看護学概論，精神看護学援助論，精神看護学援助方法，精神看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	対象を理解することへの理解を進めるため，「人間関係論」では，コミュニケーションから視点を広げ対象理解を促す内容を織り込んだ．看護師と自分のコミュニケーションがどのように違うのか考え，ケアとしてのコミュニケーションについて理解を促し，「精神看護学援助論」では内的体験から対象を理解しアセスメントにつなげることについて強化した．また，「精神看護学援助方法」では 精神看護の実践者や当事者の話を聴く機会を設け，学生の精神看護やその対象に対するイメージの具体化を促した． 「精神看護学実習」は，関係性を構築し，対象理解を深め，学生自身が行っている行為が看護として意味づけられるよう指導した．多職種連携 - 臨床カンファレンスも 8 回，90 名の学生が参加した．グループワークでは教員も介入し，意見交換の促進を図った．「統合看護学実習」は，地域包括ケアシステムの視座を盛り込んだ実習展開とし，「卒業演習」では 8 名の学生が関心に沿って文献研究を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義演習科目では，授業評価において 8〜9 割程度の学生から「学習目標を達成できた」との回答が得られ，看護師が対象を理解することやコミュニケーションを行うことの重要性について意識づけできたと考える．実習では 9 割以上の学生が「実習は有意義であった」「看護（観）を深める機会になった」と評価し，職種連携 - 臨床カンファレンスでは，教員がグループに介入し，どのような視点で話を進めるとディスカッションできるのかモデルをみせることで，医師や薬剤師の実践活動を知り，連携・協働のあり方やその重要性を学び，他職種の視点からの情報を看護に活かすことについて考える機会となっていた．統合看護学実習では，地域包括ケアシステムに関わる施設で実習することで学びが深まっていることがうかがえた． **2．改善すべき事項** 近年，学生は精神疾患を患う人の苦悩を想像することや他者と対面で意見を交換することが難しくなっている．講義では，学生が精神看護学に対する興味・関心を高め，基本的な知識を習得できることに加え，学生同士で学びを深め，共有できるよう工夫する必要がある．また，実習では，患者学生が共有する時間を増やし，患者が抱えている苦悩を理解し，看護を展開する力を育んでいく必要がある．さらに，学生個々の学びを発展させるためのグループの重要性についても理解を促す必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	コミュニケ―ション様式や価値観が変化している学生に対し，対象の苦悩を想像する力や他者との対話を促進する力を，授業や実習を通じてどのように培っていくかを検討する必要がある．

分野名	老年看護学
担当教員	久保田正和（6 月末まで，以降非常勤講師）　樋上容子　杣木佐知子
担当科目	老年看護学概論，老年看護学実習Ⅰ，老年看護学援助論，老年看護学援助方法，老年看護学実習（Ⅱ），看護実践と理論の統合，統合看護学実習，卒業演習
現状の説明	「老年看護学実習（Ⅱ）」においては，COVID-19 やインフルエンザ等感染症の流行の影響を受け，学生の配置人数を調整しながらの実施となった．第 3 クールでは，学生側に COVID-19 感染や体調不良者が続出したため病院や学内での情報共有や検討を迅速に行い，感染症拡大を防ぐため 3 日ほどオンライン実習とした．第 4 クールは，1 つの老人保健施設の受け入れが不可となり大学病院 79 病棟にて実施となった．過去数年の感染症発生時の実習体制調整の経験から，実習配置等を調整し，実習受け入れ施設の多大なご理解やご協力を得て学生は 1 日でも多くの臨地実習の機会を得た．第 2 クールの実習においては，個人情報保護に関わる重大なインシデントが発生し，学生への個人情報保護に関わる教育の充実の課題が明らかとなった．「実習Ⅰ」では，旧カリキュラムの 1 名であったが，デイケアセンターにて主体的な学びがあり実習目標を達成するに至った．今年度で「実習Ⅰ」は終了となる．講義や演習では，特に演習では学内実習室での演習や教員による模擬患者の動画教材を活用し，紙面だけでは想定が難しいペーパーペイシェントについて，より現実味のある事例展開をイメージできるよう工夫した．「実践と理論の統合」では，事前に地域包括ケアシステムにおける実習先施設の役割や機能についてのグループディスカッションを新たに実施し，実習先のことをよく理解した上で実習に臨むことができた．また，事後では，個々の実習での実践の学びをグループワークで他の学生と共有し，理論を用いてまとめることで学びを深めることができた．「統合看護学実習」は，総まとめとして，学生が立案した実習計画のもと，三島南病院のご協力を得て患者選定していただき主体的に実習を進めることができた．「卒業演習」では，学生の関心のあるテーマに沿い計画的に進め事例研究や文献研究など卒業論文としてまとめ，学内発表を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義，演習では知識の定着を図るための小テストの実施，グループワークを多用し，学生が集中して主体的に授業に取組めるよう工夫できている．実習では迅速な実習施設との情報共有や検討，調整を行い，実習の質の担保に向けた方法が確立されてきている． **2．改善すべき事項** 学習の効果を高めるため授業形態を柔軟に考え，学生が主体的に授業に取り組めるよう工夫を継続していく．特に個人情報保護を含む高齢者を取り巻く倫理的課題については，学生が理解し実践の場面で起こりうるリスクと対処方法をイメージできるよう工夫する．
将来に向けた発展方策・課題	講義・演習・実習のそれぞれにおいて，学生同士がディスカッションし学びを共有する重要性を再認識できた．学びを定着させるためにも，ディスカッションの機会を多く取り入れる．また，段階的に授業を組み，講義・演習・実習との繋がりを意識できるような内容を取り入れた授業を低学年次から進める．

分野名	がん看護学
担当教員	鈴木久美　南口陽子　土井智生
担当科目	がん看護学総論，看護研究法，看護と生体診断法，看護実践発展総合演習，看護実践発展実習，統合看護学実習，卒業演習，アカデミックスキル，地域・在宅ケア実習
現状の説明	「がん看護学総論」では，知識の教授のみならず，治療期や終末期にあるがん患者の特徴，ACP などを具体的にイメージできるように視聴覚教材も効果的に取り入れながら授業を展開した．また，事前課題での学びを深められるように解説を取り入れ，知識の定着を図った．「看護研究法」では，研究の基本を学ぶだけでなく，学生各々が興味関心のあるテーマで卒業演習に取り組むことができるように授業を展開した．「看護と生体診断法」は，講義のみならず事例分析課題をグループで行うことで，基本的知識を活用した総合的なアセスメント能力の向上を目指した授業を展開した．「看護実践発展総合演習」では，卒業時到達目標の観点から学生が自己課題を考え，その課題を克服できるように繰り返し技術演習を行うことで技術力の向上を図った．「看護実践発展実習」では，実習指導者と密な連携を図ることで重症度やケア度の高い患者に対する実践力を強化する実習を行った．「統合看護学実習」では 8 名の学生を受け入れ，新たに治療期におけるがん看護を学ぶ施設をフィールドとして追加した．「卒業演習」では 6 名の学生を受け入れ，学生の関心に沿ってテーマを決めて取り組み，それぞれ成果の発表会を行った．なお，各授業の後には学生からの感想や質問を募り，フィードバックを行うことで疑問点を解消した． 「アカデミックスキル」では，他分野の教員と連携し，大学で学ぶための基礎的技法を教授した．「地域・在宅ケア実習」では，地域で暮らす対象者の多様性について学べるよう，各実習施設の実習指導者と密な連携を図りながら実習指導を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義科目と演習科目ではグループワークやシミュレーション機器を活用したアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ，細やかなフィードバックを行いながら授業を進めたことで，担当科目に対する学生からの授業評価では満足度が高かったという回答を得た．実習科目においても，学生が主体的に様々な看護技術を患者に対して安全に実践する機会を設けることができ，こちらも肯定的な回答を得ることができた． **2．改善すべき事項** 学習目標達成に向け，事前・事後課題を効果的に織り交ぜながら授業を展開していく．また，学習内容が多い科目であるが故に質問も多く，Moodle を活用してフィードバックの時間を調整し，疑問点を解決できるような授業にしていく．
将来に向けた発展方策・課題	講義科目や演習科目では，学生が基礎的な内容をもとに論理的思考ができるように思考力の強化を図りたい．実習科目では，アセスメントに基づいた看護ケアを安全安楽に実践できるよう，実習指導者や教員間の連携を強化していきたい．

分野名	臨床医学
担当教員	安田稔人　津田泰宏
担当科目	健康科学論，からだの仕組みと働きⅡ，フィジカルアセスメント，病気の成り立ち，病気の診断・治療Ⅰ・Ⅱ，急性期成人看護援助論，災害看護論，リハビリテーション医学
現状の説明	健康寿命の延伸のために，看護学においても運動器は重要な分野である．また，生活習慣病といわれる疾患の病態や背景を学生の間から学ぶことも大切である．臨床医学の授業は講義形式であるが，できるだけ双方向授業を心掛けている．また，画像（単純 X 線像や超音波画像，MRI など）や，動画（歩容の観察，内科的診察手技，外科手術など）を提示し，臨床現場をイメージできるように工夫している．さらに，授業中にワークシートでの解剖用語の穴埋めなど能動的な学習も行えるようにしている．運動器の講義では，機能解剖学の視点から，学生に考えさせながら教育し，3 年時のリハビリテーション医学の講義につなげている．チーム医療においては，看護職が多職種と連携して患者さんと関わっていく必要性を医師の立場から説明している．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 1 年生から解剖と病理を並行して学ぶことで，疾患の病態が治療を理解するためにいかに重要であるかを学生に教えている．また，国家試験対策として解剖生理，病気の講義中に，国試の過去問題を学生に提示（respon を使用）して，授業時間中に学生の理解度を確かめている．授業終了時には授業難易度に関するアンケート調査を行い，次回授業や次年度授業に役立てている．医学部の教員によるオムニバス形式が多い科目に関しては，まとめの授業などを行い知識の整理を促していく．また，健康寿命の延伸のためのトレーニングを実演しながら市民に教えるなど，社会貢献も行っている． **2．改善すべき事項** 解剖生理，病態については，将来，看護師として患者さんと関わり，フィジカルアセスメントや援助を行なっていく中でどう役立てるかが重要である．授業の中でこのことを丁寧に説明し，実際の臨床の場面を学生がイメージできるよう，学生にとってわかりやすい授業を行っていく．医学部の教員によるオムニバス形式が多い科目に関しては，さらに担当教員との連携を工夫する必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	これからの医療においては，知識，技術などの個人の力はもちろん重要であるが，同時に医療チームとしての力を高めることも欠かせない．その中で日常診療における臨床医の視点を学生に伝えて，卒業後の多職種連携の手助けになるよう，授業や実習中に学生に教育していく．「患者さんのために」という想いは医師も看護師も同じであり，患者さんに対して温かい心を持ちながら，正しくアセスメントして，治療，援助を行うためにも患者さんを診る力を身につけてもらうことが大切である．解剖や病態生理の国家試験での得点率が低いため，1 年の講義をいかに演習や実習に繋げながら，卒業時に知識をつけていくかが今後の課題である．

分野名	小児看護学
担当教員	竹村淳子　鈴木美佐　倉橋理香
担当科目	小児看護学概論，小児看護学援助論，小児看護学援助方法，家族看護学，小児看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習（小児），卒業演習
現状の説明	「小児看護学概論」では，PBL によるグループワークおよびプレゼンテーションを引き続き実施した．「小児看護学援助論」では，小児看護がイメージしやすいよう視聴覚教材を積極的に用い講義を展開した．「小児看護学援助方法」では，小児特有の疾患事例を用い，年齢や病期に応じた看護過程の展開を行った．看護技術演習は，小児の特性をふまえた基本技術習得とともに，ディスカッションで体験に基づく学びを深めた．「家族看護学」では，家族を捉えるための基本的な理論および，家族支援専門看護師の実践活動に関する講義を行った後，事例展開を行った．「小児看護学実習」では，8 日間の病院（小児・NICU 病棟，外来）実習および 2 日間の保育室・小・中学校・特別支援学校実習を実施した．外来実習では，病棟と外来の看護の継続性を学ぶ視点から外来担当患児を設定し，診察の見学や問診を取り入れた．学生 2 名で一人の患児を受け持つ方式での実習にて，学生間の学びの共有や相補，発展など良い効果を得ることができた．「看護実践と理論の統合」の事前演習では，小児病棟・NICU 別に事例演習を実施し学生の準備性を整えた．「統合看護学実習」では学生 8 名が，病院（大学病院・外部病院）と病児対象のキャンプにて，看護マネジメントの視点と子どもと家族を取り巻く医療・福祉・教育との多職種連携について実習を展開した．今年度から，難病キャンプの他に 1 型糖尿病キャンプを追加し，8 名全員が医療・地域の連携を学び，看護の役割を考察する機会となった．実習後には実習指導者を招いて学びの発表会を実施した．「卒業演習」では，8 名の学生が，個々の関心からテーマを絞り文献研究を進めるプロセスを学び，学内卒業演習発表会で成果を共有できた．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 講義科目に PBL を積極的に取り入れ，学生の主体的参加が定着した．オンデマンド授業の活用・中間・期末テストの実施，試験後の解説などについて，学生の授業評価で肯定的な回答を得ることができ，知識の定着に一定の効果を感じることが出来た．小児看護学実習では，ペアで一人の患児を受けもつ方式を取り入れた実習展開方法について学生・教員・指導者間の共有ができた． **2．改善すべき事項** 実習病棟の入院患者数の減少等の影響により受け持ち児決定に 0.5～1 日程度要することや，入院期間の短期化により 2 事例以上を受け持つことが増加した．外来実習との調整やシャドーイング実習時の目標設定などの検討が必要である．
将来に向けた発展方策・課題	小児看護学実習では病棟入院児の減少・入院期間が短期化の傾向は今後も同様であると思われる．小児看護学実習の目標を達成するための手段について，従来の看護展開以外の方法を開発する必要がある．4 年次，統合看護学実習において全員に病児を対象としたキャンプへの参加を実施した．この実習の組み立てが学生の視野の広がりに効果があると言えるのか，今後，検証の必要がある．

分野名	母性看護学・助産学
担当教員	近澤　幸　間中麻衣子　松枝加奈子　笹野奈菜　酒向なつみ
担当科目	セクシュアリティと看護，リプロダクションと看護，母性看護学概論，母性看護学援助論，母性看護学援助方法，母性看護学実習，助産学概論，助産診断・技術学 I，助産診断・技術学 II，助産管理，助産学実習，看護実践と理論の統合，卒業演習，統合看護学実習
現状の説明	講義科目では，最新の国家試験出題傾向を分析し，教育に活用した．また，期末試験だけでなく，小テスト，中間試験を行った． 演習科目では，実践的演習をめざし，オリジナルのアセスメントツール，実践的模擬事例，教員作成の母性看護技術 DVD 活用などにより基本的な看護実践能力の育成をめざした．また，助産診断・技術学Ⅱでは，シミュレーション教育を行った．さらに，無痛分娩事例の増加に対応するため，医師による無痛分娩の講義を行った． 実習では，実習施設との連携，教育設備の充実，教材整備・教材開発，医学部・大学病院看護部との連携により，基本的な看護実践能力の育成を行った．また，多職連携-臨床カンファレンスでは，統合に伴い医学部・薬学部・看護学部での合同カンファレンスを行った．さらに周産期医療・地域母子保健関連の課題を鑑み，施設と地域の切れ目ない支援の視点を持てるよう，病院実習以外に助産所や子育て総合支援センター，保健センターなどの実習を行った．
点検評価	**1．効果が上がっている事項** 前年度の学生の授業評価をふまえ，講義・演習内容の改善を行うことができた．3 学部による多職種連携-臨床カンファレンスでは，お互いの実践活動を知り，連携・協働のあり方について深める機会となった．助産学実習では，9 月末までに 6 名全員が分娩介助実習を終了し，助産師国家試験合格率も 100%であった． **2．改善すべき事項** 次年度も，小テスト・中間テストや練習問題，予習課題，反転授業，復習課題などで知識・技術習得を促すことができるよう教授方法を工夫する．2025 年度の助産師国家試験受験資格選抜は 6 名を選抜した．2025 年度はさらなる出産数の減少傾向が予想されている．10 例程度の分娩介助例数確保のため，事例展開などによる教育の質の担保を行っていく．さらに，周産期医療・地域母子保健関連の課題，2022 年度のカリキュラム改正をふまえ，ハイリスク妊産褥婦への支援や施設と地域の切れ目ない支援の視点の強化を次年度も継続していく．
将来に向けた発展方策・課題	視覚支援教材などの積極的活用，学生の習得状況を丁寧に確認し，看護実践力を育成する．各学生が，確実な知識・技術習得に加え，生涯学習力の基盤となる学士力を育成できるよう教育方法を検討する．助産師基礎教育に関する国内外の状況をふまえ，大学教育における助産学教育のあり方について検討する．

分野名	在宅看護学
担当教員	真継和子　大橋尚弘　内田浩江　有吉真里菜
担当科目	地域・在宅看護論，地域・在宅ケア実習，在宅看護学概論，在宅看護学援助論，在宅看護学援助方法，在宅看護学実習，看護実践と理論の統合，統合看護学実習（在宅)，卒業演習，家族看護学，医療カウンセリング
現状の説明	「地域・在宅看護論」ではグループワークや教員の看護経験をもとに，暮らしと健康・看護への関心を高めた．この授業での気づきや疑問から学生個々が「地域・在宅ケア実習」のテーマを考え，立案した計画をもとに実習に臨み，人々の生活や価値観の多様性，ケアへの理解を深めた．「在宅看護学概論」では概念や理論のほか，社会資源についてオンデマンド動画の配信等の反転授業を取り入れ，事例検討により知識の定着を図った．「在宅看護学援助論」では，CNS や JANPU-NP などに協力を得，訪問看護を行う際に必要なフィジカルアセスメントの知識や技術を強化した．視聴覚教材の活用のほか respon による双方向型授業の展開，中間試験の実施により知識の確認及び定着を図った．「在宅看護学援助方法」では，3 事例を用いてアセスメントの強化を図り，模擬訪問の実施やグループディスカッションにより，実習での活用が可能となるように工夫した．「在宅看護学実習」は，在宅療養者と家族の理解や社会資源の理解の向上を目指し，居宅訪問での学生の体験を言語化できる機会の確保や実習記録の整備を通して，学びにつなげる工夫をした．さらに，可能な限りケアを実施させ看護実践力に繋げられるよう実習指導者との調整を図った．「統合看護学実習（在宅)」は 9 名の学生が選択し，うち 3 名は医薬看合同の地域医療実習に参加した．チームの一員としての役割や多職種連携の実際が理解できるよう実習指導を行った．「卒業演習」は 8 名の学生が選択し，個々の関心からテーマを絞り込み，論文作成，学内発表までできた．「家族看護学」では事例分析により理論の理解を深めた．「医療カウンセリング」ではロールプレイニングとリフレクションにより，知識と技術の習得を図った．
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 新カリキュラム導入から 3 年が経過した．1 年次の地域・在宅ケア実習におけるコミュニケーションスキルの学びが 3 年次実習に繋がり，実習施設から評価を得ている．また，高度実践看護者を活用した演習により学習意欲が高まっていた．中間試験を取り入れたことは知識の定着に繋がっている．授業評価でも在宅看護への関心の高まり，理解の深まりにつながっていた． **2. 改善すべき事項** 授業評価では学習内容の多さ，難易度を指摘する声が多い．引き続き教授内容の精選と課題の提示について検討し，効果的に学習がすすめられるよう工夫していく必要がある．分野の特徴から実習時間の超過が課題である．
将来に向けた発展方策・課題	学習目標が達成できるよう，教授内容の精選や課題量などの検討を図り，知識の定着を目指すとともに，視聴覚教材やシミュレーション機器を活用した体験学習を強化し，在宅看護の理解につなげる．また，実習方法について検討する．

分野名	公衆衛生看護学
担当教員	草野恵美子　中原洋子　山埜ふみ恵　堀池　諒　濱浦弘美
担当科目	公衆衛生看護学概論，公衆衛生看護学活動論Ⅰ，統合看護学実習（公衆衛生看護学分野），卒業演習，公衆衛生看護学活動論Ⅱ，公衆衛生看護学活動方法，公衆衛生看護学管理論，ヘルスプロモーション論，公衆衛生看護学演習，公衆衛生看護学実習Ⅰ，公衆衛生看護学実習Ⅱ
現状の説明	今年度は基本的に対面で講義・演習を進めることができた．公衆衛生看護活動方法や公衆衛生看護管理論では，グループワークや発表会を実施し学生の成果の可視化や学びの共有に努めた．また，地域診断では住民の方を特別講師としてお招きし，住民の生の声を直接聞いて反映させ，既存の量的データだけでなく，質的データによる地域診断の重要性を学ぶ機会を作ることができた．公衆衛生看護学実習Ⅰは学生 34 名が履修し，今年度はすべての実習施設において対面にて，例年通り 5 月に実施することができた．公衆衛生看護学実習Ⅱの履修者は 34 名であり，7 グループに分かれて実習を行った．実習地は，茨木保健所と摂津市，枚方市，大阪市淀川区，兵庫県宍粟市（一宮町，千種町），兵庫県赤穂市，兵庫県神崎郡神河町であった．家庭訪問・健康教育は全数実施できた．統合看護学実習は 13 名が履修し，学生は主体的に実習課題を設定して，社会福祉協議会と地域包括支援センターで実習し，最終日には発表会にて学びを共有した．卒業演習は 10 名の学生が研究テーマを設定し，論文作成と研究発表を行った．
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 1） COVID-19 の影響は残りつつも，今年度は，保健所はじめ，ほぼ感染拡大前の実習を実施でき，学生は現場で多くを吸収することができた． 2） 地域診断などに必要な情報は年々，ウェブサイト上からの収集が必要であることから，公的機関で Wi-Fi がない実習施設が多く，実習先でもインターネットを使えるように引き続き ICT の活用を行った．これを用いて，遠隔地と学内をカンファレンス時につなぐことも可能となった． 3） 保健所・市町村実習における実習目標に照らした学生の自己評価では，「公衆衛生看護管理」の項目において「できた・よくできた」と回答した学生の割合が最も低く，昨年度よりも低下していた． **2. 改善すべき事項** 自己評価において年々増加しているものの最も低かったのは「公衆衛生看護管理」についてであり，今後強化していく必要がある．
将来に向けた発展方策・課題	わかりにくい保健師活動のイメージを高めるために，実習に行く前の早い段階（2～3 年生）で，引き続き，実践現場の保健師活動に触れる機会を増やすとともに，住民等対象者の生の声を聴く演習を強化する． 実習において「公衆衛生看護管理」の理解を深める方策を検討する． 保健師教育の将来構想について，引き続き検討する．

分野名	社会医学
担当教員	土手友太郎
担当科目	公衆衛生学, 保健医療福祉概論, 統計学, 大阪を学ぶ, 情報リテラシー・データサイエンス（1 年次）, 疫学（2 年次）, 災害看護論（3 年次）, 卒業演習（4 年次）
現状の説明	公衆衛生学, 保健医療福祉概論, 統計学, 大阪を学ぶ, 疫学, 災害看護論について, 今年度もオンデマンド授業を数コマ導入した. 面接授業においては, 双方向授業アプリを用い, リモコン端末から, リアルタイムで, 設問やアンケートを回答させた. また面接授業とオンデマンド授業の両方において, respon で予習復習, 授業中および終了前に小テストを実施した. 採点結果は, 各テストの正解数のみを正解とともに公開した.
点検評価	**1. 効果が上がっている事項** 予習復習, 授業中および終了前に小テストを実施したことにより, 授業への準備状況が改善した. また授業中および終了前にも実施することで授業への集中力を維持しやすくなった. 授業後, 結果を速やかに公開することで, 学生の理解度を, 学生全員と教員で, 共有できたので, 次回以降の授業内容の補足や追加ができた. 毎回のテストの実施により, 授業期間における学生の形成評価ができ, 集計により総括評価ができた. 期間を通じで, 毎回形成評価を継続したことにより, 各科目の全般的な項目に対する総合的な理解度を把握できた. **2. 改善すべき事項** オンデマンド授業は, 自主的な学習習慣を促す効果が期待されるが, 学生により, 回答そのものをしてこない場合もあった. オンデマンド授業は, 対面授業のような定時来校する負担がないものの, 授業に対する積極性が学習効果を大きく左右すると思われた. 授業中のテストの成績, 出席および回答状況などから同習慣があまりないと考えられる学生には, 何らかの対策が必要である.
将来に向けた発展方策・課題	オンデマンド授業は, 自主的な学習を促すことができるため, 適切な回数や間隔を検討していく. 今後大いに採用すべき教育技法である. よって, 授業科目に応じた最適の回数や時期を検討していく.

Ⅲ．看護学研究科

１．教員組織

1）教員構成および教員数

【看護系教員】　　2025 年 3 月 31 日現在

領域	専門分野	教授	准教授	講師	助教
実践 支援看護学	看護教育学	1	1		
	看護技術開発看護学		1		
	人文社会学	1			
療養生活 支援看護学	移植・再生医療看護学	1	1		
	がん看護学	1	1		
	慢性看護学	1			
	精神看護学	1	1		1
	老年看護学	1			1
	臨床医学	2			
地域家族 支援看護学	母性看護学		1	2	
	小児看護学	1	1		1
	地域看護学	1		2	1
	在宅看護学	1	1	1	
	社会医学	1			
	プライマリケア看護学	2	2		1
計（実人数）		13	8	5	5

２．年間事業

1）活動内容

看護学研究科では，大学院委員会が中心となり年間の事業計画を立案し，教育および研究の質向上をめざし，教育活動や研究活動に取り組んだ．2024 年度に実施した主な事業を報告する．

(1) 教育活動

博士前期課程・後期課程の学生に対する教育が円滑に展開されるように計画実行している．（詳細は大学院委員会報告参照）

(2)　研究活動

博士前期課程・後期課程の学生が取り組む研究について，節目ごとにグループ指導や発表会を実施し，広く助言を得る学習機会を提供し，研究が進められるよう支援している．プレ FD として院生も FD の対象とし，研究活動等へ活かす機会を設定した．

(3)　教育環境整備

院生と教員の交流会を実施し，学年が違う院生同士の交流も行うことができた．また，学生の意見を調査等から把握し，今後の教育環境整備の検討を行った．

2) 2024 年度看護学研究科予算執行額

予算執行額　2,097,042 円（予算額　285 万円）

「内訳」

予算額　255 万円　執行額　1,975,855 円

（看護学研究科設置経費（入試，入試・教育要項作成，学生証，実習費，申請業務費用等）

予算額　10 万円　　執行額　　87,116 円（大学院特別講義）

予算額　10 万円　　執行額　　34,071 円（大学院学院看護学研究科 FD ワークショップ）

3) 学生在籍数

【博士前期課程】　2024 年 5 月 1 日現在

コース	専門分野	1 年	2 年	在学年限延長他	合計
教育研究	看護教育学	1	2		3
	看護技術開発看護学				
	人文社会	1			1
	移植・再生医療看護学				
	がん看護学	1			1
	慢性看護学				
	精神看護学				
	老年看護学				
	母性看護学	1			1
	小児看護学		3		3
	地域看護学	1			1
	在宅看護学	1			1
高度実践	がん看護学	2	1		3
	慢性看護学	1			1
	精神看護学	1			1
	老年看護学				
	母性看護学				
	小児看護学				
	プライマリケア看護学		2		2
合計		10	8		18

【博士後期課程】　2024 年 5 月 1 日現在

領域名	1 年	2 年	3 年	在学年限延長他	合計
実践支援看護学	2				2
療養生活支援看護学	2	3	5	1	11
地域家族看護学	2	2	1		5
合計	6	5	6	1	18

4月				5月				6月				7月				8月				9月			
日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容		日	曜	内容	
1	月	臨時看護学研究科教授会	履修登録期間	1	水	(院)水④		1	土	(院)土⑦創立記念日 入試説明会・個別相談会		1	月	(院)月⑪		1	木	【秋季】口頭試問【最終試験】	口頭試問期間	1	日		
2	火			2	木	(院)木④		2	日			2	火	(院)火⑬		2	金			2	月		
3	水	新入生オリエンテーション		3	金	憲法記念日		3	月	(院)月⑦		3	水	(院)水⑬		3	土			3	火		
4	木	入学宣誓式(学部・大学院)		4	土	みどりの日		4	火	(院)火⑨		4	木	(院)木⑬		4	日			4	水		
5	金			5	日	こどもの日		5	水	(院)水⑨		5	金	(院)金⑫		5	月			5	木		
6	土	(院)土①		6	月	振替休日		6	木	(院)木⑨		6	土	(院)土⑫		6	火			6	金		
7	日			7	火	(院)火⑤		7	金	(院)金⑧ 【秋季】論文タイトル締切		7	日			7	水			7	土		
8	月	(院)月①		8	水	(院)水⑤ 学部・研究科教授会15:00		8	土	(院)土⑧		8	月	(院)月⑫		8	木			8	日		
9	火	(院)火①		9	木	(院)木⑤		9	日			9	火	(院)火⑭		9	金	夏季閉鎖期間 （予定）		9	月		
10	水	(院)水① 学部・研究科教授会15:00		10	金	(院)金④		10	月	(院)月⑧		10	水	(院)水⑭ 学部・研究科教授会15:00		10	土			10	火		
11	木	(院)木①		11	土	(院)土④		11	火	(院)火⑩		11	木	(院)木⑭		11	日	山の日		11	水	学部・研究科教授会15:00	
12	金	(院)金①		12	日			12	水	(院)水⑩ 学部・研究科教授会15:00		12	金	(院)金⑬		12	月	振替休日		12	木		
13	土	研究計画、中間発表会 大学院生の交流会		13	月	(院)月④		13	木	(院)木⑩		13	土	(院)土⑬		13	火			13	金		
14	日			14	火	(院)火⑥		14	金	(院)金⑨		14	日			14	水			14	土	看護学研究科入学試験	
15	月	(院)月②		15	水	(院)水⑥		15	土	(院)土⑨		15	月	海の日		15	木			15	日		
16	火	(院)火②		16	木	(院)木⑥		16	日			16	火	(院)火⑮		16	金	【秋季】論文発表会		16	月	敬老の日	
17	水	(院)水②		17	金	(院)金⑤		17	月	(院)月⑨		17	水	(院)水⑮ 高度実践コース実習報告会		17	土			17	火		
18	木	(院)木②		18	土	(院)土⑤		18	火	(院)火⑪		18	木	(院)木⑮		18	日			18	水	臨時研究科教授会15:00 (【秋季】学位授与可否審議)	
19	金	(院)金②		19	日			19	水	(院)水⑪		19	金	(院)金⑭		19	月			19	木	成績開示	履修登録変更期間
20	土	(院)土②		20	月	(院)月⑤		20	木	(院)木⑪		20	土	(院)土⑭		20	火			20	金	入試合格者発表16:00	
21	日			21	火	(院)火⑦		21	金	(院)金⑩		21	日			21	水			21	土		
22	月	(院)月③		22	水	(院)水⑦ 臨時研究科教授会15:00		22	土	(院)土⑩		22	月	(院)月⑬		22	木			22	日	秋分の日	
23	火	(院)火③		23	木	(院)木⑦		23	日			23	火			23	金			23	月	振替休日	
24	水	(院)水③ 臨時研究科教授会15:00		24	金	(院)金⑥		24	月	(院)月⑩		24	水	(院)水⑮臨時 研究科教授会15:00 (【秋季】主査・副査の決定)		24	土			24	火		
25	木	(院)木③		25	土	(院)土⑥		25	火	(院)火⑫		25	木	(院)木⑮【秋季】修士・博士論文提出(正午迄)		25	日			25	水		
26	金	(院)金③		26	日			26	水	(院)水⑫ 臨時研究科教授会15:00		26	金	(院)金⑮		26	月	【秋季】(修正版) 論文提出締切 16:50迄		26	木		
27	土	(院)土③		27	月	(院)月⑥		27	木	(院)木⑫		27	土	(院)土⑮		27	火			27	金		
28	日			28	火	(院)火⑧		28	金	(院)金⑪		28	日			28	水	臨時研究科教授会 15:00		28	土	(院)土①	
29	月	昭和の日		29	水	(院)水⑧		29	土	(院)土⑪		29	月	(院)月⑭		29	木			29	日		
30	火	(院)火④		30	木	(院)木⑧		30	日			30	火	(院)月⑮		30	金			30	月		
				31	金	(院)金⑦						31	水	臨時学部教授会 15～		31	土						

授業日程表の見方

・○数字は、各曜日授業の回数を示します。

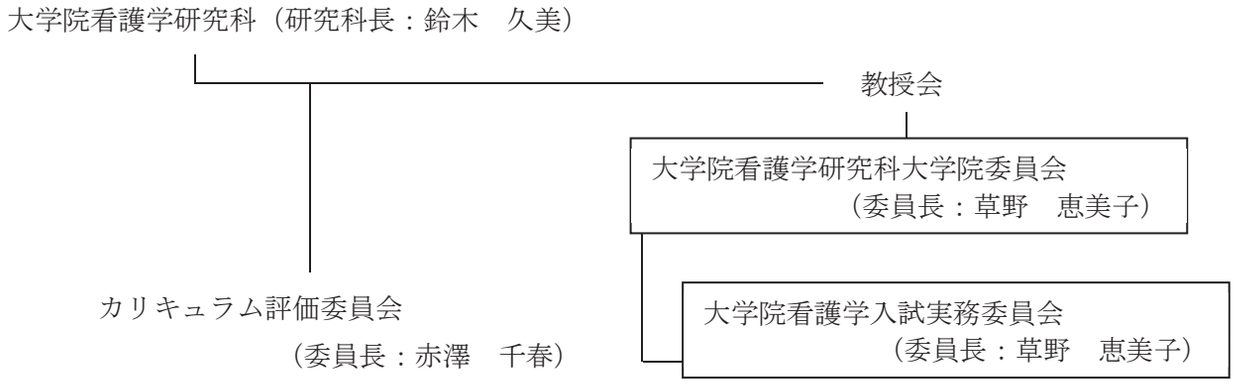
※各授業、特別研究・課題研究については、指導教員と大学院生との調整により、日時を変更することがあります。

※授業科目については、時間割表を参照してください。

10　月				11　月				12　月				1　月				2　月				3　月			
日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容		日	曜	内　容	
1	火	(院)火①		1	金	(院)金⑤		1	日			1	水	冬季閉鎖期間		1	土	口頭試問【最終試験】	口頭試問期間	1	土	入試説明会・個別相談会	
2	水	(院)水①		2	土	(院)土⑥		2	月	(院)月⑦ 臨時学部教授会15:00		2	木	冬季閉鎖期間		2	日			2	日		
3	木	(院)木①		3	日	文化の日		3	火	(院)火⑩		3	金	冬季閉鎖期間		3	月			3	月		
4	金	(院)金①		4	月	振替休日		4	水	(院)水⑩		4	土			4	火			4	火		
5	土	(院)土②		5	火	(院)火⑥		5	木	(院)木⑩		5	日			5	水			5	水		
6	日			6	水	(院)水⑥		6	金	(院)金⑩ 主査・副査推薦締切		6	月	(院)月⑪		6	木			6	木		
7	月	(院)月①		7	木	(院)木⑥		7	土	(院)土⑩		7	火	(院)火⑭		7	金	研究計画発表会		7	金		
8	火	(院)火②		8	金	(院)金⑥ 論文タイトル締切		8	日			8	水	(院)水⑭ 学部・研究科教授会15:00		8	土	研究計画発表会		8	土		
9	水	(院)水② 学部・研究科教授会　15		9	土	(院)土⑦		9	月	(院)月⑧		9	木	(院)木⑭		9	日			9	日		
10	木	(院)木②		10	日			10	火	(院)火⑪		10	金	(院)金⑭		10	月			10	月		
11	金	(院)金②		11	月	(院)月④		11	水	(院)水⑪ 学部・研究科教授会15:00		11	土	(院)土⑭		11	火	建国記念の日		11	火		
12	土	(院)土③		12	火	(院)火⑦		12	木	(院)木⑪		12	日			12	水	学部・研究科教授会15:00		12	水	学部・研究科教授会 (学位授与可否審議)	
13	日			13	水	(院)水⑦ 学部・研究科教授会15:00		13	金	(院)金⑪		13	月	成人の日		13	木	論文発表会		13	木		
14	月	スポーツの日		14	木	(院)木⑦		14	土	(院)土⑪		14	火	(院)火⑮		14	金	論文発表会		14	金		
15	火	(院)火③		15	金	(院)金⑦		15	日			15	水	(院)水⑮		15	土	論文発表会		15	土		
16	水	(院)水③ 研究計画発表会		16	土	(院)土⑧		16	月	(院)月⑨		16	木	(院)木⑮		16	日			16	日		
17	木	(院)木③		17	日			17	火	(院)火⑫		17	金	(院)金⑮		17	月			17	月		
18	金	(院)金③		18	月	(院)月⑤		18	水	(院)水⑫		18	土			18	火			18	火		
19	土	(院)土④ 解剖慰霊祭		19	火	(院)火⑧		19	木	(院)木⑫		19	日			19	水			19	水		
20	日			20	水	(院)水⑧		20	金	(院)金⑫		20	月	(院)月⑫		20	木			20	木	春分の日	
21	月	(院)月②		21	木	(院)木⑧		21	土	(院)土⑫		21	火	(院)月⑬		21	金			21	金	成績開示　学位記授与式	
22	火	(院)火④		22	金	(院)金⑧		22	日			22	水	臨時学部・研究科教授会 15:00		22	土			22	土		
23	水	(院)水④ 臨時研究科教授会15:00		23	土	勤労感謝の日		23	月	(院)月⑩		23	木			23	日	天皇誕生日		23	日		
24	木	(院)木④		24	日			24	火	(院)火⑬		24	金			24	月	振替休日		24	月		
25	金	(院)金④		25	月	(院)月⑥		25	水	(院)水⑬　臨時研究科教授会15:00 (主査・副査の決定)		25	土	(院)土⑮		25	火	(修正版)論文提出締切 16:50迄		25	火		
26	土	(院)土⑤		26	火	(院)火⑨		26	木	(院)木⑬		26	日			26	水	臨時研究科教授会15:00		26	水	臨時研究科教授会15:00	
27	日			27	水	(院)水⑨ 臨時研究科教授会15:00		27	金	(院)金⑬		27	月	(院)月⑭ 修士・博士論文提出(正午迄)		27	木			27	木		
28	月	(院)月③		28	木	(院)木⑨		28	土	(院)土⑬		28	火	(院)月⑮		28	金			28	金		
29	火	(院)火⑤		29	金	(院)金⑨		29	日	冬季閉鎖期間		29	水			29	土			29	土		
30	水	(院)水⑤		30	土	(院)土⑨		30	月	冬季閉鎖期間		30	木							30	日		
31	木	(院)木⑤						31	火			31	金							31	月		

３．運営と教育活動

1）運営組織



2) 委員会

委員会名	看護学研究科大学院委員会	SDGs との関連	
目　的	看護学研究科の管理・運営を円滑に進めるために設けられ，大学院生の教育，研究，学位審査，学生生活に関する事柄．また，入学試験等に関する協議を行い，必要事項を審議事項, 報告事項として教授会に提議する．		
構成員	草野恵美子（委員長）　小林道太郎（副委員長）　赤澤千春　樋上容子　二宮早苗 川端由夏（看護学事務課）　堀江雅彦（看護学事務課）　長田紗季（看護学事務課）		
活動計画	1.　教育課程全般の運営 2.　教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し 3.　リポジトリの具体的運用方法の検討 4.　高度実践コースの課題研究に関する検討 5.　広報活動推進と受験者獲得の向けた対策 6.　入試運営，入学試験方式の違いによる入学後の学修成果の評価，AP の評価 7.　学習環境，学生サービスの充実 8.　FD の推進 9.　大学院運営力の強化 10. 大学院教育における国際性の涵養 11. 大学院設置基準改正に伴う TA 業務の検討 12. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立 13. 新型コロナ感染症への対応		
活動概要	**1. 教育課程全般の運営** 1）委員会の開催 14 回の委員会（定例 12 回，臨時 2 回）を開催した． 2）新入生オリエンテーション 4 月に新入生を対象に，教育課程と履修方法，学生生活に関すること，学位論文の指導体制と進め方，TA/RA について説明した．加えて，入学者全員に向けて，主体的な学習姿勢を求める説明を行った． 3）既修得単位認定に関する事項 新入生のうち 1 名の既修得単位認定にあたり該当科目の科目責任者との調整，認定の可否について検討した． 4）学位論文に関する事項 2023 年度修了生の学位論文要旨および審査結果の HP での公開を 5 月に行った．学位論文の公表について，2023 年度修了生 2 名について機関リポジトリを用いたインターネットによる学位論文の公表を進めており，投稿中の論文について採択を待って全文公表の予定としている． 学位論文申請から論文提出までのマニュアルを提示し，学位論文申請，論文審査，提出等が円滑に実施されるよう調整した．口頭試問の場の確保，論文発表会		

活動概要	の企画・運営を行った．学位論文発表会は 2 月 15 日に実施した．学位論文の最終評価のまとめと修了単位取得状況を確認し，教授会に諮った． 学位論文発表会の詳細は以下のとおりである． 2 月 15 日（土）博士前期課程 5 名，博士後期課程 6 名 5）特別研究・課題研究に関する事項 4 月に新入生の主指導・副指導教員の調整を行い，教授会に諮った．セメスター毎にグループ指導の実施状況について把握し，規定回数に満たない場合には指導教員に実施を促すこととした（今年度はなし）．4 月，10 月，2 月に博士後期課程の中間発表会，両課程の研究計画発表会を開催した．詳細は以下のとおりである．また，2024 年度より特別研究（博士後期課程）主指導」の担当基準について，大学院生の主指導経験がない場合は，「卓越した研究業績（公的競争的外部資金（科研費等）の採択が 2 件以上あること)」を追加した新基準で実施している． （1）中間発表会： 4 月 13 日（土）3 名 （2）研究計画発表会： 4 月 13 日（土）博士前期課程 1 名，博士後期課程 1 名 10 月 16 日（水）博士前期課程 2 名，博士後期課程 1 名 2 月 7 日（金） 博士前期課程 5 名 2 月 8 日（土） 博士前期課程 5 名，博士後期課程 4 名 6）高度実践コース実習に関する事項 高度実践コース実習報告会を 7 月 17 日に開催し，がん看護学 1 名，プライマリケア看護学 2 名の発表があった． 高度実践コースの実習費について，2025 年入学生より 15 万円に変更した． 7）TA オリエンテーションおよび研修の実施 TA8 名を対象に，TA の目的・役割・心得についてのオリエンテーションの受講および，TA 研修として「看護学教育における教授と学習」「成人学習理論」「看護教育における倫理」をオンライン動画で受講できるよう動画を作成し配信した． 8）入学前補習授業の実施 2025 年度入学予定者を対象に，2025 年 3 月 8 日，15 日の合計，4 時限で入学後の学びをスムーズに進めるため補習授業を実施し，入学予定者 5 名全員の参加があった．主として研究における文献検討の意義や論文の読み方，文献検索方法について講義し，指定した文献を全員で抄読およびクリティークした．事後アンケート結果から，参加者は意欲的に取り組み，全員から入学後の学習に役立つとの評価を得られた．一方で，入学予定者の中には既に科目履修にて看護学研究方法論などを受講している方もあるため，入学生の特徴に応じた工夫が必要である． 9）科目等履修生の募集 2024 年度後期，2025 年度前期の科目等履修生の募集，選考に際しての出願書類の確認を実施し，教授会に諮った． 10）科目担当教員についての事項 科目担当教員（常勤教員，兼担教員，非常勤教員）について，新たに科目を担当する教員についての業績書類の確認と審議，兼担および非常勤教員の継続に関し

活動概要	て審議し，教授会に諮った．また，科目責任者の要件および変更に関する手続きについて整理を行い，原則，本学の当該科目または他学にあたっては，同様の内容の科目担当実績があることを要件として申請することとし，大学院委員会で適格性の審議を行った後，研究科教授会の審議を経て認定することに決定した． 11）ベスト・ティーチャー賞の公示・投票 ベスト・ティーチャー候補者の選考に関する要領に沿って該当教員を選出し，ベスト・ティーチャー細則にもとづき博士前期課程及び博士後期課程の院生に2025年1月末に公示，2月に投票を実施した．その結果を教授会に諮った． 12）長期履修の申請について 4月（入学時）に1名，2月に2名からの申請があり，状況を確認し教授会に諮った．また，所属コースの変更については申し合わせ事項および変更届様式を作成し，必要に応じて使用できるよう整備を行った． 13）授業評価アンケートの実施 2 月に在学生を対象に授業評価アンケートを実施し取りまとめ，教授会で報告し共有した．回収率は博士前期課程 50%（昨年 33%），博士後期課程 50%（昨年 21%）であった． 14）研究業績調査の実施 3月に在学生，修了生に調査依頼をした． 15）教育要項の作成 指導体制について，主指導教員，副指導教員の他，論文指導補助教員についても大学院担当教員として必要となる指導補助を行うことを明記した． **2. 教育活動に関する自己点検とカリキュラムの見直し** 1) 2023年度アセスメントポリシーPDCAシートの作成 2023年アセスメントポリシーに基づき点検・検証し，PDCAシートを作成し教授会に報告した． 2）カリキュラム評価,修了生アンケートの分析 2024年度のカリキュラム評価アンケートを2月に実施した．回収率は，博士前期課程（教育研究コース）45.4%，博士前期課程（高度実践コース）14.2%，博士後期課程50.0%，教員47.1%であった．2023年度修了生からは回答がなかった． 2024年度修了生アンケートについても同時期に実施した．回収率は，博士前期課程（教育研究コース）66.7%，博士前期課程（高度実践コース）50.0%，博士後期課程50.0%であった． **3. リポジトリの具体的運用方法の検討** 2023年度に博士後期課程を修了した学生の学位論文について，リポジトリ登録を行った．博士論文を全文公開できない場合は要約公開とした． **4. 高度実践コースの課題研究に関する検討** 高度実践コースの課題研究は教育研究コースの半分となる 4 単位であるが，実習との両立が学生の負担になっていないか今年度の修了者アンケート結果等から検討していく．

活動概要	**5. 広報活動推進と受験者獲得の向けた対策** 1）入学者用パンフレット・ポスターの見直し 今年度もパンフレットおよびポスターを作成し，内容の見直しを行った．また，News のコーナーに新たに 3 分野の CNS 更新報告を掲載することとした． 2）入学試験要項見直し 入学試験要項を見直し，受験者によりわかりやすい要項となるよう修正した． 3）「入試説明」「英語文献の読み方講座」HP 上での動画配信 2022 年度より好評であるオンデマンド形式による入試説明と分野紹介，修了生による大学院紹介を実施した． 4）入試説明会・個別相談会の実施 対面開催を中心とし Web 会議システム（zoom）によるオンライン（LIVE 形式）を併用したハイブリッド方式にて入試説明会・個別相談，在学生との懇談会を実施した．また，Web による個別相談は随時，受け付けた． （1）第 1 回個別相談：2024 年 6 月 1 日（土）13 名（別日相談含む） （2）第 2 回個別相談：2025 年 3 月 1 日（土）13 名（別日相談含む） 5）ホームページの更新 随時ホームページ更新を実施し，情報発信に努めた． 6）在学生への広報活動 3 年生を対象に，1 月 25 日（土）就職支援委員会主催のガイダンスの機会を活用して大学院についての紹介および在学中の大学院生による講演を行った．事後アンケートでは「参考になった」と回答したものが半数以上おり，自由記載からも，大学院進学という選択肢や大学院での学習内容を知る機会となっていた． 7）外部関連団体での広報活動 2024 年 12 月 7 日（土）開催の第 12 回 大阪府看護学会で出展し，参加者への個別相談活動や大学院のパンフレットを配布して広報活動を行った． 4 名（資料のみ配布者 30 名程度を除く）に，研究内容や入試およびコースや学費等の個別相談内容に対応した．今年度は参加校が 5 校あり，同時に複数の大学を比較する機会になっていると考えられた． **6. 入試運営，入学試験方式の違いによる入学後の学修成果の評価，AP の評価** 1）入学試験の準備，実施，感染対策 入学試験要項に関して，カリキュラムポリシーの修正，教員名の追加などを行なった．COVID-19 感染予防対策は前年度と同様とした．試験は 2024 年 9 月 16 日に実施した． 2）2024 年度大学院入試 出願資格審査の実施 出願資格審査基準に沿って，申請者 2 名の審査を実施した． 3）入試成績の分析 前期課程の出願数は 5 名で前年より 6 名減，選考の結果 5 名を合格とし，5 名が入学手続きを行った（定員数の 0.63 倍）．本学部卒業生の受験は 1 名であった．後期課程の出願者数は 7 名で前年より 1 名増，合格者は 6 名で全員が入学手続き

活動概要	を行った（定員数の 1.67 倍）．前期課程の今年の総得点の平均は昨年＋5 点だった．5 名全員が B 方式を選択した．後期課程は英語の平均点が前年度＋35 点と大きく上がった．博士前期課程で出願者が定員を下回ったのははじめてであり，継続的に定員を満たすことができるように対策を検討した．受験者数にある程度の見込みがつけられるようにするため，第 2 回入試説明会からは，教員が記入する「個別相談会 受付・相談票」に受験見込みの有無を記入する欄を設けた．後期課程の出願者数は安定しており，定員超の入学が続いている．在籍定員管理（2.0 倍未満とする）のため，在学生を毎年適切に修了させていくことが必要である． **7. 学習環境，学生サービスの充実** 1）大学院生の交流会 4 月 13 日（土）に大学院生の交流会を開催した．前年度好評だったため，同様に土曜の研究計画発表会・中間発表会後に 1 時間で実施した．院生 30 名，教員 19 名の参加があった．院生の参加者が前年度より増加した．6 グループに分かれて二つの講義室で意見交換や院生へのアドバイスを行った．参加者アンケートではほとんど肯定的な回答が得られたが，回答数が少なかったため案内をきちんと行う必要がある． 2）学生生活ガイドの作成 学生生活ガイドを更新し配布した． 3）学生調査の実施 2 月に学生調査を行い，回収率は前期課程 38.8%（昨年度 60 %）後期課程 72.2%（昨年度 50 %）の回答を得た．前期・後期課程ともに経済的不安がある学生が多い（75%）が，専門的・学問的知識や教養を身につけるために本学大学院に入学している学生が多く，登校日数も週に 2〜3 回以上の学生が半数以上を占めた． **8. FD の推進** 1）10 月 2 日（水），「Evidence Based Practice を推進するための研究者育成の質保証」をテーマに山川みやえ先生（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻　准教授）の講演を行った．対象は，教員と大学院生（プレ FD）で，教員 33 名，院生 7 名の参加であった．テーマ，内容等に関してアンケートでは高い評価が得られた． 2）3 月 12 日（水），「 DNP（Doctor of Nursing Practice）コースの実際と今後の展望」をテーマに，林直子先生（聖路加国際大学　教授）の講演を行った．対象は，教員と大学院生（プレ FD）で，教員 27 名，院生 7 名の参加であった．アンケートでは，内容について満足したが最も多く，DNP コースのイメージがついてよくわかった，重要性は非常によく理解できたといった意見が得られた． **9. 大学院運営力の強化** 大学院委員会，委員会開催前の打ち合わせのほか，適時，連絡調整を密に行い情報共有を行いながら運営に努めた．その結果，滞りなく大学院運営を進めることができた．

活動概要	**10. 大学院教育における国際性の涵養** 看護学部国際交流委員会と連携し，大学院生に対し各種国際交流プログラムの案内を行い，国際交流を図った． **11. 大学院設置基準改正に伴う TA 業務の検討** 本大学院に入学した学生の教育背景や業務の重責を考慮し，TA としての担当業務について事前に Moodle で配信されるオンライン動画を視聴し，業務に臨むことを実施した． **12. CNS・NP 認定資格審査合格に向けたフォローアップ体制の確立** CNS および NP の受験者は，4 名全員が合格した．内訳は，がん 1 名，老人 2 名，NP1 名であった．いずれも大学院修了後に各分野の教員がフォローアップを行っていた． **13. 新型コロナ感染症への対応** 特に講義・実習等に関して対応したことはなかった． **14. その他** 1）収容定員比率の適正化 大学評価（認証評価） 改善課題：収容定員比率の超過について，入学試験における適正管理，また計画的な修了生の輩出により，収容定員比率は適正化している． 2）研究費（外部資金）獲得の促進 研究費（外部資金）獲得の促進について，現在の研究費獲得状況および院生の意向調査を行い，研究費の周知方法などを検討した． 3）大学院授業のオンライン実施 大学院授業のオンライン実施について，基本的には対面またはオンデマンド（全コマ数の 1/3 まで）とするが，履修希望者からリアルタイムオンライン受講の要望があった場合は，他の受講生への不利益がない範囲で，専門科目は科目責任者の判断とし，共通科目は科目責任者の判断のもと大学院委員会で検討を行うことを原則とすることとした． 4）学位論文の受理方法 何らかの理由で来学での提出が難しい場合は，あらかじめ上申書を提出の上，学位論文を郵送で受け付けることとし，次年度申請方法については検討することとした．
評　価	**1. 効果が上がっている事項** 1)　標準修業年限内での修了等により収容定員の適正管理ができている． 2)　FD を充実させ，院生を対象にしたプレ FD を併せて実施できた． 3)　年 2 回の入試説明会・個別相談会を継続的に実施しており，院生の安定的確保ができている． 4)　入学金半額免除や広報などの結果，本学部卒業生が継続的に受験している． 5)　科目責任者の基準を整理し，共通認識できた．

評　価	**2. 改善すべき事項** 1)　学生調査，カリキュラム評価，授業評価アンケートの回収率を上げるために，一体的に調査票を再構成し，回答は 1 回となるよう工夫する必要性 2)　博士前期課程の受験生確保 3)　博士後期課程の定員超過が続くため，定員の見直しが必要 4)　博士後期課程院生の投稿先（主に国際誌）選択の際の留意点の周知（粗悪ジャーナルなどへの投稿回避） 5)　科目責任者の基準の明確化
将来に向けた発展方策・課題	1. 博士後期課程の定員管理と DNP コースの検討 2. 研究生制度・論文博士制度の検討 3. 共通科目の担当者の長期的計画 4. 投稿先（主に国際誌）に関する継続教育の必要性

3) 教育活動

(1) 博士前期課程

① 授業科目一覧

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
基礎科目	人間理解	心理学		講義	2	●								↑
		生物学		講義	2	○								
		化学		講義	2	○								20単位以上
		物理学		講義	1		○							
		くらしの中の倫理		講義	1		○							
		大阪を学ぶ		講義	1		○							
		哲学		講義	1		○							
		くらしと文学		講義	2	○								
		教育学		講義	2	○								
		体育Ⅰ	＊	演習	1	○								
		体育Ⅱ	＊	演習	1		○							
		人間関係論		講義	1	●								
	社会理解	キャリアマネージメント		講義	1	●								
		健康科学概論		講義	1	●								
		情報リテラシー		演習	1	●								
		データ処理演習	＊	演習	1				○					
		統計学		講義	2		●							
		日本国憲法と法律	＊	講義	2	○								
		くらしと社会・環境		講義	2	○								
		くらしと経済		講義	2	○								
		くらしと安全・危機管理		講義	2	○								
	異文化理解	英語Ⅰ（英語を聞く）		講義	1	●								
		英語Ⅱ（英語で話す）		講義	1		●							
		英語Ⅲ（英語で読む・書く）		講義	1			●						
		英語Ⅳ（英語を豊かに）		講義	1				●					
		医療英語		演習	1					●				
		国際言語文化		講義	2	○								
		インタラクティブ・イングリッシュⅠ		講義	1	◇		◇		◇		◇		
		インタラクティブ・イングリッシュⅡ		講義	1		◇		◇		◇		◇	
	医工薬連環科学遠隔講座			講義	−	◇								↓
基礎科目必修単位数					13	7	3	1	1	1	0	0	0	
専門基礎科目	人体の構造と機能	からだの仕組みと働きⅠ（基礎）		講義	2	●								↑
		からだの仕組みと働きⅡ（発展）		講義	2		●							
		感染と免疫		講義	1	●								28単位以上
		からだと栄養		講義	2		●							
		こころの仕組みと働き		講義	1		●							
		フィジカルイグザミネーション		演習	1			●						
		リプロダクションと看護	☆	演習	1			○						
		セクシュアリティーと看護	☆	講義	1			○						
	病気と治療	からだとくすりの働き		講義	2			●						
		病気の成り立ち		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅰ		講義	2			●						
		病気の診断・治療Ⅱ		講義	2				●					
		食生活論		講義	1					○				

●必修科目13単位
○選択科目7単位以上（人間理解または異文化理解から5単位以上、社会理解から2単位以上含まれていること）

●必修科目25単位
○選択科目3単位以上

区分		授業科目	助☆ 保◎ 養＊	講義 演習 実習	単位数	開講期（必修● 選択○ 自由◇）								卒業要件 単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門基礎科目	保健と医療	医学概論		講義	1		○							28単位以上 ●必修科目25単位 ○選択科目3単位以上 ↓
		医療人マインド（2021年度～多職種連携論１－医療人マインド）		講義	1	●								
		専門職連携医療論（2021年度～多職種連携論２－医療と専門職）		講義	1				●					
		保健医療福祉概論		講義	2		●							
		公衆衛生学・疫学		講義	2			●						
		ヘルスプロモーション論		講義	1					○				
		医療倫理学		講義	1				●					
		リスクマネージメント		講義	1					●				
		異文化看護入門		演習	1					○				
専門基礎科目必修単位数					25	4	7	9	4	1	0	0	0	
専門科目	看護の基盤	看護学概論		講義	2	●								↑ 79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること）
		日常生活援助技術		演習	3		●							
		基礎看護学実習Ⅰ		実習	1		●							
		看護アセスメント		演習	1			●						
		治療過程に伴う援助技術		演習	2			●						
		基礎看護学実習Ⅱ		実習	2				●					
		看護管理		講義	1							●		
		看護教育		講義	1							●		
	療養生活支援	成人看護学概論		講義	2		●							
		急性期成人看護学援助論		演習	1				●					
		急性期成人看護学援助方法		演習	1					●				
		急性期成人看護学実習		実習	3						●			
		慢性期成人看護学援助論		演習	1			●						
		慢性期成人看護学援助方法		演習	1				●					
		慢性期成人看護学実習		実習	3						●			
		精神看護学概論		講義	2			●						
		精神看護学援助論		演習	1				●					
		精神看護学援助方法		演習	1					●				
		精神看護学実習		実習	2						●			
		老年看護学概論		講義	2			●						
		老年看護学援助論		演習	1				●					
		老年看護学援助方法		演習	1					●				
		老年看護学実習Ⅰ		実習	1				●					
		老年看護学実習Ⅱ		実習	3						●			
	地域家族支援	母性看護学概論		講義	2		●							
		母性看護学援助論		演習	1				●					
		母性看護学援助方法		演習	1					●				
		母性看護学実習		実習	2						●			
		小児看護学概論		講義	2			●						
		小児看護学援助論		演習	1				●					
		小児看護学援助方法		演習	1					●				
		小児看護学実習		実習	2						●			
		在宅看護学概論		講義	2			●						
		在宅看護学援助論		演習	1				●					
		在宅看護学援助方法		演習	1					●				
		在宅看護学実習		実習	2						●			
		公衆衛生看護学概論		講義	2			●						
		公衆衛生看護学活動論		講義	2				●					

区分		授業科目	助☆保◎養＊	講義演習実習	単位数	開講期（必修●　選択○　自由◇）								卒業要件単位数
						第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	127単位以上
専門科目	看護実践発展科目	地域救命救急		講義	1					○				79単位以上 ●必修科目74単位 ○選択科目5単位以上（看護師国家試験受験資格のみ希望の場合は、看護実践発展科目から2単位以上含まれていること） ↓
		看護と生体診断法		演習	1							○		
		医療カウンセリング		演習	1							○		
		看護実践発展総合演習		演習	1							○		
		看護実践発展実習		実習	2							○		
	保健師科目	公衆衛生看護学活動方法	◎	講義	1					○				
		公衆衛生看護学管理論	◎	講義	2					○				
		公衆衛生看護学演習	◎	演習	1							◇		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ	◎	実習	1							○		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ	◎	実習	4							◇		
	助産師科目	助産学概論	☆	講義	2				○					
		助産診断・技術学Ⅰ	☆	演習	1					○				
		助産診断・技術学Ⅱ	☆	演習	3							◇		
		助産管理	☆	講義	1							◇		
		助産学実習	☆	実習	8							◇		
	統合	がん看護学総論		講義	1				●					
		家族看護学		講義	1					●				
		チーム医療論		講義	1					●				
		災害看護論		講義	1					○				
		遺伝とカウンセリング	☆	講義	1							○		
		看護実践と理論の統合		演習	3						●			
		看護研究法		講義	1							●		
		原著講読		演習	1							●		
		卒業演習		演習	3								●	
		統合看護学実習		実習	2								●	
専門科目必修単位数					74	2	8	14	13	8	20	4	5	
必修単位数合計					112	13	18	24	18	10	20	4	5	
履修登録できる単位数の上限					164	48		47		39		30		

☆助産師国家試験受験資格必修科目　◎保健師国家試験受験資格必修科目　＊養護教諭二種免許申請希望の場合の必修科目

② 修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	コース 専門分野	学位論文タイトル
川上　和美	教育研究 看護教育	病院で勤務する一人前看護師のリーダーシップと関連要因の検討
甲斐　美奈子	高度実践 がん	術後再発膵臓がん患者の化学療法中のアンメットケアニーズに関する研究
岩浪　睦	教育研究 小児	入院中の発達障害の特性をもつ子どもに対する熟練看護師の看護実践
吉田　祐基	教育研究 小児	COVID-19 感染症の面会制限下にある小児病棟において看護師が捉えた親のニーズと看護援助
髙木　美穂	高度実践 プライマリケア	再入院することなく自宅療養を継続する高齢心不全患者の日常生活における取組み

（学位記番号順）

(2) 博士後期課程

① 授業科目一覧

博士後期課程 カリキュラム表

区分		授業科目	配当年次	実践支援看護学領域			療養生活支援看護学領域			地域家族支援看護学領域		
				単位数			単位数			単位数		
				必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
基盤科目		看護科学研究論	1前	2			2			2		
		看護学研究法応用論（保健統計）	1後		1			1			1	
		看護学研究法応用論（実験法）	1後		1			1			1	
		看護学教育開発論	1前		2			2			2	
		英語論文演習	1前		1			1			1	
		異文化看護論	前(隔･偶数年度)		1			1			1	
専門科目	実践支援看護学	実践支援看護学特論	1後	2					2			2
		実践支援看護学演習	2通	1					1			1
	療養生活支援看護学	療養生活支援看護学特論	1後			2	2					2
		療養生活支援看護学演習	2通			1	1					1
	地域家族支援看護学	地域家族支援看護学特論	1後			2			2	2		
		地域家族支援看護学演習	2通			1			1	1		
特別研究		特別研究	1～3通	8			8			8		
合計				13	6	6	13	6	6	13	6	6

〈修了要件〉

3年以上在学して所定の単位（14単位以上）を修得するとともに必要な研究指導を受け、学位論文を提出し、かつ最終試験に合格すること。

〈履修方法〉

指導教員の指導のもと履修科目を選択し履修すること。

専攻領域の必修科目をすべて履修し、かつ選択必修科目から1科目1単位以上を履修する。

② 修了者学位論文タイトル一覧

氏　名	領　域	学位論文タイトル
今井　理香	療養生活	同種造血幹細胞移植に伴う呼吸機能低下の実態と呼吸機能低下予防のための看護ケアの検討
生田　宴里	療養生活	救命救急センターの救急外来における新任看護師の外傷的出来事に対する認知的評価に影響を及ぼす要因の検討
髙岡　宏一	療養生活	本邦の救急臨床における国際的なトリアージツール導入の有用性の検証
坪井　茉莉	療養生活	テーラーメイドな外来支援に向けた身体症状のある造血幹細胞移植後初期の患者への口腔のセルフケアの困難と対処に関する研究
喜多下真里	療養生活	がん薬物療法を受けている進行がん患者の希望と精神的苦痛，Quality of Life との関係及びそれらの影響要因
森　つばさ	療養生活	在日中国人看護師が異文化適応の課題への対処に用いるスキルの検討

（学位記番号順）

Ⅳ．研究活動

１．研究実績

1）外部資金・競争的研究資金等の申請採択状況

2024 年度　科学研究費助成事業交付一覧

（研究代表者）

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
延長課題	基盤研究(C)	林　優子	急性・重症患者看護専門看護師の倫理的実践知の体系化－倫理的実践の質向上に向けて－	0
延長課題	基盤研究(C)	赤澤　千春	高齢者の特性を考慮した下肢リンパ浮腫を軽減する継続可能な手技の開発	0
延長課題	基盤研究(C)	真継　和子	死生観を育み看取り文化を創成する住民参画型看取りケアコミュニティのモデル開発	0
延長課題	若手研究	寺口　佐與子	在宅看護ケアで活用できるリンパ浮腫評価モデルの開発	0
継続	基盤研究(B)	鈴木　久美	青年前期の子どもと親のための Family-based がん啓発教育プログラム開発	0
延長課題	基盤研究(C)	池西　悦子	看護師のリフレクション学習を支援するファシリテーター育成プログラムの開発	0
延長課題	基盤研究(C)	川北　敬美	子育て期にある看護師の「働き方」リテラシーを高める教育プログラムの開発	0
延長課題	基盤研究(C)	竹村　淳子	学校卒業後の在宅重症心身障がい児に適したデイサービスガイドラインの作成	0
延長課題	基盤研究(C)	草野　恵美子	地域共生社会における発達障害児家族を支える地域高齢者による支援モデルの検討	0
延長課題	基盤研究(C)	久保田　正和	認知リハビリテーションの効果を高める看護学的アプローチの検証	0
延長課題	基盤研究(C)	安田　稔人	スポーツ選手のアキレス腱断裂に対する早期運動療法を併用した多血小板血漿療法	0
延長課題	若手研究	近澤　幸	乳児期の沐浴・入浴時の危険を防ぐ母親と家族のためのデジタルコンテンツ教材の開発	0
延長課題	若手研究	樋上　容子	認知機能低下予防のための睡眠障害に対する看護介入の長期的効果の検証	0
継続	基盤研究(C)	鈴木　美佐	食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構築	780,000
延長課題	基盤研究(C)	二宮　早苗	横断・縦断調査による成人女性の下部尿路症状（LUTS）の実態とリスク因子の解明	0
継続	基盤研究(C)	倉橋　理香	幼児期の子どもが緊急入院した際の家族を支援するためのアセスメントツールの開発	390,000
延長課題	基盤研究(C)	中原　洋子	妊娠中から支援を必要とする母親のアセスメント指標の活用性の検討	0
継続	若手研究	南口　陽子	進行がん高齢患者の最期を迎える場に対する意思決定支援モデルの導入による効果の検証	910,000
継続	基盤研究(C)	山埜　ふみ恵	退職移行期高齢男性の能力を地域に活かす地域職域・連携役割移行支援プログラムの開発	650,000

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
継続	研究活動スタート支援	笹野　奈菜	非医療系学生向けプレコンセプションケアに基づく避妊の動画視聴型性教育アプリ開発	0
延長課題	研究活動スタート支援	間中麻衣子	妊婦のメンタルヘルス向上を目指したオンラインアプリケーションの開発	0
継続	基盤研究(C)	小林道太郎	ケアリングに関する看護理論の哲学的・現象学的検討	650,000
継続	基盤研究(C)	山岡　由実	気分障害による長期休職者のための当事者参画・オンラインプログラムの有効性検証	390,000
継続	基盤研究(C)	安田　稔人	多血小板血漿を併用したスポーツ選手のアキレス腱断裂術後のスポーツ復帰と腱長の変化	260,000
継続	基盤研究(B)(基金)	飛田伊都子	IoT 機器を活用した在宅腎臓リハビリテーションの遠隔支援システムの構築	3,640,000
新規	基盤研究(C)	津田　泰宏	訪問看護師を対象にしたPOCUSに特化した超音波トレーニングプログラムの開発	520,000
新規	基盤研究(C)	寺口佐與子	難治性リンパ浮腫患者の排液路に応じた用手的リンパドレナージ法と圧迫療法の開発	1,820,000
新規	基盤研究(C)	中原　洋子	「体罰」や「暴言」等がある親への乳幼児健診からの保健師の継続支援ガイドの考案	1,040,000
新規	若手研究	大橋　尚弘	腎移植レシピエントへのテーラーメイド型セルフマネジメント支援プログラムの開発	910,000

(研究分担者)

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
延長課題	基盤研究(C)	草野恵美子	子育て世代のがんサバイバーのコミュニティ・エンパワメントモデル開発	50,000
継続	基盤研究(C)	鈴木　久美	通院患者のがん疼痛セルフマネジメントを促進する看護介入プログラムの有効性の検証	0
継続	基盤研究(B)	堀池　　諒	訪問看護事業所の災害時 BCP・BCM（事業継続計画/管理)の教育プログラム開発	0
継続	基盤研究(C)	鈴木　久美	治療を受ける若年成人がん患者の心理的適応を促進する看護ケアプログラムの開発	0
継続	基盤研究(C)	林　　優子	重症救急患者の家族成員におけるレジリエンスを支える看護援助モデルの作成	39,000
延長課題	基盤研究(C)	近澤　　幸	コロナ時代の産婦と夫の安全・満足な分娩体験につながる Web 夫立ち合い分娩の開発	30,000
延長課題	基盤研究(C)	土手友太郎	コロナ時代の産婦と夫の安全・満足な分娩体験につながる Web 夫立ち合い分娩の開発	30,000
継続	挑戦的研究(開拓)	鈴木　久美	がん薬物療法を受ける患者の包括的がん悪液質アセスメントツールの開発と実装	195,000
継続	基盤研究(B)	樋上　容子	軽度認知機能障害者に対する睡眠データを活用したハイブリッド型看護外来の構築	0
継続	基盤研究(C)	久保田正和	女性の生涯発達に関連した脳機能基盤の解明	0

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
継続	基盤研究(C)	竹村　淳子	高度実践看護師の能力の基盤「理論と実践の融合」を図る思考の発達モデルの生成	91,000
継続	基盤研究(C)	真継　和子	高度実践看護師の能力の基盤「理論と実践の融合」を図る思考の発達モデルの生成	91,000
継続	基盤研究(C)	赤澤　千春	与薬における看護師のリスクテイキング行動の判定ツールの開発	260,000
継続	基盤研究(C)	草野恵美子	乳幼児をもつがんサバイバーである母親のコミュニティ・エンパワメントモデルの開発	65,000
継続	基盤研究(C)	川北　敬美	看護学士課程における臨床判断能力を高める統合実習モデルの開発	91,000
継続	基盤研究(C)	林　　優子	SDM での重症心不全患者と看護師の相互作用を基盤とした状況特定理論の構築	26,000
継続	基盤研究(C)	小林道太郎	慢性病者の生を支える現象学的ケアモデル構築の試論	260,000
継続	基盤研究(C)	鈴木　美佐	予防接種を受ける子どもの「親のためのプレパレーションガイド」の開発	78,000
継続	基盤研究(C)	鈴木　美佐	発育が追いつかない子どもを養育する家族の主体性を育むケアプログラム（FCPS）の開発	39,000
継続	基盤研究(C)	中原　洋子	社会経済格差をふまえた保険者別向老期における孤立予防の地域デビュー促進の実装研究	13,000
継続	基盤研究(C)	中原　洋子	子ども虐待予防における保健師の援助関係づくり尺度の開発とガイドの作成	65,000
継続	基盤研究(C)	二宮　早苗	産後女性の骨盤内を可視化した PFMT のデジタルヘルスケアシステムの開発と検証	19,500
継続	基盤研究(B)(基金)	堀池　　諒	訪問看護事業所の災害時 BCP・BCM（事業継続計画/管理)の教育プログラム開発	260,000
継続	基盤研究(B)(基金)	樋上　容子	軽度認知機能障害者に対する睡眠データを活用したハイブリッド型看護外来の構築	130,000
新規	基盤研究(B)(基金)	樋上　容子	説明可能な人工知能（XAI）によるがん患者の精神的・身体的状態予測モデルの開発	130,000
新規	基盤研究(C)	小林道太郎	親・医療者それぞれが考える 13・18 トリソミー児における QOL の解明	208,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　久美	外来化学療法を受けるがん患者の生きる力を支えるための看護介入モデルの開発	130,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　久美	骨転移を有するがん患者のセルフマネジメントを促進する看護介入モデルの開発	65,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　久美	前立腺がん術後患者の下部尿路症状に対する自己管理支援プログラムの効果検証	65,000
新規	特定領域研究	鈴木　久美	患者のがん疼痛セルフマネジメントを高めるための看護師教育プログラムの開発	260,000
新規	基盤研究(C)	林　　優子	臓器提供に関わる看護師の倫理的苦悩の実態と倫理教育プログラムの開発	65,000
新規	基盤研究(C)	竹村　淳子	在宅移行初期に医療的ケア児の体調管理をする家族のアセスメント支援シートの実用化	130,000
新規	基盤研究(C)	笹野　奈菜	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	13,000

新規・継続	研究種目	氏名	研究課題名	交付額(円)
新規	基盤研究(C)	近澤　　幸	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	65,000
新規	基盤研究(C)	間中麻衣子	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	65,000
新規	基盤研究(C)	土手友太郎	アフターコロナ時代の父親役割移行を促す夫立ち合い分娩支援デジタルツールの効果検証	13,000
新規	基盤研究(C)	鈴木　美佐	ICTを活用した多職種協働プレパレーション研修プログラムの開発	13,000
新規	基盤研究(C)	中原　洋子	虐待死を予防するエビデンスに基づいた標準化研修プログラムの開発と評価	130,000
新規	基盤研究(C)	草野恵美子	保健師らのコミュニティケアリング力を高める教育教材と教育プログラムの開発と検証	91,000

AMED・厚労科研費・各省庁・民間助成金

代表・分担	事業名	研究分担者	研究課題名	交付額(円)
分担	AMED 予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業	樋上　容子	Personal Life Record（PLR）と専門職の知見を組み合わせたヘルスケアサービスの社会実装を促進する研究プロセスとデザインのフローの可視化	5,603,000
代表	公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団	髙木　美穂	再入院することなく在宅で暮らす高齢心不全患者の日常生活における取り組み -患者のストレングスに着目して-	336,000
代表	一般社団法人日本公衆衛生看護学会	堀池　　諒	災害時保健活動における GIS をベースとした 360 度映像共有プラットフォーム構築と保健師活動の効率化に関する研究	235,000
代表	公益財団法人大阪対がん協会	菅野　　楓	外来で薬物療法を受けている大腸がん患者が体験する症状クラスターの同定と QoL の関連についての研究	300,000

2) 各自の業績（外部資金獲得除く）

1) Hashimoto R, Suzuki K.

Identity Experiences of Young Adult Women Diagnosed with and Undergoing Treatment for Cancer: A Phenomenological Study
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(1): 1-12.

2) Hiroaki Shima, Kosho Togei, Yoshihiro Hirai, Ken Tanaka, Toshito Yasuda, Masashi Neo.

Ultrasonography-Based Quantitative Evaluation of Second Metatarsophalangeal Joint Instability in Female Patients With Hallux Valgus
Foot Ankle Int, 2024; 45(7): 737-745.

3) Hiroaki Shima, Kosho Togei, Yoshihiro Hirai, Toshito Yasuda, Ryuzo Okuda, Masashi Neo.

Operative outcomes of hallux valgus with painful osteoarthritis of the lesser tarsometatarsal joints
J Orthop Sci, 2024; 29(1): 230-235.

4) Iseki C, Suzuki K.

Development of a nursing intervention program to promote psychological adjustment in adult women diagnosed with metastatic breast cancer
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(2): 43-51.

5) Itoko Tobita.

The value of case study methodology in nursing research
Creat Nurs, 2025; 31(1): 45881.

6) Kitashita M, Suzuki K.

Factors influencing the hope of patients with advanced cancer while receiving cancer pharmacotherapy
Japan Journal of Nursing Science, 2025; 32(1): 1-12.

7) Kosho Togei, Hiroaki Shima, Yoshihiro Hirai, Ken Tanaka, Hozumi Kumano, Toshito Yasuda, Masashi Neo.

Relationship Between the Relative Length of the Second Metatarsal and Occurrence of Metatarsalgia in Patients With Hallux Valgus
Foot Ankle Int, 2025; 46(2): 217-226.

8) Kristen Abbott-Anderson, Yoko Higami, Saika Yamauchi, Pat Chung, Ken Hok Man Ho, Qëndresa Thaqi, Rahel Naef.

Family Caregivers' Experiences of Long-Term Care Residents Living With Dementia During the COVID-19 Pandemic: An International Grounded Theory Study
J Adv Nurs, 2025.

9) Mari Tsuboi, Sayoko Teraguchi, Chiharu Akazawa, and Yasuhiro Tsuda.

Difficulties and Management of Oral Self-care in Patients with Physical Symptoms in the Early Period Following Hematopoietic Stem Cell Transplantation
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(2): 63-84.

10) Masako Yamanaka, Kumi Suzuki, Yoko Minamiguchi, Naoko Hayashi, Tomoki Doi, Yasuhiro Tsuda, Eiko Yamauchi, Akiko Fukawa, Yasuhito Fujisaka, Yuko Tomari.

Perceptions of cancer education among middle and high school teachers and factors related to these perceptions
School Health, 2024; 20(1): 1-13.

11) Ryo Horiike, Tomoya Itatani, Hisao Nakai, Daisuke Nishioka, Aoi Kataoka, Yuri Ito.

Using Spatial Scan Statistics and Geographic Information Systems to Detect Monthly Human Mobility Clusters and Analyze Cluster Area Characteristics
JMA J, 2024; 7(3): 319-327.

12) Sachiko Somaki, Yukie Majima, Seiko Masuda, Yumiko Nakamura.

An Examination of the Usefulness of a Human Resource Development Tool of New Visiting Nurses
Stud Health Technol Inform, 2024; 24(315): 649-650.

13) Sachiko Somaki, Yukie Majima, Seiko Masuda, Yumiko Nakamura.

Development of a Proposed Human Resource Promotional Tool to Visualize Skills Acquired by Recently Appointed Nurses at Home-Visit Nursing Stations in Japan
International Journal of Learning Technologies and Learning Environments, 2024; 7(1): 1-16.

14) Sanae Ninomiya, Hisayo Okayama, Kiyoko Naito, Shigehiro Morikawa.

Effects of Unsupervised Gluteal Muscle Contraction Versus Unsupervised Pelvic Floor Muscle Training in Women with Symptoms of Stress Urinary Incontinence: A Randomized Controlled Trial
Int Urogynecol J, 2024; 35(9): 1829-1837.

15) Sandy Richardson, Louisa Krueger, Anna Richardson, Elizabeth Coleman, Sarah Ogilvie, Kara De La Fosse, Itoko Tobita, Anna van der Wath, Meritxell Mondejar-Pont, Anita Mitterdorfer, Hans-Peter de Ruiter.

Collaborative international nursing writing group: A nonpatriarchal approach
Creat Nurs, 2024; 30(4): 299-307.

16) Sasaki, A., Chikazawa, S., Kumiko, N., Takako, T., Keiko, H., Yasufumi, I. and Nobutane, I.

Development and Evaluation of 3D Delivery Animation Software Designed to Improve the Mother's and Spouse's Satisfaction with Delivery
Health, 2024; 16: 439-458.

17) Suzuki K, Hayashi N, Yamanaka M, Minamiguchi Y, Yamauchi E, Fukawa A, Tsuda Y, Fujisaka, Doi T, Tomari Y.

Cancer awareness and its related factors among junior high and high school teachers in Japan: a cross-sectional survey
Arch Public Health, 2024; 82(1): 71.

18) Terao N, Suzuki K.

Development and evaluation of a program to promote self-management of blood glucose and side effect in patients with type 2 diabetes undergoing chemotherapy for cancer
Bulletin of Osaka Medical and Pharmaceutical University, 2024; 70(1): 35-42.

19) Tomoya Itatani, Michio Kojima, Junichi Tanaka, Ryo Horiike, Kuniomi Sibata, Ryohei Sasaki.

Operational Management and Improvement Strategies of Evacuation Centers during the 2024 Noto Peninsula Earthquake—A Case Study of Wajima City
Safety , 2024; 10(3): 1-16.

20) Toshimi Kawakita, Yasuko Hosoda.

Work-family enrichment among parent nurses: a cross-sectional scale development and validation study
BMC Nurs, 2024; 23(1): 665.

21) Tsuda Y, Suzuki K, Minamiguchi Y, Yamanaka M, Doi T, Tomari Y, Hayashi N, Yamauchi E, Fukawa A, Fujisaka Y

Awareness of cancer and its associated factors for parents of adolescents and young adults A cross-sectional study
Medicine, 2024; 103(27): e38734.

22) 秋田 奈々、南口 陽子、鈴木 久美.

抗がん薬治療の中止の意思決定における進行がん患者および家族の情報ニーズと体験：文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 105-112.

23) 伊藤 英智、安田 稔人、飛田 高志、森内 宏充.

スポーツによる距骨骨軟骨損傷を伴う足関節内側・外側両側靭帯損傷の一例
日本足の外科学会雑誌, 2024; 45(1): 299-302.

24) 岩浪 睦、竹村 淳子、鈴木 美佐.

発達障害のある子どもが通う教育機関における支援についての文献検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 113-121.

25) 植村 美奈子、鈴木 久美.

母親の乳がんを伝えた後の思春期の子どもの反応と子どもへの関わり―母親の視点からとたえた子どもの反応に焦点をあてて―
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15(1): 75-87.

26) 北島 洋子、細田 泰子、根岸 まゆみ、片山 由加里、赤崎 芙美、土肥 美子、Kathie Lasater、Ann Nielsen.

ラサター臨床判断ルーブリック日本語版（LCJR-J）の信頼性と活用可能性の検討
日本看護科学会誌, 2024; 44: 228-238.

27) 草野 恵美子.

乳幼児健診の基本と保健師活動
あきた小児保健, 2024; (60): 17-26.

28) 倉橋 理香、竹村 淳子、鈴木 美佐.

国内外の低出生体重児を育てる母親のニーズと育児支援の現状に関する文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 18-40.

29) 小林 道太郎.

ケアリングの倫理的性格について: その人のためとはどういうことか
大阪医科薬科大学紀要 人文研究, 2025; (56): 1-21.

30) 酒向 なつみ、近澤 幸.

母親の産後ケア事業に対する認識についての文献検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 154-167.

31) **佐野　照恵、鈴木　久美、南口　陽子.**

免疫チェックポイント阻害薬を受けるがん患者の QOL とその関連要因：文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 168-178.

32) **澤本　さおり、鈴木　美佐、竹村　淳子.**

関節型若年性特発性関節炎の学童に在宅注射を行う親が導入初期に抱える困難と対処
日本小児看護学会誌, 2024; 33: 229-238.

33) **鈴木　久美、南口　陽子.**

治療前後における頭頸部がん患者の心理的苦痛と関連要因：文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 41-54.

34) **鈴木　美佐.**

思春期の子どもにおける食物アレルギーの心理社会的影響に関する文献検討
大阪医科薬科大学医学会雑誌, 2024; 83(1): 98-111.

35) **関口　瑛里、船越　明子、藤本　浩一、山岡　由実.**

急性期患者の身体的拘束の早期解除に向けて精神科中堅看護師が感じた困難とその対処、および工夫
日本精神保健看護学会誌, 2024; 33(2): 20-29.

36) **竹村　淳子、泊　祐子、古株　ひろみ.**

思春期の重症心身障がい児を対象とした看護師が行う放課後デイサービスにおける活動
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 65-74.

37) **近澤　幸、佐々木　綾子、土手　友太郎.**

コロナ禍において妊娠と出産を経て 4 か月児を育てる母親と父親の実態調査（第 1 回と第 2 回調査の比較）
大阪医科薬科大学医学会雑誌, 2024; 83(2): 49-61.

38) **近澤　幸、西村　美津子、緒方　敏子、吉田　道子、山下　典子、英　都貴子、西田　小百合、佐々木　綾子.**

高槻地区周産期地域連携の会における活動の成果と今後の課題
大阪母性衛生学会雑誌, 2024; 59(1): 26-30.

39) **津田　真弥子、山田　恵美子、井上　靖子、松尾　夕子、間中　麻衣子、松上　令子.**

新型コロナウイルス感染症患者汚染区域で業務を行う看護職の感じる快適度と気分－3 種類の個人防護服に対して VAS・気分調査票を使用した比較
日本看護学会誌, 2024; 19(2): 131-134.

40) **寺口　佐與子、赤澤　千春.**

リンパ浮腫患者の握力と弾性着衣圧の検討
日本リンパ浮腫治療学会雑誌, 2024; 7(1): 50-53.

41) **野口　美穂、川北　敬美、池西　悦子.**

新人看護師の職場適応に関連する要因についての文献検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15(1): 142-153.

42) **日髙　朋美.**

看護師のメタ認知の概念分析
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 3-17.

43) **藤谷　萌、石井　志摩、河野　加代子、野瀬　美郷、間中　麻衣子、松上　令子、吉田　雅代.**

新型コロナウイルス感染症専門病棟における終末期患者のオンライン面会に対する看護師の考えと今後の課題
日本看護学会誌, 2024; 19(1): 110-114.

44) **松枝　加奈子.**

産後の母親の睡眠に関する介入研究の系統的文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15(0): 133-141.

45) **松上　美由紀、池西　悦子、土肥　美子.**

副看護師長の看護管理者コンピテンシーの特徴と関連要因の検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025.3.; 15(1): 55-64.

46) **間中　麻衣子、本間　裕子.**

ストレス対処能力の向上をめざした産後うつ予防の看護実践―妊娠中期から産後 1 か月までの看護実践群と通常ケア群の経過から―
日本看護学会誌, 2024; 19(2): 112-116.

47) **間中　麻衣子、笹野　奈菜、近澤　幸、佐々木　綾子.**

日本における悪露に関連した衛生用品の課題についての文献研究
大阪母性衛生学会雑誌, 2024; 59 (1): 10-14.

48) **間中　麻衣子、松枝　加奈子、近澤　幸.**

日本における周産期ボンディングおよびボンディング障害に関する文献レビュー
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 122-132.

49) **間中　麻衣子、佐々木　綾子.**

妊婦の抑うつ予防をめざしたモバイルアプリケーションに対する適切性の検討　医療専門職者による意見を踏まえて
大阪医科薬科大学医学会雑誌, 2024; 83(2): 97-103.

50) **安田　稔人.**

アキレス腱症・アキレス腱付着部症の保存療法、手術療法
日本臨床スポーツ医学会誌, 2024; 32(3): 354-358.

51) **安田 稔人.**

新鮮アキレス腱損傷の治療方針　保存療法 vs 手術療法
Monthly Book Orthopaedics , 2024; 37(11): 1-5.

52) **山岡 由実.**

自律性自我を促進するセルフケア看護介入の現在と未来
PAS セルフケアセラピィ看護学会誌, 2024; 6(0): 3-6.

53) **山田 忍、池西 悦子、川北 敬美.**

臨地実習における教材化に関する文献検討
天理大学学報（医療編）, 2025; 76(4): 11-23.

54) **山埜 ふみ恵、三木 明子.**

定年退職後のシニア世代におけるヘルスプロモーション行動尺度原案の内容妥当性・表面妥当性の検討
大阪医科薬科大学看護研究雑誌, 2025; 15: 88-104.

Ⅴ．社会活動

赤崎芙美	看護キャリアサポートセンター，講師・補助 大阪府立大学看護学系同窓会（白鳥会），会計 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，事務局
赤澤千春	日本看護科学学会，代議員・査読委員 日本看護研究学会，評議員・査読委員 日本看護学教育学会，評議員・査読委員 日本移植・再生医療看護学会，理事 日本看護研究学会第 50 回学術集会，運営委員 大阪医科薬科大学病院，リンパ浮腫看護外来 看護キャリアサポートセンター，講師 滋賀県立大学人間看護学研究科博士後期課程開設，検討委員 大阪府看護協会「2024 年度看護基礎教育を考える会」，委員
有田弥棋子	清恵会医療専門学院看護学科 成人看護学（終末期看護），講師
有吉真里菜	大阪医科薬科大学家族看護研究会，運営 大阪医科薬科大学家族看護セミナー，運営 在宅看護研究会，運営
近澤　幸	日本母性看護学会，査読委員 日本母性看護学会誌，査読 大阪医科薬科大学英文誌（Bulletin of OMPU），査読 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 Health，review 第 26 回日本母性看護学会学術集会，査読 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員 高槻地区周産期地域連携の会，事務局 大阪医科大学大学院看護学研究科母性看護学領域修了生の会「サクラの会」，運営 大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営 関森みゆき，定方美恵子，関島香代子，小澤淳子，井村真澄，柳生田紀子，西方真弓，佐々木綾子，竹明美，近澤幸，中込さと子，小林康江，高岡智子，横尾京子，村上真理，藤本紗央里（2024）．ナーシンググラフィカ母性看護学③母性看護技術，荒木奈緒，中込さと子，小林康江（編），2 章 17 節帝王切開時のケア，131-137，メディカ出版，大阪 池西静江，田中公章，近澤幸他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 2 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪 池西静江，田中公章，近澤幸他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪
土井智生	大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，センター員，講師 カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），運営 大阪医科薬科大学看護学部オープンキャンパス，模擬講義，講師 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員

土手友太郎	高槻市役所，産業医 健康たかつき 21 推進ﾈｯﾄﾜｰｸ会議，委員 高槻市ぱちんこ遊技場建築審議会，委員 高槻市ホテル等建築審議会，委員 高槻市都市開発審議会，委員 厚生労働省（大阪検疫所)，医員 日本職業災害医学会，評議員， 日本衛生学会，評議員， カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），運営・講師 たかつき NPO 協働フェスタ（大阪医科薬科大学看護学部ブース），企画・運営
濱浦弘美	特記なし
日髙朋美	大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師・補助 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員
樋上容子	日本看護科学学会雑誌和文誌編集委員会，編集委員 日本老年看護学会国際交流委員会，委員 日本老年看護学会国際交流委員会企画オンラインセミナー，座長 日本老年看護学会日本老年看護学雑誌，査読委員 日本老年看護学会第 30 回学術集会，査読委員 Geriatrics & Gerontology International，査読者 Journal of Pain and Symptom Management，査読者 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読者 大阪大学大学院医学系研究科，招聘教授 なないろ訪問看護ステーション，認知症ケアアドバイザー The Japan Centre for Evidence Based Practice，委員 社会福祉法人成光苑研究発表会，審査委員 高槻市地域包括ケア推進会議，委員
堀池　諒	日本地域看護学会健康危機支援委員会，委員 日本地域看護学会次世代育成推進委員会，委員 全国保健師教育機関協議会健康危機管理対策委員会，委員 訪問看護 BCP 研究会，委員 データサイエンスに基づく健康になれるまちづくり研究，コンソーシアムメンバー 　医工薬連環科学教育研究機構（関西大学・大阪医科薬科大学)，構成員 厚生労働省令和 6 年度保健師等ブロック別研修会（近畿ブロック），講師 厚生労働省令和 6 年度保健師等ブロック別研修会（関東甲信越ブロック），講師 第 70 回四国公衆衛生学会総会令和 6 年度 地域保健行政従事者研修会，講師 日本看護研究学会第 50 回学術集会，シンポジスト 関西大学・大阪医科薬科大学 医工薬連環科学教育研究機構機構運営 第 20 回医 　工薬連環科学教育研究機構機構シンポジウム，パネリスト 京都市右京区地域包括支援センター研修，講師

堀池　諒	一般社団法人高知県訪問看護連絡協議会 令和 6 年度第 4 回訪問看護管理研修(感染対策編)，講師 国際医療福祉大学大学院 公衆衛生看護学研究会，講師 堀池諒（2024)，保健師活動を地図で見える化！GIS を使いこなそう・5 能登半島地震における「保健師活動支援 Web GIS」の作成，医学書院，東京 堀池諒（2024)，保健師活動を地図で見える化！ GIS を使いこなそう・6（最終回） GIS と保健師のすぐそこにある未来，医学書院，東京
池西悦子	日本看護科学学会，代議員・会則等委員会委員 日本看護管理学会，評議員・専任査読委員 日本看護管理学会第 28 回学術集会，口演座長 日本看護研究学会，専任査読委員 日本看護研究学会 近畿・北陸地方会，世話人 日本看護学教育学会，評議員・専任査読委員 日本看護学教育学会第 35 回学術集会，企画委員 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，学会長 日本看護学会誌，専任査読委員 日本看護学教育評価機構，評価員 日本臨床整形外科学会倫理審査委員会，委員 岐阜県立看護大学大学院看護学研究科「看護管理論」，非常勤講師 兵庫県立大学大学院看護学研究科「看護教育論」非常勤講師 愛知県看護研修研究センター実習指導者講習会フォローアップ研修，講師 京都私立病院協会看護中間管理者研修 I，講師 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 池西悦子，川北敬美，山田忍，草間賢介（2024）．看護教育，看護教育学のススメ，602-605，医学書院，東京.
勝山あづさ	日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員 医療の質・安全学会第 20 回学術集会，企画運営委員
川北敬美	日本看護管理学会誌，編集委員 日本看護科学学会和文誌，専任査読委員 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読者 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読者 第 36 回日本看護教育学会学術集会，企画委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 第 28 回日本看護管理学会学術集会編集委員会企画，企画・運営 池西悦子，川北敬美，山田忍，草間賢介（2024）．看護教育，看護教育学のススメ vol.9 これまでの看護を振り返り，これからの看護に生かす　大阪医科薬科大学大学院，65（5)，610-613，医学書院，東京.
小林道太郎	臨床実践の現象学会，事務局・編集委員長 中部哲学会，常任委員・編集委員

倉橋理香	カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），企画・運営，講師 第 11 回市民看護講座（看護学実践センター主催・高槻市後援），企画・運営 大阪医科薬科大学家族看護研究会，企画・運営 大阪医科薬科大学家族看護研究会看護セミナー，企画・運営 日本小児看護学会，第 34 回学術集会，実行委員 人材育成セミナー，企画・運営 高槻市×大阪医科薬科大学看護学部 もてきん体操普及動画作成，運営 つながろう難病キャンプ in 関西，ボランティア
草野恵美子	日本小児保健協会若手による小児保健検討委員会，委員 日本地域看護学会教育委員会，委員 全国保健師教育機関協議会教育課程委員会，委員 一般社団法人日本看護系大学協議会データベース委員会，委員 日本地域看護学会「日本地域看護学会誌」，査読委員 日本公衆衛生看護学会「日本公衆衛生看護学会誌」，査読委員 日本在宅ケア学会「日本在宅ケア学会誌」，査読委員 日本看護科学学会和文誌，選任査読委員 令和 6 年度奈良県中和保健所母子保健推進会議，講師 奈良県中和保健所「妊娠・出産・育児のための地域包括ケアシステムづくり保健所・市町村協働プロジェクト」，アドバイザー 高槻市子ども未来部子ども保健課 河内長野市健康推進課，研究協力
間中麻衣子	大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 大阪医科薬科大学看護学部同窓会役員，会計監査 大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営 高槻地区周産期地域連携の会，事務局補佐 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科母性看護学領域修了生の会「サクラの会」，運営
松枝加奈子	第 26 回日本母性看護学学会学術集会，実行委員 看護実践研究センター主催継続セミナー，企画/運営 たかつき NPO 協働フェスタ（大阪医科薬科大学看護学部ブース），企画・運営 医療財団法人足立病院 病棟会臨床講義，講師 第 11 回市民看護講座（看護学実践センター主催・高槻市後援），企画・運営 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員 第 34 回日本乳幼児医学・心理学会，シンポジスト Sleep and Biological Rhythms，査読 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科母性看護学領域修了生の会「サクラの会」，運営 大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営
真継和子	日本看護研究学会，評議員 日本看護系大学協議 JUNPU ナースプラクティショナー資格認定委員会，委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会，幹事

真継和子	日本家族看護学会編集委員会，編集委員 日本看護学教育学会，専任査読者 ヒューマンケア研究学会誌，専任査読委員 大阪医科大学看護研究雑誌，査読者 第 35 回日本看護学教育学会学術集会，企画委員 第 36 回日本看護学教育学会学術集会，事務局長 日本看護研究学会第 51 回学術集会，企画委員 日本看護研究学会近畿・北陸地方会，世話人 四條畷学園大学，非常勤講師 和歌山県立医科大学大学院保健看護学研究科，非常勤講師 京都私立病院協会看護中間管理職研修，講師 社会医療法人愛仁会高槻病院看護研究，講師 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪医科薬科大学家族看護研究会，企画・運営， 大阪医科薬科大学家族看護研究会家族看護セミナー，企画・運営 倫理事例検討会（看護学研究科修了生主催），アドバイザー
南口陽子	大阪大学大学院医学系研究科，招へい教員 日本がん看護学会誌，査読委員 第 40 回日本がん看護学会学術集会，企画委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読 南口陽子（2025）．第Ⅷ章 事例で考えるがん看護，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学 改訂第 2 版，314-324，南江堂，東京． 南口陽子（2025）．第Ⅱ章 4.消化器系の機能障害を有する患者の看護 1)嚥下機能が障害された患者への看護，3)排泄（排便）機能を喪失した患者への看護，4)代謝機能が障害された患者への看護，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，123-125/129-133，南江堂，東京．
中原洋子	日本公衆衛生看護学会誌，編集委員 大阪市こども・子育て支援会議教育・保育・子育て支援部会，委員 保健師による親子ヘルス＆サポート推進協会研修，委員長 大阪医科薬科大学看護研究雑誌,査読 たかつき NPO 協働フェスタ（大阪医科薬科大学看護学部ブース），企画・運営 こども家庭ソーシャルワーカー研修，講師 ベルランド看護助産大学校講義，講師 大阪府内保健師児童虐待予防研修，企画・運営・司会 和泉京子,上野昌江,中原洋子ら（2025）.公衆衛生看護学第 4 版，和泉京子,上野昌江（編），家庭訪問 161-169,母子保健活動 248-269，中央法規，東京．

二宮早苗	看護理工学会，評議員・学術委員 第 12 回看護理工学会学術集会，運営委員 日本老年泌尿器化学会，評議員 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，事務局 日本看護研究学会近畿北陸地方会，世話人 日本看護研究学会近畿北陸地方会セミナー，委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 BMC Women's Health，査読 International Urology and Nephrology，査読 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読
新田和子	第 2 回市民公開講座（大阪医科薬科大学主催・高槻市後援），司会 カムカムサロン（看護学実践研究センター主催），講師 神戸市看護大学大学院「コンサルテーション論」，非常勤講師
野口美穂	特記なし
野瀬珠美	日本手術看護学会，理事 日本手術看護学会　認定看護師委員会，委員 日本手術看護学会　教育統括委員会，委員 日本手術看護学会　CN ワーキンググループ，リーダー 日本手術看護学会　実践指導看護師認定審査委員会，委員 日本麻酔科学会 周術期管理チーム認定試験問題対策ワーキンググループ，メンバー 日本手術看護学会 認定看護師企画 第 2 回情報交換会災害対策，企画運営 第 29 回日本小児麻酔科学会，看護セッション座長 第 38 回日本手術看護学会年次大会 手術看護認定看護師実践報告会，司会 日本慢性期医療協会 研究プロジェクト「慢性期医療の質の評価・向上に関する調査研究」，分担研究者 医療の質・安全学会第 20 回学術集会，企画運営委員 野瀬珠美（2024）．この患者さん，どの情報が重要？！書きこみ式ワークシートで楽しく学ぶ！術前アセスメント STEP BY STEP，第 39 巻 10 号連載．オペナーシング，メディカ出版．東京．
大橋尚宏	日本腎臓リハビリテーション学会診療ガイドライン作成グループ，委員 日本腎臓リハビリテーション学会 SR チーム，サブリーダー 日本腎不全看護学会，専任査読委員 日本腎不全看護学会研究委員会，委員 日本移植・再生医療看護学会，専任査読委員 日本看護研究学会第 50 回学術集会，実行委員 いえすリハビリ訪問看護ステーション，顧問 奈良学園大学保健医療学部看護学科「地域・在宅看護学概論」「地域・在宅看護援助論」，非常勤講師（科目責任者） 日本看護研究学会第 50 回学術集会シンポジウムⅡ，座長

大橋尚宏	第 27 回日本腎不全看護学会学術集会研究委員会主催研究相談コーナー，企画・運営 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 日本腎不全看護学会第 3 回研究倫理セミナー，企画・運営 日本腎不全看護学会第 4 回研究倫理セミナー，企画・運営 日本腎不全看護学会第 4 回研究倫理セミナー，講師 保存的腎臓療法（CKM），公益財団法人医療科学研究所 第 33 回 2023 年度研究助成研究分担者 日本腎不全看護学会研究委員会 保存期ＣＫＤ実態調査，メンバー 大橋尚弘（2024）．疾患別看護過程ポケットブック⑬胃がん，146-157，学研，東京． 大橋尚弘（2024）．ナーシング・スキル動画講義シリーズ「外来看護師が知っておくべき社会資源」（10 分×4 コマ），エルゼビア・ジャパン，東京． 大橋尚弘（2024）．認知症／ACP／エンドオブライフ・ケア etc. いまこそ考えたい高齢透析患者と家族のケア：キーワードでみる高齢透析患者とケア 高齢透析患者の重要キーワード②，726-729，メディカ出版，大阪．
酒向なつみ	大阪医科薬科大学リプロダクティブヘルス研究会，運営
笹野奈菜	特記なし
杣木佐知子	大阪公立大学看護システム先端技術研究所，客員研究員 教育システム情報学会社員・関西支部運営委員・研究会委員 医療系 e ラーニング全国交流会，世話人 教育システム情報学会第 1 回研究会，企画運営 第 49 回教育システム情報学会全国大会，企画セッション座長 第 19 回医療系 e ラーニング全国交流会，企画運営 教育システム情報学会学生研究発表会，審査員 教育システム情報学会 2024 年度特集論文研究会，閲読・審査員 日本看護学教育学会第 36 回学術集会，企画運営委員
鈴木久美	日本がん看護学会，代議員・理事・理事長 日本慢性看護学会，評議員 日本看護研究学会，評議員 聖路加看護学会，評議員 日本骨転移研究会，理事 乳房健康研究会，理事 日本がん看護学会誌，専任査読委員 日本看護科学学会誌和文誌，専任査読委員 日本慢性看護学会誌，専任査読委員 日本看護研究学会誌，専任査読委員 日本看護学会学術集会抄録，選考委員 BMC Cancer peer，reviewer 愛知県立大学大学院，非常勤講師 岐阜県立看護大学大学院，非常勤講師

鈴木久美	京都橘大学大学院，非常勤講師 乳がん看護認定看護師教育課程，非常勤講師 がん薬物療法看護認定看護師教育課程，非常勤講師 公益社団法人日本看護協会 神戸研修センター認定看護師教育課程教員会，委員 一般社団法人日本看護系大学協議会，理事 一般社団法人日本看護学教育評価機構評価委員会，委員 公益財団法人大阪対がん協会 2024 年度がん研究助成奨励金選考委員会，委員 第 39 回日本がん看護学会学術集会編集委員会企画研修会，講師 第 39 回日本がん看護学会学術集会教育セミナー，座長 第 40 回日本がん看護学会学術集会，企画委員 大阪 QOL の会（患者会），世話人 南江堂月刊誌「がん看護」，アドバイザー 鈴木久美（2025）．第Ⅲ章 成人期にある人の健康，林　直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田　恵編，看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 5 版，82-86，90-103，123-133，南江堂，東京 鈴木久美（2022）．第Ⅳ章 成人期にある人を看護するための基本的な考え方，林直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田　恵編，看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 5 版，170-175，194-200，南江堂，東京 鈴木久美（2022）．第Ⅴ章 健康状態に応じた看護，林　直子，鈴木久美，酒井郁子，梅田　恵編，看護学テキスト NiCE　成人看護学概論 改訂第 5 版，290-301，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．第Ⅰ章 がん看護とは，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学 改訂第 2 版，1-10，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．第Ⅲ章 1．がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 A. 診断期にあるがん患者の特徴と援助のポイント，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学，78-82，南江堂，東京 鈴木久美（2020）．第Ⅲ章 1．がんの臨床経過におけるがん患者の特徴と援助 C. 再発・転移がんの診断・治療期にある患者の特徴と援助のポイント，鈴木久美，林　直子，佐藤まゆみ編，看護学テキスト NiCE　がん看護学，86-90，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．なぜ消化器疾患について学ぶのか，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE　病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，3，南江堂，東京 鈴木久美（2025）．序章 2．日本の医療の現状とこれからのあり方，石松伸一，林直子，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE　病態・治療論［1］病態・治療総論 改訂第 2 版，7-8，南江堂，東京
鈴木美佐	日本看護研究学会近畿北陸地方会，世話人 日本看護研究学会 第 50 回学術集会，実行委員 日本小児看護学会 第 34 回学術集会 ，実行委員

鈴木美佐	大阪医科薬科大学 家族看護研究会 ，企画・運営 大阪医科薬科大学 家族看護研究会 家族看護セミナー企画・運営 小児看護研究会（大学院博士前期・後期課程，修了生合同ゼミ）運営 PMEC 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム　スタッフ研修会，企画・運営 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム スタッフ研修会，ファシリテーター 愛仁会リハビリテーション病院，看護研究指導 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪医科大学看護研究雑誌，査読 大阪医科薬科大学英文誌 Bulletin of OMPU，査読 大阪医科薬科大学医学会雑誌，査読 池西静江，田中公章，鈴木美佐他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 1 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪. 池西静江，田中公章，鈴木美佐他（2024）．メディカコンクール 2024 第 114 回看護師国家試験対策テスト第 3 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪. 池西静江，田中公章，鈴木美佐他（2025）．メディカコンクール 2025 第 115 回看護師国家試験対策テスト第 1 回，メディカコンクール委員会，メディカ出版，大阪.
竹村淳子	小児看護研究会（大学院博士前期・後期課程，修了生合同ゼミ）,運営 日本家族看護学会誌，専任査読者 大阪医科大学看護研究雑誌，査読者 日本小児看護学会誌，査読者 日本小児看護学会第 34 回学術集会，企画委員 大阪医科薬科大学家族看護研究会，企画・運営 大阪医科薬科大学家族看護セミナー，企画・運営 日本看護研究学会第 50 回学術集会，実行委員 大阪医科薬科大学看護キャリアサポートセンター，講師 大阪府看護協会，施設代表者
寺口佐與子	一般社団法人 日本看護系大学協議会会員校 関西・近畿ブロック，災害連携教員 日本移植・再生医療看護学会，第 6 期 理事・評議員 日本移植・再生医療看護学会 セミナー委員会，副委員長 日本リンパ浮腫治療学会，評議員 日本リンパ浮腫治療学会 総務委員会 SNS 小委員会，委員 リンパ浮腫 Net，副代表 リンパ浮腫 Net 大阪地区会，世話役 第 36 回日本看護教育学会学術集会，企画委員 第 24 回 リンパ浮腫 Net 定例会，世話役 第 2 回日本移植・再生医療看護学会セミナー，主催 日本看護研究学会第 50 回学術集会，実行委員

寺口佐與子	第 7 回　リンパ浮腫 Net 兵庫地区会，世話役 第 3 回日本移植・再生医療看護学会セミナー，主催 2024 年度 リンパ浮腫 Net 圧迫療法研修会，世話役 大阪医科薬科大学病院，リンパ浮腫看護外来 寺口佐與子（2024）リンパ浮腫外来で必要な基礎知識２：リンパドレナージ：今すぐ始めるリンパ浮腫治療，PEPARS，13(2)，14-19，全日本出版協会．東京
飛田伊都子	医療の質・安全学会，理事 日本腎臓リハビリテーション学会，幹事 医療行動分析学研究会，幹事 日本行動分析学会，監事・代議員 医療の質・安全学会　学術委員会，委員長 医療の質・安全学会　教育委員会，委員 医療の質・安全学会　医療の質・安全学会誌編集委員会，委員 医療の質・安全学会　医療の質・安全調査研究倫理審査委員会，委員 日本看護科学学会　看護倫理検討委員会，委員 日本腎臓リハビリテーション学会　編集・ガイドライン委員会，委員 日本腎臓リハビリテーション学会　指導士認定制度委員会担当，幹事 日本腎不全看護学会誌，専任査読者 第 19 回医療の質・安全学会学術集会，査読委員 令和 6 年度 京都府看護協会　認定看護管理者教育課程ファーストレベル，講師 看護サービスの質管理，講師 新生児集中ケア認定看護師会，講師 JA 静岡厚生連 静岡厚生病院．医療安全研修会，講師 医療の質・安全学会　2024 年度医療安全管理者養成研修，司会・グループディスカッションファシィリテーター 5th Japan-Taiwan Neutron Capture Therapy Academic Conference of Elite, Nursing Care of BNCT Patient，座長 第 19 回医療の質・安全学会学術集会　シンポジウム，座長兼演者 第 19 回医療の質・安全学会学術集会　パネルディスカッション，演者 日本慢性期医療協会 研究プロジェクト「慢性期医療の質の評価・向上に関する調査研究」，主任研究者 第 38 回日本保健医療科学会学術大会，実行委員 第 38 回日本保健医療科学会学術大会　ワークショップ，演者 第 15 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会　ジョイントシンポジウム，シンポジスト Creative Nursing, Guest Editor. 京都大学大学院，非常勤講師 奈良県立医科大学，非常勤講師 愛知県立大学，非常勤講師

飛田伊都子	日本赤十字豊田看護大学，非常勤講師
津田泰宏	日本内科学会認定内科医，総合内科専門医，指導医 日本消化器病学会専門医，近畿支部評議員，指導医 日本肝臓学会認定専門医，西部会評議委員，指導医 京都橘大学 健康科学部「臨床病態学」，非常勤講師 大阪保健医療大学「内科学」「臨床検査医学」，非常勤講師 関西福祉科学大学「病理学」，非常勤講師 大阪信愛学院大学「疾病治療論Ⅰ」，非常勤講師 看護学系漢方教育研究会，世話人 津田泰宏（2025）．第Ⅰ章 消化器の機能と障害，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，5-42，南江堂，東京． 津田泰宏（2025）．第Ⅱ章 消化器疾患の診断・治療，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，43-103/113-122，南江堂，東京． 津田泰宏（2025）．第Ⅲ章 消化器疾患 各論，津田泰宏，鈴木久美編，看護学テキスト NiCE 病態・治療論［4］消化器疾患 改訂第 2 版，135-282/326-327，南江堂，東京．
内田浩江	日本協同教育学会，広報委員 日本協同教育学会，一日研修講師 『気軽な勉強会 医療』，企画運営 認知症予防講座・歌唱療法セミナー，企画・運営 国際ケアリング学会，選挙管理委員 日本協同教育学会第 20 回大会，座長 近畿大学附属看護専門学校，非常勤講師 2025 大阪マラソン，ボランティア
山埜ふみ恵	高槻市社会福祉協議会，学生ボランティア派遣調整 公衆衛生看護学分野保健師卒業生同窓会，運営 山埜ふみ恵（2024）．老年精神科医のための知っておきたい社会資源と法令の知識（10）認知症施策の推進における地域保健の役割，老年精神医学雑誌（編），36（1），72-79，ワールドプランニング，東京
山岡由実	PAS セルフケアセラピィ看護学会，代表理事 日本精神保健看護学会,災害対策委員会，委員 日本看護学教育評価機構，評価員 PAS セルフケアセラピィ看護学会,第 7 回大会，企画委員 日本看護学教育学会,第 36 回学術集会，企画委員 日本統合失調症学会,第 19 回日本統合失調症学会，企画委員 大阪医科薬科大学医学会雑誌，編集委員 大阪医科薬科大学看護研究雑誌，査読者

山岡由実	神戸看護学会誌，専任査読委員 PAS セルフケアセラピィ看護学会 第 7 回大会 シンポジウム，座長 日本精神保健看護学会，第 34 回学術集会,指定ワークショップ，企画・運営 日本看護科学学会,第 44 回学術集会，交流集会，企画・運営 日本精神保健看護学会災害対策委員会主催，研修会「Psychological Zero Aid」，企画・運営 精神看護・CNS 研究会，企画・運営 リエゾンの会，世話人
山内彩香	日本看護研究学会　近畿・北陸地方会，事務職（庶務担当） 1st International Day，運営
安田稔人	日本足の外科学会，理事 日本足の外科学会認定医委員会担当，理事 日本スポーツ整形外科学会，代議員， 日本整形外科学会専門医資格委員会，委員長 日本靴医学会，評議員 中部日本整形外科災害外科学会，評議員 関西臨床スポーツ医・科学研究会，幹事 近畿足の外科研究会，世話人 アキレス腱断裂診療ガイドライン，策定委員 American Orthopaedic Foot and Ankle Society (AOFAS) international member Editorial Board of the Journal of Orthopaedic Science 日本整形外科学会，専門医・スポーツ医・リウマチ医・運動器リハビリテーション医 日本スポーツ協会，公認スポーツドクター 日本リウマチ学会，リウマチ専門医 日本足の外科学会，認定足の外科認定医 ロコモアドバイスドクター 日本スポーツ整形外科学会 教育研修講演，座長 第 143 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会 教育研修講演，座長 第 39 回日本整形外科学会基礎学術集会シンポジウム，座長 第 49 回日本足の外科学会学術集会パネルディスカッション，座長 第 97 回日本整形外科学術総会，座長 第 11 回市民看護講座，講師 大阪医科薬科大学病院 整形外科，外来診療・手術 安田稔人(2024)．整形外科の病態と診察・診断，井尻慎一郎（編），体表解剖と痛みやしびれから想定される病態　下腿，105-108，中山書店，東京 安田稔人(2024)．整形外科保存治療ハンドブック，竹下克志（編），アキレス腱断裂，131-131，中外医学社，東京

編集後記

本年度は，大学統合 4 年目となる節目の年でした．大阪医科薬科大学看護学部・看護学研究科として地域や社会に発信する様々な活動が記録されました．年報編集委員会では，3 学部統合のスタイルを検討しながら，予算や業務の省力化に取り組み，「大阪医科薬科大学看護学部年報 2024 年度」を発刊することができました．

本報告書が，今後の活動や自己点検に役立てていただけましたら幸いです．最後に，年報作成にご協力いただいた教職員，関係者各位に深くお礼申し上げます．

2025 年 7 月

大阪医科薬科大学看護学部　年報編集委員会

大阪医科薬科大学看護学部 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科
2024 年度年報

発行日　令和 7 年 7 月 31 日
発　行　大阪医科薬科大学看護学部 大阪医科薬科大学大学院看護学研究科
〒569-0095　大阪府高槻市八丁西町7－6
編　集　看護学部 年報編集委員会
寺口佐與子　森　瞳子　土井智生　倉橋理香　城山敏江
制　作　知人社